

仙台市文化財調査報告書207号

下ノ内浦・山口遺跡

—仙台市西多賀町内浦遺跡調査報告書Ⅴ—

1996年3月

仙台市教育委員会

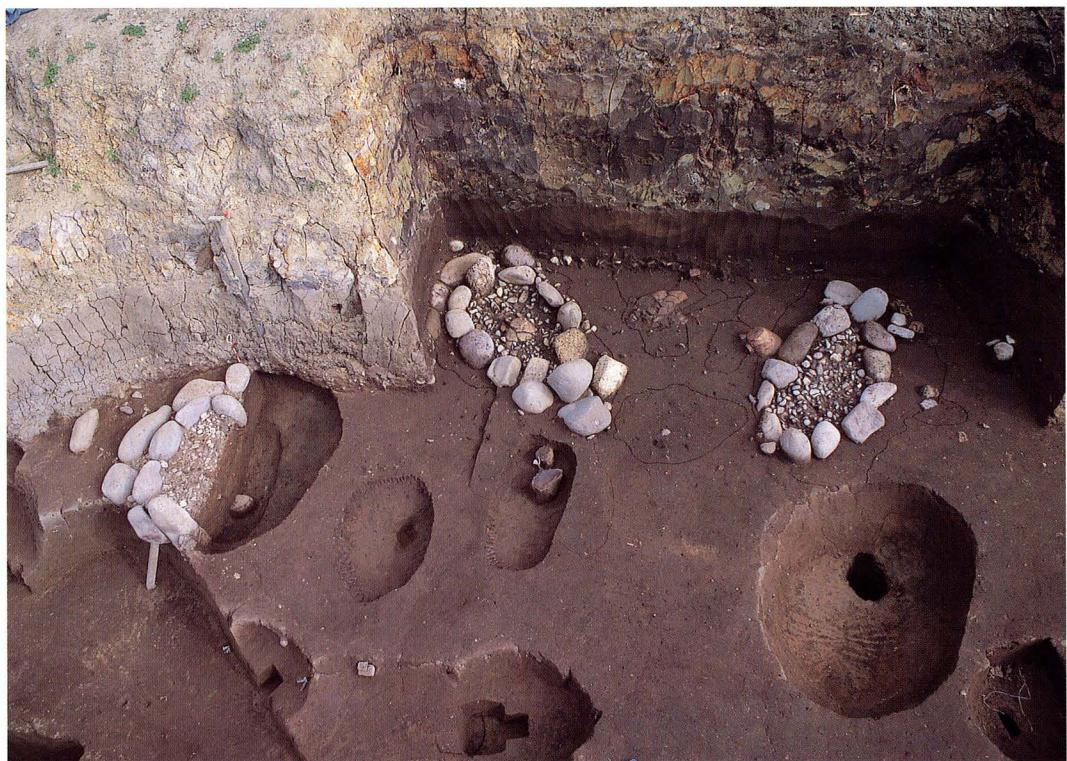
仙台市文化財調査報告書第207集

下ノ内浦・山口遺跡

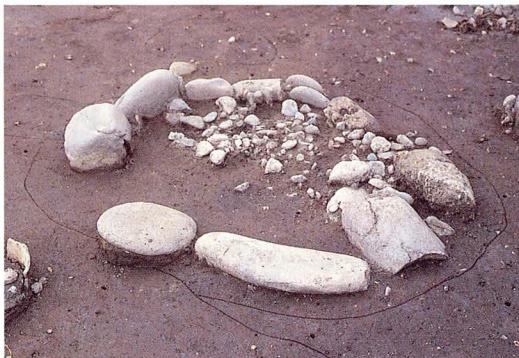
——仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書V——

1996年3月

仙 台 市 教 育 委 員 会



下ノ内浦遺跡 1・6・8号配石(縄文)



7号配石



7号配石出土耳飾り



S K 2 土壙(弥生)



S K 2 土壙石庖丁・大型蛤刃石斧

序 文

日頃、仙台市の文化財保護行政に対しまして多大のご協力をいただき、心から感謝いたしております。

昭和63年7月の高速鉄道南北線の開通は当市にとりまして新しい時代への幕開けとなる画期的な事業でありました。

この高速鉄道の建設に際しては、我々の祖先の生活を語る多くの遺構や遺物が発見されました。本書にまとめました下ノ内浦遺跡におきましては、奈良時代や平安時代の集落の他、弥生時代や縄文時代後期の墓域、縄文時代早期の住居跡などが発見され、それらから多量の土器や石器などの貴重な遺物が出土しております。

発掘調査により得られた多くの成果は、仙台の歴史を語る貴重な歴史遺産として今後さまざまな場で公開していきたいと考えております。

最後になりましたが、調査と整理にご尽力をいただきました皆様と、また本書の作成にあたりご助言、ご指導下さいました各位に対し、心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成8年3月

仙台市教育委員会

教育長 幸山繁

例 言

1. 本書は、仙台市高速鉄道建設に伴う遺跡調査報告書の5冊目であり、下ノ内浦遺跡、山口遺跡の発掘調査成果についてまとめたものである。
2. 遺跡の調査と本書の作成に関わった職員は次のとおりである。

篠原信彦 成瀬茂 吉岡恭平 主浜光朗 斎野裕彦 千葉仁 高橋勝也 工藤信一郎
神成浩志 川名秀一 渡部紀 佐藤淳
出土遺物の整理、実測作業は篠原・吉岡が中心になって行い、工藤・神成・川名・渡部・佐藤が補佐した。原稿執筆はIII-3 (1) ①を佐藤・渡部、IVを佐藤、その他 (III-3 (3) 2) ⑥を除く) を吉岡が行った。編集は主に吉岡が行い、篠原・工藤・渡部・佐藤が補佐した。
3. 「III-3 (3) 2) ⑥下ノ内浦遺跡18~22層出土の石器遺物」については会田容弘氏 (1986年当時東北大学考古学研究室) に分析、原稿執筆を依頼した。
4. 弥生土器の遺物整理、分析に関しては特に小村田達也氏 (1985・86年当時東北大学考古学研究室) のご協力を頂いた。
5. 報告書作成にあたり下記の方々にご指導をいただいた (順不同、敬称略)。

須藤隆 阿子島香 本間宏 田中耕作 加藤三千雄 小熊博史 佐藤嘉宏 稲元信彦
中村良幸 安孫子昭二 佐藤信行 佐川正敏
6. 石器の石材は蟹沢聰史氏 (東北大学) に鑑定していただいた。
7. 繩文土器の展開写真は小川忠博氏撮影のものである。
8. 野外調査および整理作業参加者は「高速鉄道報告書 I」に記載している。
9. 本遺跡の調査成果については、すでに概報として内容の一部が紹介されているが、本報告の記載内容が優先するものである。
10. 調査の諸記録・実測図・写真・出土遺物等の全資料は仙台市教育委員会が一括保管している。

凡 例

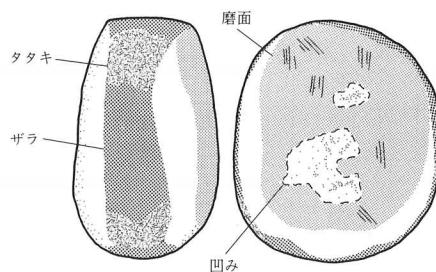
1. 図中の方位は真北を示す。磁北は $7^{\circ}20'$ 西偏する。南北グリッド軸は真北に対し東に $0^{\circ}45'$ $35''$ 偏している。
2. 遺跡地名表に用いた地形図は、国土地理院発行1/25000「仙台西北部」「仙台東北部」「仙台南西部」「仙台南東部」である。

3. 土層の色調の記載には、『新版標準土色帖』(小山・竹原 1967) を用いた。
4. 遺構内層位の略号として ℓ 1・ ℓ 2 を使用する場合がある。
5. 遺構の略号は以下のとおりである。

竪穴住居跡・竪穴遺構 S I	建物跡 S B	土壙・土坑 S K	溝跡 S D
河川跡 S R	ピット P	性格不明遺構 S X	
6. 遺物登録にあたっては以下の記号を用いた。

縄文土器 A	弥生土器 B	土師器(非ロクロ) C	
土師器(ロクロ)・赤焼土器 D	須恵器 E	土製品 P	剝片石器 K a
礫石器・磨製石斧・石製品 K c			
7. 図の縮尺は原則として、遺構を1/40、1/60、土器を1/2、1/3、土製品1/2、礫石器・石製品1/3、剝片石器2/3とした。
8. 概報で使用した遺構名を本書で変更したものは以下のとおりである。

概報III S I 1 → S I 13	S I 2 → S I 15	S I 3 → S I 16	S I 4 → S I 14
S K 27 → S K 4	S D 2 → S D 23	S D 3 → S D 24	S D 4 → S D 25
S D 5 → S D 26			
概報IV S K 2 → S K 6	S K 4 → S K 10	S K 5 → S K 14	
9. 石器の計測は、中軸線の想定できるものはその方向での最大長を「長さ」、それに直交する最大長を「幅」、最も厚い部分を「厚さ」とした。それ以外は最大長、それに直交する最大幅、最大厚を計測した。
10. 本文中使用の「灰白色火山灰」(庄子・山田:1980) の降下年代は、現在10世紀前半頃と考えられている(白鳥:1980)。
11. 磕石器の使用痕の表示は以下のとおりである。



本文目次

I.	調査に至る経過	1
1.	調査に至る経過	1
2.	下ノ内浦遺跡・山口遺跡の調査に至る経過	3
3.	調査要項	3
II.	遺跡の立地と環境	5
1.	地理的環境	5
2.	歴史的環境	8
III.	下ノ内浦遺跡	11
1.	調査の方法と概要	11
(1)	調査の方法	11
(2)	調査概要	11
2.	基本層序	14
(1)	I～IV区	14
(2)	IV南区	16
3.	検出遺構と出土遺物	21
(1)	古墳時代以降の遺構と遺物	21
1)	3層検出遺構と遺物	21
①	畝状遺構	21
②	溝 跡	21
③	水田跡	21
④	河川跡	21
2)	5・6層検出遺構と遺物	29
①	竪穴住居跡	29
②	建物跡	61
③	土 坑	67
④	溝 跡	68
⑤	水田跡	74
⑥	I区 D10 グリッド一括土器	77
⑦	小溝状遺構群	77
⑧	基本層位出土遺物	78

(2) 弥生時代の遺構と遺物	80
① 壺穴遺構	80
② 土 壤	85
③ 埋設土器遺構	92
④ 遺物包含層	93
⑤ ピット状の落込み	93
⑥ その他の遺構出土遺物	93
(3) 縄文時代の遺構と遺物	126
1) 後期以降の遺構と遺物	126
① 壺穴住居跡	126
② 配石遺構	131
③ 埋設土器遺構	142
④ 土 壤	153
⑤ ピット	155
⑥ 倒木痕	198
⑦ 河川跡	198
⑧ 遺物包含層	198
2) 早期・前期の遺構と遺物	377
① 住居跡	377
② 土 坑	379
③ 河川跡	380
④ 遺物包含層	382
⑤ 15層出土土器	385
⑥ 下ノ内浦19～22層出土の石器遺物	会田容弘 385
4. 遺物について	400
(1) 縄文時代の遺物	400
① 縄文土器	400
② 土製品	413
③ 剥片石器	413
④ 磨石器・石製品	416
(2) 弥生時代の遺物	416
① 弥生土器	416

② 打製石器	420
③ 磨製石器・石製品	422
5. 遺構について	422
(1) 縄文時代早期の住居跡	422
(2) 縄文時代後期の配石遺構と土壙群	422
(3) 弥生時代の遺構	423
IV. 山口遺跡	424
1. 調査の方法と経過	424
2. 基本層序	427
3. 検出遺構と出土遺物	431
(1) 4層検出遺構と出土遺物	431
(2) 10層検出遺構	433
(3) 12層検出遺構	433
(4) 13層検出遺構	433
(5) その他の出土遺物	434
4. まとめ	434
(1) 周辺調査区との層の対応	434
(2) 検出遺構の時期について	443
V. まとめ	447

図 表 目 次

第1図 遺跡の位置	1	第12図 基本層序(4)	20
第2図 全体の調査区配置図	2	第13図 3層遺構配置図	23
第3図 遺跡の位置	5	第14図 SD 4・5溝跡	24
第4図 名取川下流域の地形分類図	6	第15図 SR 1河川跡断面図	24
第5図 旧地形図と調査区	7	第16図 古墳時代遺構配置図	25・26
第6図 周辺の遺跡分布図	9	第17図 SR 1出土遺物(1)	27
第7図 調査区の配置	10	第18図 SR 1出土遺物(2)	28
下ノ内浦遺跡			
第8図 グリッド配置図	12	第19図 SR 1出土遺物(3)	29
第9図 土層断面位置図・基本層序(1)	17	第20図 SI 1住居跡	30
第10図 基本層序(2)	18	第21図 SI 1出土遺物(1)	32
第11図 基本層序(3)	19	第22図 SI 1出土遺物(2)	33
		第23図 SI 2住居跡	35・36

第24図 SI 2 出土遺物(1)	37	第63図 弥生時代遺構配置図	81
第25図 SI 2 出土遺物(2)	38	第64図 SI15 積穴遺構	81
第26図 SI 3 住居跡	39	第65図 SI16 積穴遺構	81
第27図 SI 3 出土遺物	40	第66図 SI15 出土遺物(1)	82
第28図 SI 4 住居跡	41	第67図 SI15 出土遺物(2)	83
第29図 SI 4 出土遺物	43	第68図 SI15 出土遺物(3)	84
第30図 SI 5 住居跡(1)	44	第69図 SI16 出土遺物	84
第31図 SI 5 住居跡(2)	45	第70図 SK 2 土壙	86
第32図 SI 5 出土遺物	46	第71図 SK 1 出土遺物	87
第33図 SI 6 住居跡	47	第72図 SK 2 出土遺物(1)	88
第34図 SI 7 住居跡	49	第73図 83SK 2 出土遺物(2)	89
第35図 SI 7 出土遺物	50	第74図 SK 2 出土遺物(3)	90
第36図 SI 8 住居跡	51	第75図 SK 3 土壙	91
第37図 SI 8 出土遺物(1)	52	第76図 6号埋設土器	91
第38図 SI 8 出土遺物(2)	53	第77図 6号埋設土器	92
第39図 SI 9 住居跡	55	第78図 遺構出土弥生土器	94
第40図 SI10 住居跡	57	第79図 7層出土土器(1)	95
第41図 SI10 出土遺物	57	第80図 7層出土土器(2)	96
第42図 SI13 住居跡	58	第81図 7層出土土器(3)	97
第43図 SI13 出土遺物	60	第82図 7層出土土器(4)	98
第44図 SI14 住居跡	61	第83図 7層出土土器(5)	99
第45図 SB 1 建物跡	62	第84図 7層出土土器(6)	100
第46図 SB 2 建物跡	63・64	第85図 7層出土土器(7)	101
第47図 SB 3 建物跡	65	第86図 7層出土土器(8)	102
第48図 SB 4 建物跡	66	第87図 7層出土土器(9)	103
第49図 SB 4 出土遺物	66	第88図 7層出土土器(10)	104
第50図 SK 4・5 土坑	67	第89図 7層出土土器(11)	105
第51図 SK 4 出土遺物	68	第90図 7層出土土器(12)	106
第52図 SD 6～9 溝跡	69	第91図 7層出土土器(13)	107
第53図 SD13・15 溝跡	70	第92図 7層出土土器(14)	108
第54図 IV南区 SD19～22 溝跡	70	第93図 7層出土土器(15)	109
第55図 SD23・24 溝跡	71	第94図 7層出土土器(16)	110
第56図 SD25～28 溝跡	72	第95図 7層出土土器(17)	111
第57図 溝跡出土遺物	73	第96図 7層出土土器(18)	112
第58図 7a-2層水田跡(1)	75	第97図 7層出土土製品	113
第59図 7a-2層水田跡(2)	76	第98図 7層出土剝片石器(1)	114
第60図 I 区 D10 一括土器	76	第99図 7層出土剝片石器(2)	115
第61図 I 区 D10 一括土器遺物	77	第100図 7層出土剝片石器(3)	116
第62図 SX・基本層出土遺物	79	第101図 7層出土剝片石器(4)	117

第102図	7層出土剥片石器(5)	118	第141図	土 壤(10)	165
第103図	7層出土剥片石器(6)	119	第142図	土 壤(11)	166
第104図	7層出土剥片石器(7)	120	第143図	土 壤(12)	167
第105図	7層出土土器.....	121	第144図	土 壤(13)	168
第106図	7層出土礫石器(1)	122	第145図	土 壤(14)	169
第107図	7層出土礫石器(2)	123	第146図	土 壤(15)	170
第108図	ピット群出土弥生土器(1)	124	第147図	土 壤(16)	171
第109図	ピット群出土弥生土器(2)	125	第148図	土 壤(17)	172
第110図	ピット等出土弥生石器.....	125	第149図	土壤出土土器(1)	177
第111図	SI17住居跡	126	第150図	土壤出土土器(2)	178
第112図	縄文後期(13・14層)遺構配置図	127・128	第151図	土壤出土土器(3)	179
第113図	13層遺構平面図	129・130	第152図	土壤出土土器(4)	180
第114図	1～3号配石.....	133	第153図	土壤出土土器(5)	181
第115図	4・5号配石.....	135	第154図	土壤出土土器(6)	182
第116図	6・7号配石.....	137	第155図	土壤出土土器(7)	183
第117図	8号配石、2・3号集石.....	139	第156図	土壤出土土器(8)	184
第118図	9号配石.....	141	第157図	土壤出土土器(9)	185
第119図	配石出土土器(1)	143	第158図	遺構出土土製品	186
第120図	配石出土土器(2)	144	第159図	遺構出土土製円盤	187
第121図	配石出土土器(3)	145	第160図	土壤出土剥片石器(1)	188
第122図	配石出土剥片石器.....	146	第161図	土壤出土剥片石器(2)	189
第123図	配石出土礫石器(1)	147	第162図	土壤出土剥片石器(3)	190
第124図	配石出土礫石器(2)	148	第163図	土壤出土剥片石器(4)	191
第125図	配石・埋設土器遺構出土礫石器.....	149	第164図	土壤出土剥片石器(5)	192
第126図	埋設土器遺構	150	第165図	土壤出土剥片石器(6)	193
第127図	1号埋設土器	150	第166図	土壤出土磨製石斧	193
第128図	2・3号埋設土器	151	第167図	土壤出土礫石器(1)	194
第129図	4・5号埋設土器	152	第168図	土壤出土礫石器(2)	195
第130図	土壤長軸短軸図	153	第169図	土壤出土礫石器(3)	196
第131図	9層SK8土坑	155	第170図	土壤出土礫石器(4)	197
第132図	土 壤(1)	156	第171図	SR2河川跡	198
第133図	土 壤(2)	157	第172図	遺物出土状況	200
第134図	土 壤(3)	158	第173図	9層出土土器(1)	201
第135図	土 壤(4)	159	第174図	9層出土土器(2)	202
第136図	土 壤(5)	160	第175図	11層出土土器(1)	203
第137図	土 壤(6)	161	第176図	11層出土土器(2)	204
第138図	土 壤(7)	162	第177図	11層出土土器(3)	205
第139図	土 壤(8)	163	第178図	11層出土土器(4)	206
第140図	土 壤(9)	164	第179図	11層出土土器(5)	207

第180図	11層出土土器(6)	208
第181図	11層出土土器(7)	209
第182図	11層出土土器(8)	210
第183図	11層出土土器(9)	211
第184図	11層出土土器(10)	212
第185図	11層出土土器(11)	213
第186図	11層出土土器(12)	214
第187図	11層出土土器(13)	215
第188図	11層出土土器(14)	216
第189図	11層出土土器(15)	217
第190図	11層出土土器(16)	218
第191図	11層出土土器(17)	219
第192図	11層出土土器(18)	220
第193図	11層出土土器(19)	221
第194図	11層出土土器(20)	222
第195図	11層出土土器(21)	223
第196図	11層出土土器(22)	224
第197図	11層出土土器(23)	225
第198図	11層出土土器(24)	226
第199図	11層出土土器(25)	227
第200図	12層出土土器(1)	228
第201図	12層出土土器(2)	229
第202図	12層出土土器(3)	230
第203図	12層出土土器(4)	231
第204図	12層出土土器(5)	232
第205図	12層出土土器(6)	233
第206図	12層出土土器(7)	234
第207図	12層出土土器(8)	235
第208図	12層出土土器(9)	236
第209図	12層出土土器(10)	237
第210図	12層出土土器(11)	238
第211図	12層出土土器(12)	239
第212図	12層出土土器(13)	240
第213図	12層出土土器(14)	241
第214図	12層出土土器(15)	242
第215図	12層出土土器(16)	243
第216図	12層出土土器(17)	244
第217図	12層出土土器(18)	245
第218図	12層出土土器(19)	246
第219図	12層出土土器(20)	247
第220図	12層出土土器(21)	248
第221図	12層出土土器(22)	249
第222図	12層出土土器(23)	250
第223図	12層出土土器(24)	251
第224図	12層出土土器(25)	252
第225図	12層出土土器(26)	253
第226図	12層出土土器(27)	254
第227図	12層出土土器(28)	255
第228図	12層出土土器(29)	256
第229図	12層出土土器(30)	257
第230図	12層出土土器(31)	258
第231図	12層出土土器(32)	259
第232図	12層出土土器(33)	260
第233図	12層出土土器(34)	261
第234図	12層出土土器(35)	262
第235図	12層出土土器(36)	263
第236図	12層出土土器(37)	264
第237図	12層出土土器(38)	265
第238図	12層出土土器(39)	266
第239図	12層出土土器(40)	267
第240図	12層出土土器(41)	268
第241図	12層出土土器(42)	269
第242図	12層出土土器(43)	270
第243図	12層出土土器(44)	271
第244図	12層出土土器(45)	272
第245図	12層出土土器(46)	273
第246図	12層出土土器(47)	274
第247図	12層出土土器(48)	275
第248図	12層出土土器(49)	276
第249図	12層出土土器(50)	277
第250図	12層出土土器(51)	278
第251図	12層出土土器(52)	279
第252図	12層出土土器(53)	280
第253図	12層出土土器(54)	281
第254図	12層出土土器(55)	282
第255図	13層出土土器(1)	283
第256図	13層出土土器(2)	284
第257図	13層出土土器(3)	285

第258図 13層出土土器(4)	286	第297図 11層出土剥片石器(5)	325
第259図 13層出土土器(5)	287	第298図 11層出土剥片石器(6)	326
第260図 13層出土土器(6)	288	第299図 11層出土剥片石器(7)	327
第261図 13層出土土器(7)	289	第300図 11層出土剥片石器(8)	328
第262図 13層出土土器(8)	290	第301図 12層出土剥片石器(1)	329
第263図 13層出土土器(9)	291	第302図 12層出土剥片石器(2)	330
第264図 13層出土土器(10)	292	第303図 12層出土剥片石器(3)	331
第265図 13層出土土器(11)	293	第304図 12層出土剥片石器(4)	332
第266図 13層出土土器(12)	294	第305図 12層出土剥片石器(5)	333
第267図 13層出土土器(13)	295	第306図 12層出土剥片石器(6)	334
第268図 13層出土土器(14)	296	第307図 12層出土剥片石器(7)	335
第269図 13層出土土器(15)	297	第308図 12層出土剥片石器(8)	336
第270図 13層出土土器(16)	298	第309図 12層出土剥片石器(9)	337
第271図 13層出土土器(17)	299	第310図 12層出土剥片石器(10)	338
第272図 13層出土土器(18)	300	第311図 12層出土剥片石器(11)	339
第273図 13層出土土器(19)	301	第312図 12層出土剥片石器(12)	340
第274図 13層出土土器(20)	302	第313図 13層出土剥片石器(1)	341
第275図 13層出土土器(21)	303	第314図 13層出土剥片石器(2)	342
第276図 13層出土土器(22)	304	第315図 13層出土剥片石器(3)	343
第277図 13層出土土器(23)	305	第316図 包含層出土磨製石斧・石製	344
第278図 13層出土土器(24)	306	第317図 包含層出土礫石器(1)	345
第279図 13層出土土器(25)	307	第318図 包含層出土礫石器(2)	346
第280図 13層出土土器(26)	308	第319図 包含層出土礫石器(3)	347
第281図 13層出土土器(27)	309	第320図 包含層出土礫石器(4)	348
第282図 土 製 品(1)	310	第321図 包含層出土礫石器(5)	349
第283図 土 製 品(2)	311	第322図 包含層出土礫石器(6)	350
第284図 土 製 品(3)	312	第323図 包含層出土礫石器(7)	351
第285図 土 製 品(4)	313	第324図 包含層出土礫石器(8)	352
第286図 土 製 品(5)	314	第325図 包含層出土礫石器(9)	353
第287図 土製円盤(1)	315	第326図 包含層出土礫石器(10)	354
第288図 土製円盤(2)	316	第327図 包含層出土礫石器(11)	355
第289図 土製円盤(3)	317	第328図 包含層出土礫石器(12)	356
第290図 土製円盤(4)	318	第329図 包含層出土礫石器(13)	357
第291図 土製円盤(5)・重量分布図	319	第330図 包含層出土礫石器(14)	358
第292図 9層出土剥片石器	320	第331図 包含層出土礫石器(15)	359
第293図 11層出土剥片石器(1)	321	第332図 包含層出土礫石器(16)	360
第294図 11層出土剥片石器(2)	322	第333図 包含層出土礫石器(17)	361
第295図 11層出土剥片石器(3)	323	第334図 包含層出土礫石器(18)	362
第296図 11層出土剥片石器(4)	324	第335図 包含層出土礫石器(19)	363

第336図	包含層出土礫石器(20)	364	第371図	剝片最大長と石器(tool)	
第337図	包含層出土礫石錘(1)	365		最大幅対比棒グラフ	394
第338図	包含層出土礫石錘(2)	366	第372図	石器(tool、両面加工をのぞく)、細部調整濃度と 平坦打面をもつ剝片最大長対比棒グラフ	394
第339図	包含層出土礫石錘(3)	367	第373図	両面加工石器最大幅と多面調整打面剝片最大長 対比棒グラフ	394
第340図	基本層出土遺物	368	第374図	両面加工石器最大幅と内傾打面または口唇状打 面をもつ剝片最大長の対比棒グラフ	394
第341図	SR 1出土縄文土器(1)	369	第375図	土器集成図(1)	402
第342図	SR 1出土縄文土器(2)	370	第376図	土器集成図(2)	403
第343図	SR 1出土剝片石器	371	第377図	土器集成図(3)	404
第344図	SR 1出土磨製石斧・礫石器	372	第378図	土器集成図(4)	405
第345図	層位不明土器(1)	373	第379図	A・B ブロック出土土器	410
第346図	層位不明土器(2)	374	第380図	C・D ブロック出土土器	411
第347図	層位不明土器(3)	375	第381図	D・E ブロック出土土器	412
第348図	層位不明剝片石器	376	第382図	E ブロック出土土器	413
第349図	層位不明石器	377	第383図	土器の口径と器高	415
第350図	縄文時代早期遺構配置図	378	第384図	石鎌長幅分布	415
第351図	SI11・12住居跡	380	第385図	礫石器長幅厚分布	415
第352図	早期の遺構出土土器	381	第386図	弥生土器分布状況	419
第353図	早期の遺構出土剝片石器	382	第387図2	下ノ内浦・富沢遺跡出土アメリカ式石鎌	421
第354図	早期の土坑	383		山口遺跡	
第355図	SR 2・4河川跡	384	第388図	調査区位置図(土地区画整理前)	425
第356図	早期包含層出土土器(1)	386	第389図	試掘区・深掘区・遺構配置図	426
第357図	早期包含層出土土器(2)	387	第390図	基本層序	429・430
第358図	15層出土土器	387	第391図	SK 1-SD 1平面・断面図	435・436
第359図	早期包含層剝片石器(1)	388	第392図	4層水田跡平面・断面図	437・438
第360図	早期包含層剝片石器(2)	389	第393図	SD 2・3平面・断面図	439
第361図	早期包含層剝片石器(3)	390	第394図	SD 4・5・6・7・8平面図	440
第362図	早期包含層剝片石器(4)	391	第395図	SD 8・5断面図	441
第363図	早期包含層剝片石器(5)	392	第396図	出土遺物(1)	444
第364図	早期包含層剝片石器(6)	393	第397図	出土遺物(2)	445
第365図	石鎌長幅相関図	394	第398図	出土遺物(3)	446
第366図	石鎌の長さと凹度相関図	394	第1表	調査一覧表	4
第367図	薄形削器の連続細部調整の 刃部平面形別、刃角、深度相関図	394	第2表	SD 計測表	22
第368図	石器(tool)最大長と 剝片最大長対比棒グラフ	394	第3表	畦畔計測表	22
第369図	石器(tool)最大幅と 剝片最大幅対比ヒストグラフ	394	第4表	土坑計測表(1)	67
第370図	石器(tool)最大厚と 剝片最大厚対比棒グラフ	394	第5表	SD 計測表(2)	74
			第6表	畦畔計測表(2)	76

第7表 土壌計測表(1).....	173	第15表1 黒曜石製石器の属性表	393
第8表 土壌計測表(2).....	174	第15表2 頁岩製石器の属性表	393
第9表 土壌計測表(3).....	175	第16表 石器の凹度と長さの相関	393
第10表 土壌計測表	176	第17表 石器・剝片・長幅度数分布相関	394
第11表 早期土坑	381	第18表 剥片打面集計表	393
第12表 層別組成表	393	第19表 石器・剝片・厚さ度数分布	394
第13表 層別打製石器組成表	393	第20表 II群土器口縁部文様相関	418
第14表 石材石器クロス集計表	393		

写 真

写真1 遺跡周辺の空中写真
(1983年5月撮影) 451

写真2 遺跡周辺の空中写真
(1965年撮影) 452

下ノ内浦遺跡

写真3 調査区遠景(南から) 453

写真4 I区東壁断面(E4~6付近) 453

写真5 III区東壁断面(E21、22付近) 453

写真6 II区西壁断面(A6・7付近) 454

写真7 III区西壁断面(A16・17付近) 454

写真8 IV区東壁断面 454

写真9 II区B、C10、11深掘南壁 455

写真10 III区C26深掘北壁 455

写真11 II区3層水田跡とSD1
(南から) 455

写真12 III・IV区5層上面遺構
確認状況(北から) 456

写真13 SI1完掘状況(南から) 456

写真14 SI1・2 457

写真15 SI2 458

写真16 SI3 459

写真17 SI4 460

写真18 SI5 461

写真19 SI5 462

写真20 SI6、調査風景 463

写真21 SI7 464

写真22 SI8 465

写真23 SI9・10 466

目 次

写真24 SI10、遺構完掘状況	467
写真25 SI13・14	468
写真26 河川跡・建物跡・土坑・溝跡	469
写真27 溝跡	470
写真28 水田跡・小溝状遺構群SI16	471
写真29 土 壤	472
写真30 土壌・埋設土器配石遺構	473
写真31 配石遺構(1)	474
写真32 配石遺構(2)	475
写真33 配石遺構(3)	476
写真34 配石遺構(4)	477
写真35 土壌・埋設土器	478
写真36 土 壤(1)	479
写真37 土 壤(2)	480
写真38 土 壤(3)	481
写真39 土 壤(4)	482
写真40 土 壤(5)	483
写真41 土 壤(6)	484
写真42 土 壤(7)	485
写真43 早期遺構(1)	486
写真44 早期遺構(2)	487
写真45 SI1・2・3出土遺物	488
写真46 SI4・5・7・8出土遺物	489
写真47 SI8・SB4・SD9出土遺物	490
写真48 SI13・SD24・SK4出土遺物	491
写真49 SR1出土遺物	492
写真50 SR1・SD20出土遺物 I区D10一括土器・基本層 出土	493

写真51	SI15・SK 1 出土遺物	494	写真90	縄文遺物包含層出土土器(18)	533
写真52	SK 2・3・6号埋設土器	495	写真91	縄文遺物包含層出土土器(19)	534
写真53	SI15・SK 2・ピット群出土土器	496	写真92	縄文遺物包含層出土土器(20)	535
写真54	その他遺構出土土器・SI15出土土器	497	写真93	縄文遺物包含層出土土製品(1)	536
写真55	SK 2 出土石器・7層出土土器(1)	498	写真94	縄文遺物包含層出土土製品(2)	537
写真56	7層出土土器(2)	499	写真95	縄文遺物包含層出土石器(1)	538
写真57	7層出土土器(3)	500	写真96	縄文遺物包含層出土石器(2)	539
写真58	7層出土土器(4)	501	写真97	縄文遺物包含層出土石器(3)	540
写真59	7層出土土器(5)	502	写真98	縄文遺物包含層出土石器(4)	541
写真60	7層出土土器(6)	503	写真99	縄文遺物包含層出土石器(5)	542
写真61	7層出土土器(7)	504	写真100	縄文遺物包含層出土石器(6)	543
写真62	7層出土土器(8)	505	写真101	縄文遺物包含層出土石器(7)	544
写真63	7層出土土器(9)・土製品・石器(1)	506	写真102	縄文遺物包含層出土石製品・礫石器(1)	545
写真64	7層出土石器(2)	507	写真103	縄文遺物包含層出土石製品・礫石器(2)	546
写真65	7層出土石器(3)	508	写真104	縄文遺物包含層出土石製品・礫石器(3)	547
写真66	縄文遺構出土土器(1)	509	写真105	縄文遺物包含層出土石製品・ 礫石器・その他・底部圧痕	548
写真67	縄文遺構出土土器(2)	510	写真106	縄文早期・前期土器	549
写真68	縄文遺構出土土器(3)	511	写真107	縄文早期石器(1)	550
写真69	縄文遺構出土土器(4)	512	写真108	縄文早期石器(2)	551
写真70	縄文遺構出土土製品	513	写真109	展開写真(1)	552
写真71	縄文遺構出土石器(1)	514	写真110	展開写真(2)	553
写真72	縄文遺構出土石器(2)	515	写真111	展開写真(3)	554
写真73	縄文遺物包含層出土土器(1)	516		山口遺跡	
写真74	縄文遺物包含層出土土器(2)	517	写真112	調査前状況(南から)	555
写真75	縄文遺物包含層出土土器(3)	518	写真113	調査区全景(南から)	555
写真76	縄文遺物包含層出土土器(4)	519	写真114	1号溝跡検出状況(西から)	555
写真77	縄文遺物包含層出土土器(5)	520	写真115	1号溝跡(東から)	555
写真78	縄文遺物包含層出土土器(6)	521	写真116	1号溝跡断面(西側)(西から)	556
写真79	縄文遺物包含層出土土器(7)	522	写真117	1号土坑断面(南から)	556
写真80	縄文遺物包含層出土土器(8)	523	写真118	1号土坑木材出土状況(東から)	556
写真81	縄文遺物包含層出土土器(9)	524	写真119	試掘12区木材出土状況(西から)	557
写真82	縄文遺物包含層出土土器(10)	525	写真120	4b層上面杭列(南から)	557
写真83	縄文遺物包含層出土土器(11)	526	写真121	4b層上面杭列(試掘24区付近) (南から)	557
写真84	縄文遺物包含層出土土器(12)	527	写真122	杭No.4断面(南から)	558
写真85	縄文遺物包含層出土土器(13)	528	写真123	杭No.7断面(南から)	558
写真86	縄文遺物包含層出土土器(14)	529	写真124	杭No.11断面(南から)	558
写真87	縄文遺物包含層出土土器(15)	530	写真125	杭No.12断面(南から)	558
写真88	縄文遺物包含層出土土器(16)	531			
写真89	縄文遺物包含層出土土器(17)	532			

写真126	杭No.13断面(南から)	558
写真127	杭No.16断面(南から)	558
写真128	杭No.18断面(南から)	558
写真129	杭No.22断面(南から)	558
写真130	試掘36区 2号・3号溝跡(南から)	559
写真131	試掘36区 2号・3号溝跡断面(西から)	559
写真132	試掘12区 4号～8号溝跡(北から)	559
写真133	試掘12区 4号～8号溝跡(南西から)	560
写真134	試掘12区 4号・5号溝跡(東から)	560
写真135	試掘12区 8号溝跡(西から)	560
写真136	試掘24区断面(東から)	561
写真137	試掘48区断面(東から)	561
写真138	試掘60区断面(北から)	561
写真139	先行調査区断面 (E47～50 グリッド)	562
写真140	調査風景(北から)	562
写真141	調査区全景(最終状況)(南から)	562
写真142	山口遺跡出土遺物	563

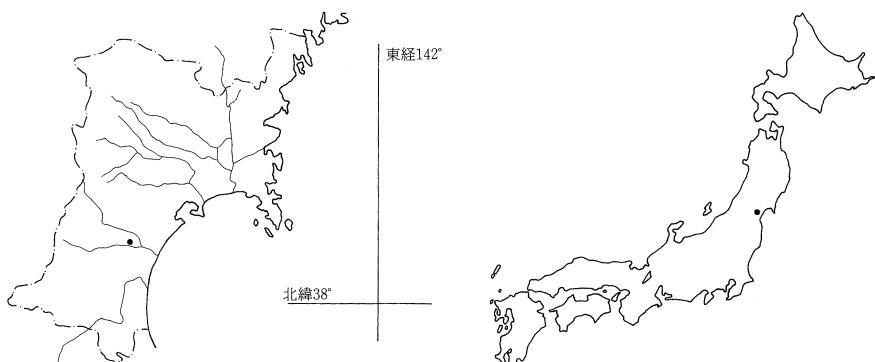
I 調査に至る経過

1 調査に至る経過

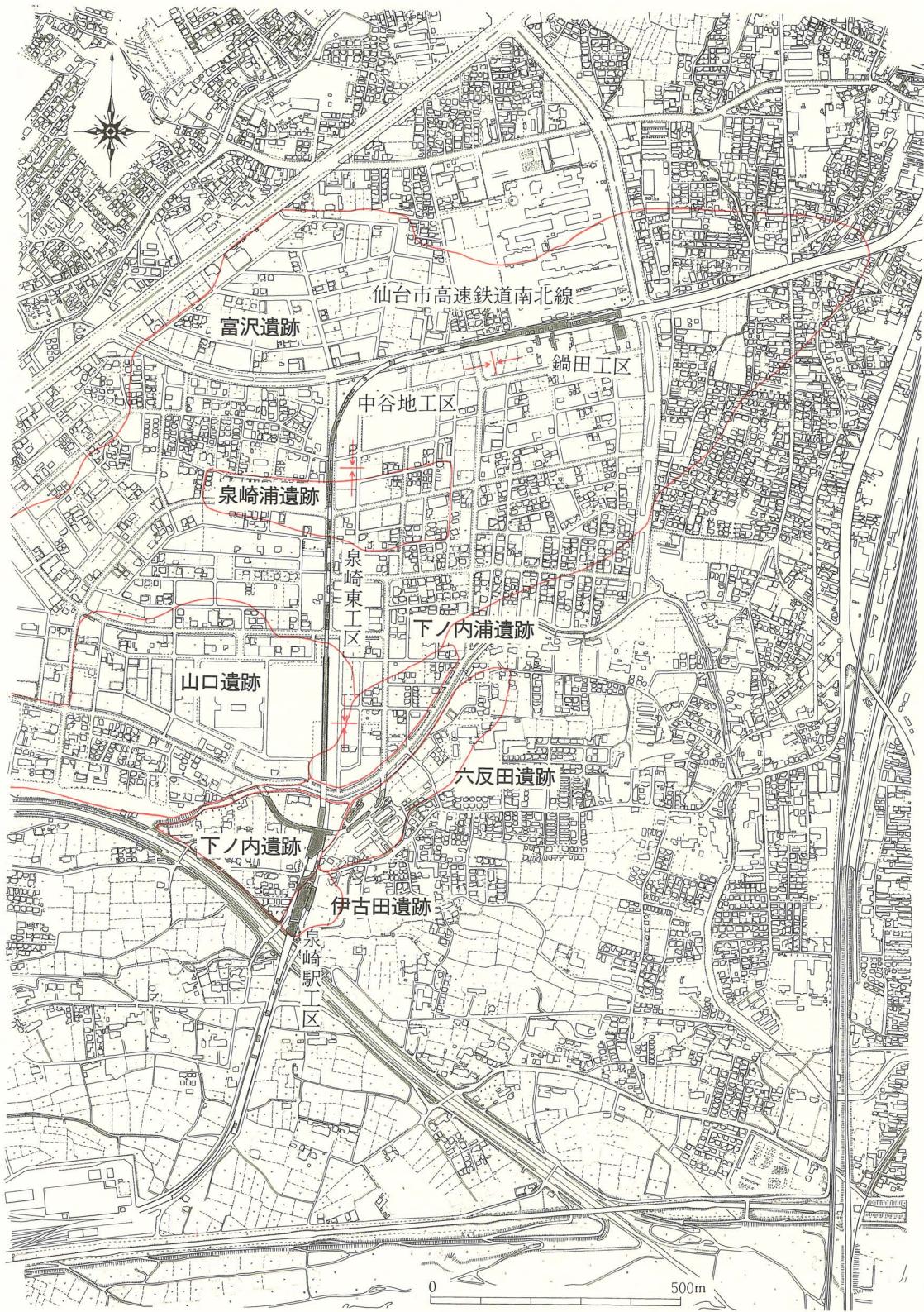
仙台市は古くから東北地方の中核都市としての役割を担ってきており、平成元年4月には政令指定都市に移行し、現在も発展を続けている。それに伴う都市整備の一環として、昭和63年7月より、高速鉄道南北線が運行を開始しており、渋滞のない交通手段として、市民生活に欠くことのできないものとなっている。

高速鉄道南北線は、仙台駅を中心に長く、北は泉中央駅から南は富沢駅に至るルートである。建設工事はその地形によって、山岳トンネル工法・シード工法・開削工法・高架方式の4つの手法が用いられている。

仙台市教育委員会は、高速鉄道建設の先立ち、路線内及びその周辺の分布調査を行った（仙市教：1980）。その結果、北部の台ノ原・瓦山地区で五本松窯跡等・堤町窯跡等、南部の富沢・大野田地区で泉崎浦遺跡・山口遺跡・六反田遺跡・伊古田遺跡等が位置していることが判明した。特に南部地域は多くの遺跡が分布しており、なおかつ沖積地の特徴として重層的に文化層が存在するため、周知の遺跡以外にも新たに遺跡が発見される可能性が大きい地域である。そのため仙台市教育委員会は、開削工法で建設される長町南駅（旧名称、鍋田駅）以南については遺跡の発掘調査を行うこととし、仙台市建設局高速鉄道建設本部との協議に入った。そして、昭和56年4月の下ノ内遺跡の調査より本格的な発掘調査を開始し、以後昭和61年の六反田遺跡の調査をもって、野外調査を終了した（第1表・第2図）。



第1図 遺跡の位置



第2図 全体の調査区配置図

2 下ノ内浦遺跡・山口遺跡の調査に至る経過

南に向かう電車が終着駅・富沢駅に向い上昇を始め地上に現れ、やがて高架になる路線箇所が山口遺跡と下ノ内浦遺跡の範囲内にあたるため、発掘調査を行うこととした。この箇所は二つの工区（泉崎東工区・泉崎駅工区）にわたり、工事工程との調整を建設本部と協議し、まず泉崎工区の山口遺跡部分を昭和56年8月から12月にかけて調査した。昭和58年4月から12月にかけては下ノ内浦遺跡の泉崎駅（現富沢駅）工区部分を調査した。なお調査時の保安施設、残土搬出、ベルコン設置等は工事請負業者の施工である。

3 調査要項

遺跡名・所在地

下ノ内浦遺跡（宮城県登録番号01368、仙台市登録番号C-300）

仙台市太白区長町南4丁目他

山口遺跡（宮城県登録番号01178、仙台市登録番号C-233）

仙台市太白区富沢1丁目他

調査目的 高速鉄道南北線建設に伴う事前調査

調査面積 下ノ内浦遺跡約2000m² 山口遺跡約1000m²

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係（昭和61年より文化財課調査係）

主事 篠原信彦 吉岡恭平 斎野裕彦 主浜光朗

教諭 成瀬 茂 千葉 仁

派遣職員 高橋勝也

調査期間 昭和56年8月25日～12月25日

昭和58年4月13日～12月23日

昭和59年4月11日～11月19日

調査協力 仙台市交通局高速鉄道建設本部 三菱建設・徳倉建設共同企業体 仙建工業・奥田建設共同企業体

調査参加者、整理参加者については「高速鉄道I」（1989）に記載している。

第1表 調査一覧表

遺跡名・所在地		時代・種類	調査期間	調査面積	担当職員	工区	報告書	
富沢遺跡	泉崎地区	旧石器・繩文～近世	第1次 S57. 9. 1～12. 11	約800m ²	吉岡恭平	泉崎東工区	仙台市文化財調査報告第126集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書I 富沢遺跡(1989)	
	中谷地地区		第1次 S57. 8. 25～12. 23	約1850m ²	主浜光明、高橋勝也、斎野裕彦、荒井格、渡辺誠	中谷地工区		
	鳥居原地区		第2次 S58. 4. 13～12. 27 S59. 1. 6～1. 9	約500m ²				
太白区泉崎1丁目・長町南3丁目他		散布地・水田跡	第1次 S57. 10. 5～12. 25 S58. 2. 3～2. 12	約1300m ²	斎野・荒井	鍋田工区	仙台市文化財調査報告第*集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書I 富沢遺跡(1989)	
			第2次 S58. 4. 13～12. 27 S59. 3. 5～3. 23	約1900m ²	斎野・荒井、渡辺誠、篠原信彦、渡辺忠彦			
			第3次 S59. 4. 11～6. 28	約750m ²	篠原・斎野			
			第4次 S60. 4. 10～8. 9	約710m ²	篠原・吉岡・高橋泰			
泉崎浦遺跡 太白区泉崎1丁目	繩文・古墳・平安・近世	集落跡・水田跡	S57. 9. 1～12. 25 S58. 9. 5～2. 6	約1200m ²	田中則和、吉岡	泉崎東工区		
下ノ内浦・山口遺跡 太白区富沢1丁目他	繩文～平安	集落跡・水田跡	第1次 S56. 8. 25～12. 28 第2次 S58. 4. 13～12. 23 第3次 S59. 4. 11～11. 19	約3000m ²	吉岡、成瀬茂、主浜、篠原・千葉仁・斎野・高橋(勝)	泉崎東工区 泉崎工区	本書	
六反田遺跡 太白区大野田字反田・六反田他	繩文～平安	集落跡	第1次 S56. 9. 7～12. 26 S57. 1. 6～1. 18 第2次 S60. 9. 9～11. 28 第3次 S58. 4. 22～12. 25	約1200m ²	佐藤隆・荒井・篠原・吉岡・佐藤良文		仙台市文化財調査報告書第*集 六反田遺跡 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書IV	
下ノ内遺跡 太白区富沢4丁目他	繩文～中世	集落跡	第1次 S56. 4. 17～12. 26 S57. 1. 6～1. 13 第2次 S57. 4. 12～12. 25 第3次 S58. 4. 13～12. 8 第4次 S59. 4. 11～5. 26	約3700m ²	佐藤隆・佐藤裕、篠原・渡辺(忠)・佐藤美智雄、吉岡・工藤哲司・高橋(勝)・鈴木実	泉崎駅工区	仙台市文化財調査報告書第136集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書II(1990)	
伊古田遺跡 太白区大野田字塚田	繩文・古墳～平安	集落跡	第1次 S58. 4. 15～12. 27 S59. 3. 5～3. 23 第2次 S59. 4. 25～8. 11 第3次 S61. 8. 4～9. 5	約2100m ²	篠原・佐藤(美)・吉岡・斎野・荒井・工藤・千葉・高橋(勝)	泉崎駅工区	仙台市文化財調査報告書第193集 伊古田遺跡 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書III	

(試掘)

工区名	調査期間	面積	発見遺構	担当職員	遺跡名	備考
泉崎東工区	S57. 4. 12～7. 1	420m ²	堅穴住居跡・水田跡	吉岡・斎野・荒井・高橋(勝)	富沢・泉崎浦遺跡	本調査へ移行
中谷地工区	S57. 6. 4～8. 11	710m ²	水田跡	吉岡・主浜・高橋(勝)		
中谷地工区	S58. 5. 25～6. 30	38m ²		斎野・荒井	富沢遺跡	本調査へ移行
鍋田工区	S57. 7. 5～10. 4	350m ²	水田跡	斎野・荒井		
泉崎駅工区	S57. 10. 25～11. 28	280m ²		篠原・渡辺(忠)		
泉崎東工区	S58. 4. 13～4. 19	85m ²		篠原・高橋(勝)		
車庫工区	S57. 10. 25～11. 4	72m ²		篠原・渡辺(忠)		

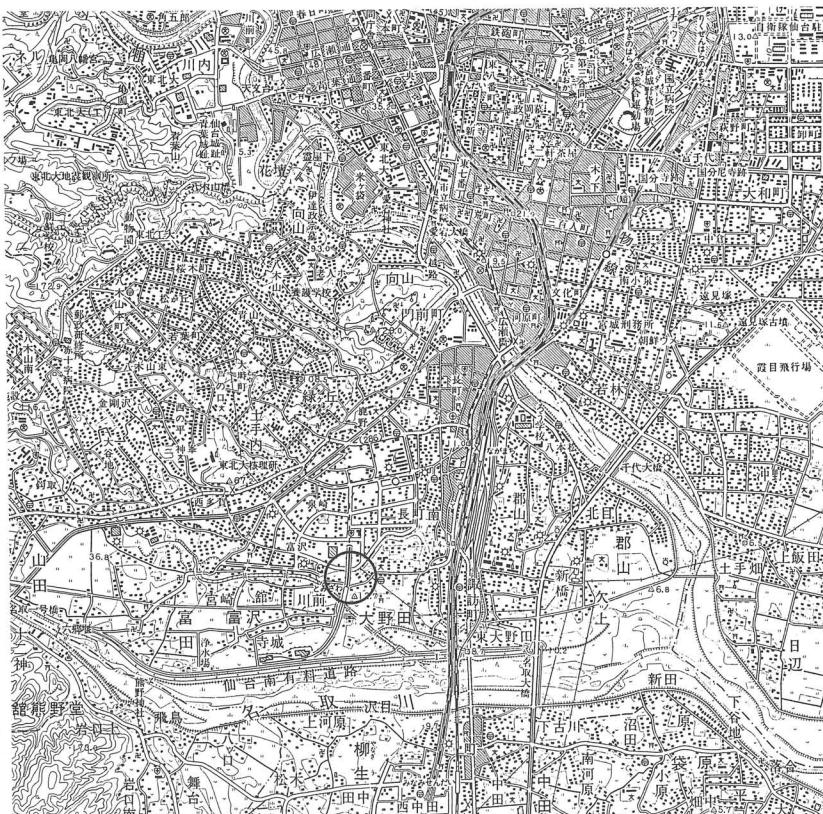
II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

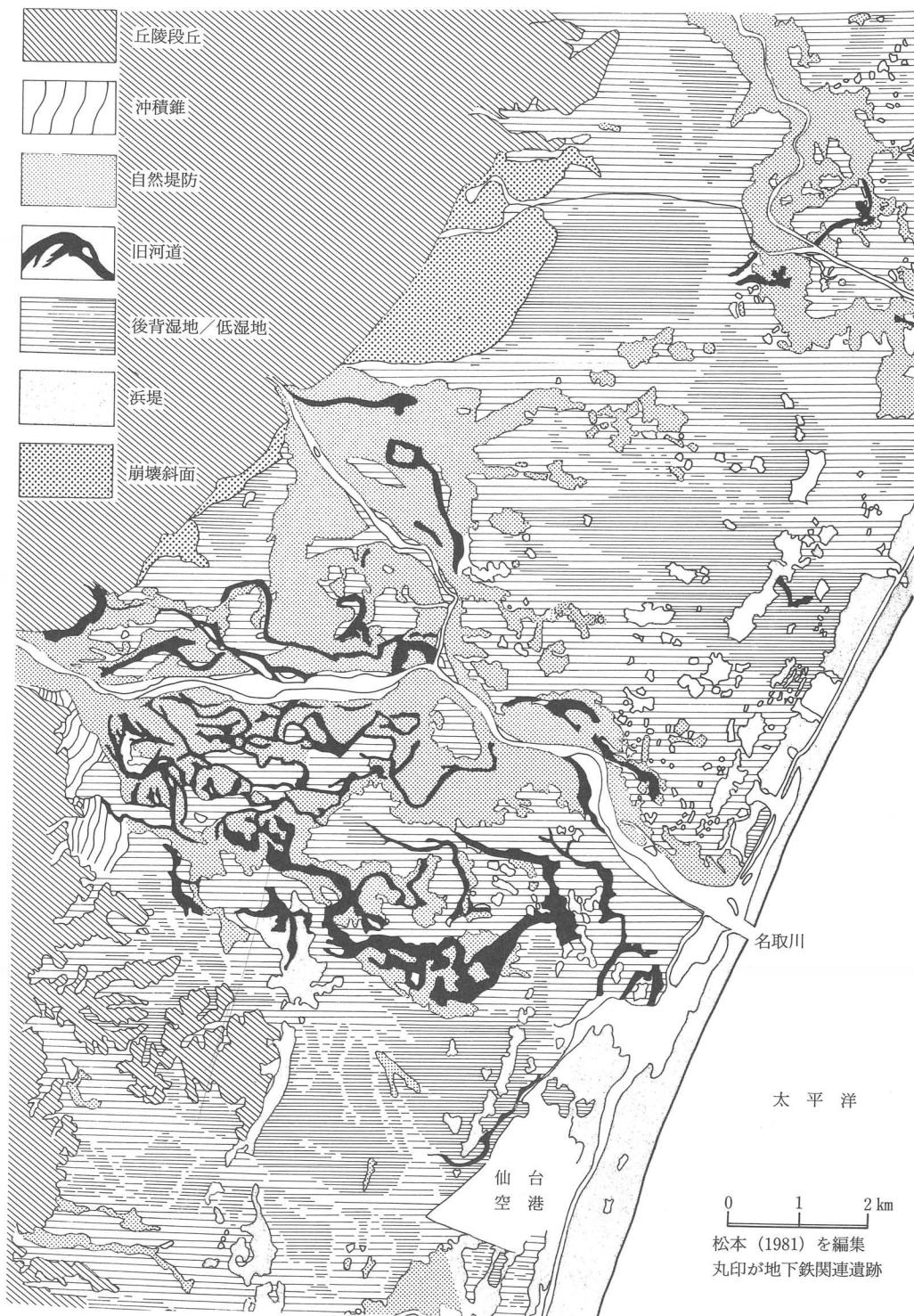
仙台市域の地形は、北西部の丘陵・山地と南東部の海岸平野（宮城野海岸平野）とに大別される。海岸平野のうち、広瀬川と名取川とにはさまれた低平な地域は郡山低地と呼ばれており、西縁は地質構造線、長町一利府線で丘陵・段丘地域と接している。郡山低地は名取・広瀬の両河川およびその間を流れる笊川の影響を強く受けており、旧河道、自然堤防、後背湿地があちこちに見られる。

下ノ内浦遺跡はJR長町駅から南西約1.6kmに位置し、山口遺跡は同駅から南西約1.8kmに位置し、互いに隣接する遺跡である。共に郡山低地の南部にあたり、笊川の北側に形成された自然堤防と後背湿地に立地する。遺跡の構成土壌は、砂、シルト、粘土である。区画整理前の標高は11～14mで北東方向へ緩い傾斜が見られる。調査箇所は下ノ内浦遺跡の西端部、山口遺跡の東端部で、区画整理以前は水田および畠地であった。

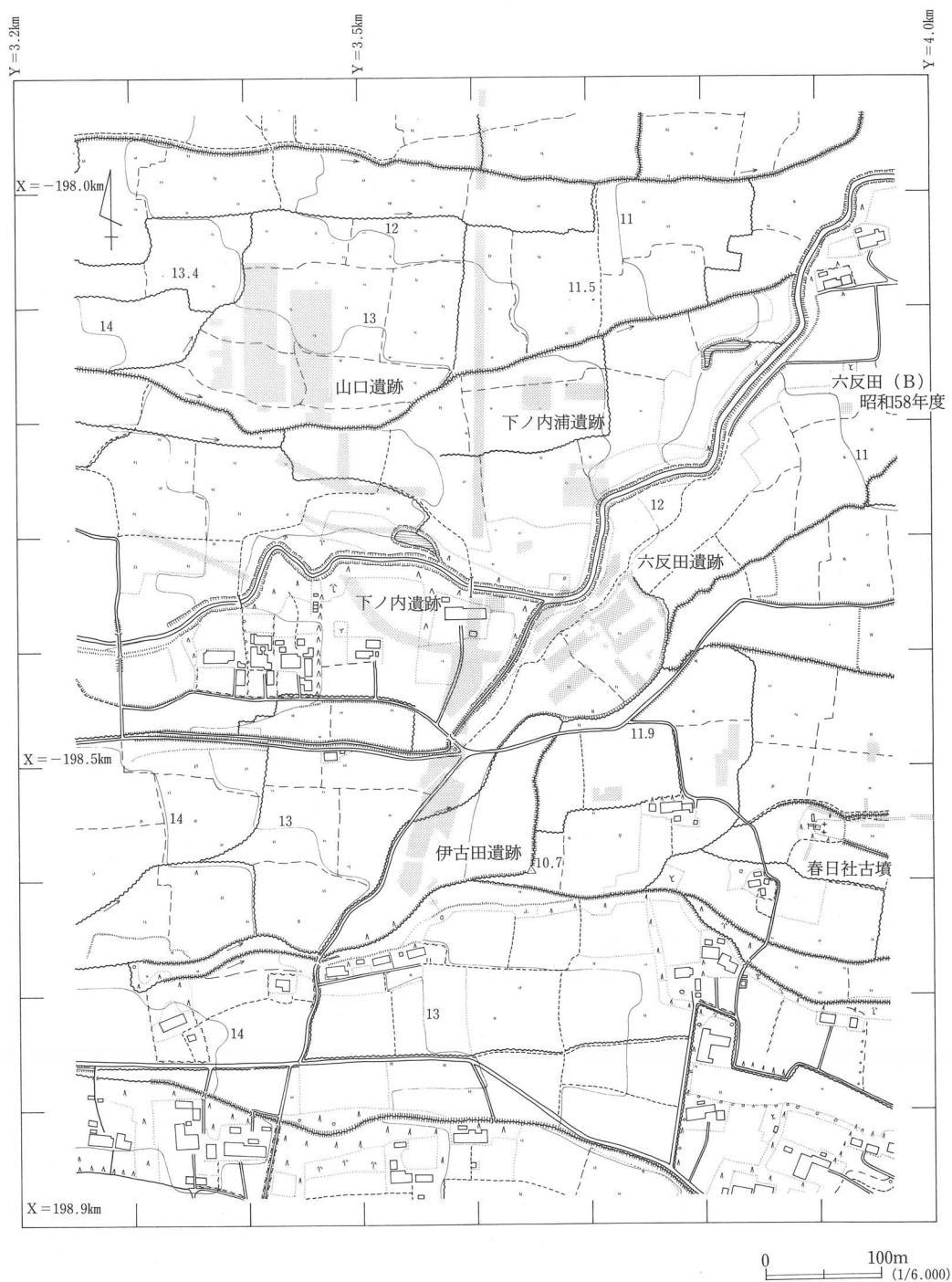
なお、周辺地域を含めた地形環境については、仙台市報告書126集「高速鉄道I」（1989）、同149集「富沢遺跡」（1991）に詳しいので参考されたい。



第3図 遺跡の位置 (1/75,000)



第4図 名取川下流域の地形分類図



昭和33年（1958）測図の都市計画
 図を再トレス

第5図 旧地形図と調査区

2 歴史的環境

六反田遺跡周辺の歴史的環境については、広域的な視点からは「高速鉄道報告書Ⅰ」(1989)に詳しいので、ここでは近接する遺跡を中心に簡単に述べたい(第7図)。

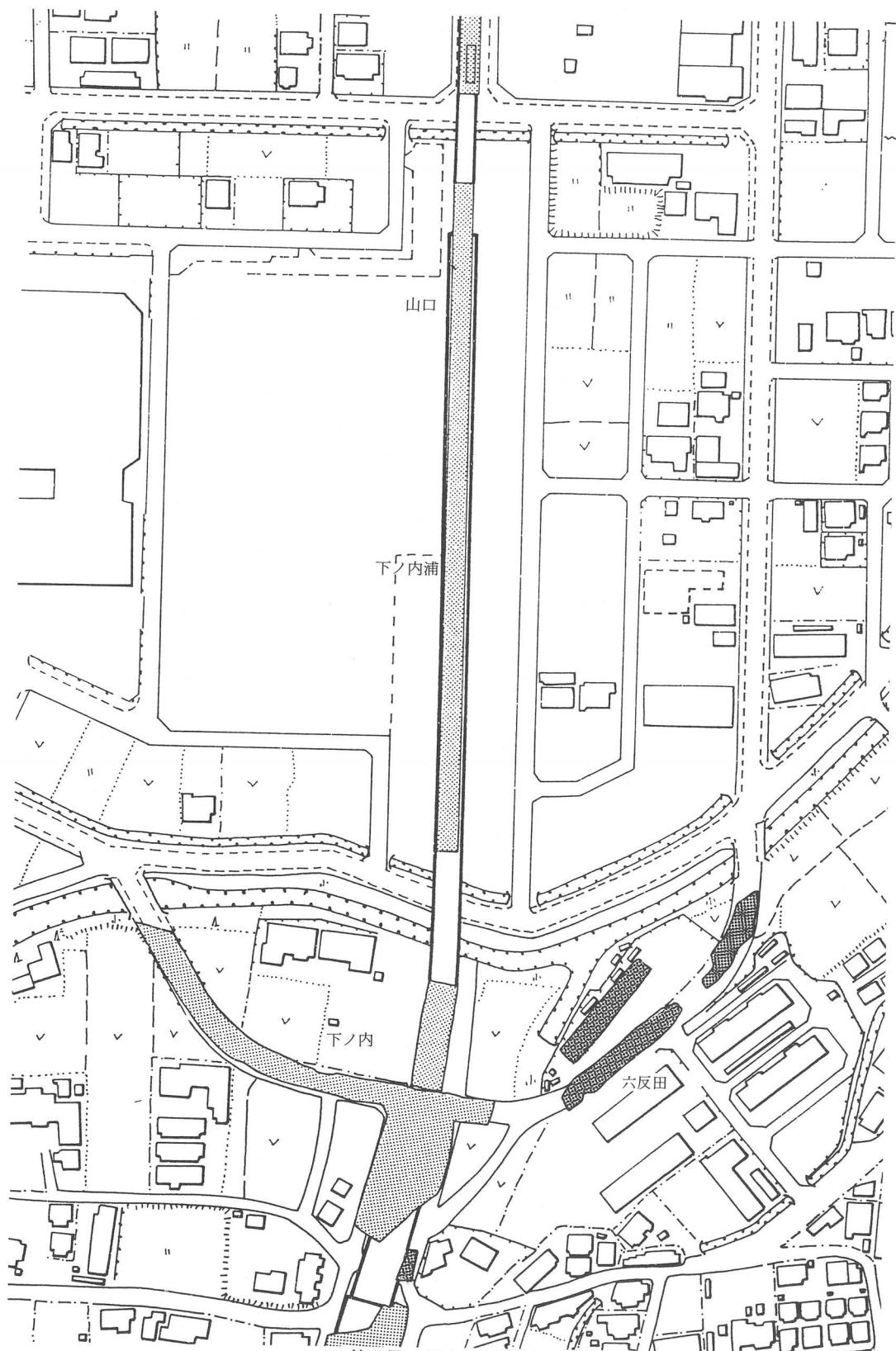
当遺跡周辺における最古の人類の足跡は、青葉山遺跡、山田上ノ台遺跡、北前遺跡で発見された前期旧石器時代にさかのぼる。3遺跡とも段丘上に位置するが、当地の北約700mに位置する富沢遺跡(6)30次調査地点では、後期旧石器時代の石器や生活跡が樹木などと共に発見され、低地にも当時の人間達が進出していたことがうかがえる。

縄文時代は、早期前葉以降の生活跡が当該遺跡をはじめとして残されているが、特に中期から後期にかけての痕跡が濃厚であり、上野遺跡(17)、北前遺跡、山田上ノ台遺跡、下ノ内遺跡(4)、六反田遺跡(5)、大野田遺跡(11)、伊古田遺跡(3)などから多くの遺構遺物が発見されている。弥生時代になると当遺跡北側の富沢遺跡では、後背湿地という地形的特質を生かして水田が営まれた。特に、中期樹形圓式期の水田が各地点で検出される傾向にある。古墳時代には、五反田古墳(8)、春日社古墳(9)をはじめとする多くの円墳が築かれ、大野田古墳群を形成する。その多くは埴輪を伴うものであり、おおむね5~6世紀に築かれたものである。古墳時代の水田跡は、富沢遺跡の北部で特に良好に残されている。7世紀中頃には、北東約2kmに郡山遺跡(28)が成立する。この遺跡は、名取郡もしくは陸奥国関連の国家的施設と考えられ、この遺跡の成立をもって当地域は律令体制に組み込まれと考えられよう。平安時代になると遺跡数が増える傾向にあり、集落跡、水田跡共に各所で発見される。特筆される点は、富沢遺跡において真北方向の畦畔が109m前後の間隔で検出されることから、条里型土地割の存在が確認されることである。現在確認し得るのは笊川以北である。中世の遺構は近年明らかになりつつある。南側の下ノ内遺跡からは溝跡や多くの柱穴が発見されている。南東700mに位置する王ノ壇遺跡(10)からは、堀で囲まれた屋敷跡が発見され、鎌倉~室町時代のものと考えられている。西1kmには富沢館跡(16)があり、室町時代のものとされている。富沢遺跡では、水田跡と共に建物跡も見つかっている。近世の当地域は富沢村となり、安永元年(1772年)完成の「封内風土記」によれば、戸口53戸、大鷦神社をはじめとする五社と西光寺があったと記されている。明治22年には西多賀村となり、昭和7年に仙台市に編入された。それまでの水田、畠地といった歴史的な景観に変化が生じたのは昭和51年に笊川の流量調整のための新笊川が完成したことと、昭和48年以降、富沢地区の区画整理事業が行われてからである。政令指定都市仙台にとって南の副都心と位置付けられており、今後は都市整備が進んでいく地域である。



No	遺跡名	立地	時代	No	遺跡名	立地	時代
1	下ノ内浦遺跡	自然堤防	縄文(早・前・後)・弥生・奈良・平安	16	富沢館跡	自然堤防 後背湿地	中世
2	山口遺跡	自然堤防 後背湿地	縄文(早・晚)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	17	上野遺跡	段丘	縄文(中)・奈良・平安
3	伊古田遺跡	自然堤防	縄文(後・晚)・古墳・奈良・平安	18	山田条里遺構	段丘	縄文・奈良・平安・近世
4	下ノ内遺跡	自然堤防	縄文(中・晚)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	19	船渡前遺跡	段丘	縄文・弥生・奈良・平安
5	六反田遺跡	自然堤防	縄文(中・晚)・弥生・古墳・奈良・平安	20	三神峯遺跡	段丘	縄文(早・前)
6	富沢遺跡	後背湿地	旧石器(後)・縄文・近世	21	芦ノ口遺跡	段丘	縄文・古墳・平安
7	泉崎浦遺跡	自然堤防 後背湿地	縄文(後)・弥生・古墳・平安・近世	22	裏町古墳	段丘	古墳
8	五反田古墳	自然堤防	古墳	23	土手内遺跡	丘陵	縄文・弥生・奈良・平安
9	大野田古墳群	自然堤防	古墳	24	茂ヶ崎城跡	丘陵頂部 及び斜面	中世
10	王ノ壇遺跡	自然堤防	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	25	愛宕山横穴群	丘陵斜面	古墳(未)・奈良
11	大野田遺跡	自然堤防	縄文(後)・古墳・平安・中世	26	長町駅東遺跡	自然堤防 後背湿地	古墳・奈良・平安
12	元袋遺跡	自然堤防	弥生・平安・中世・近世	27	西台畠遺跡	自然堤防	縄文(後)・弥生・古墳
13	長町清水遺跡	自然堤防	古墳?	28	郡山遺跡	自然堤防 後背湿地	縄文(後・晚)・弥生・古墳・奈良・平安
14	教塚古墳	後背湿地	古墳	29	北目城跡	自然堤防	縄文(後)・弥生・中世・近世
15	金岡八幡古墳	後背湿地	古墳	30	南小泉遺跡	自然堤防 後背湿地	縄文(晚)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世

第6図 周辺の遺跡分布図



第7図 調査区の配置

III 下ノ内浦遺跡

1 調査の方法と概要

(1) 調査の方法

下ノ内浦遺跡内の調査対象箇所は高速鉄道の起点七北田より13.525～13.686kmの区間で、面積は幅12m、長さ約160mの約2000m²である。調査においては3×3mのグリッド方式を採用し、南北に算用数字、東西にアルファベットを使用した。工事工程上工区の境界（起点より13.560km）を基準点としたため、13.560km以北は昭和56年の山口遺跡調査時に設定したグリッドを踏襲し、I区とした。I区は北に増えるグリッド番号になっている。13.560km以南は1～42まで南に増えるグリッド番号とし、1～13までをII区、14～26までをIII区、27～42までをIV区とした。東西はA～Eである。昭和58年度中に南端部で先行して行った橋脚部分調査箇所をIV南区とした。なお、I区とII区には同じ番号のグリッドが生じることになったが「I区」、「II区」をつけることにより区別した。グリッドの北西杭をそのグリッドの呼称の杭とし、遺物取り上げや遺構の位置の把握に利用した。13.560kmの基準点とC20グリッドの北西杭(13.620km)は平面直角座標測定値が判っており、以下に記載する。

II区 C 1 北西杭 13.560km X座標 = -198189.812 Y座標 = 3606.441

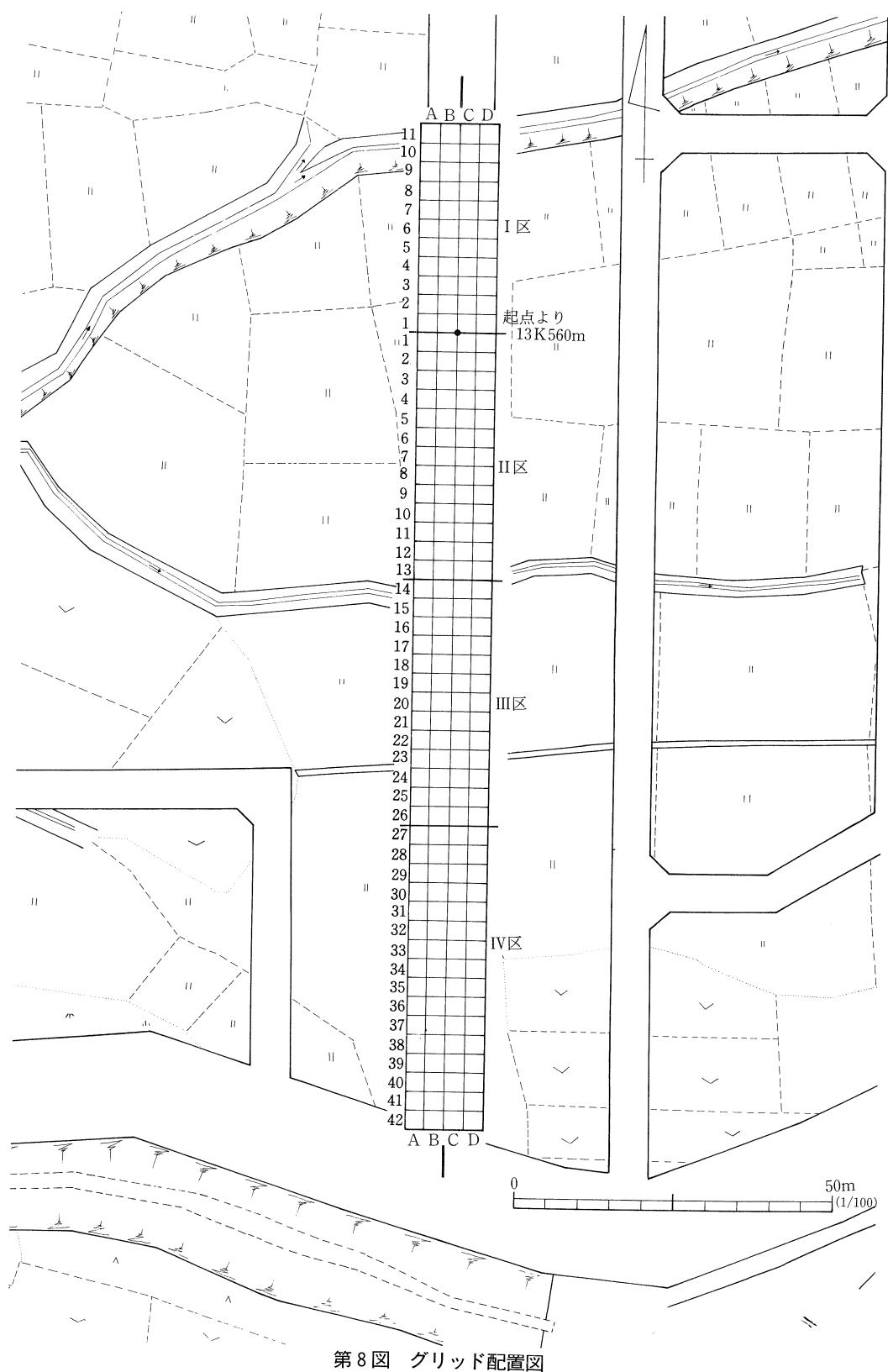
II区 C20 北西杭 13.620km X座標 = -198249.807 Y座標 = 3605.645

南北グリッド軸は真北に対して東に0°45'35秒偏している。

調査にあたって盛土・表土は重機を使用して除去した後（これらは建設工事の一環として各工区の請負業者が保安施設なども合わせて施工している）、遺構検出面までは層位的に掘り下げた。遺構は輪郭を確認した後、土層観察用アゼを残しながら掘り下げた。遺構の実測はグリッド基準杭により簡易遣り方を組み、縮尺1/10・1/20で図化し、河川跡など大きな遺構は1/50で図化した。遺物の取り上げにあたっては基本的にはグリッド単位で層位ごとに取り上げ、縄文時代の遺物包含層では一括土器には番号を振って取り上げている。写真是35mmモノクロ・リバーサルを基本とし、6×7版を一部併用した。

(2) 調査概要

昭和58年度 泉崎東工区であるI区、および工区の接続箇所となるII区の1～3グリッドを本年度の調査分とした。泉崎駅（現富沢駅）工区であるII区の表土剥ぎを4月13日より開始した。I区は昭和56年度山口遺跡調査の際に表土除去を終了している。4～6月にかけてI区及びII区北部はおもに小溝状遺構群が中心となった。南北東西に切り合い、プランと底面が不鮮明で



第8図 グリッド配置図

掘り残しなどが繰り返され、多少手間取った。またII区では水田跡、溝跡、住居跡、建物跡などを検出し、一部精査を開始していたが、IV南区の調査先行のため一時中断した。7～9月にかけては弥生時代の包含層と遺構の精査を行った。竪穴遺構2基、土壙2基、多数のピット（自然）が検出された。10月にはI区へ重機を導入し、下層調査を開始し、縄文時代の包含層を確認し、さらに下層で縄文早期に相当する河川跡、及び礫層を確認した。一方II区の4～12グリッドは、住居跡、建物跡の精査再開後小溝状遺構群などを漸次精査し、8層上面の遺構まで調査した。また、IV南区は高架線の橋脚部として先行させる必要が生じ、6月23日に開始し、水田跡、溝跡などを検出し、8月に終了している。59年度の野外調査は12月23日をもって終了し、予定したI区とII区3グリッドまでの調査を完了し、II区4グリッド以南は次年度に繰り越された。

昭和59年度 II区以南の調査を10月までに終了させる予定で4月11日に調査を開始した。4月はIII・IV区の遺構確認を主に実施し、III区南西の一部とIV区全域に河川跡があり、III区には住居跡10軒あることが判明した。河床の深さによっては縄文早期の層の存在が予想されたため、IV区では重機で、III区では人力で河川堆積土を除去し、7月初めから河床の掘り込みを開始し、IV区で早期の住居跡2軒、土坑4基を検出し、III区では押型文土器が出土し、沖積地では仙台市での最古の土器となった。さらに礫層を部分的に確認して8月下旬にIV区の調査を完了している。III区では5・6月と古代の住居跡の精査を実施し、7・8月は6～8層にかけての古代の小溝状遺構群、溝跡、水田跡、弥生の埋設土器と包含層の精査を行った。水田跡は7層上部のもので畦畔状の遺構と溝跡数条からなっている。埋設土器は壺棺と考えられる。8月下旬からは縄文包含層の調査が開始され、11・12層に縄文後期前葉の多量の遺物を含むことが判明した。包含層中すでに立石が確認されていたが、9月末から13層上面で9基の配石遺構と120以上の土壙が次々と確認された。下層に早期の層があることから、この時点で10月終了は不可能となり、高速鉄道建設本部と協議の結果20日間の延長が了承された。以後は早期の調査を並行させながら行ったが最後まで配石と土壙の調査が残ったため、一部早期の層まで調査できなかった所もある。早期の層では土坑が3基と遺物包含層が確認された。11月5日（月）以降は休日返上という厳しい状況で臨み、11月19日（月）に野外調査を完了した。なお、貴重な発見があったので10月6日に現地説明会を行った。

2 基本層序

基本層序はII・III区西壁を基本として把握し、IV南区以外についてそのおおむねを対応させている。ただし、調査区が南北にかなり長いため、層相がかなり変化している層も存在する。各層とも北へ下がる緩い傾斜をもっている。IV区の大半はSR 1河川跡であるため残存していた基本層序は19a層以下の層である。

確認された基本層は28層までである。おおまかにみると、1・2層は旧水田耕作土、3～6層は黄褐色系シルト・粘土層、7層は黒褐色系のシルト・粘土層、8層は黄褐色系の砂～粘土層、9～13層は黒褐色系のシルト・粘土層、14～28層はグライ化した緑灰色系の粘土質シルト層である。最下部は礫層である。22層以下はII区 BC10・11 グリッド深掘区を基準とした。

(1) I～IV区

1層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘土質シルト 旧水田耕作土。

2層 黄褐色 (10YR5/6) 粘土質シルト 水田耕作土最下部の酸化鉄集積層。集積の弱い箇所を2'層（灰黄褐色シルト）とした。

3層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質シルト 上面、層中に灰白色火山灰を含む。層厚10～20cmで、II区 1～11グリッドを中心広がる。

4層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト 層厚10～20cmでI区 5～III区15グリッド中心に広がり、I区では暗褐色になる。

5層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質粘土 層厚10～20cmで、I区 5グリッド以南のほぼ全域に広がる。I区では土色が黒褐色系になる。部分的に細分層があり、III区12～14グリッドの狭い範囲に分布するオリーブ褐色 (2.5YR4/3) 細砂質シルトを5a層、II区 5～7グリッドにのみ分布する黄褐色細砂を5c層とした。古墳時代以降の遺構群を検出している。

6層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘土・シルト質粘土 I区 7グリッド以南のほぼ全域に分布する。層厚は5～20cmである。II区 7・8グリッド付近にのみ分布する、にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質シルトを6a層とした。上面で小溝状遺構群を検出している。

7a1層 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粘土 13グリッド以南に分布する。層厚は5～10cmである。III区で溝跡を検出している。

7a2層 黒褐色 (10YR2/2) 粘土・シルト質粘土 ほぼ全域に分布する。層厚は5～15cmである。III区では上面や溝跡や畦畔状遺構を検出している。I区では弥生時代の遺物包含層の一部となっている。

7b層 黒色 (10YR2/1) 粘土・シルト質粘土 全域に分布する。層厚は10～25cmである。最も弥生時代の遺物を出土する層である。

7c層 黒褐色(10YR3/2) 粘土・シルト質粘土 ほぼ全域に分布する。I区では土色が黄褐色系に近くなる。

8'層 褐色(10YR4/4) 粘土・砂質シルト ほぼ全域に分布する。層厚は5~15cmである。南に厚くなり、III区では砂質になり明るくなる。

8層 褐色(10YR4/4) 粘土・シルト・砂 21グリッド以北に分布する。層厚は5~60cmで、北に厚くなり、I区北半では60cmほどになる。この層は9層上面で確認されたSR2の供給堆積物と考えられる。

9層 黒色(10YR2/1) 粘土・シルト質粘土 全域に分布する。層厚は5~20cmである。縄文時代後期の遺物を若干含む。I区での9A・B層である。

10層 黒褐色(10YR3/2) シルト・粘土質シルト II区8グリッド以北に分布する。層厚は5~10cmである。I区での9C層である。

11層 褐灰色(10YR4/1) 粘土質シルト 全域に分布する。層厚は10~20cmである。南に行くほどに暗褐色になる。縄文時代の遺物包含層である。I区での10A層である。

12a層 黒褐色(2.5Y3/1) 砂質シルト 14グリッド以南に広がる。層厚は5~15cmである。縄文時代の遺物包含層である。

12b層 黒褐色(10YR3/1) 粘土質シルト・砂質シルト 全域に分布する。層厚は15~25cmである。14グリッド以南では12a層よりも砂が多い。縄文時代の遺物包含層で、配石遺構や土壌群を覆う層である。I区での11A・B層である。

13a層 黒褐色(2.5Y3/2) 砂質シルト III区16グリッド以南に分布する。層厚は5~10cmである。上面が16グリッド付近からやや急に南に上がってくる。13a・b層上面で配石遺構や土壌群を検出している。

13b層 オリーブ黒色(5Y3/1) シルト質粘土・砂質シルト 16グリッドより南は砂質が増す。I区での12A層である。

14a層 灰色(5Y4/1) 粘土 全域に広がる。層厚は10~20cmである。17グリッド以南では砂質が増す、土壌、倒木痕などを検出している。

14b層 暗オリーブ灰色(5GY4/1) 砂質シルト 18グリッド以南に広がる。層厚は10~20cmである。I区での12B層である。

15a層 暗オリーブ灰色(5Y4/3) 粘土質シルト 全域に広がる。層厚は10~20cmである。縄文時代前期後葉の遺物を含む。I区での13層である。

15b層 オリーブ灰色(10Y4/2) シルト質粘土 15グリッド以南に広がる。層厚は10~20cmである。しまりがかなりあり。

16層 暗緑灰色(10GY4/1) 粘土質シルト 全域に広がる。層厚は10~20cmである。少量の火

山灰が上面に認められる。

17層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土質シルト 16グリッド以北に広がる。層厚は10~20cmである。ややべたつく。

18層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土質シルト 全域に広がる。層厚は5~20cmである。かなりべたつく。16~18層がI区での14・15層である。

19a層 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘土質シルト 全域に広がる。層厚は5~15cmである。縄文時代早期の遺物を含む。

19b層 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粘土質シルト 全域に広がる。層厚は10~25cmである。縄文時代早期の遺物を含む。上面で土坑が検出されている。19a・b層がI区での16層である。

20層 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト 全域に広がる。層厚は5~15cmである。緑灰色をブロック状に含む。縄文時代早期の竪穴住居跡を検出している。遺物を含む。I区での17A層である。

21層 緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土質シルト I区の下層で検出したSR3河川跡まで広がっている。層厚は10~15cmである。遺物を含む。

22層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘土質シルト。層厚10~15cm。しまりがかなりある。

23層 緑灰色 (7.5GY5/1) 粘土質シルト 層厚20~25cm。しまりがかなりある。

24層 緑灰色 (7.5GY5/1) シルト 層厚約30cm。

25層 オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘土質シルト 層厚5~15cm。しまりがかなりある。

26層 オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘土質シルト 層厚15~40cm。しまりがかなりある。

27層 緑灰色 (10GY5/1) 粘土質シルト 層厚15cm。しまりがかなりある。

28層 緑灰色 (7.5YR5/1) シルト 層厚5cm。しまりがかなりある。

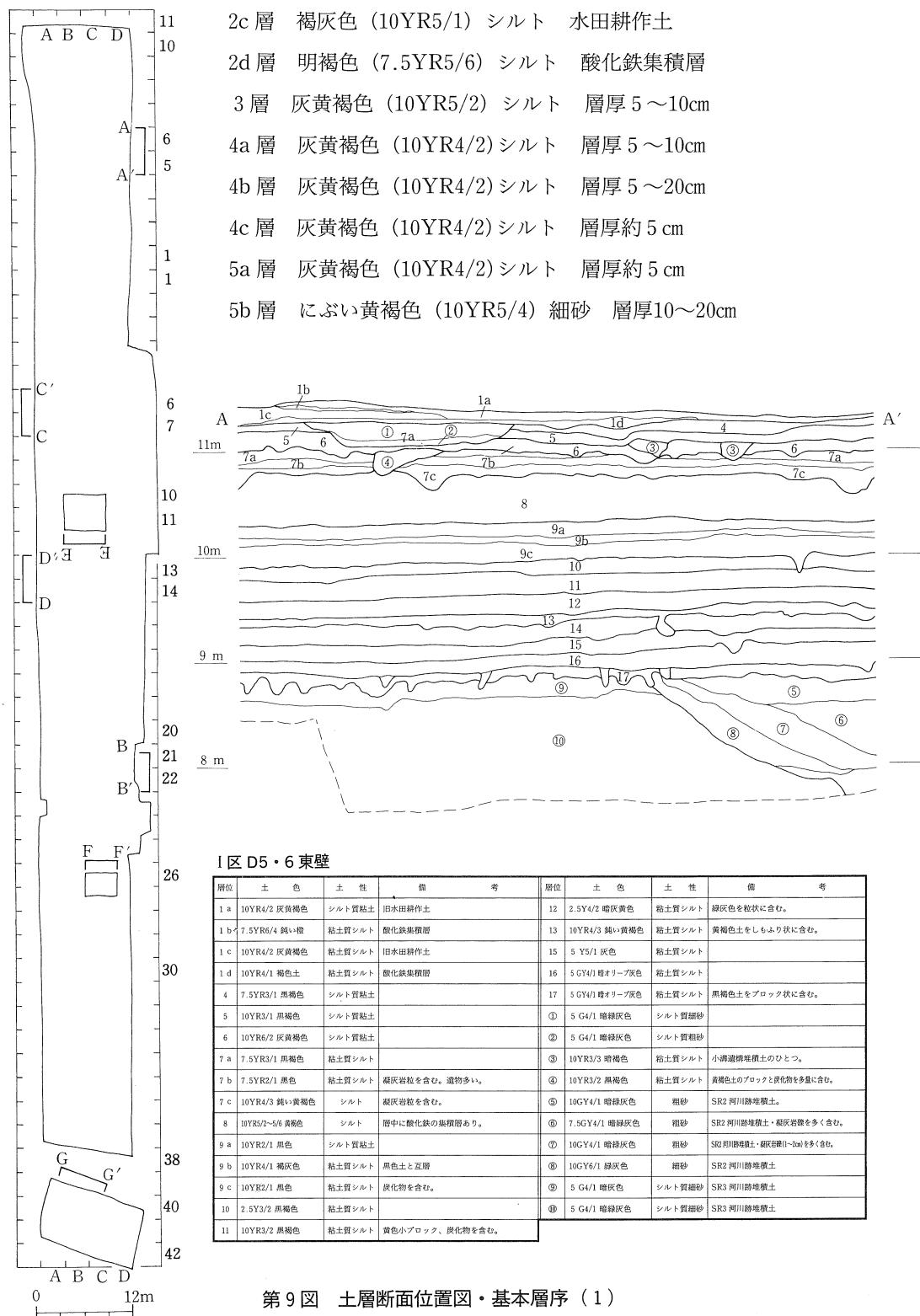
最下層が礫層である。礫層は径2cmの小礫から径15cmの円礫角礫で構成される。標高はI区で約8m、II区3グリッドで8.2m前後、11グリッドで7.7m前後、IV区26~29グリッドで7.9m前後で若干の起伏がみられるがほぼ8m前後となっている。この礫層は北へ向かい徐々に低くなることが既存のボーリング調査(地下鉄路線内)や試掘調査などから判っている(篠原・吉岡:1989)。

(2) IV南区

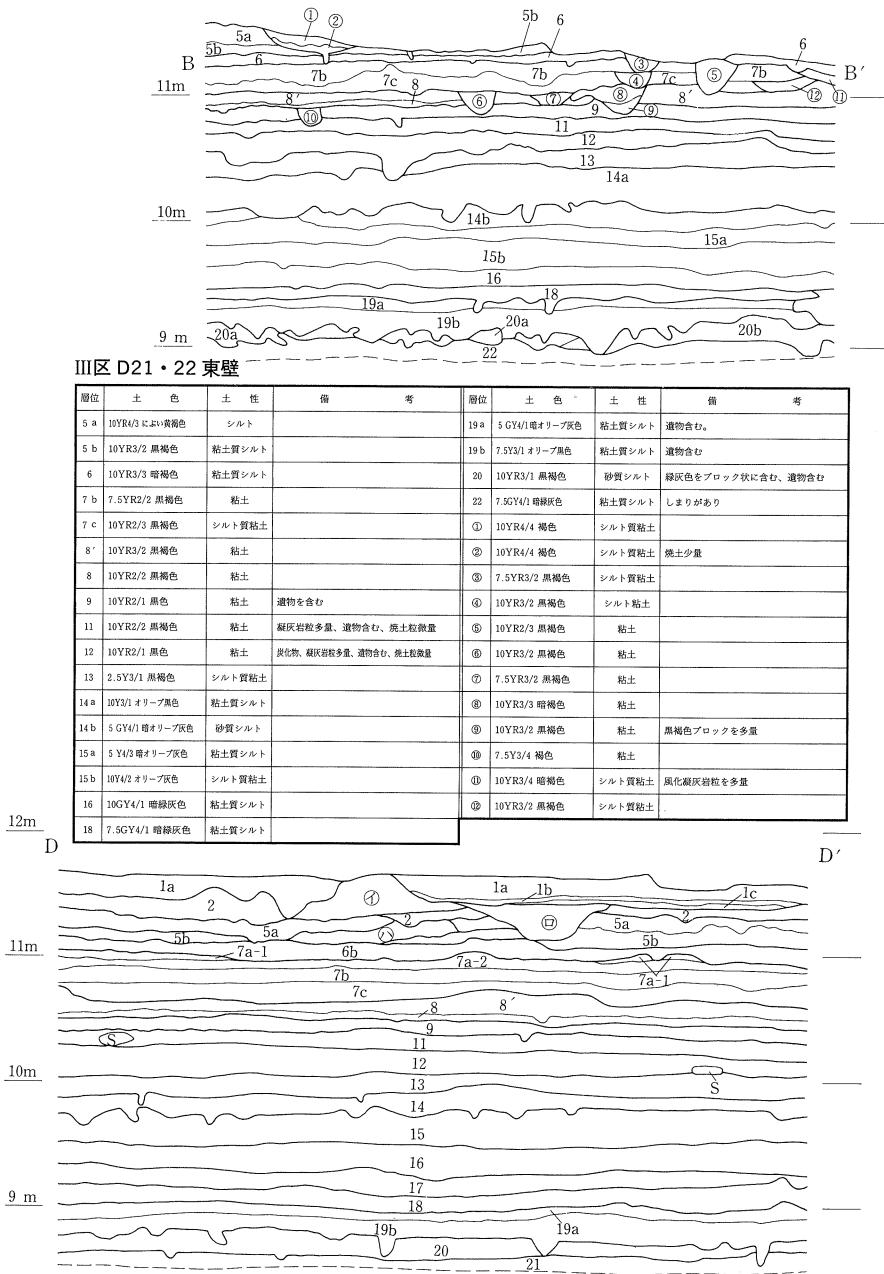
IV南区は旧笊川のすぐ北に位置し、その影響のためか全体にシルト質の層である。

1層 黄灰色 (2.5Y6/1) シルト 旧水田耕作土

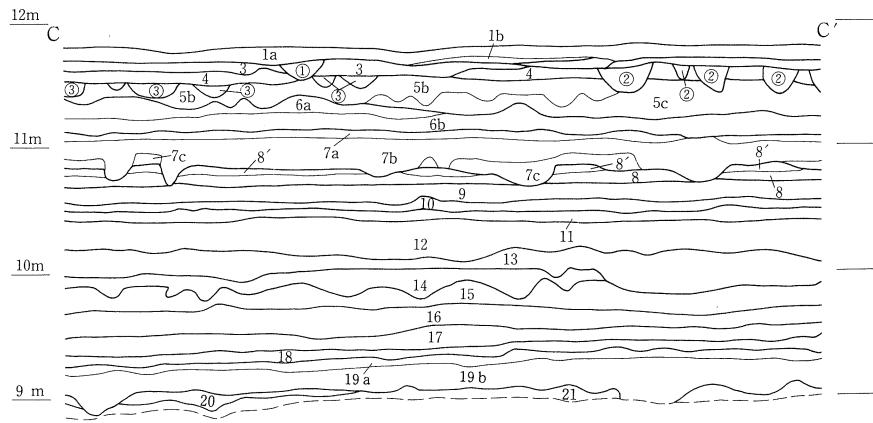
2b層 明褐色 (7.5YR5/6) シルト 酸化鉄集積層



第9図 土層断面位置図・基本層序 (1)

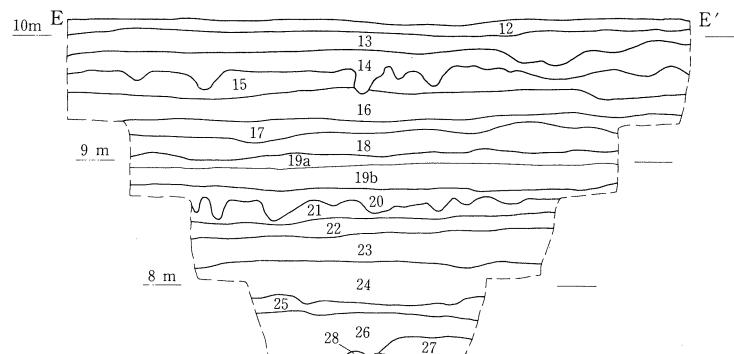


第10図 基本層序 (2)



III区 A13・14 西壁

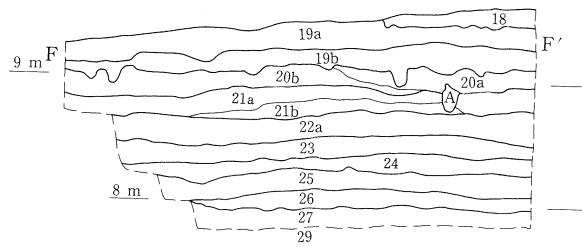
層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1 a	2.5Y4/2 暗灰黄	粘土質シルト	旧水田耕作土	12	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	遺物、炭化物多量
1 b	10YR5/5 黄褐色	粘土質シルト	炭化鉄鉱頗る	13	10YR3/1 オリーブ黒	粘土質シルト	
1 c	2.5Y4/2 暗灰黄	粘土質シルト		14	5 GY2/1 暗オリーブ灰	粘土質シルト	
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト		15	5 Y4/3 暗オリーブ灰	粘土質シルト	遺物若干含む
5 a	2.5Y4/3 オリーブ褐	粗砂質シルト		16	10GY4/1 暗緑灰	粘土質シルト	部分的に火山灰含む
5 b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土		17	7.5GY4/1 暗緑灰	粘土質シルト	
6 b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト質粘土		18	7.5GY3/1 暗緑灰	粘土質シルト	
7a-1	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土		19 a	5 GY1/1 暗オリーブ灰	粘土質シルト	遺物含む
7a-2	10YR2/2 黒褐色	シルト質粘土		19 b	7.5GY3/1 暗緑灰	粘土質シルト	遺物含む
7 b	10YR2/1 黒	シルト質粘土	遺物含む	20	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	遺物含む
7 c	10YR2/3 黑褐色	シルト質粘土		21	7.5GY5/1 福灰色	粘土質シルト	遺物含む
8'	10YR4/4 褐色	粗砂質シルト	炭灰岩較多量	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	旧水田地盤
8	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト質粘土		③	10YR4/2 暗黄褐色	シルト質粘土	SDI 堆積土
9	10YR2/1 黒色	シルト質粘土	遺物含む、炭化物多量	④	10YR6/8 明黄褐色	粗砂と疊	
11	10YR2/3 黑褐色	粘土質シルト	遺物含む				



II区 B・C II深掘南壁

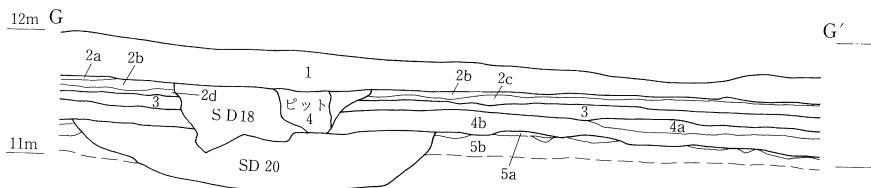
層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
13	10Y3/1オリーブ黒	粘土質シルト		21	7.5GY5/1緑灰色	粘土質シルト	
14	10Y4/1灰	粘土質シルト		22	7.5GY4/1暗緑灰色	粘土質シルト	7.5YR5/2(灰褐色)をしもふり状に含む
15	5GY4/1暗オリーブ灰	粘土質シルト		23	7.5GY5/1緑灰色	粘土質シルト	7.5YG5/3(にぶい褐色)をしもふり状に含む
16	7.5GY4/1暗緑灰	粘土質シルト		24	7.5GY5/1緑灰色	シルト	
17	10GY4/1暗緑灰	粘土質シルト		25	5GY5/1オリーブ灰	粘土質シルト	7.5YG5/3(にぶい褐色)
18	7.5GY3/1暗緑灰色	粘土質シルト	粘性がかなりあり	26	5GY5/1オリーブ灰	粘土質シルト	7.5YG(にぶい褐色)しもふり状、25よりしまる
19 a	5GY4/1暗オリーブ灰	粘土質シルト	19 b層ブロックに含む	27	10GY5/1緑灰色	粘土質シルト	しまりかなりあり
19 b	7.5Y3/1オリーブ黒	粘土質シルト	遺物を含む	28	7.5YR5/1緑灰色	シルト	
20	10YR3/1黑褐色	砂質シルト		29			疊層 径 2~15cmの円・角疊

第11図 基本層序 (3)



IV 北壁

層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
18	7.5GY4/1暗緑灰色	粘土質シルト	遺物含む	22b	7.5Y5/2灰オリーブ色	粘土	しまりかなりあり
19a	7.5Y4/1灰色	シルト質粘土		23	7.5Y5/1灰色	粘土	しまりかなりあり
19b	10Y5/1灰色	シルト質粘土		24	7.5Y5/3灰オリーブ色 5GY5/1オリーブ灰色	粘土質シルト	
20a	10Y5/2オリーブ灰色	粘土		25	7.5Y5/3灰オリーブ色 5GY5/1オリーブ灰色	粘土	
20b	10Y5/2オリーブ灰色	粘土		26	10Y6/2オリーブ灰色	粘土質シルト	
21a	7.5Y5/3灰オリーブ色	粘土		27	7.5GY6/1緑灰色	粘土	褐色土霜降り状に含む
21b	5G5/1緑灰色	砂質シルト		29		礫層	
22a	7.5Y4/2灰オリーブ色	粘土	しまりかなりあり	A	7.5Y3/2オリーブ黒色	粘土	



IV 南区

層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	2.5Y6/1黄灰色	シルト		4 a	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
2 b	7.5YR5/6明褐色	シルト	耕作土、酸化鉄、集積層	4 b	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
2 c	10YR5/1褐灰色	シルト	耕作土	4 c	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
2 d	7.5YR5/6明褐色	シルト	酸化鉄、集積層	5 a	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
3	10YR5/2灰黄褐色	シルト		5 b	10YR5/4にぼい黄褐色	細砂層	

第12図 基本層序 (4)

3 検出遺構と出土遺物

(1) 古墳時代以降の遺構と遺物

古墳時代以降の遺構は、3層で畝状遺構、水田跡、溝跡8条、5・6層で竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡4棟、土坑2基、溝跡4条、一括土器、7a層上面で水田跡、溝跡11条が検出されている。

1) 3層検出遺構と遺物（第13図）

①畝状遺構（第13図）

II区 A～C・1～3グリッドの3層下部で検出。不整長方形の暗褐色のプランが、東西方向に途切れながら7・8条走るのを確認した。大きさは長さ1～2m、幅30～70cmのものが多い。調査時は浅い土坑状のものとして掘り上げたが、底面や壁などが不明瞭で遺構と判断し得なかった。しかし、近年同遺跡内で畝状遺構が発見されるに至り（佐藤甲：1993）、再検討した結果、暗褐色のプランは下層の畝状遺構が現れていたものと考えられた。暗褐色プランが途切れる部分と下層の小溝状遺構群とは一致するものとしないものとがある。

②溝跡

SD 1～5・18溝跡の溝跡が検出されている（第13図、第2表）。いずれも2層直下での検出であるが、SD 2・3・18はSR 1の堆積土に形成されたものである。SD 1 Aは第5図にもあるように近年まで機能していた用水路であり、SD 1 B・Cはその支水路である。SD 4・5は、重複するSR 1の上端プランを切っていることからSR 1ま東岸に沿って構築されたものと考えられる。SD 3はSD 2の下位のものである。SD 1 C・2・3・18はいずれも畦畔に付設されたものである。

③水田跡

畦畔5条、段差2を検出した（第13図、第3表）。いずれも2層直下の検出であるが、畦畔2～5はSR Iの堆積土に形成されたものである。畦畔1の南半部の西側に検出した不整形プランは水田区画の可能性がある。南北方向の畦畔1と段差1とはSD 1 Aを挟み連続すると考えられ、第5図の南北の畦畔に該当する可能性もある。畦畔2～5はすべて同方向（N-70°-W）である。畦畔1～4には溝跡が付設されている。これらの畦畔や溝跡で構成される水田跡は同時期かどうか不明だが、区画整理以前の水田の状況を示すものと考えられる。

④河川跡

SR 1 河川跡（第13・15図）

A16からD26にかけて東岸のみを検出した。ただし、東岸の上端はSD 5に切られている。

検出長は約34mで、その方向は南南東から南東方向である。幅は13m以上で、深さは2.6mである。壁は底面より緩やかに立ち上がるが中段で急になっている。堆積土は30層で、おおまかにみると1~11層はシルト・粘土質シルトで、12~27層が砂質シルト・細砂で、28・29層の最下層が砂利層である。11層以上の堆積過程は低湿地的な環境を示していると考えられる。堆積土中に灰白色火山灰はみられない。断面図の堆積状況から推測すると河川幅は約16mとなる。しかし南北に長い調査区にもかかわらず西岸は検出されないことから、SR 1は27グリッド以南では調査に沿って南下するものと考えられる。

[出土遺物] 堆積土から、非クロロ土師器壺・甕、赤焼土器壺・甕、赤焼土器壺、須恵器壺・甕・壷、木製品が出土している。第17図1・2は非クロロ土師器の壺口縁部である。器面が荒れており調整は不明だが、器形から古墳時代中期のものと考えられる。3~9はロクロ土師器壺である。底部切り離し後は3・4が再調整がされ、5~9は無調整である。底部内面のヘラミガキは放射状のものが多い。8・9は墨書があるが、判読できない。10~15は高台壺である。高台は高いもの(12~14)と低いもの(10・11・15)がある。14は内外面ヘラミガキ、黒色処理が施されるものである。第18図4~8は赤焼土器壺、9は高台壺である。8の壺は胎土が内側外側が灰白色、中身が褐灰色と層状で、外面に黒斑がある。第18図10~15・第19図1・2は須恵器である。壺・長頸瓶・短頸瓶・甕がある。13は猿投窯の製品で、井ヶ谷78号窯式期と考えられる(注1)。第19図1・2・第18図12はそれ以外の須恵器と胎土がやや異なるものである(注2)。第19図3は木製品の皿である。見込み部にH字状の焼けこげ(?)文様がある。また、底面の一部が焦げている。木取りは柾目で、ロクロ痕跡が認められることから割りものと考えられる。

遺構名	地 区	検出長(m)	方 向	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	断面形	備 考
SD1A	II・III区A・D・13・14	12	N-80°-E	150~300	30~120	25	舟底形	底面東へ傾斜
SD1B	III区A~C・14	9	N-78°-W	50~70	20~35	5~23	—	
SD1C	III区D・14~16	9.5	—	45~70	20~35	2~15	—	底面北へ傾斜
SD 2	III区A~D-27・28	9	N-70°-E	30~50	20~40	2~8	U字形	底面東へ傾斜
SD 3	III区A~D-27・28	12	N-70°-E	30~80	20~35	10~26	鍋底形	底面東へ傾斜
SD 4	III区A~D-15~22	22	N-10°-W	15~30	6~15	3~7	—	底面平坦
SD 5	III区A~D-21~26	20	N-25°-W	100~220	30~100	20	逆台形	底面南へ傾斜
SD 18	IV南区	3.6	N-70°-W	60~80	30~50	15~30	舟底形	

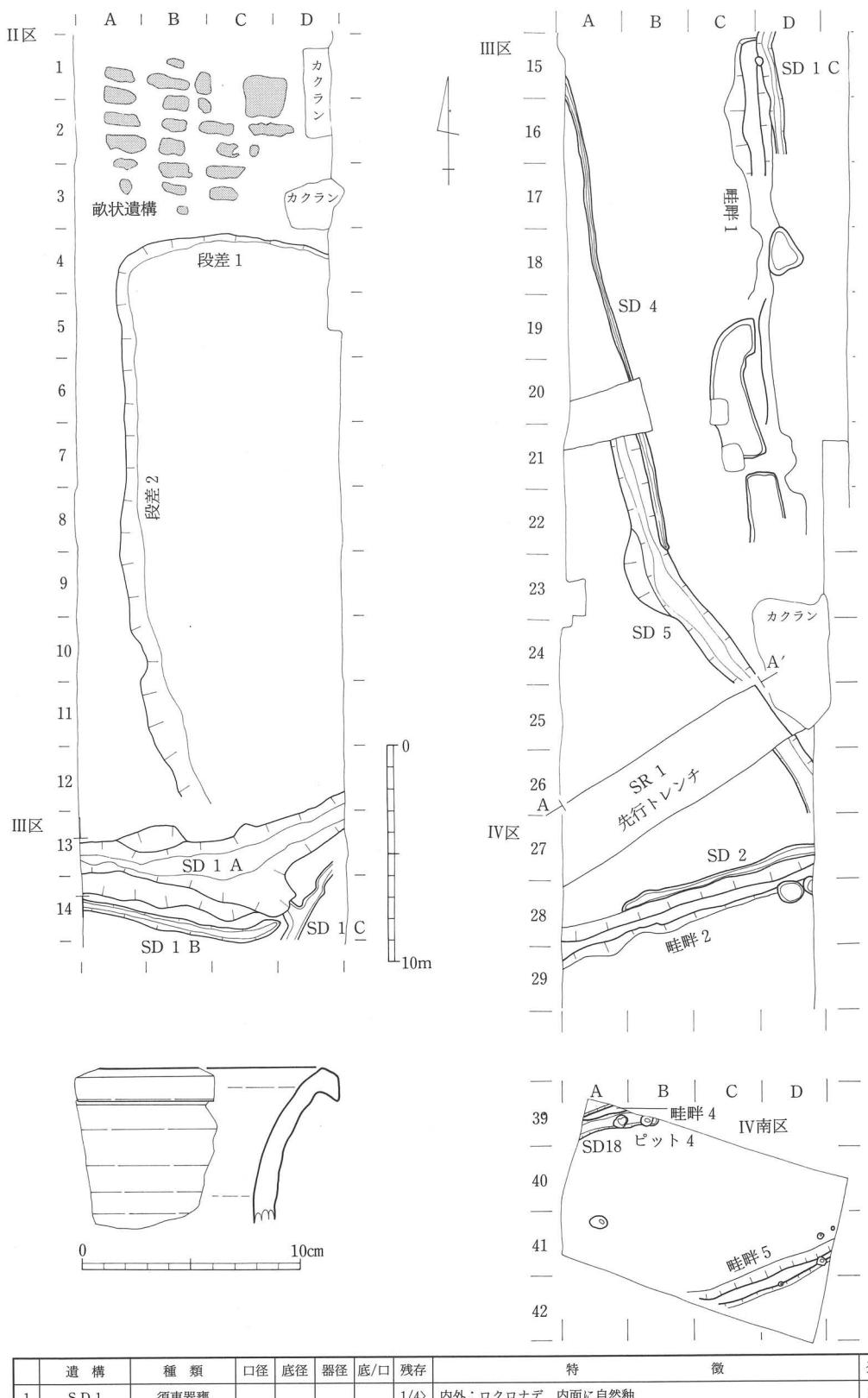
第2表 SD計測表(1)

畦畔No	検出長(m)	方向性	方 向	上幅(cm)	下幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	23	直	N-3°-W	60~80	100~200	2~12	
2	12	直	N-70°-E	30~50	120~170	5~10	
3	8.6	直	N-70°-E	20~40	70~100	7~12	
4	2	直	N-70°-E	20~30	40~60	5~7	
5	6.5	直	N-70°-E	20~50	100~120	2~4	
段差1	9.5	やや曲	N-7°-W			2~6	
段差2	25	やや曲	N-0°-E			10~29	

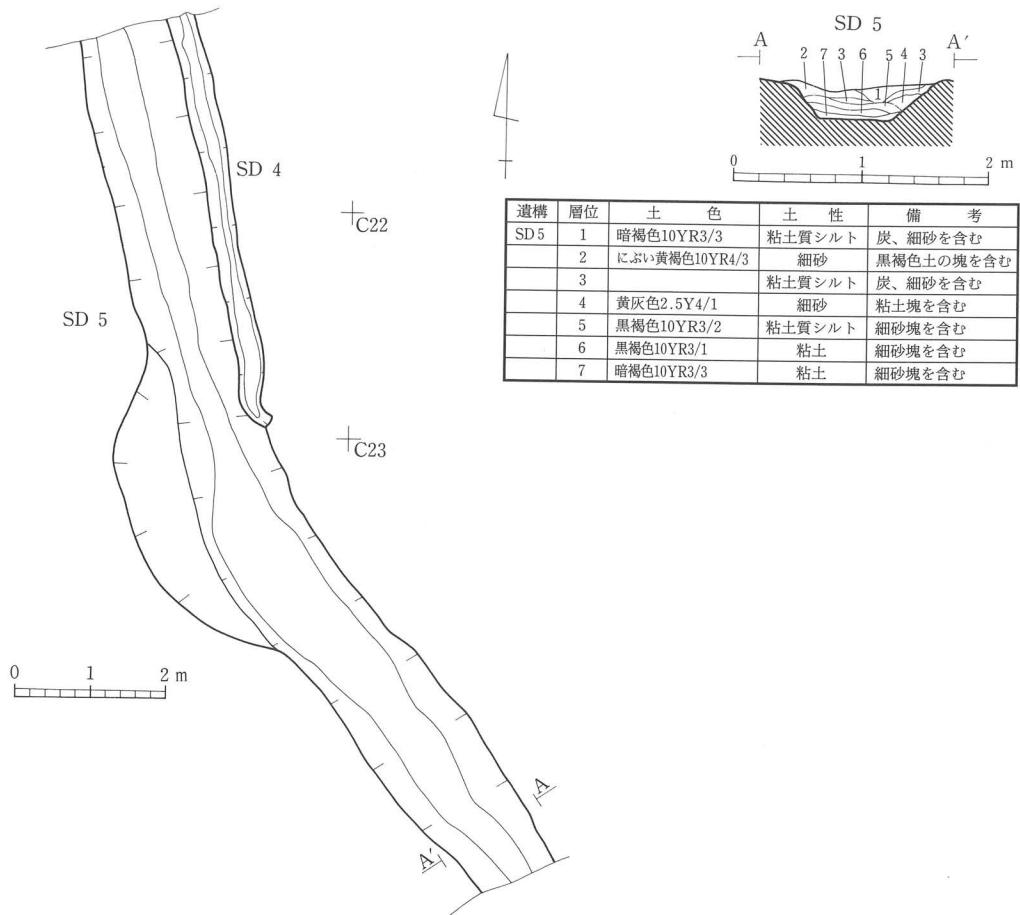
第3表 畦畔計測表

(注1) 柴垣勇夫氏(愛知県陶磁資料館)のご教示による。

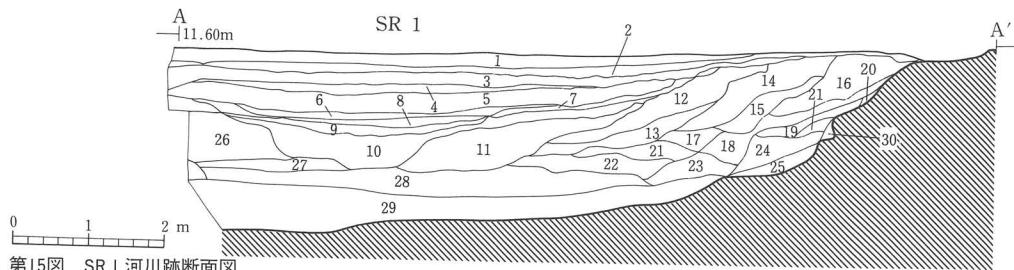
(注2) 編者の肉眼観察による。会津大戸窯の製品に似ているように思われる。



第13図 3層遺構配置図



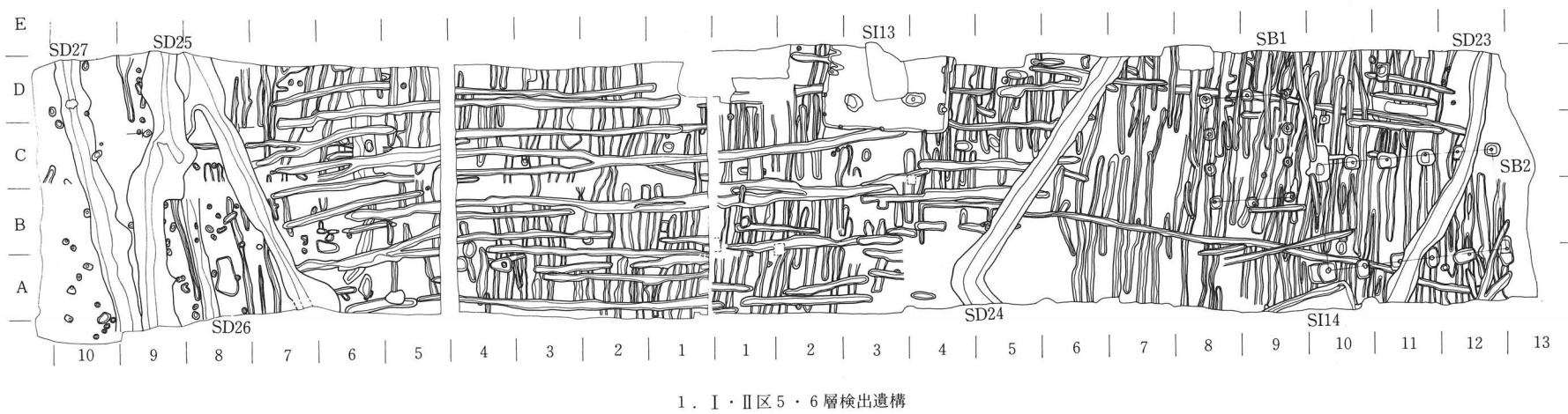
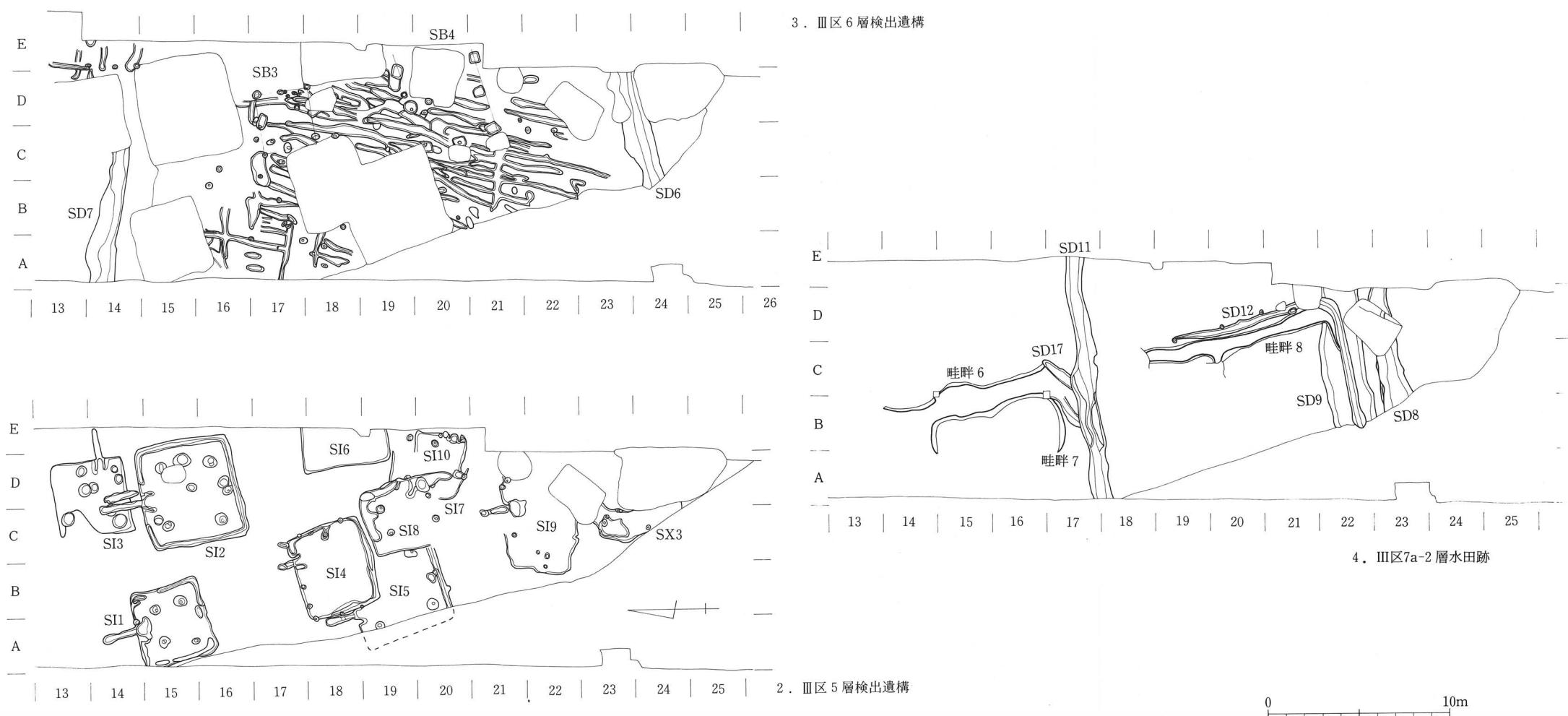
第14図 SD 4・5 溝跡



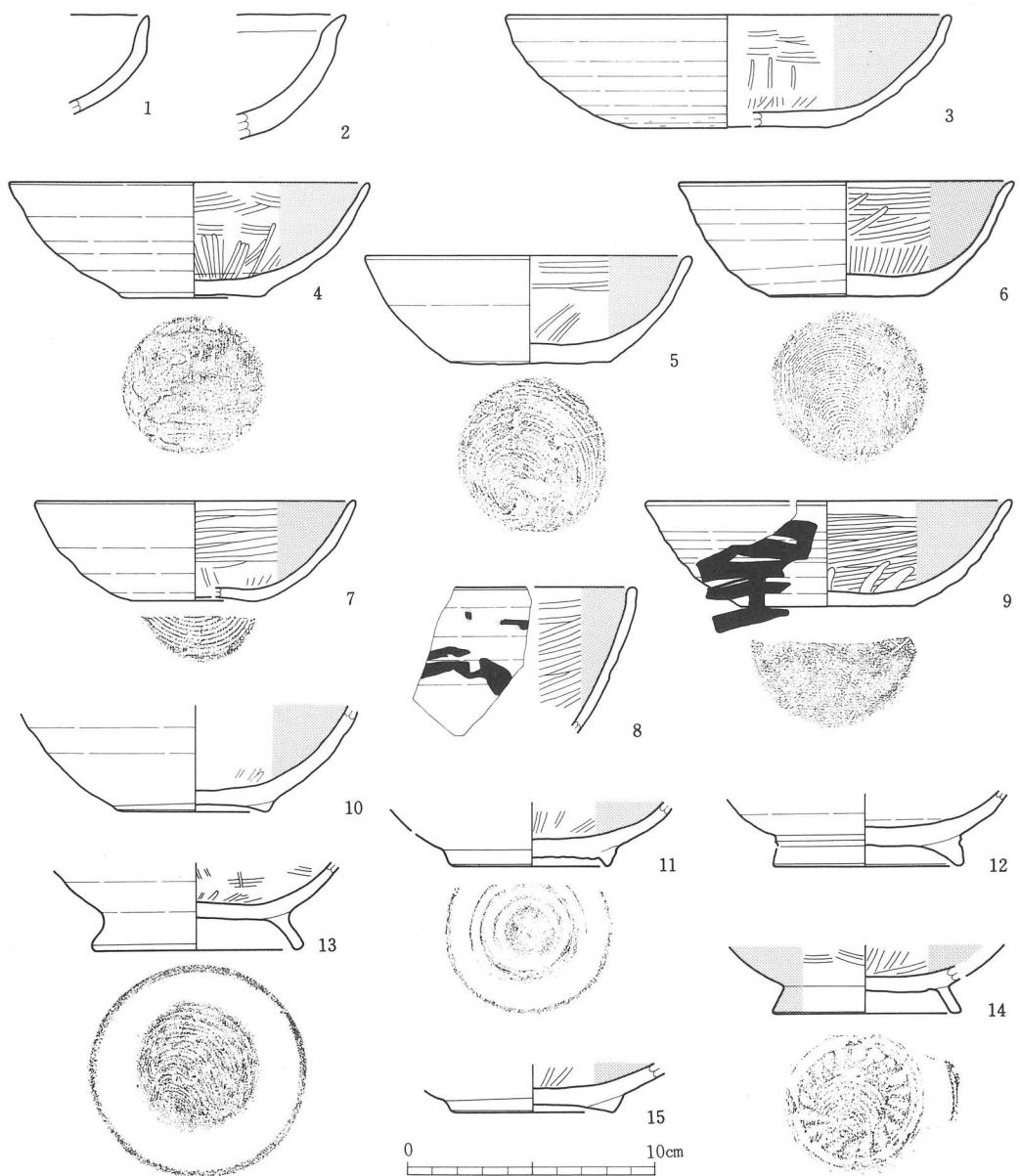
第15図 SR 1 河川跡断面図

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SR 1	1	灰黃褐色10YR4/2	シルト			16	灰黃褐色10YR5/2	砂質シルト	
	2	灰黃褐色10YR4/2	シルト			17	灰黃褐色10YR4/2	細砂	
	3	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	黄褐色土を塊状に含む		18	灰黃褐色10YR5/2	砂質シルト	
	4	暗灰黃2.5Y4/2	粘土			19	灰黃褐色10YR6/1	細砂	
	5	暗灰黃2.5Y4/2	粘土質シルト	炭と砂と互層		20	にぶい黄褐色10YR5/3	細砂	11~12層の塊を含む
	6	黒褐色2.5Y3/2	シルト	植物遺体、炭化物を含む		21	黄灰色2.5Y4/1	細砂	
	7	黄褐色2.5Y5/3	細砂			22	オリーブ黒色5Y3/1	細砂	灰白色の粗砂を含む
	8	黑色10YR2/1	シルト	植物遺体を多量に含む		23	暗オリーブ灰2.5GY4/1	シルト	
	9	黒褐色2.5Y3/1	粘土質シルト	植物遺体を多量に含む		24	灰黃褐色10YR5/2	細砂	
	10	オリーブ黒色5Y3/1	粘土質シルト	植物遺体と粗砂の塊状を含む		25			
	11	オリーブ黒色5Y3/2	細砂	植物遺体を含む		26	オリーブ黒色10Y3/1	微砂	
	12	黑色10YR2/1	シルト	炭・焼土遺物を含む		27	黒褐色2.5Y3/1	シルト	縄文~平安の遺物を含む
	13	黒褐色10YR3/1	微砂			28		砂利	
	14	灰黃褐色10YR5/2	細砂	焼土遺物を含む		29		砂利	
	15	にぶい黄褐色10YR4/3	細砂	焼土、炭遺物を含む		30			注記なし

第15図 SR 1 河川跡断面図

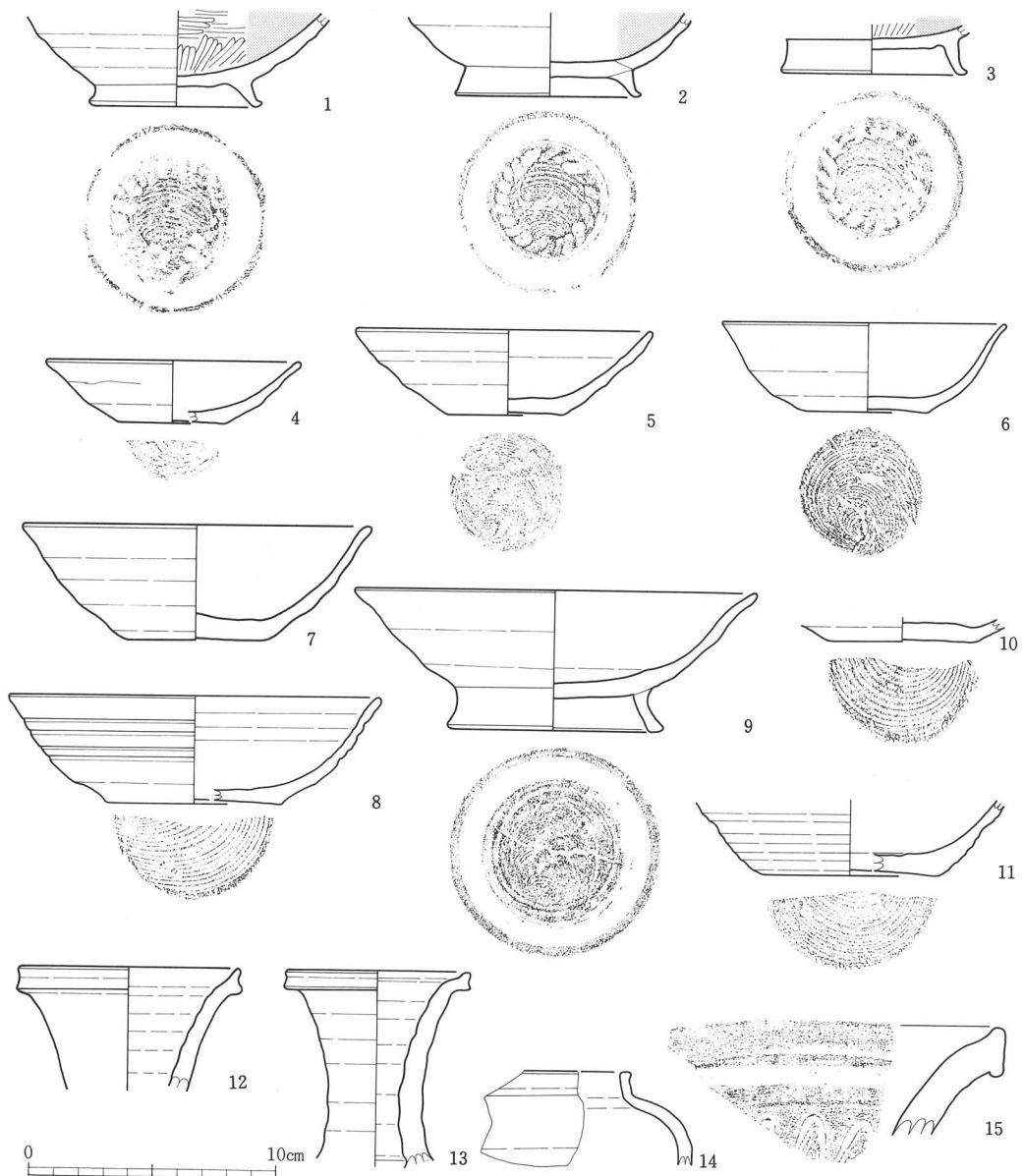


第16図 古墳時代以降遺構配置図



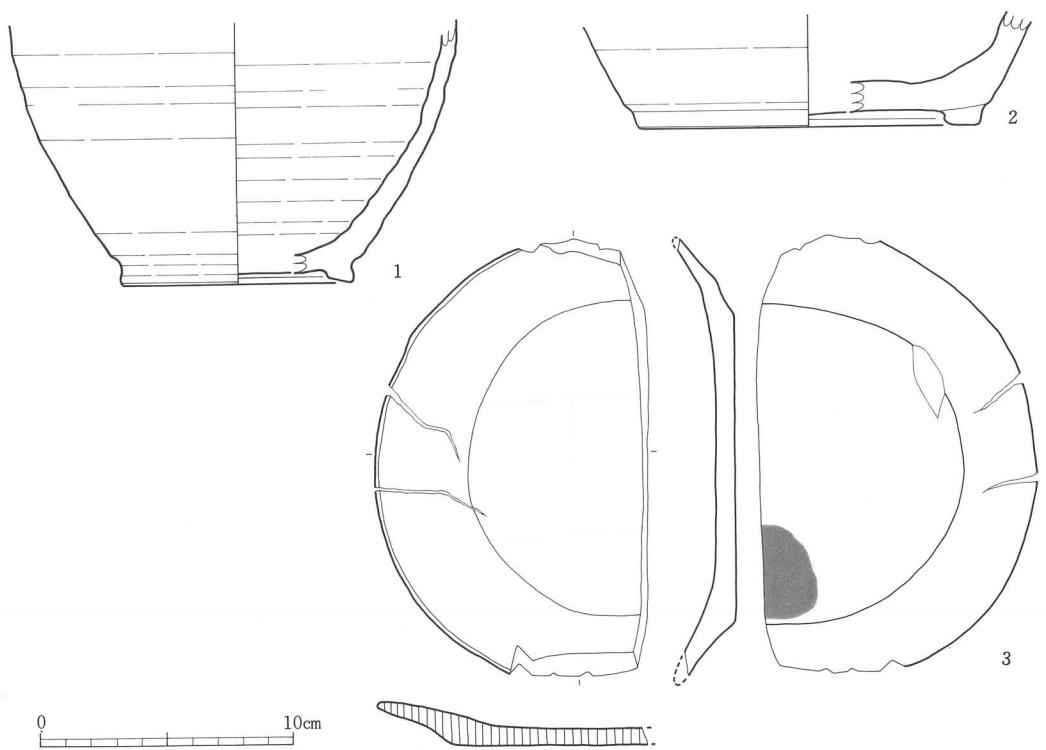
層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	砂利層 土師器坏					1/4>	(マツ)	C34
2	砂利層 土師器坏						(マツ)	C33
3	堆積土 土師器坏	18. 0	8. 0	14. 6	0. 44	1/4>	体下～底：回転ヘラケズリ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D66
4	堆積土 土師器坏	14. 8	5. 8	4. 7	0. 39	1/3	底：手持ちヘラケズリ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D61
5	堆積土 土師器坏	13. 0	6. 4	4. 4	0. 49	1/3	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D62
6	砂利層 土師器坏	13. 3	6. 1	4. 7	0. 46	1/4	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D46
7	3層 土師器坏	13. 0	5. 1	4. 1	0. 39	1/4	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D41
8	堆積土 土師器坏						内：ヘラミガキ、黒色処理 墨書あり	D60
9	堆積土 土師器坏	14. 6	7. 0	4. 3	0. 48	1/8	底：回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内：ヘラミガキ、黒色処理 墨書「得」?	D60
10	堆積土 土師器高台坏		6. 0			(1)	底：回転糸切り→高台貼付→ナデ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D84
11	堆積土 土師器高台坏		6. 5			(4/5)	底：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D87
12	堆積土 赤焼土器高台坏	7. 4				(3/4)	底：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D95
13	堆積土 土師器高台坏	8. 4				(1)	底：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D44
14	堆積土 土師器高台坏	7. 3				(1)	底：回転糸切り→高台貼付→オサエ、ロクロナデ 内外：ヘラミガキ、黒色処理	D88
15	堆積土 土師器高台坏	6. 4				(1)	底：回転糸切り→高台貼付 内：ヘラミガキ、黒色処理	D90

第17図 SR 1 出土遺物 (1)



	層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	堆積土	土師器高台坏	7. 0			(1)		底:回転糸切り→高台貼付→オサエ、ロクロナデ 内:ヘラミガキ、黒色処理	D85
2	堆積土	土師器高台坏	7. 3			(1)		底:回転糸切り→高台貼付→オサエ、ロクロナデ 内:ヘラミガキ、黒色処理	D86
3	堆積土	土師器高台坏	7. 4			(1)		底:回転糸切り→高台貼付→オサエ、ロクロナデ 内:ヘラミガキ、黒色処理	D91
4	砂利層	赤焼土器坏	10. 3	4. 2	2. 5	0. 41	1/4	底:回転糸切り 輪積み痕あり	D51
5	堆積土	赤焼土器坏	12. 1	4. 7	3. 5	0. 39	1/3	底:回転糸切り	D78
6	堆積土	赤焼土器坏	11. 5	5. 0	3. 6	0. 43	1/2	底:回転糸切り 内面に油煙状付着物あり	D63
7	堆積土	赤焼土器坏	14. 1	5. 6	4. 7	0. 40	1/6	底:回転糸切り	D64
8	堆積土	赤焼土器坏	15. 0	7. 0	4. 4	0. 47	1/8	底:回転糸切り 内面に油煙状付着物あり	D65
9	堆積土	赤焼土器高台坏	16. 3	8. 7	5. 7		1/5	底:回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ	D94
10	砂利層	須恵器坏		5. 8			(1/2)	底:回転糸切り	E31
11	堆積土	須恵器坏		7. 0			(1/2)	底:回転糸切り	E38
12	堆積土	須恵器長頸瓶	9. 0				1/4		E35
13	堆積土	須恵器長頸瓶	7. 4				1/4	猿投窓製品	E44
14	砂利層	須恵器短頸壺					1/4		E34
15	堆積土	須恵器甕						波状沈線文	E36

第18図 SR 1 出土遺物 (2)



第19図 SR 1 出土遺物（3）

2) 5・6層検出遺構と遺物

①堅穴住居跡

SI 1 住居跡（第20図）

[位置・確認面] III区 A・B-15 グリッドを中心に 5 層上面で確認した。

[重複] 無かった。

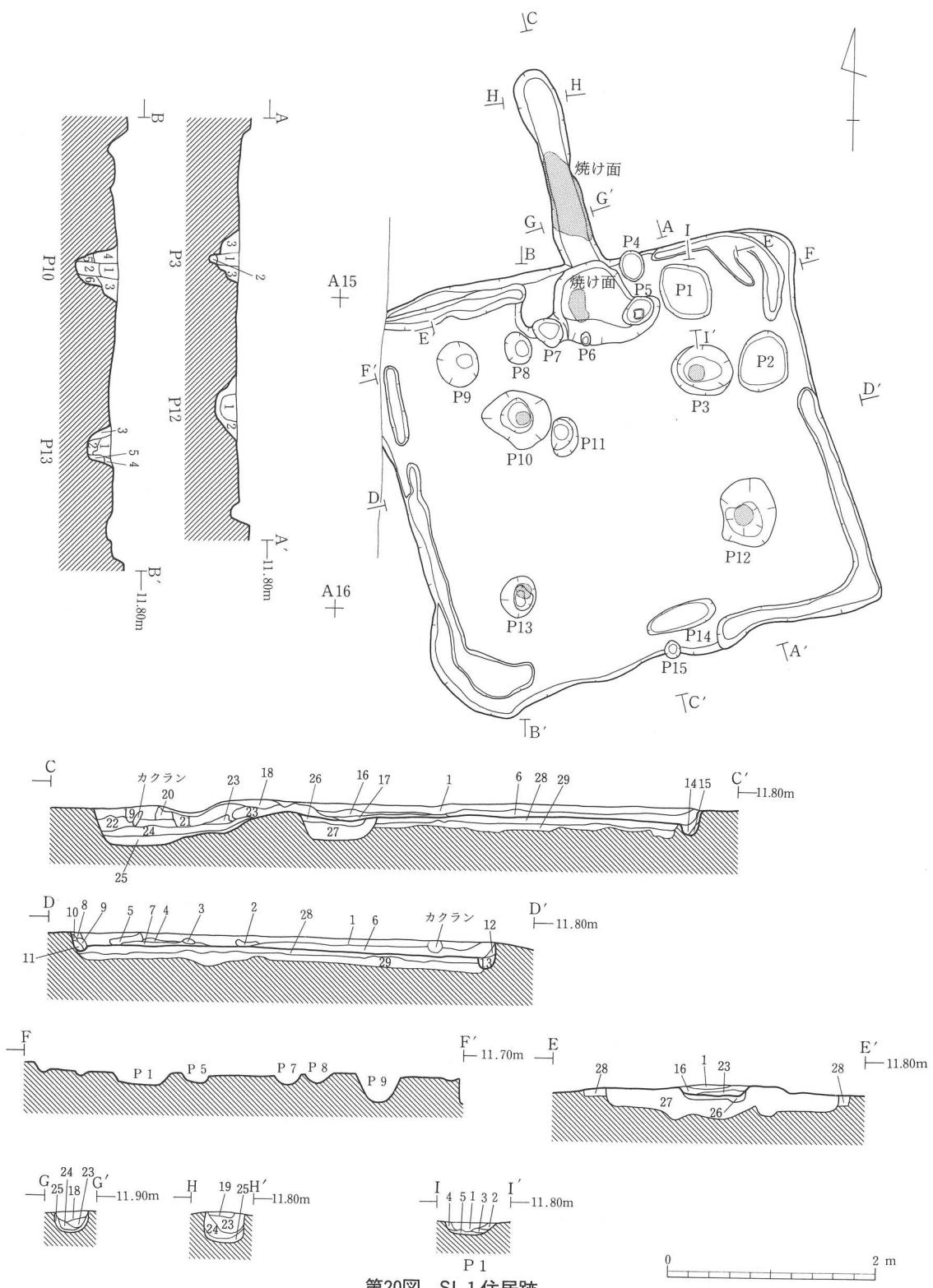
[平面形・規模] やや隅丸の正方形を呈し、一辺は 3.8~4.3m で、南西隅が多少張り出している。

[堆積土] 29 層に分層される。1~17 層は住居内堆積土、18~25 層は煙道内堆積土でいずれも自然堆積層である。26・27 層はカマド掘り方堆土、28・29 層は住居掘り方埋土で人為堆積層である。

[床面] 28 層を床面としている。ほぼ平坦であるが、中央が僅かに高まっている。

[壁] 北西隅が失われているが、残存は良好な箇所で 30cm でほぼ直立する。

[柱穴] 住居内に 15 個のピットを確認した。P 3・10・12・13 は柱痕跡がみられ、配置状況からも主柱穴と考えられる。規模は P 3・10・12 が掘り方径 50~65cm と大きいのに対して、P 13 は



第20図 SI 1 住居跡

層位	土 色	土 性	備 考	層位	土 色	土 性	備 考
1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	灰色シルト質土、酸化鉄を含む	26	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	マンガン斑、酸化鐵を少量含む（カマド掘り方理土）
2	暗褐色10YR3/3	砂質粘土		27	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	マンガン斑を含む（〃）
3	にぶい黄褐色10YR5/3	砂質粘土	焼土、炭化物を少量含む	28	暗褐色10YR3/4	砂質シルト	地山土、灰色シルト質土を含む（住居掘り方理土）
4	黒褐色10YR3/2	砂質土	炭化物を含む	29	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	灰色シルト質土を含む（〃）
5	にぶい黄褐色10YR5/3	砂質粘土	炭化物を少量含む	P1 1	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	小礫、焼土、炭化物を含む
6	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土		2	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	焼土粒を含む
7	褐色10YR4/4	砂質シルト	酸化鉄を含む	3	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	灰色粘質土を含む
8	黒褐色2.5Y3/2	砂質粘土	酸化鉄を若干含む	4	黒褐色10YR2/3	砂質シルト	
9	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質粘土	酸化鉄を少量含む	5	黒褐色10YR3/2	砂質シルト	地山土を小ブロック状に含む
10	暗褐色10YR3/3	砂質粘土	酸化鉄を多量含む	P3 1	褐灰色10YR4/1	砂質シルト	（柱痕跡）
11	灰黄褐色10YR4/2	砂質粘土	酸化鉄を少量含む	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	灰色粘質土を少量含む（〃）
12	灰黄褐色10YR4/2	砂質粘土		3	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	灰白色火成灰を少量、炭化物、酸化鐵を含む
13	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土		P10 1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	（柱痕跡）
14	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	灰色シルト質土を少量含む	2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	（〃）
15	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	地山土を少量含む（P15堆積土）	3	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	炭化物、酸化鉄を含む
16	褐灰色10YR4/1	シルト質粘土	焼土粒を多量含む	4	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物、酸化鉄を含む
17	黒褐色10YR3/1	砂質シルト	焼土粒、炭化物を含む	5	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	褐灰色粘質土(10YR4/1)を含む
18	オリーブ褐色2.5Y4/3	シルト	灰色シルト質土、酸化鉄を含む（煙道部堆積土）	6	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト	
19	黒褐色10YR3/2	砂質粘土	マンガン斑を含む（〃）	P12 1	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	マンガン斑を多量含む（柱痕跡）
20	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	酸化鉄を含む（〃）	2	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	（柱痕跡）
21	暗灰褐色2.5Y4/2	砂質シルト	炭化物を少、酸化鉄を含む（〃）	P13 1	黑褐色10YR3/2	砂質シルト	
22	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	（〃）	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	（〃）
23	黒色7.5YR2/1	砂質シルト	焼土粒を少量含む（〃）	3	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	褐灰色粘質土(10YR4/1)を含む
24	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	（〃）	4	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	酸化鉄を含む
25	黒褐色5YR3/1	砂質シルト	地山土、焼土を含む（〃）	5	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	

35~40cmとやや小さい。またP5~8は小規模でカマドに隣接している。

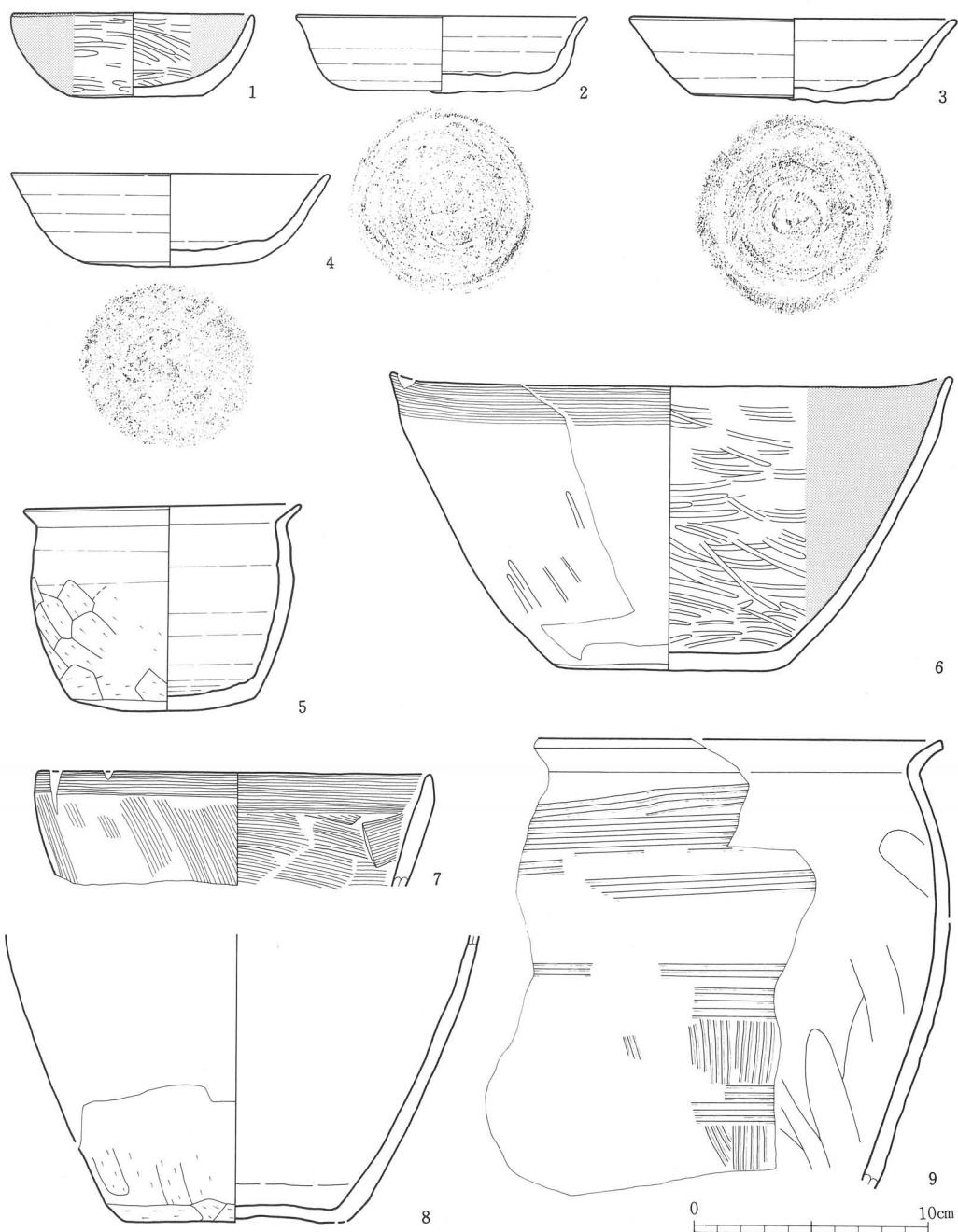
[周溝] 断続的に全周している。幅は10~35cmと場所により異なり、断面形はU字形で、深さは10cm程度である。北東隅では二重に巡る箇所もみられる。

[カマド] 北壁中央に付設されている。袖部は左側のみの残存で、燃焼部は僅かに窪み、一部に小さな焼け面がみられる。構築にあたっては壁際に幅2.2m、奥行70cm程の掘り方を設け、26・27層で整地した後に本体を構築しているものとみられる。煙道は天井が無く、長さ約2m、幅25~40cm、深さは北壁際では10cmと浅いが、底面は緩かに下り、先端は35cm程となる。中ほどの壁と底面が焼けている。

[その他] P1はカマドの右側に位置し、形態から貯蔵穴と考えられる。平面形は不整橿円形で、長軸60cm、短軸50cm、深さは10cmと浅く、壁は緩かである。住居掘り方底面には東西壁の南半部及び南壁際に溝状の落込みプランがみられる。

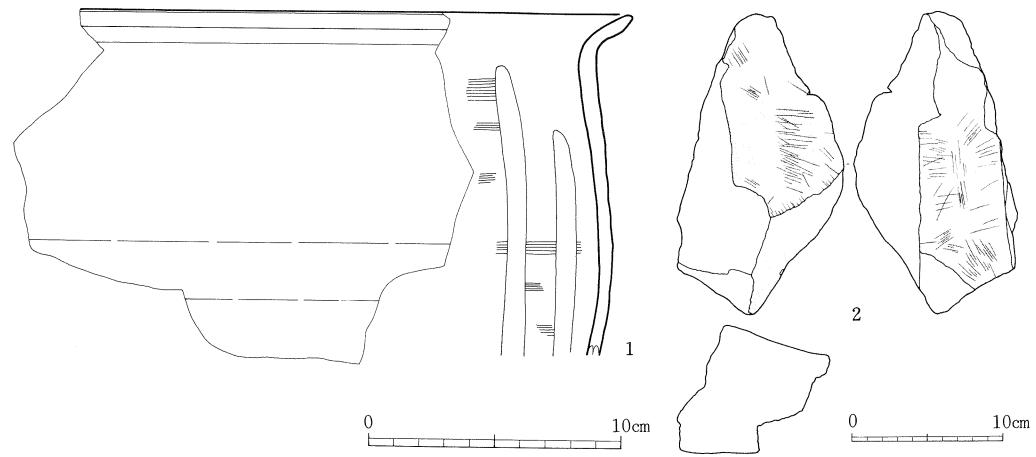
[出土遺物] 堆積土出土遺物 非ロクロ土師壺（内黒）（第21図1）・鉢（6）・甕（7）、ロクロ土師器壺・甕（5・第22図1）、須恵器壺（2~4）・甕が出土している。特に、カマド内とカマド左脇から多くの遺物が出土している（2~6・第22図1）。1は住居の中央付近から出土した平底の壺で、内外面ヘラミガキ、黒色処理される。2・3の壺はカマド袖上の堆積土、4はカマドの堆積土中の出土である。2は口縁部が外半し、2・3は体部が外傾する。いずれも底部は回転ヘラ切りである。6は平底の鉢である。7の甕はSI2住居跡出土片と接合している。

カマド煙道出土遺物 8はカマド煙道底面出土の甕である。ヘラケズリが施される。ピット出土遺物 9はピット10出土の甕である。外面に回転ハケメが施される。



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	堆積土 土師器坏	10. 2	5. 8	3. 6	0. 59	1	外：ヘラケズリ→ヘラミガキ、黒色処理 内：ヘラミガキ、黒色処理	C10
2	カマド袖上 須恵器坏	12. 4	7. 5	3. 3	0. 60	1	底：回転ヘラ切り 内外：ロクロナデ	E14
3	カマド袖上 須恵器坏	14. 0	8. 6	3. 6	0. 61	1/3	底：回転ヘラ切り 内外：ロクロナデ	E15
4	カマド堆積土 須恵器坏	13. 6	7. 5	4. 0	0. 55	2/3	底：回転ヘラ切り 内外：ロクロナデ	E13
5	堆積土 土師器甕	11. 8	7. 8	8. 8		2/3	外：ロクロナデ、ヘラケズリ 内：ロクロナデ 底：ヘラケズリ→ナデ	D8
6	堆積土 土師器鉢	23. 8	10. 0	12. 6	0. 42	1/4	口外：ヨコナデ 体外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ、黒色処理 2住01と接合	C14
7	堆積土 土師器甕	16. 7				1/4	口内外：ヨコナデ 体外：ナデ 体内：ヘラナデ 2住と接合	C11
8	煙道底面 土師器甕		9. 6			(1/2)	外：ヘラケズリ 内：ナデ	D10
9	P 8 ℥ 1 土師器甕					1/4>	外：ロクロナデ、ハケメ、回転ハケメ 内：ナデ	D12

第21図 SI 1 出土遺物 (1)



第22図 SI 1 出土遺物（2）

[小結] カマド周辺出土の遺物（第21図2～6・第22図1）は床面に程近い高さにあり、集中していることから、ほぼ住居の時期を示しているものと考えられる。その特徴から、8世紀末から9世紀初頭頃の住居跡と考えられる。

SI 2 住居跡（第23図）

[位置・確認面] III区C・D-16 グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] 煙道部分がSI 3を切っていることから、SI 3より新しい。

[平面形・規模] 隅丸のやや東西に長い方形を呈し、東西軸長5.7m、南北軸長5.2mである。

[堆積土] 23層に分層される。1～7層は住居内堆積土、8～15層は煙道内堆積土でいずれも自然堆積層である。16層はカマド構築土、17～19層はカマド掘り方埋土、20・21層は住居掘り方埋土、22・23層は旧カマド掘り方埋土で人為堆積層である。住居内堆積土の大部分を占めるのは1・2層である。5～7層はカマド周辺にのみみられ、焼土、炭化物が多量含まれるほか、カマド崩落土も含まれる。また煙道内堆積土も自然流入のみならず、天井崩落土も多く含まれている。

[床面] 主として20・21層を床面としているが、一部地山層も床面としている。床面は平坦であるが、北及び東側に向かい僅かに傾斜している。

[壁] 南西隅が失われているが、残存は良好な箇所で25cmで、急角度で立ち上がるが東壁の一部では緩かな傾斜となっている。

[柱穴] 住居内に9個のピットを確認した。P 2・3・4は柱痕跡がみられ、柱痕跡はみられない

かったがP1を加えた4つが主柱穴と考えられる。またP6についても小規模ではあるが柱痕跡が確認されたことから柱穴と考えられる。P1～4は掘り方径が55～70cm円形で、深さは40～55cmと深いものである。

[周溝] 北壁際のカマド周辺を除き全周してみられる。幅は25～40cmで、南・西壁際では深さ10cmで、壁が急に立ち上がる断面U字形を呈するが、東壁際では浅く、緩かな立上りとなる。

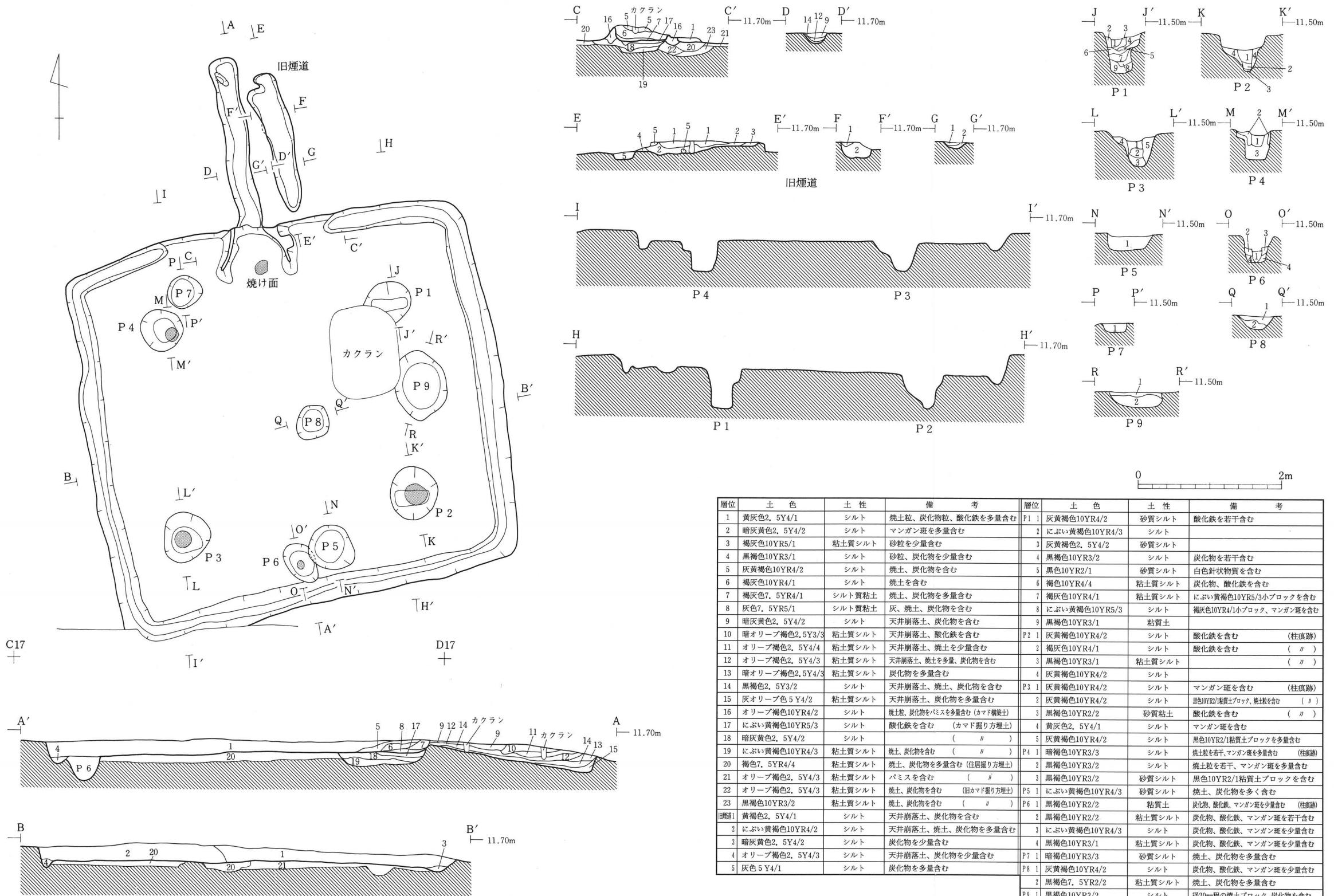
[カマド] 北壁中央に付設されている。両袖部とも残存し、規模は幅1.1m、奥行70cmで、燃焼部底面は住居床面から変化なく続き平坦で、中央に小さな焼け面がみられる。構築にあたっては壁際に幅1m、奥行1.2m程の掘り方を設け、17～19層で整地した後に本体を構築している。煙道は天井が無く、長さ2.4m、幅30cm前後、深さは北壁際で6cm程と極端に浅いが、底面が緩かに北側に傾斜し、煙道中頃から先端にかけては25cm前後で一定している。煙道内に焼け面はみられない。

またカマド掘り方の東側下部に土坑状プランと煙道東側に同方向の溝状プランが確認された。これらは古いカマドの掘り方とその煙道とみられる。旧カマド掘り方上には20層と同様の土層がみられることから、新しいカマドは古いカマドの取壊した後に一部整地を行ってから再構築したものと考えられる。

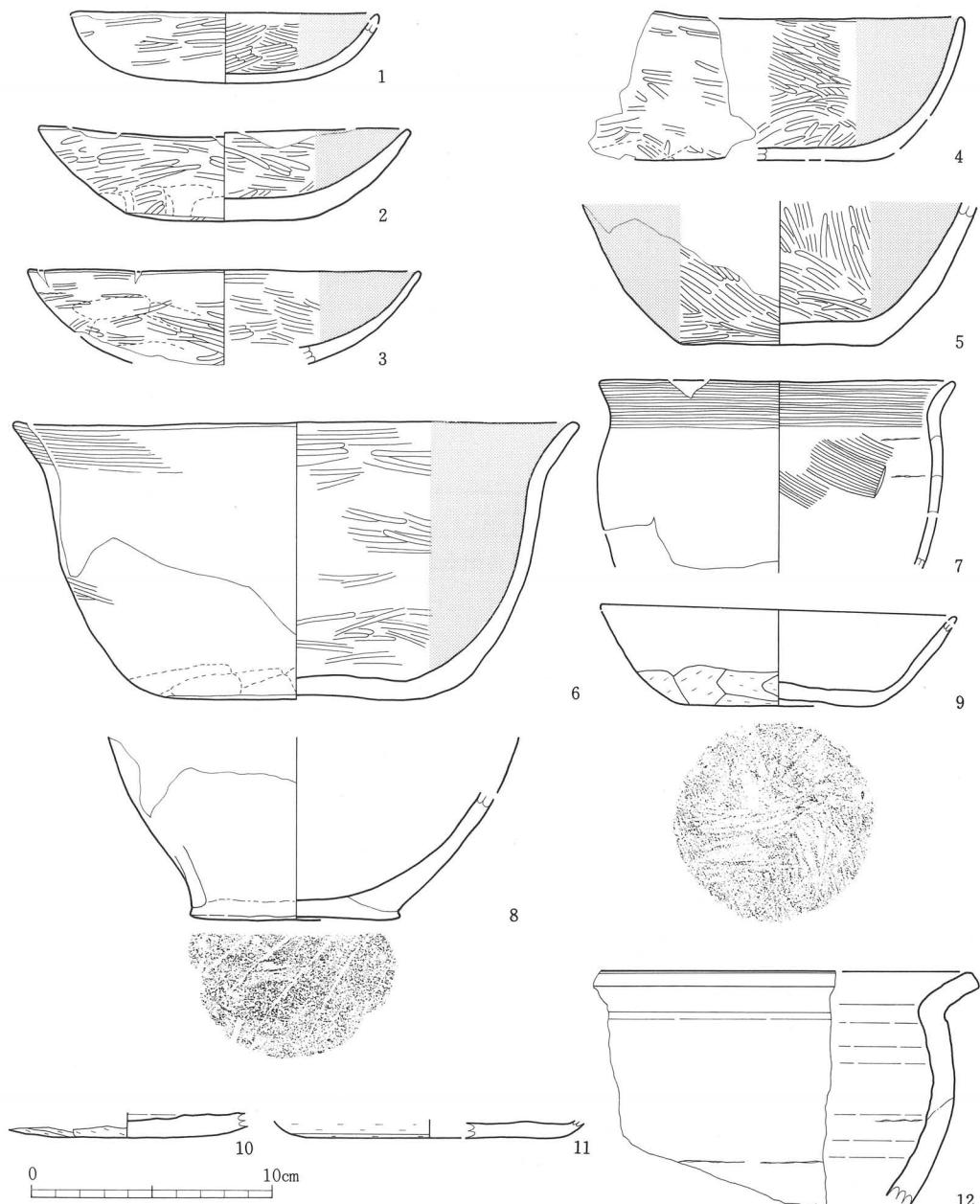
[その他] P9は橢円形で長軸長1m、短軸長70cm、深さ20cmの土坑状のもので、その形態から貯蔵穴は可能性が考えられる。

[出土遺物] **堆積出土遺物** 非ロクロ土師器坏（第24図2）・甕、ロクロ土師器坏・高台坏・甕、赤焼土器坏・高台坏、須恵器坏（10）・甕が出土している。2は内外面ヘラミガキの坏で、平底である。**床面出土遺物** 非ロクロ土師器坏（第24図1・3～6）・甕（7・8）、須恵器坏（9・11）・甕（第25図1）が出土している。1は周溝堆積土から出土した坏である。平底に近い。内面のミガキは丁寧である。5・6は大型の坏である。6は口縁部が外反する。7はカマド燃焼部から、8はカマド東袖に貼り付いて出土した。須恵器坏は、底部切り離し後に9は手持ちヘラケズリ、11は回転ヘラケズリが施される。9は体部が外傾するもので、底部にヘラミガキ状の痕跡がある。**ピット出土遺物** ピット2・3・5・6・7・9から非ロクロ土師器坏・甕が出土しているが、小破片である。**掘り方出土遺物** 須恵器甕（第24図12）が出土している。12は厚手の甕で、口縁部が短く外傾している。

[小結] 床面出土土器の特徴から奈良時代国分寺下層式期終末頃の住居跡と考えられる。

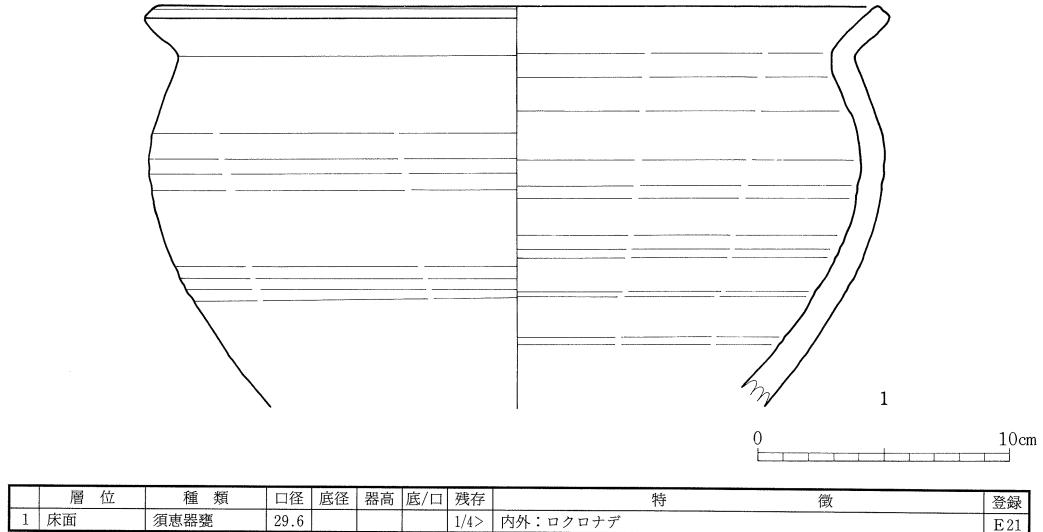


第23図 SI 2 住居跡



	層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	周溝	土師器环	12.8		3.0	1/2		外: ヘラケズリ→ヘラミガキ	C15
2	1層	土師器环	15.4	8.0	3.9	1		外・底: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、黒色処理	C12
3	床面	土師器环	16.3			1/4		口外: ヨコナデ→ヘラミガキ 体外: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ黒色処理	C21
4	床面	土師器环				1/4>		口外: ヨコナデ→ヘラミガキ 体外: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、黒色処理	C16
5	P21	土師器环			8.4	(1/2)		内外底: ヘラミガキ、黒色処理	C19
6	床面	土師器鉢	23.4	10.5	11.5	(1/3)		口外: ヨコナデ 体外: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、 黒色処理 底: ヘラケズリ?	C20
7	カマド内	土師器甕	14.6			3/4		口内外: ヨコナデ 体内: ヘラナデ	C18
8	カマド袖上	土師器甕		8.7		(1/2)	外: ナデ 底: 木葉痕	C22	
9	床面	須恵器环	14.8	8.4	4.2	0.57	3/4	底~体下: 手持ちヘラケズリ 内外: ロクロナデ	E18
10	1層	須恵器环			9.0	(1/2)	底: 手持ちヘラケズリ	E16	
11	床面	須恵器环			11.2	(1/4)	底: 回転ヘラケズリ	E17	
12	掘り方	須恵器甕				1/4>	内外: ロクロナデ	E22	

第24図 SI 2 出土遺物(1)



第25図 SI 2 出土遺物（2）

SI 3 住居跡（第26図）

[位置・確認面] III区 B・C-12・13 グリッドの5層上面で確認した。

[重複] SI 2 の煙道部に切られ、また北西部が SD 1 に大きく切られていることから、SI 3 は SI 2 、SD 1 より古い。

[平面形・規模] 隅はわりと角をもつ正方形を呈する。北・西壁が失われているため定かではないが、一辺は 4~4.2m である。

[堆積土] 21層に分層される。1~10層は住居内堆積土、11~15層は煙道内堆積土でいずれも自然堆積層である。16層カマド構築土、17~19層はカマド掘り方埋土、20・21層は住居掘り方埋土で人為堆積層である。カマド底面上に堆積する9層は焼土・炭化物を多量に含んでいる。

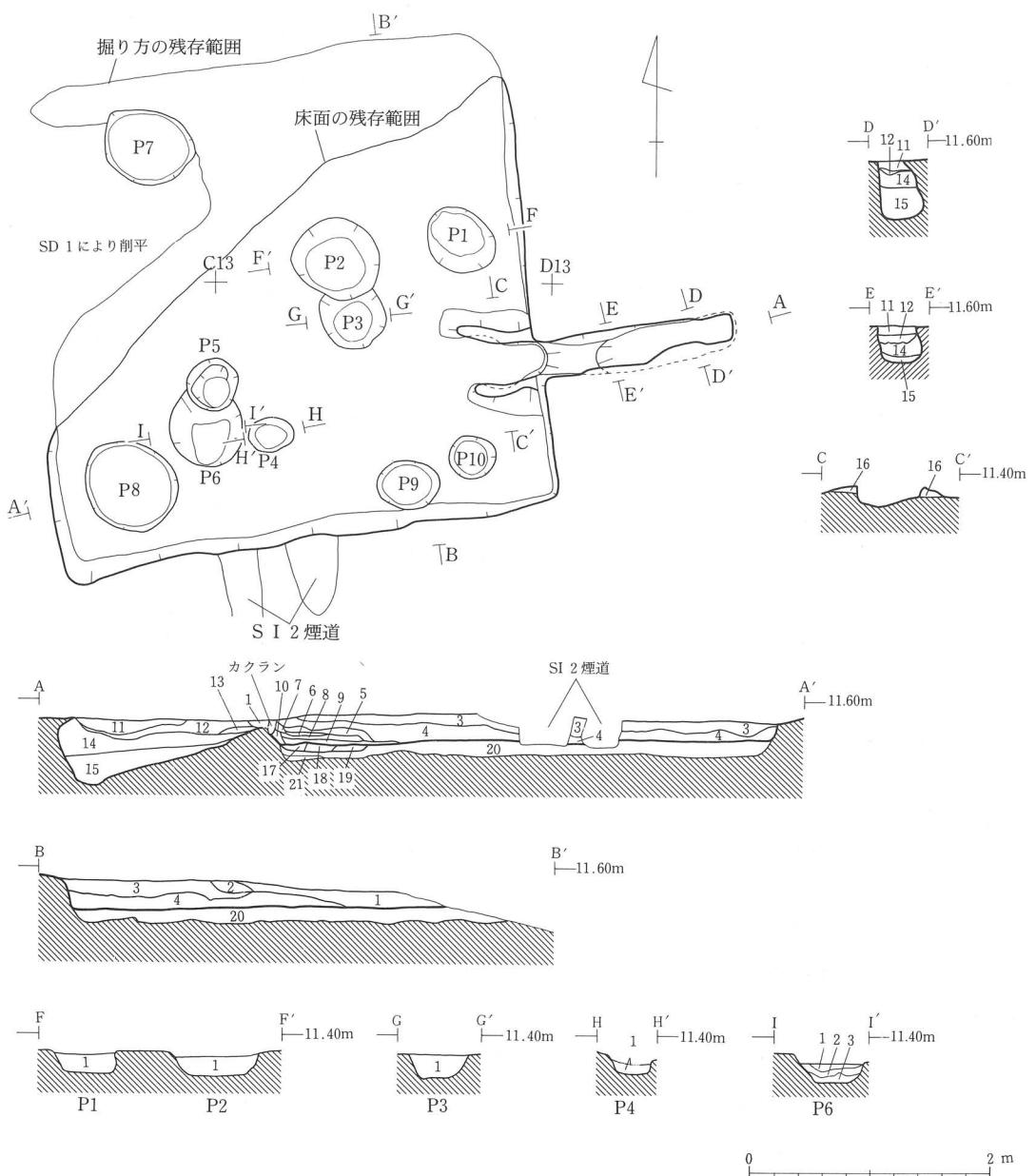
[床面] 20層を床面としている。ほぼ平坦であるが、中央が僅かに高まっている。

[壁] SD 1 による削平のための北壁全体と西壁の大部分が失われている。残存部分での壁の高まりは 15~25cm で、急な立上りをみせる。

[柱穴] 住居内に10個のピットを確認した。P 2・6・7・8 は径 60~70cm と大きいが、他のものも含め深さは全て 20cm 内と浅く、柱痕跡のあるものはみられなかった。P 7 については残存は悪いが位置的に主柱穴の一つである可能性が強い。その他については判然としない。

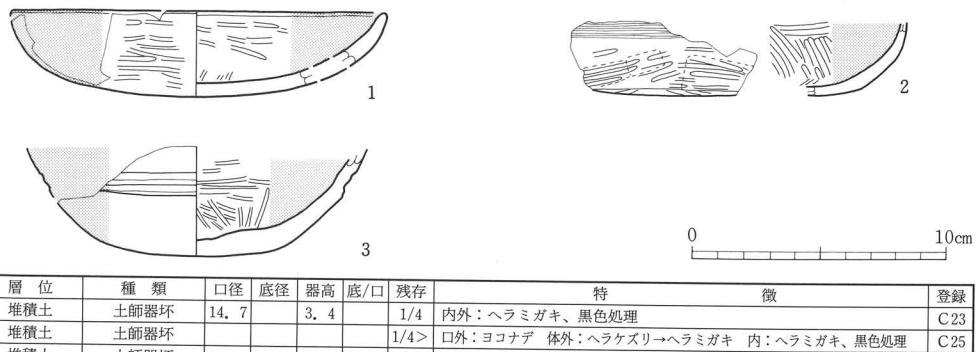
[周溝] 確認されなかった。

[カマド] 東壁の南より付設されている。両袖部とも残存し、規模は幅 80cm、奥行 80cm で、燃焼部底面は住居床面からやや窪んでいる。燃焼部底面に焼け面はみられなかったが、カマド外の床面上に焼土・炭化物ブロックの分布する範囲がみられた。構築にあたっては壁際に浅めの掘り方を設け、17~19層で整地した後に本体を構築しているものとみられる。煙道は天井が無



層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土		15	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	焼土を少量、炭化物を含む
2	暗褐色10YR3/4	砂質シルト		16	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	焼土粒を含む (カマド構築土)
3	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	酸化鉄を少量含む	17	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	焼土、炭化物を多量含む (カマド掘り方理土)
4	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	焼土、酸化鉄を多量含む	18	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	焼土を少量、上面に炭化物を多量含む ()
5	褐色7.5Y4/3	シルト	焼土ブロック、酸化鉄を含む	19	褐色10YR4/4	粘土質シルト	焼土、炭化物、酸化鉄を少量含む ()
6	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	焼土ブロックを含む	20	褐灰色10YR4/1	シルト	砂粒、酸化鉄を含む (住居掘り方理土)
7	黒褐色10YR3/2	シルト	焼土、酸化鉄を少量含む	21	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む ()
8	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	焼土粒を含む	P 1 1	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	焼土、酸化鉄を少量含む
9	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土、炭化物を多量含む	P 2 1	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	焼土、酸化鉄を少量含む
10	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	焼土、炭化物を少量含む	P 3 1	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	焼土ブロック、炭化物、酸化鉄を少量含む
11	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	酸化鉄を多量含む	P 4 1	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む
12	暗褐色10YR3/3	シルト	下面に炭化物、酸化鉄を少量含む	P 6 1	灰褐色10YR4/2	粘土質シルト	焼土を多量、炭化物を少量、酸化鉄を若干含む
13	褐色10YR4/4	砂質シルト	焼土、炭化物を多量含む	2	灰褐色10YR5/2	粘土質シルト	焼土、炭化物は多量、酸化鉄を少量含む
14	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	焼土ブロック、炭化物を含む	3	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む

第26図 SI 3 住居跡



第27図 SI 3 出土遺物

く、長さ1.6m、幅30cm前後、深さは東壁際では7cmと浅いが、底面は急な傾斜で、先端で55cmの深さとなる。壁面は南壁側でオーバーハング状に残存することから残存の良好な煙道といえる。焼け面はみられない。

[その他] P 1はカマドの左側に位置し、形態から貯蔵穴と考えられ、またP 2・3・8についても規模のわりには浅い土坑状のもので、同様の性格を有しているものと考えられる。

[出土遺物] 堆積土出土遺物 非クロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している(第27図)。

1は丸底の坏で、内外面黒色処理される。3は体外面に沈線が施されるが粗雑である。

[小結] 住居に伴う遺物がないものの、堆積土出土土器の特徴から、奈良時代国分寺下層式期の住居跡と考えられる。

SI 4 住居跡 (第29図)

[位置・確認面] III区B・C-18グリッド中心に5層上面で確認した。

[重複] SI 5を切っていることから、SI 5より新しい。

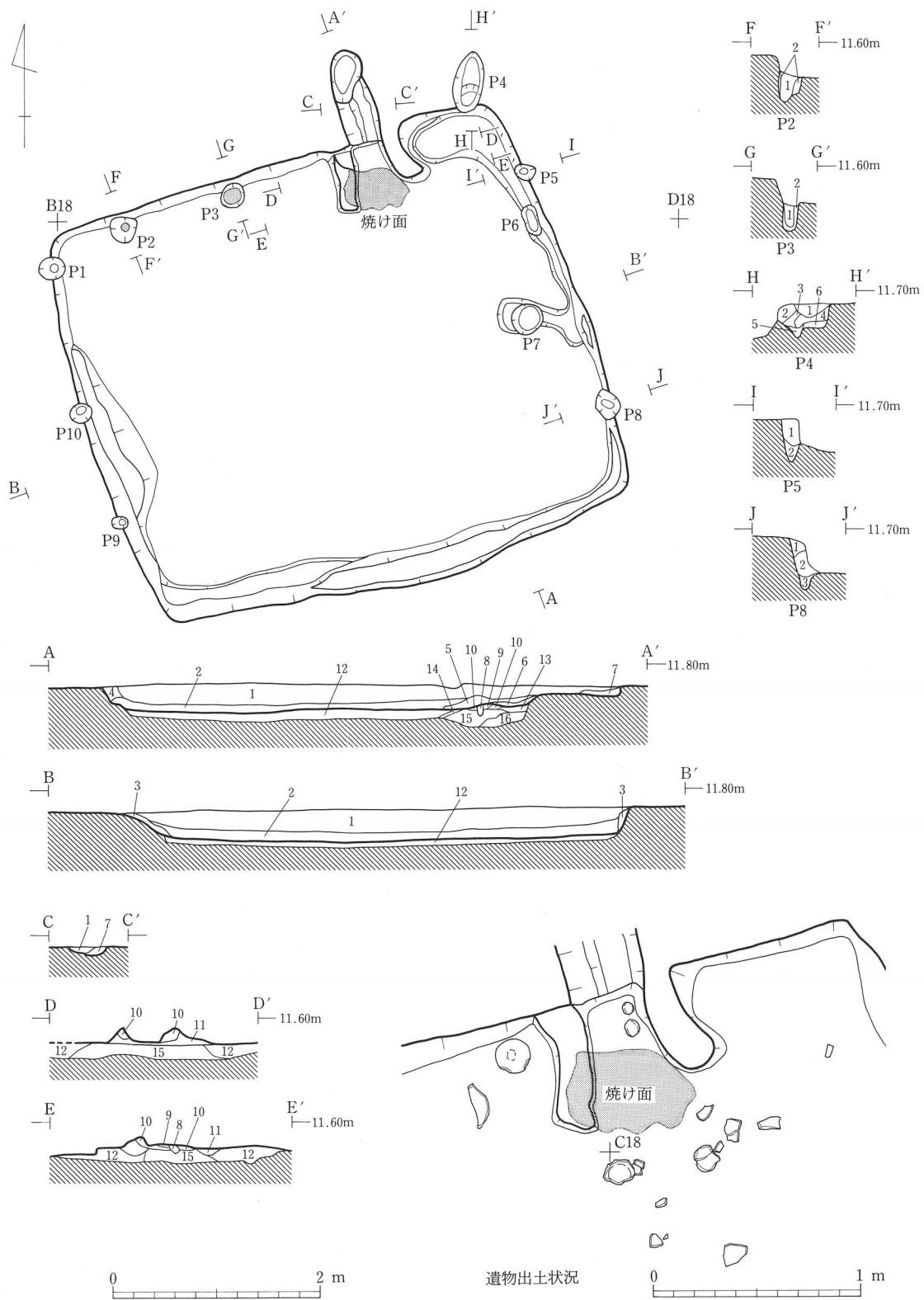
[平面形・規模] 隅丸のやや東西に長い長方形を呈する。東西軸長は4.6~4.9m、南北軸長は3.9~4.3mで、北壁を除く壁は中央でやや外側に張り出す形となっている。

[堆積土] 16層に分層される。1~6層は住居内堆積土、7層は煙道内堆積土でいずれも自然堆積層である。8層はカマド内支脚の掘り方埋土とみられるが、支脚自体は無かった。9~16層は住居掘り方埋土で人為堆積である。これらの中でも13~16層はカマド下部に整地されたものとみられる。

[床面] 12層を床面としている。ほぼ平坦であるが、中央が僅かに窪んでいる。

[壁] 全周して残存している。残存は良好な箇所で30cmで、北・東壁は急な立上りをみせるが、西・南壁は壁中位に段を形成しながら緩やかに立上っていく。

[柱穴] 住居内外に10個のピットを確認した。P 1・2・3・5・8・9・10は壁部分に位置し、



第28図 SI 4 住居跡

層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物を含む	P2 1	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土	黒色土を少量含む (柱痕跡)
2	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	焼土粒を少量、炭化物を含む	2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	黄褐色土ブロックを含む
3	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト		P3 1	黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	マンガン斑を少量含む (柱痕跡)
4	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	砂質土(細砂)を多量含む	2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	黄褐色土ブロックを含む
5	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	径1～2mmの焼土粒炭化物を含む	P4 1	褐色10YR4/4	粘土質シルト	
6	黒褐色7.5YR3/2	粘土質シルト	径3～5mmの焼土粒炭化物を含む	2	褐色10YR4/4	粘土質シルト	
7	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を含む	3	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土粒を少量、パミスを含む
8	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を少量含む (支脚掘り方?)	4	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	
9	褐色7.5YR4/6	粘土質シルト	赤変し固くしまる	5	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
10	明褐色7.5YR5/6	粘土質シルト	赤変し固くしまる	6	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
11	暗褐色10YR3/3	シルト	径10mm内の焼土ブロック、炭化物を含む	P5 1	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	
12	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	黒褐色土ブロックを含む (住居掘り方埋土)	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
13	褐色10YR4/4	粘土質シルト	(カマド基礎埋土)	P8 1	褐色10YR4/4	粘土質シルト	
14	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	炭化物を少量含む ()	2	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	焼土粒を少量含む
15	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	黒褐色土ブロックを多量、炭化物を少量含む ()	3	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	
16	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	黒褐色土ブロックを含む ()				

P2・3には柱痕跡がみられることから、これらは壁柱穴と考えられる。またP4についても橿円形ではあるが同様の位置にあることから、柱材の抜取りにあった壁柱穴の可能性を考えられる。壁柱穴は径が25cm内と小規模で、床面からの深さも30cm内とわりと浅く、掘り方先端部の幅は狭いものである。

[周溝] 東壁の北半部にみられるのみで、幅は10～40cmと一定せず、深さも5cm内と僅かなものであった。

[カマド] 北壁東よりに付設されている。両袖部とも残存し、規模は幅90cm、奥行60cmで、燃焼部底面は一部でやや盛り上がり、左側袖部側面にかけて焼け面がみられる。構築にあたっては住居全体の掘り方埋土である12層を整地する前に、カマド下部のみの整地を行い、その上に本体を構築しているものとみられる。煙道は天井が無く、SI 1～3に比べると長さ90cmと短く、幅は30～35cm、深さ10cm内と浅く一定している。煙道内に焼け面はみられなかった。

[出土遺物] 堆積土出土遺物 非ロクロ土師器坏 (第29図2)・甕、ロクロ土師器坏・甕、赤焼土器坏、須恵器坏 (3～5)・甕が出土している。2の土師器坏は粗いヘラミガキが施されている。3～5の須恵器坏は底部が回転ヘラ切りである。3は器高が高く、体部は直線的に外傾している。床面出土遺物 非ロクロ土師坏 (1)、甕、須恵器甕 (6) が出土している。1は平底の坏である。ピット出土遺物 ピット1・7から、非ロクロ土師器甕が出土しているが、小破片で図示できる資料はない。

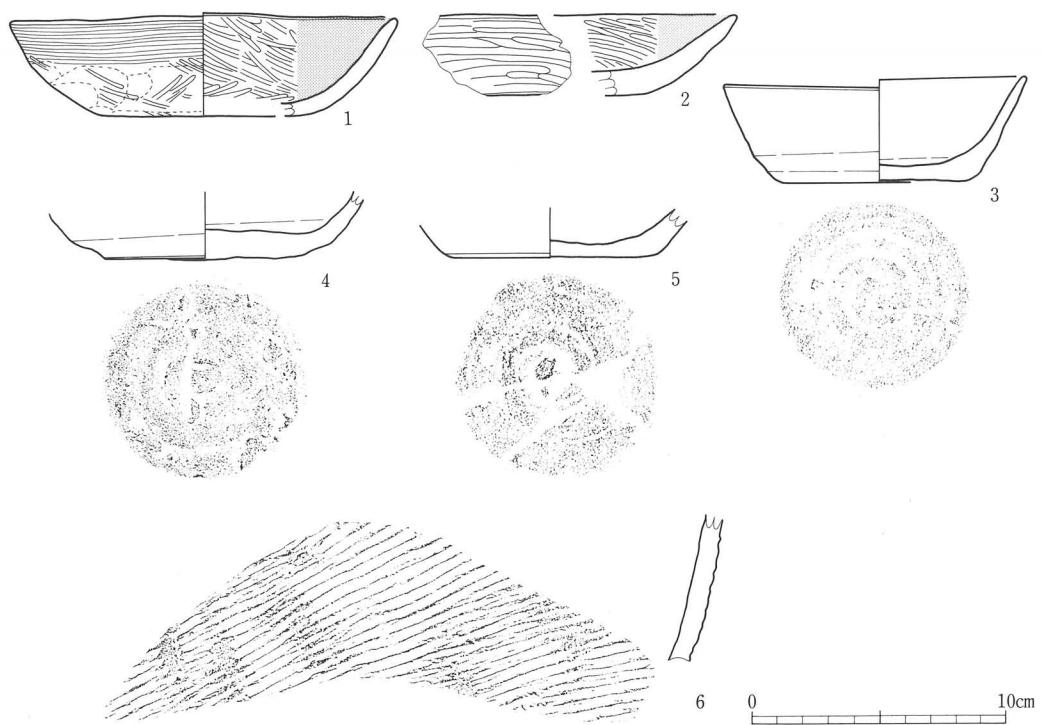
[小結] 床面出土土器の特徴から、奈良時代国分寺下層式期の住居跡と考えられる。

SI 5 住居跡 (第30・31図)

[位置・確認面] III区B-19グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] SI 4・8に切られていることから、SI 4・8より古い。

[平面形・規模] 一部隅丸の正方形を呈し、一辺は5.2m前後で、北壁はカマドを境に右側が張



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1 床面	土師器坏	15. 3	8. 2	4. 2		1	口外: ヨコナデ→ヘラミガキ 体外: ヘラケズリ→ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、黒色処理 底部破損	C28
2 堆積土	土師器坏					(1/4)>	外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、黒色処理	C27
3 2層	須恵器坏	12. 0	7. 5	4. 1	0. 63	1/2	底: 回転ヘラ切り 内外: ロクロナデ	E23
4 1層	須恵器坏		8. 1			(1)	底: 回転ヘラ切り	E25
5 1層	須恵器坏		8. 3			(1)	底: 回転ヘラ切り	E24
6 床面	須恵器甕						外: 平行タタキ 内: ナデ	E27

第29図 SI 4 出土遺物

り出している。

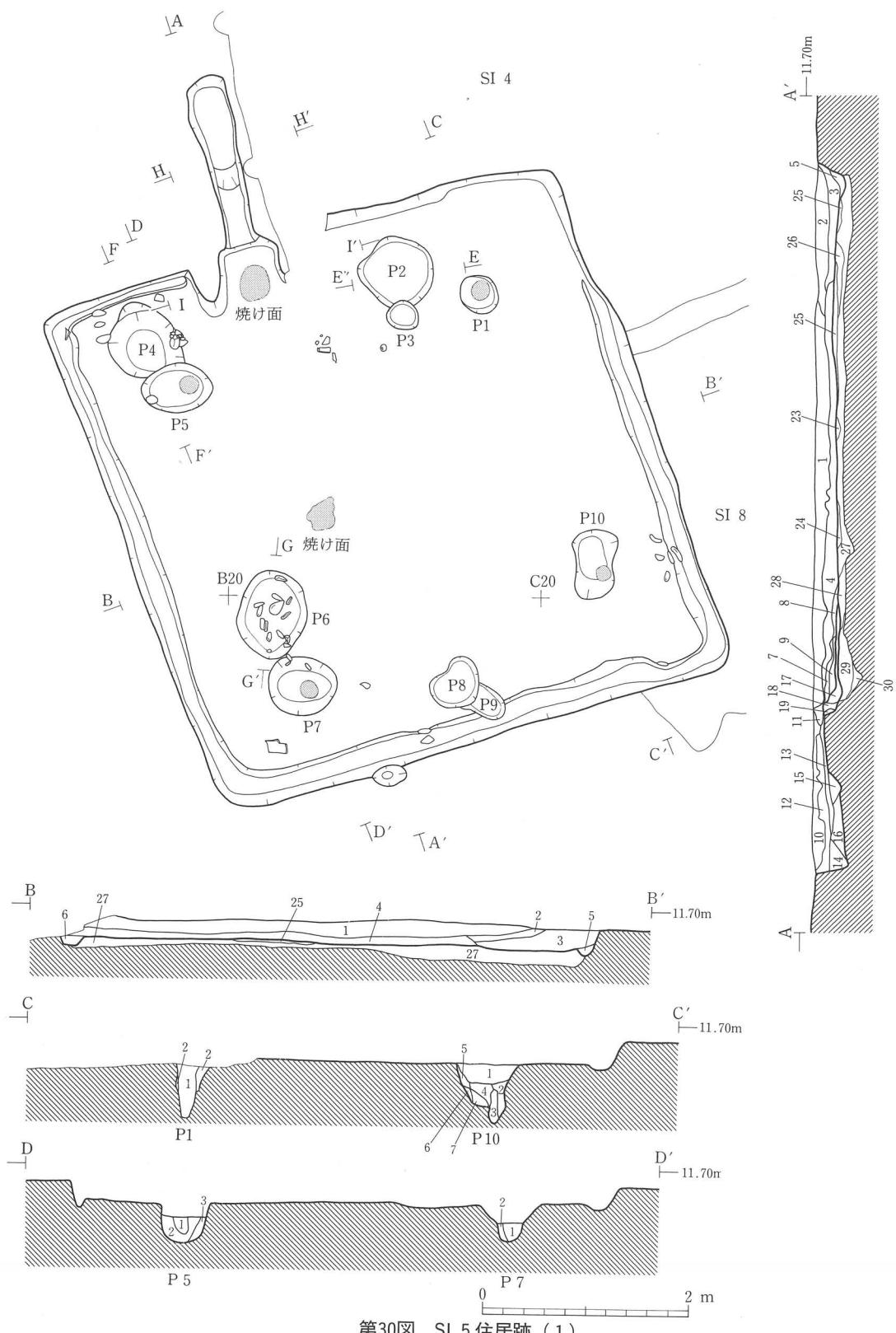
[堆積土] 30層に分層される。1～19層は住居内堆積土で、基本的に自然堆積層である。20～22層はカマド構築土とみられ、23～30層は住居掘り方埋土で人為堆積層である。

[床面] 23～28層を床面としているが、大部分を占めるのは27層である。平坦であるが、西側を除きやや窪んでいる。

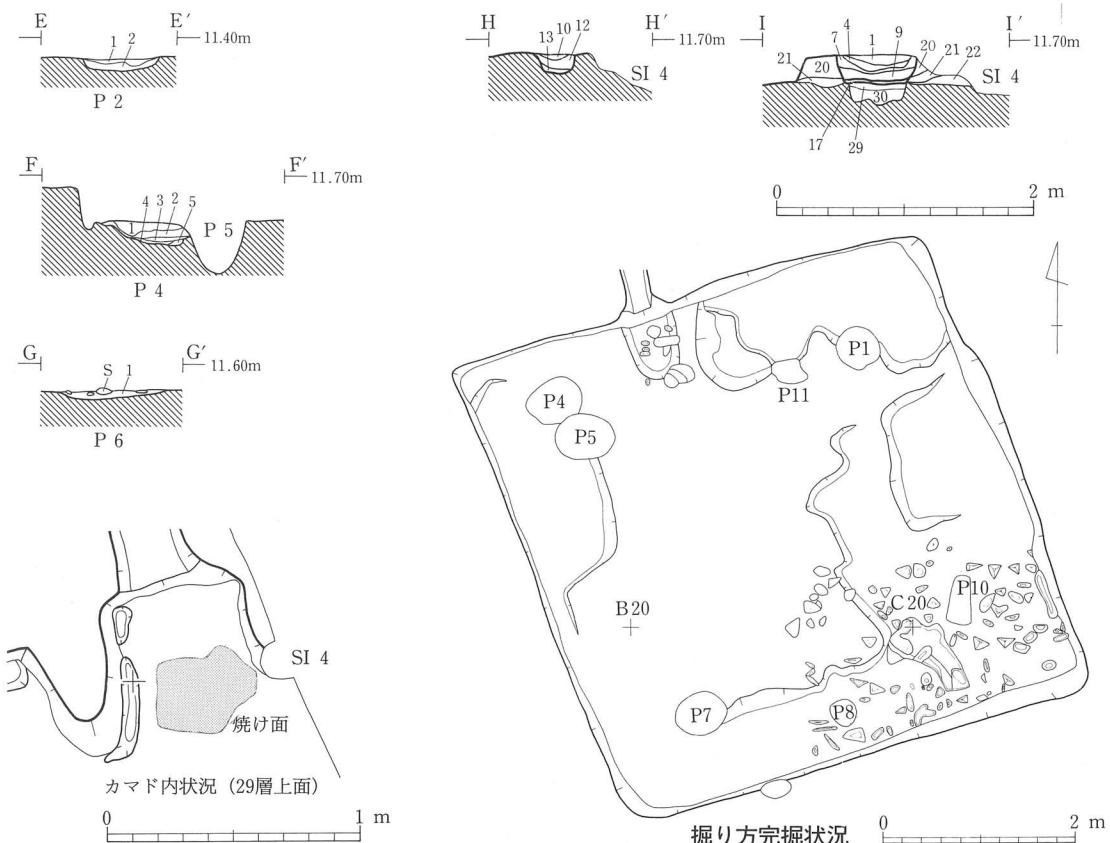
[壁] ほぼ全周して残存しているが、北東部はSI 4に切られているため、残存状況は極めて悪い。他は20～25cmの残存で、各壁とも急な立上りをみせている。

[柱穴] 住居内に10個のピットを確認した。P 1・5・7・10には柱痕跡がみられ、配置からみて主柱穴と考えられる。規模はP 5・7・10が長軸長75cm内、短軸長55cm内の橢円形を呈し、P 1は径35cmのやや小さな円形で、深さは40～50cmである。

[周溝] 北東部でSI 4に切られている箇所にみられない他は存在し、本来はカマド部分を除き

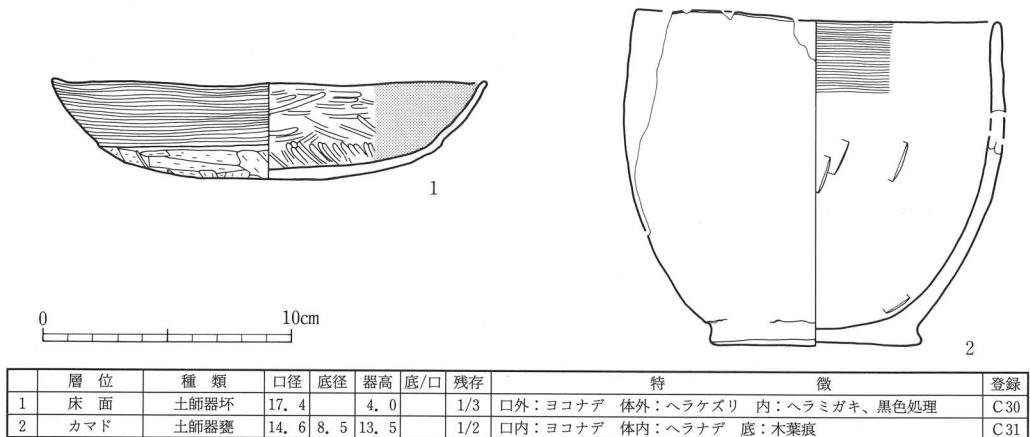


第30図 SI 5 住居跡 (1)



層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	オリーブ褐色2, 5Y4/4	シルト質粘土	酸化鉄、マンガン斑を少量、パミスを若干含む	P11	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	焼土、炭化物を含む (柱痕跡)
2	暗灰褐色2, 5Y4/2	シルト質粘土	酸化鉄、マンガン斑を少量、パミスを若干含む	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
3	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	酸化鉄を若干、マンガン斑を少量含む	P2 1	オリーブ褐色2, 5Y4/3	粘土質シルト	焼土、酸化鉄を少量含む
4	オリーブ褐色2, 5Y4/4	シルト質粘土	灰色土ブロック、酸化鉄を少量、パミスを若干含む	2	黒褐色10YR2/3	粘質土	灰色、黑色土を少量、焼土、炭化物を多量含む
5	暗灰褐色10YR3/3	粘土質粘土	焼土、マンガン斑を少量、酸化鉄を若干含む	P4 1	黒褐色10YR2/3	シルト質粘土	焼土、炭化物を多量、黄色土、マンガン斑を少量含む
6	オリーブ褐色2, 5Y4/4	シルト質粘土	酸化鉄を少量、マンガン斑を若干含む	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	白色、灰色土、燒土、炭化物、マンガン斑を少量含む
7	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	黒灰色土を少量、酸化鉄、マンガン斑を若干含む	3	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	酸化鉄、マンガン斑を少量含む
8	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	焼土、炭化物を少量含む	4	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘質土	焼土、酸化鉄、マンガン斑を少量含む
9	黒褐色10YR2/3	粘質土	部分的に砂粒を少量、焼土、炭化物を多量含む	5	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	白色、灰色土、燒土、炭化物、マンガン斑を少量含む
10	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	黒灰色小ブロック、酸化鉄を少量含む	P5 1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	(柱痕跡)
11	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土	焼土を少量、マンガン斑を多量含む	2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
12	暗オリーブ褐色2, 5Y3/3	粘土質シルト	黒灰色土を多量、酸化鉄を若干含む	3	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	
13	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土	部分的に砂粒、酸化鉄を少量含む	P6 1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	小颗粒、酸化鉄、マンガン斑を多量、パミスを少量含む
14	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	炭化物を多量、酸化鉄、マンガン斑を少量含む	P7 1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	(柱痕跡)
15	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土	灰色土、酸化鉄、マンガン斑を少量含む	2	黒褐色0YR2/2	粘土質シルト	
16	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	灰色土を少量、マンガン斑を多量含む	P10 1	にじい黄褐色0YR4/3	粘土質シルト	
17	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	灰色土、焼土、炭化物を多量含む	2	にじい黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	(柱痕跡)
18	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	焼土粒を多量、炭化物を少量含む	3	にじい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	()
19	暗灰黄色10YR3/3	粘土質シルト	黄色土、焼土、酸化鉄、マンガン斑を少量含む	4	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	
20	オリーブ褐色2, 5Y4/3	シルト質粘土	灰色土、マンガン斑を少量、酸化鉄、パミスを若干含む	5	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
21	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	黒灰色土、マンガン斑を少量含む	6	黒褐色10YR3/1	シルト質粘土	
22	暗褐色7, 5YR3/3	粘土質シルト	焼土粒、炭化物を多量含む	7	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土	
23	暗赤褐色5 YR3/2	シルト	焼土層、炭化物を若干含む (柱痕跡)				
24	褐色10YR4/4	シルト質粘土	黒灰色土多量、燒土、炭化物、マンガン斑を少量含む ()				
25	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土	炭化物を多量、酸化鉄、マンガン斑を少量含む ()				
26	褐色10YR4/4	シルト	黒灰色土、酸化鉄、マンガン斑を少量含む ()				
27	黒褐色10YR2/3	シルト質粘土	黄色土多量、酸化鉄、マンガン斑を少量含む ()				
28	褐色10YR4/4	シルト	黒灰色土、酸化鉄を少僅、マンガン斑を多量含む ()				
29	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	マンガン斑を多量含む ()				
30	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	黑色土、酸化鉄、マンガン斑を少量含む ()				

第31図 SI 5 住居跡 (2)



第32図 SI 5 出土遺物

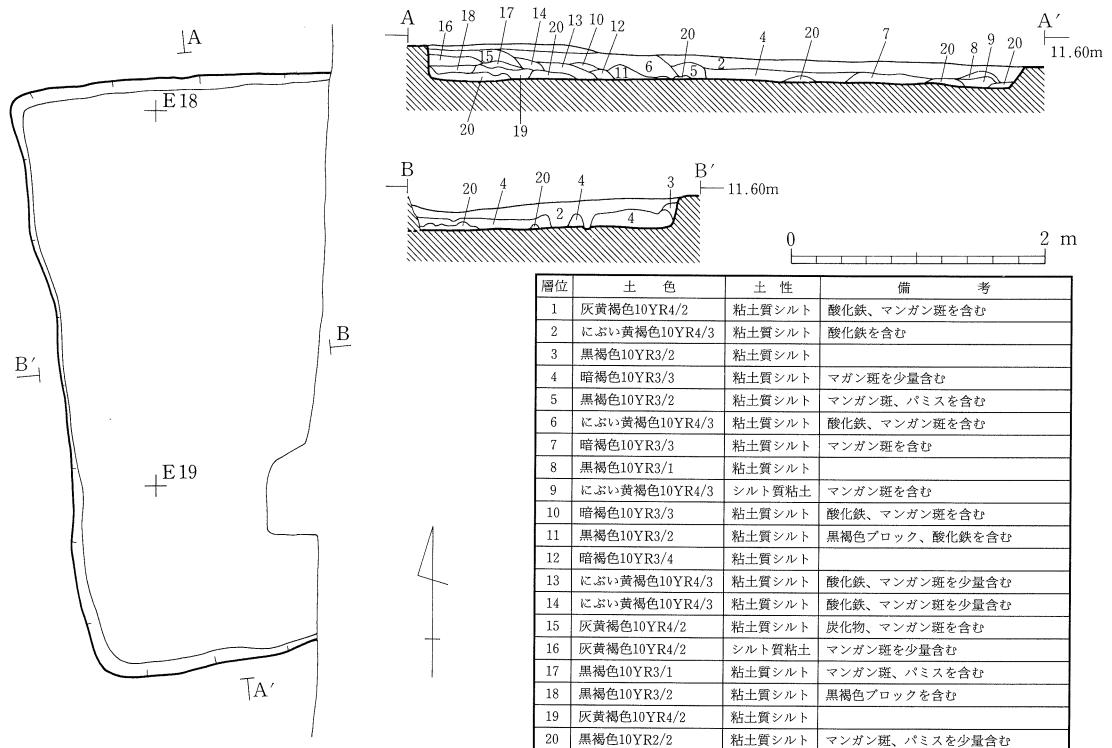
全周していたものと考えられる。幅は東・南・西壁が20~30cm なのに対して、カマド左側北壁部分は10cm と極端に狭くなる。従って断面形は三辺が緩かな U 字形、北壁は V 字形で、幅のわりには深いものとなっている。

[カマド] 北壁やや西よりに付設されている。袖部は左側のみに残存している。燃焼部中央の17層上面に焼け面がみられた。また17層を除去したところ、29層上面においても焼け面がみられ、左側袖部内側に細い溝が切ってあることから、カマド内における使用面が大きく2面あることがわかった。新しい面を形成するにあたっては、17~19層を整地することによってカマド奥壁も新たに形成している。当初カマドの構築にあたっては、壁際に東西50cm、南北60cm 程の住居掘り方よりやや深めの掘り方を設け、他とは別の埋土をもって整地した上に本体を構築したものとみられる。煙道は天井が無く、長さ1.7m、幅30~40cm、深さは北壁際で10cm と浅く、底面は途中に段を持ちながら緩かに下り、先端は30cm の深さとなる。煙道内に焼け面はみられなかった。

[その他] P2 と P4 はカマドの左右に位置することから、貯蔵穴と考えられる。両者とも平面形は円形で、規模は径70cm 前後、深さは P2 が10cm、P 4 が18cm で、壁が緩かに立上る土坑状のものである。P 6 は P 2・4 と同様の形態で、中には礫が多く含まれていたことから、何等かに使用された施設り一つとみられる。また P 6 の北側床面上に小さな焼け面がみられた。

住居の掘り方を完掘したところ、南半部とカマド下部の掘り方底面において工具痕跡とみられるものを多数検出した。これらは特に周辺部の掘り方の深い箇所にみられ、形状はさまざまであるが、鋤状の道具に特徴的な底面幅のない三角形プランが多くみられ、住居を作る際の痕跡と考えられる。痕跡の方向性や連続性などについては明瞭でない。

[出土遺物] 堆積土出土遺物 非クロロ土師器壺・甕、クロロ土師器甕、須恵器壺・甕が出土し



第33図 SI 6 住居跡

ている。床面出土遺物 非ロクロ土師器坏（第32図1）・甕（2）、須恵器甕が出土している。

1の土師器坏は外面に段を持つ。2の甕はカマドから出土している。口縁部は直立している。

ピット出土遺物 ピット2・4・5・7・8から非ロクロ土師器坏・甕、ピット2から須恵器坏が出土しているが、小破片で図示できる資料はない。

[小結] 床面出土土器の特徴から、7世紀後半から8世紀初頭の時期の住居跡と考えられる。

SI 6 住居跡（第33図）

[位置・確認面] III区D・E-18・19グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] 無かった。

[平面形・規模] 東半部が調査区外となっているが、隅丸の方形を呈するものとみられる。西壁長は4.7mで、確認できた北壁は2.5m、南壁は1.7mである。北西及び南西壁は鋭角となっている。

[堆積土] 20層に分層される。全層とも住居内堆積の自然堆積層で、南半部は2・4層が大部分を占める安定した堆積状況であるが、北半部は住居北側から土砂の流入が頻繁だったものとみられる。

[床面] 地山層を床面としている。ほぼ平坦であるが、中央が僅かに高まっている。

[壁] 確認された部分での残存は良好な箇所で25cmで、いずれの壁も急な立上りをみせている。

[柱穴] 確認されなかった。

[周溝] 確認されなかった。

[カマド] 確認されなかった。

[出土遺物] **堆積土出土遺物** 非クロ土師器壺・甕、須恵器甕が出土しているがいずれも小破片である。

[小結] 住居跡の時期は不明である。

SI 7 住居跡（第34図）

[位置・確認面] III区 D・E-20 グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] SI10 を切り、SI 8 に切られることから、SI10 より新しく、SI 8 より古い。

[平面形・規模] 隅丸の方形を呈するものとみられる。規模は北・西・南壁の一部の残存であるため不明瞭であるが、南北3.8~4.3m、底面施設の位置からみて東西4m前後とみられる。

[堆積土] 5層に分層される。1~3層は住居内堆積土、4・5層は北壁際に限定してみられる住居掘り方埋土とみられ、前者は自然堆積層、後者は人為堆積層とみられる。

[床面] 大部分が地山層、一部4層を床面としている。ほぼ平坦である。

[壁] 残存状況が極めて悪く、良好な箇所でも5cm程度の立上りをみせるにすぎない。

[柱穴] 住居内とみられる床面に17個のピットを確認した。全て小規模なもので、P 1・2・3・7に柱痕跡とみられるものがあった。これら4つは他の住居跡の主柱穴とは異なる配置状況をみせる。他のピットについては積極的に柱穴とするには至らなかった。

[周溝] 確認されなかった。

[カマド] 住居東端部とみられる箇所に地山層上面での焼け面がみられた。このことからカマドは東壁側に付設されていたものとみられ、焼け面の状況から考えると、カマド本体は上層により削平を受け、すでに失われているものとみられる。カマド下部に掘り方などは確認されなかった。

[その他] 推定されるカマド位置から考えると、P 8 はその左側に位置し、浅めの土坑プランを呈することからも貯蔵穴の可能性がある。この他にも P13・17についても柱穴とは言い難く、何かしらに使用された施設と推定される。

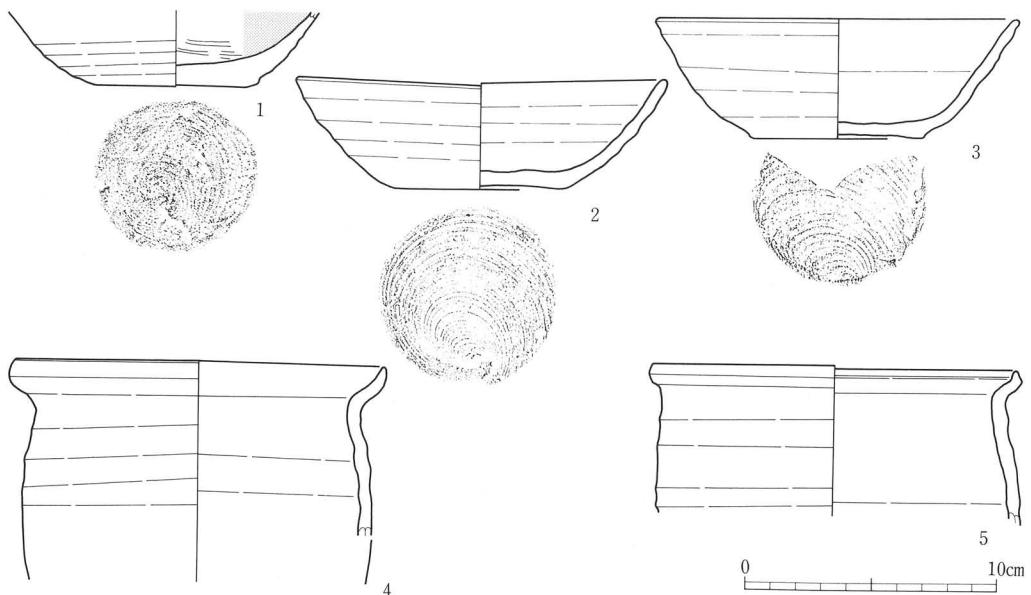
住居掘り方底面は北壁西半部際のみが落込んでいる。

[出土遺物] **堆積土出土遺物** 非クロ土師器壺・甕、ロクロ土師器壺・甕（第35図5）、赤焼



層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	灰黄褐色10YR5/2	砂質シルト	灰白色、マンガン斑を含む	3	にぶい黄褐色10YR5/3	シルト質粘土	マンガン斑を少量含む
2	灰黄褐色10YR5/2	砂質シルト	灰白色火山灰を含む	P 9 1	褐灰色10YR5/1	砂質シルト	焼土粒、炭化物を含む
3	灰黄褐色10YR6/2	シルト	灰白色火山灰を多量、マンガン斑を含む	2	褐灰色10YR6/1	シルト	
4	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	マンガン斑を少量含む（住居掘り方理土？）	3	灰黄色褐色10YR4/2	砂質シルト	褐灰色土ブロックを含む
5	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物、マンガン斑を少量含む（#）	4	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	焼土ブロックを含む
P 1 1	黄灰色2, 5Y5/2	シルト	（柱痕跡）	P 10 1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	焼土粒、マンガン斑を少量含む
2	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	黒褐色10YR3/1砂質シルトブロックを含む	2	灰黄褐色10YR5/2	シルト	マンガン斑を含む
P 2 1	暗黃褐色10YR5/2	シルト	マンガン斑を含む（柱痕跡）	P 11 1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	
2	暗褐色10YR3/3	シルト	地山土をブロック状に含む	2	褐灰色10YR4/1	シルト	
P 3 1	にぶい黄褐色10YR5/3	シルト	炭化物少量、マンガン斑を含む	P 12 1	極暗褐色7, 5YR2/3	砂質シルト	焼土粒を含む
2	にぶい黄褐色10YR7/4	砂質シルト		2	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	
3	褐灰色10YR4/1	シルト		3	灰褐色10YR5/2	シルト	
P 4 1	灰黄褐色10YR5/2	砂質シルト		P 13 1	褐灰色10YR4/1	シルト	焼土、炭化物を含む
2	灰黄色10YR4/2	シルト	マンガン斑を多量含む	2	にぶい黄褐色10YR5/3	シルト	
P 5 1	灰黄褐色10YR5/2	砂質シルト	焼土づ、炭化物を含む	3	黒褐色10YR3/2	シルト	
2	褐灰色10YR6/1	粘土質シルト	酸化鉄を少量含む	P 14 1	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	マンガン斑を少量含む
3	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト	焼土、炭化物を少量含む	2	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	マンガン斑を若干含む
P 6 1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	マンガン斑を含む	P 15 1	暗褐色10YR3/3	シルト	焼土、炭化物、マンガン斑を含む
2	褐色10YR4/4	シルト質砂		2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	灰色粘質土、マンガン斑を含む
3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	灰色粘土質、マンガン斑を含む	P 16 1	暗褐色10YR3/4	砂質シルト	炭化物を少量含む
P 7 1	灰黄褐色10YR6/2	シルト	焼土、炭化物を少量含む（柱痕跡）	2	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	炭化物を少量含む
2	灰黄褐色10YR5/2	シルト	酸化鉄、マンガン斑を少量含む	P 17 1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物を含む
P 8 1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質砂	酸化鉄を含む	2	灰黄褐色10YR5/2	シルト質粘土	ℓ 1、焼土粒、炭化物を含む
2	灰黄褐色10YR4/2	シルト質砂	焼土粒、炭化物を多量、マンガン斑を含む	3	黒褐色7, 5YR3/2	シルト	焼土粒、炭化物を含む

第34図 SI 7 住居跡



第35図 SI 7 出土遺物

土器坏、須恵器坏が出土している。床面出土遺物 非クロ土師器坏、ロクロ土師器坏・甕(4)、須恵器坏(3)・甕が出土している。3は底部の切り離しが回転糸切り後無調整のものである。

ピット出土遺物 ピット5・8・11・17からロクロ土師器坏・甕が、ピット8から赤焼土器坏が出土している。1はP5出土の土器の土師器坏である。2はP11出土の須恵器坏である。

[小結] 床面出土土器の特徴から、平安時代の表杉ノ入式期(9世紀代)の住居跡と考えられる。

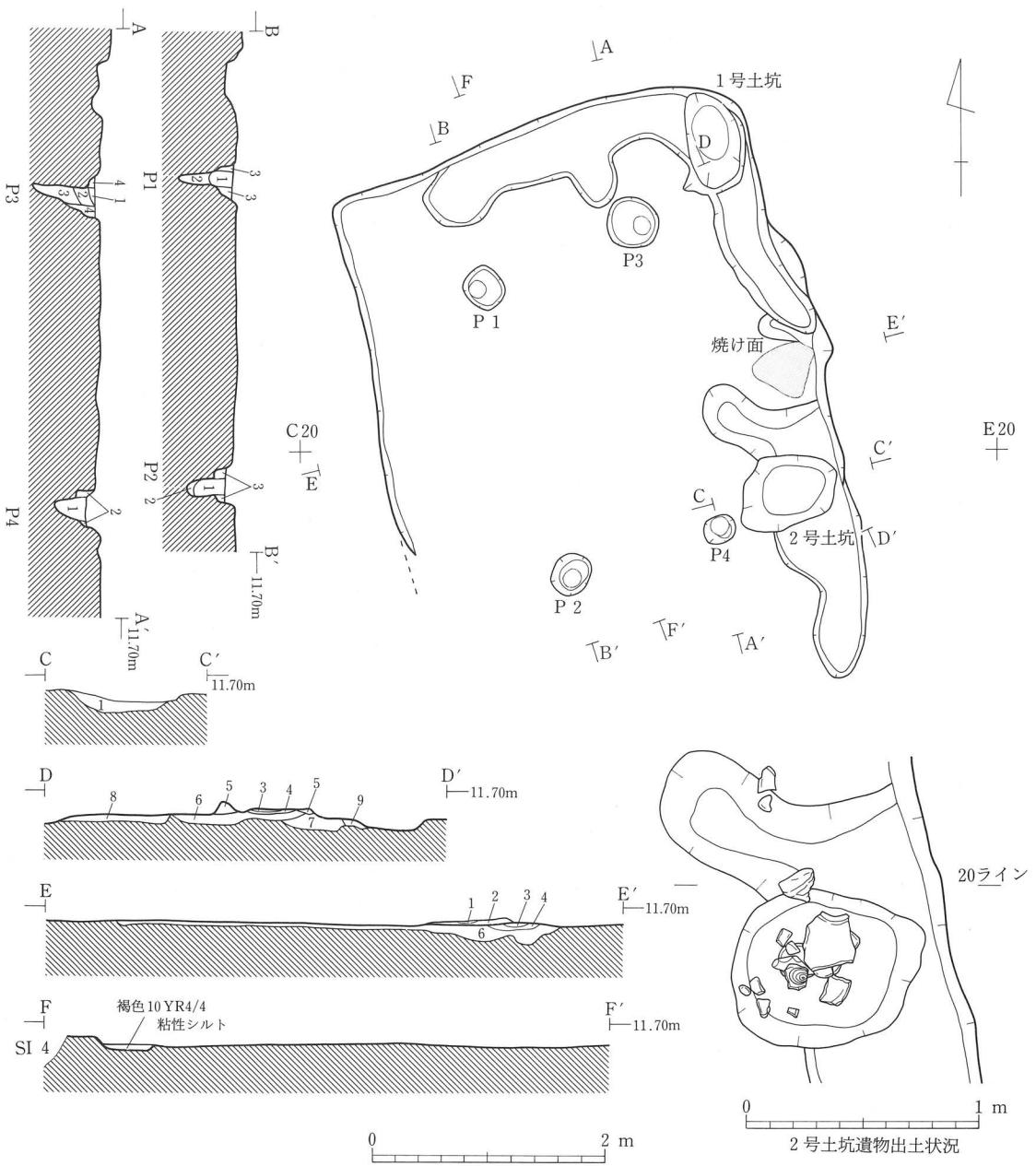
SI 8 住居跡（第36図）

[位置・確認面] III区C・D-19・20グリッドを中心とした5層上面で確認した。

[重複] SI 5・7・10を切っていることから、これらの住居より新しい。

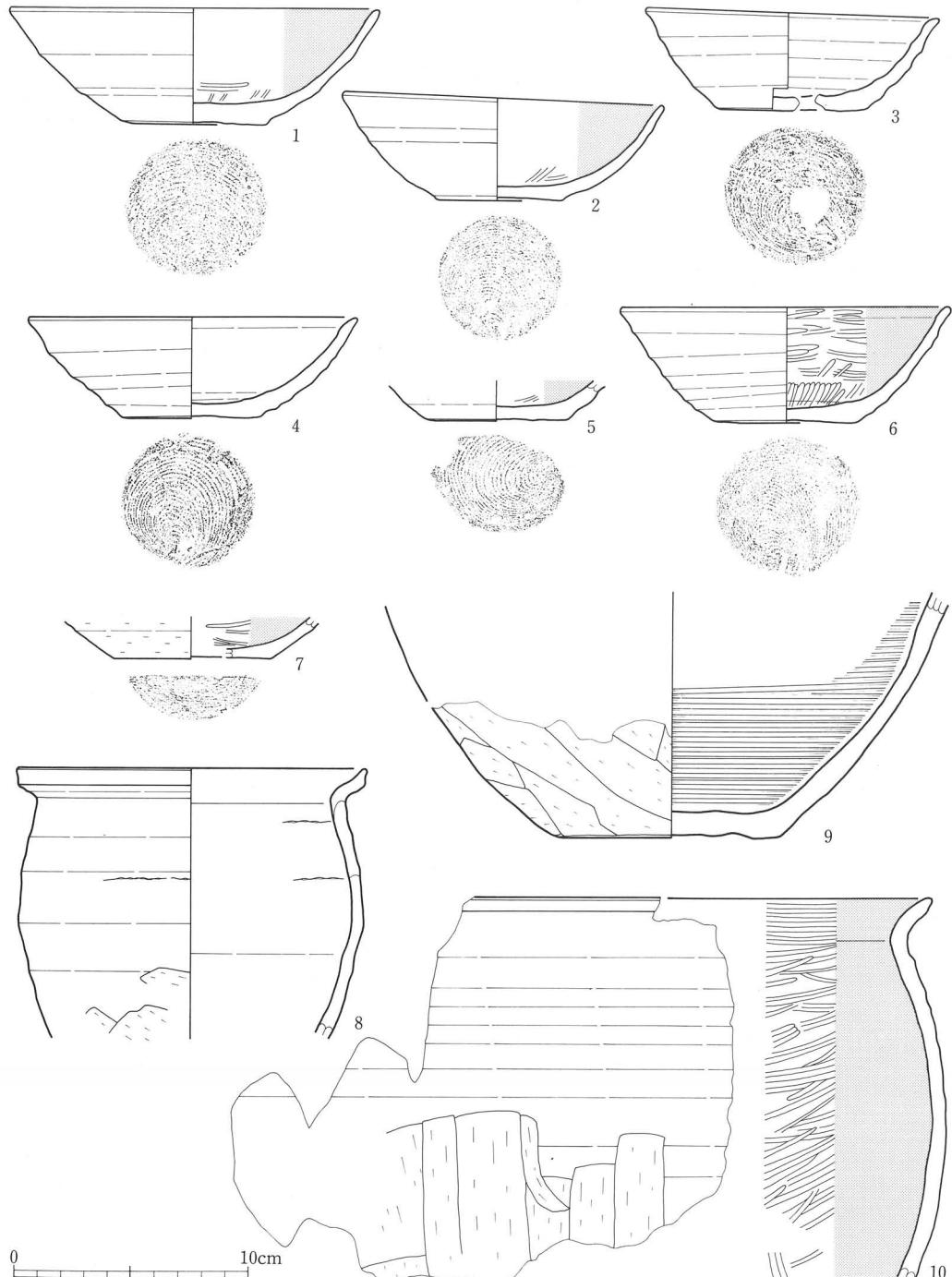
[平面形・規模] 南端部が失われているため不明であるが、隅丸の長方形を呈するものとみられる。東西軸長3.6～3.8m、南北軸長は周溝状プランからみて5.3m以上で、残存する壁は直線的ではない。

[堆積土] 9層に分層される。ごく一部にみられる1・2層は住居内堆積土で自然堆積層、5層はカマド構築土、3・4・6～9層は住居掘り方埋土とみられ、人為堆積層である。3・4層は本来6層であったものが焼土化し変質したものである。



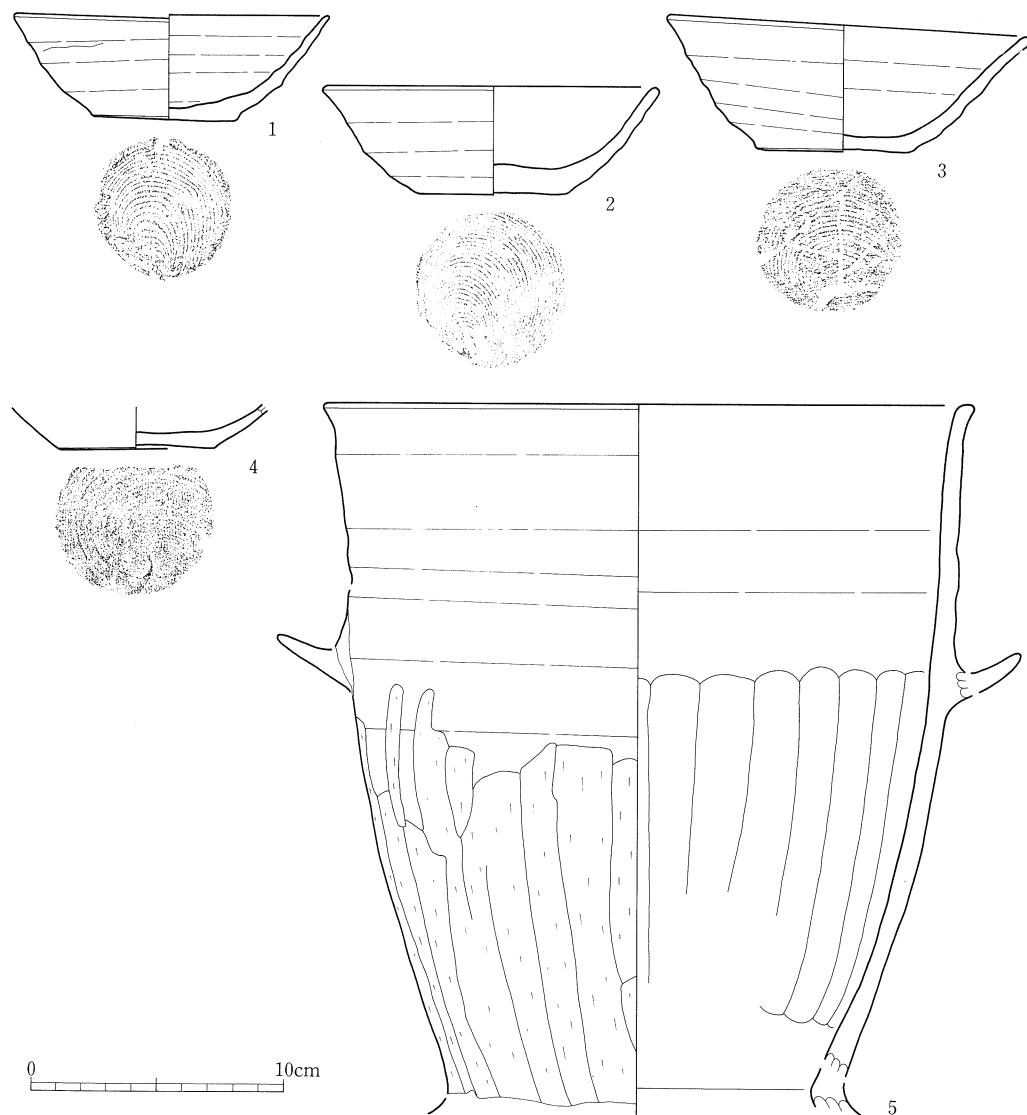
層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	にぶい黄褐色10YR5/4	シルト		P 1 1	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	(柱痕跡)
2	にぶい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	焼土、炭化物を含む	2	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	(〃)
3	暗赤褐色5YR3/3	シルト		3	褐色10YR4/4	粘土質シルト	黒褐色ブロックを含む
4	極暗赤褐色5YR2/3	粘土質シルト		P 2 1	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	(柱痕跡)
5	にぶい黄褐色10YR5/4	シルト	焼土、マンガン層を少暈合む (カマド構造)	2	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	(〃)
6	褐色10YR4/4	粘土質シルト	灰白色土、燒土粒、マンガン層、バミスを少暈合む (住居掘り方理土)	3	褐色10YR4/4	粘土質シルト	黒褐色ブロックを含む
7	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	(〃)	P 3 1	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	(柱痕跡)
8	にぶい黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	マンガン層、バミスを少暈合む	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	(〃)
9	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土ブロック、マンガン層を含む	3	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	(〃)
土坑1 1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭化物を少量含む	4	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	
土坑2 1	褐色10YR4/4	粘土質シルト		P 4 1	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	(柱痕跡)
				2	にぶい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	(〃)

第36図 SI 8 住居跡



	層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	堆積土	土師器坏	15. 8	6. 1	5. 1	0. 39	1/4>	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ	D23
2	堆積土	土師器坏	13. 8	5. 4	4. 4	0. 39	1	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理 口唇部に褐色膜状の付着物あり	D21
3	堆積土	赤燒土器坏	12. 5	6. 1	4. 3	0. 49	3/4	底：回転糸切り、焼成後の穿孔あり	D25
4	堆積土	赤燒土器坏	14. 1	5. 9	4. 5	0. 42	3/4	底：回転糸切り 内面に薄い付着物あり	D24
5	堆積土	土師器坏		6. 7			(1/3)	体～底：回転ヘラケズリ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D27
6	堆積土	土師器坏		6. 0			(1/2)	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D26
7	堆積土	土師器坏	14. 1	6. 1	5. 2	0. 43	1/2	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D22
8	堆積土	土師器甕	15. 0				1/3	内外：ロクロナデ 外面にスス付着	D34
9	堆積土	土師器甕		9. 7			(1)	体外・底：ヘラケズリ 内：回転ハケメ	D28
10	堆積土	土師器甕					1/4>	体外：ロクロナデ、ヘラケズリ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D29

第37図 SI 8 出土遺物 (1)



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1 P 1	赤焼土器環	13. 1	5. 7	4. 3	0. 44	1	底：回転糸切り 輪積み痕あり	D30
2 P 1	赤焼土器環	13. 4	6. 0	4. 3	0. 45	1/2	底：回転糸切り	D31
3 P 1	赤焼土器環	14. 3	6. 0	5. 3	0. 42	1/4	底：回転糸切り 内面にスス付着	D32
4 P 1	赤焼土器環		6. 2		(3/4)		底：回転糸切り	D33
5 P 1	土師器壺	25. 7			1/3		体外：ロクロナデ、ヘラケズリ 内：ロクロナデ、ナデ	D35

第38図 SI 8 出土遺物 (2)

[床面] 本来6層を床面としているが、東壁際の焼け面付近を除き、上層による削平のため床面として確認した大部分は6層中か下層の地山層となっている。

[壁] 南壁と西壁の南半部は確認できなかった。残存は良好な箇所で5 cmを測るにすぎない。

[柱穴] 住居内に4個のピットを確認した。P 1～4とも柱痕跡がみられ、配置から主柱穴と考

えられる。ピットは全て円形で、P 3 は径40cm、P 4 は径25cm と規模に違いはあるが深さは35~55cm とわりと深い。

[周溝] 北壁と東壁において周溝状プランを確認した。これらは幅の広い箇所では60cm もあり、プランも規格性がみられないことから、住居掘り方底面におけるプランの可能性も考えられる。

[カマド] 東壁中央に付設されている。袖部は左側のみの残存で、燃焼部全体に焼け面がみられ、周囲の床面より若干高まっている。構築にあたっては住居掘り方埋土の 6 層により整地した後に本体を構築しており、カマド独自の掘り方は特にみられない。煙道は認められなかった。

[その他] カマド右側に 2 号土坑、北東隅に 1 号土坑が確認され、これらはいずれも貯蔵穴と考えられる。平面形は両者とも不整橢円形で、深さは10cm 程度で壁は緩かに立上るものである。

[出土遺物] 堆積土出土遺物 堆積土は非常に薄いため、遺物はほとんど床面に近いものである。これらは住居跡の時期を示すと考えられる。非ロクロ土師器坏・甕、ロクロ土師器坏（第37図1・2・5~7）・甕（8~10）、赤焼土器坏（3・4）、須恵器坏・甕が出土している。1~4 はまとまって出土し、1~3 は上から 1・2・3 の順で重なっていた。4 はその隣にあった。3 は焼成後底部に穴が開けられている。7 の坏は切り離し後の再調整があるが、他は無調整である。ピット出土遺物 ピット 4 から、ロクロ土師器坏・甕・甌（第38図5）、赤焼土器坏（第38図1~4）が出土している。5 の甌は全体に直立気味の器形で、口唇部が平坦である。

[小結] 出土土器の特徴（赤焼土器の共伴や口径と底径の比など）から、平安時代の表杉ノ入式期（10世紀前半代）の住居跡と考えられる。

SI 9 住居跡（第39図）

[位置・確認面] III区 C・D-22 グリッドを中心に 5 層上面で確認した。

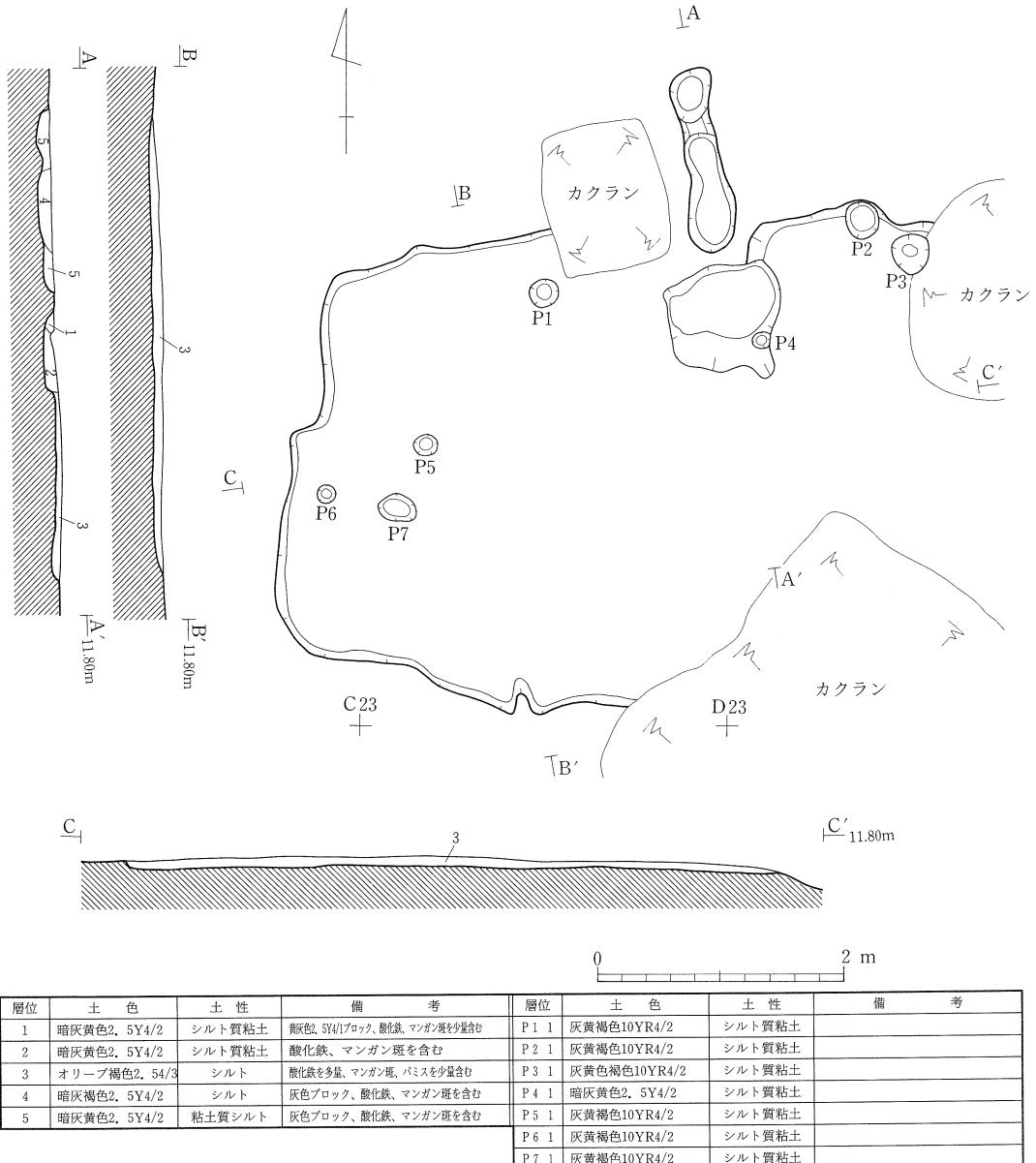
[重複] 無かった。

[平面形・規模] 残存が悪い上、東・南壁をカクランにより壊されていることから不明瞭であるが、隅丸の不整長方形を呈するものとみられる。残存壁で見る限り、南北軸長3.2~4 m、東西軸長 5 m 以上と推定される。またカマドを境に東西の北壁ラインに多少のズレをみせる。

[堆積土] 5 層に分層される。住居内堆積土とみられるものは 1~3 層であるが、1・2 層はカマド周辺のみの堆積で、大部分は 3 層が占めている。4・5 層は煙道部にのみみられる堆積土である。1~3 層は住居残存が極めて悪いことから、これらが住居の機能停止後に流入したものか、或いは住居掘り方の整地層であるかは明らかでない。

[床面] 地山層と 3 層を床面としている。平坦で傾斜は特に認められない。

[壁] 東壁と南壁東半部がカクランで失われている。上層の削平により残存は極めて悪く、現況



第39図 SI 9 住居跡

を見る限りプランの深さは5~10cm程度で、壁は掘り方下部のため緩かな傾斜となっている。

[柱穴] 住居内に7個のピットを確認したが、確認面が3層面か地山面かは不明である。全て径が30cm内の浅く小さなもので、柱穴と認定するには至らなかった。

[周溝] 確認されなかった。

[カマド] 北壁に付設されている。袖部は失われており、燃焼部とみられる箇所での落込みと煙道での確認であった。落込みは幅90cm、奥行90cm、深さ10cm程度のもので、堆積土は1・2

層である。焼け面は認められない。落込みは堆積土やカマド本体の残存状況からみて、カマド下部の掘り方と考えられる。煙道は長さ1.5m、幅25~40cm、深さ10cm前後で平坦であるが、先端で多少ピット状を呈する。焼け面は認められない。

[出土遺物] 堆積土出土遺物 非クロロ土師器甕が出土しているが、小破片のため図示できる資料はない。

[小結] 住居に伴う遺物はないものの、カマドの存在から古墳時代中期以降の住居跡と考えられる。

SI10 住居跡（第40図）

[位置・確認面] III区 D・E-20 グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] SI10はSI7の床面精査時に確認されたことから、SI7より古い。

[平面形・規模] 隅丸の多少歪んだ正方形を呈する。一辺は2.5~2.8mで、他の住居に比べて小規模である。

[堆積土] 13層に分層される。1~9層は住居内堆積土で1~3層が大部分を占める。5層はSI7のカマドに伴う焼け面、6~9層はカマド周辺に堆積し、特に8層は焼土、炭化物層である。10層はカマド構築土、11~13層は住居掘り方埋土で人為堆積である。

[床面] 11~12層を床面としている。平坦で傾斜はみられない。

[壁] 全周して残存し、12~18cmの深さがある。立上りは急な箇所と緩かな箇所がある。

[柱穴] 住居内に3個のピットを確認した。全て東壁近くにみられ、いずれも小さなもので積極的に柱穴とするには至らなかった。

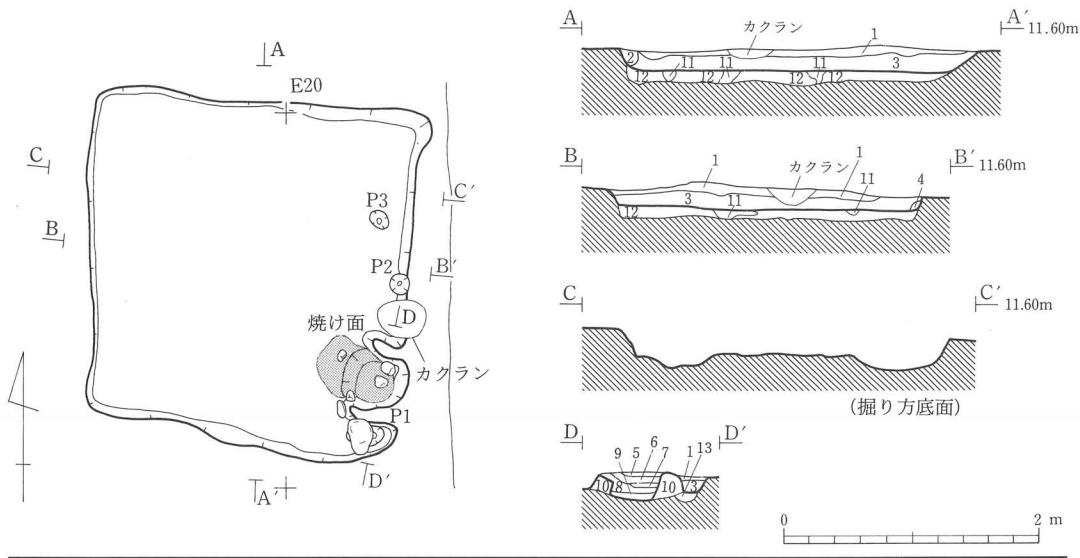
[周溝] 確認されなかった。

[カマド] 東壁南端部に付設されている。両袖部とも残存し、特に右側は20cmの高さで残存している。規模は幅75cm、奥行50cm程度で、燃焼部は10cmの深さがある。燃焼部とその手前65×45cmの範囲に焼け面がみられた。構築にあたっては東壁より外側に張出し、幅60cm、奥行1.3mもの掘り方を設け、12層を主体に整地した後に本体を構築しているものと考えられる。

[その他] カマド右側の南壁に挟まれた箇所にあるP1は堆積土上に大型の円礫が設置されていた。P1は30×15cmと小さいが、位置的に貯蔵穴の可能性が考えられる。住居掘り方底面は北東及び北西隅で落込んでいる。

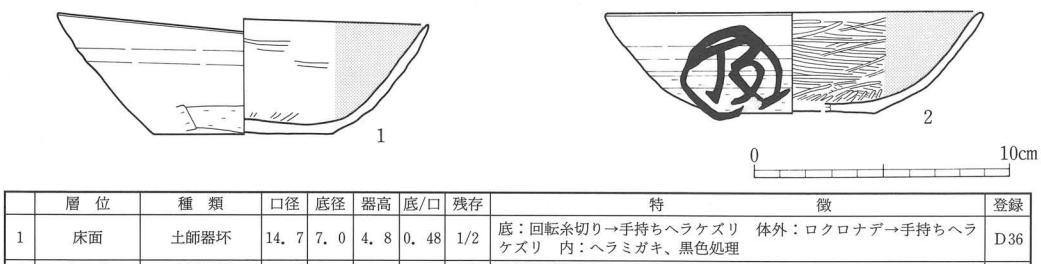
[出土遺物] 堆積土出土遺物 非クロロ土師器甕、ロクロ土師器壺・甕、須恵器壺が出土している。床面出土遺物 非クロロ土師器壺・甕、ロクロ土師器（1・2）、須恵器壺が出土している。

1は底部回転糸切り後体部下端に手持ちヘラケズリを施している。底部内面のヘラミガキは放射状である。2はカマド底面直上の層に含まれる壺で、底部切り離し後体部下端から底部にか



層位			土 色			備 考			層位			土 性			備 考		
1	褐色10YR4/4	砂質シルト	灰色シルト質土、マンガン斑を若干含む	9	暗褐色10YR3/4	シルト	地山土、焼土を含む		10	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	黒褐色。5YR3/2の焼土ブロックを含む (カマド構造土)			(住居掘り方埋土)	(〃)	
2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト		11	褐色10YR4/4	シルト			12	暗褐色10YR3/3	シルト				灰白シルト質土と地山土の混合層 (〃)		
3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	灰色シルト質土、マンガン斑を少量含む	13	にぶい黄褐色10YR5/4	シルト	灰色シルト質土、灰褐色10YR4/2シルト質土を含む		P 1 1	にぶい黄褐色10YR5/4	シルト	灰色シルト質土、灰褐色10YR4/1シルト質土を含む					
4	褐色10YR4/4	シルト	地山ブロックを少量含む	P 2 1	褐色10YR4/1	粘土質シルト	砂粒を勝利用含む		P 3 1	?	?						
5	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質土	(S17に伴う焼け面)														
6	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	灰色シルトブロック、マンガン斑を含む														
7	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	6層を少量含む														
8	?	シルト	焼土、炭化物層														

第40図 SI10 住居跡



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特 徴		登録
							底:回転ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ 体外:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黒色処理	内:ヘラミガキ、黒色処理 墨書「及」	
1 床面	土師器坏	14. 7	7. 0	4. 8	0. 48	1/2			D36
2 カマド	土師器坏	14. 9	6. 4	4. 0	0. 43	1/3	体外→底:回転ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黒色処理 墨書「及」		D37

第41図 SI10 出土遺物

け回転ヘラケズリが施されている。また、墨書「及」が正位に書かれている。

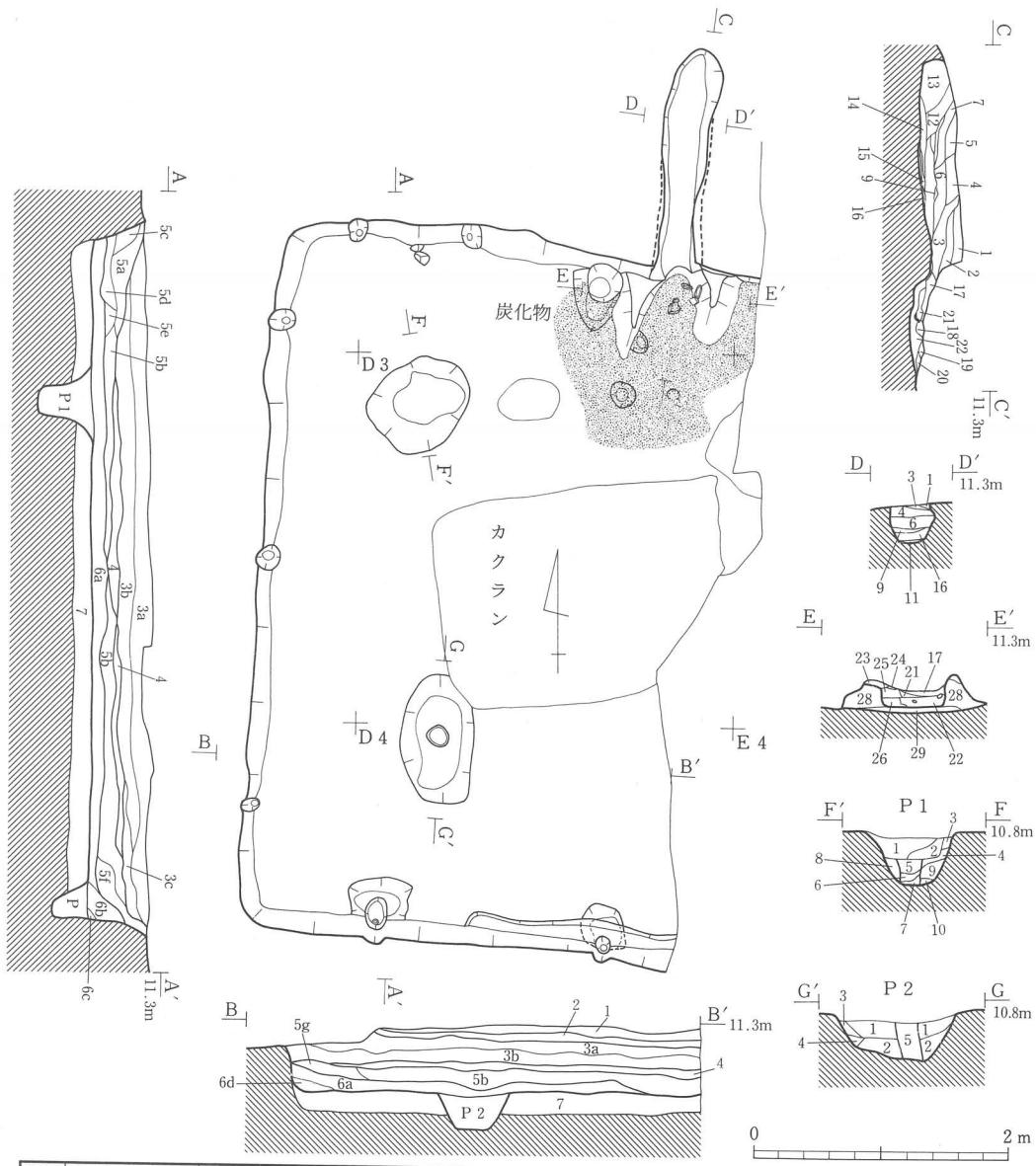
[小結] 床面出土土器の特徴から、平安時代の表杉ノ入式期(9世紀代)の住居跡と考えられる。

SI13 住居跡 (第42図)

[位置確認面] II区 D 3 グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] 小溝状遺構群を切っている。中央に搅乱を受けている。

[平面形・規模] 東側が調査区外であるが、方形を呈すると考えられる。南北軸長5.6~5.8m、東西軸長3.9m以上である。



層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
1	灰黄褐色10YR4/2	シルト		P 1	1	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
2	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト			2	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	黒色土ブロックを含む
3 a	黒褐色10YR3/2	シルト			3	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	
3 b	黒褐色10YR3/2	シルト			4	灰黄褐色2.5Y5/1	シルト	黒色土層ブロックを含む
4	灰黄褐色10YR4/2	シルト			5	褐灰色10YR4/1	シルト質粘土	
5 a	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	黒色土ブロックを含む		6	黄灰褐色2.5Y4/1	粘土	
5 b	黒褐色10YR3/2	シルト	黒色土ブロックを含む		7	黒褐色2.5Y3/1	粘土	
5 c	黒褐色10YR3/2	シルト			8	黒褐色2.5Y3/1	粘土	
5 d	黒褐色10YR3/3	シルト	黄褐色、黒色土ブロックを含む		9	黒褐色10YR2/1	粘土	
5 e	黒褐色10YR2/2	粘土	黒色土ブロックを多量含む		10	黒褐色2.5Y3/1	粘土	
5 f	黒褐色10YR3/2	シルト		P 2	1	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	黒色土ブロック、黄色白色のブロック少量含む
5 g	黒褐色10YR3/2	シルト			2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
6 a	黒褐色10YR3/2	シルト			3	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	木炭を多量含む
6 b	黒褐色10YR3/2	シルト			4	黒褐色10YR2/2	粘土	
6 c	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト			5	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
6 d	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト						
7		掘り方埋土						

第42図 SI13 住居跡

遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
カマド	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト		カマド	14	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	
	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト			15	黒色10YR2/1	シルト	
	3	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	ススのブロックを含む		16	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
	4	灰黄褐色10YR4/2	シルト			17	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	焼土をブロック状に含む
	5	黒褐色10YR3/2	シルト			18	褐灰色10YR6/1	灰層	焼土を含む
	6	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト			19	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土を多量含む
	7	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	ススのブロックを含む		20	褐灰色10YR6/1	灰層	
	8	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト			21	黒褐色10YR3/1	灰、スス、焼土混じり	
	9	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト			22	黒色10YR1.7/1	炭化物層	焼土、灰を含む
	10	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト			23	黒黒色10YR3/2	シルト	
	11	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト			24	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	焼土を多量含む
	12	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	黄褐色土が半分		25	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	焼土粒を少量含む
	13	黒色10YR2/1	シルト	焼土を斑状に含む		26	黒褐色10YR2/2		焼土灰混じり
						27	黒褐色7.5YR2/2	粘土質シルト	

[堆積土] 17層に細分される。1～6d層は住居内堆積土で、7層は住居掘り方埋土である。

[床面] 7層を床面としている。平坦で傾斜はみられない。

[壁] 確認した部分は40～50cmと良好に残存している。立ち上がりは急である。

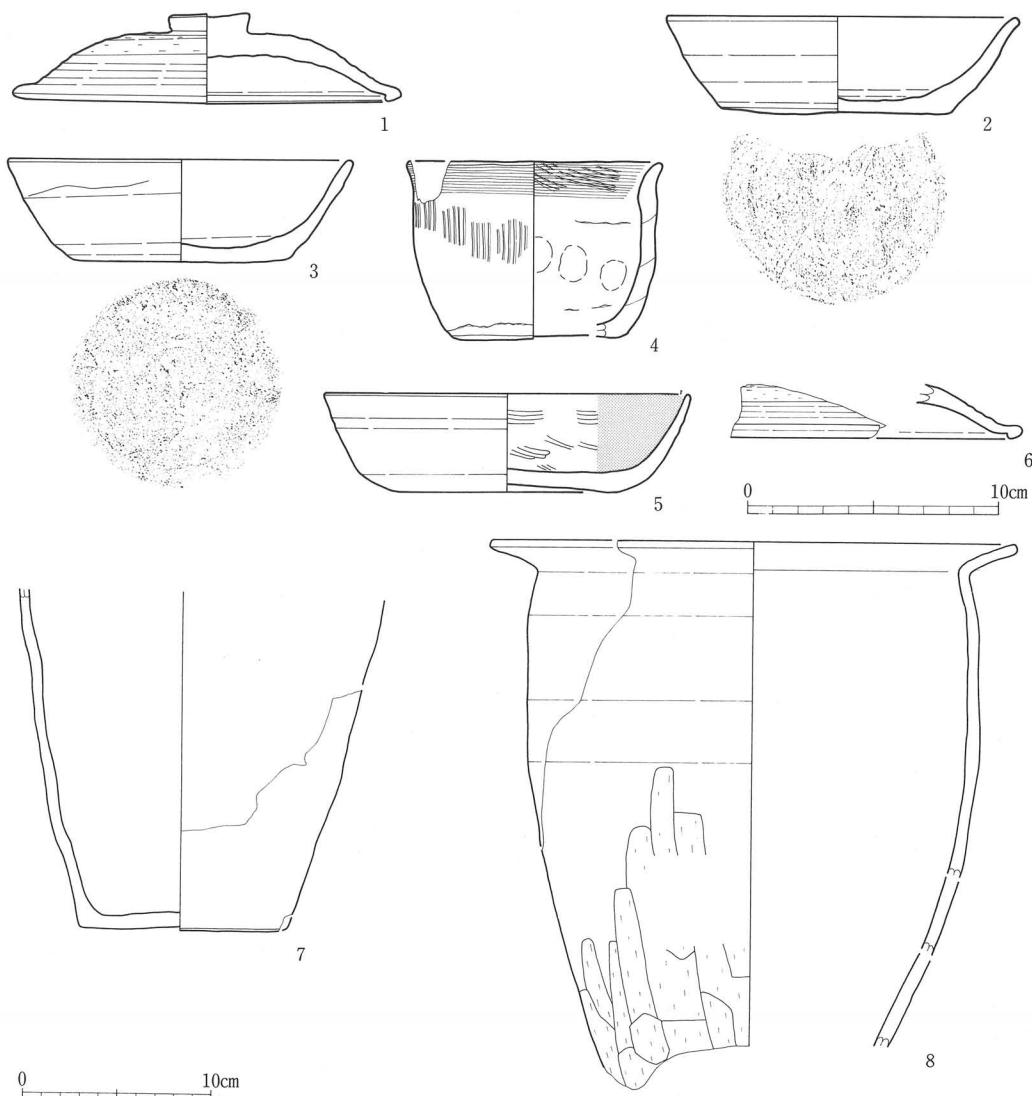
[柱穴] 住居内に12個のピットを確認した。P 1・2には柱痕跡がみられ、配置から主柱穴と考えられる。規模は長軸長100cm内、短軸長65cm内の楕円形を呈し、深さは40～45cmである。P 5～12は壁部分に位置し、P11・12に柱痕跡がみられることから、これらは壁柱穴と考えられる。P 5～10は径が20cm前後で、深さが8～16cmと小規模であるが、P11・12は40×50cmで、深さ25～35cmとやや大きくなっている。

[周溝] 南壁中央にみられるのみで、幅は15～20cmで、深さは5cm内と僅かなものであった。

[カマド] 北壁中央(推定)に付設されている。両袖とも残存し、規模は幅95cm、奥行65cmで、燃焼部底面はやや窪み、焼け面などはみられない。カマド外周辺に炭化物と灰の分布する範囲がみられる。煙道は天井が無く、長さ1.9m、幅35～40cm、深さ25cmで、底面は北壁側が高く、中央より先端にかけて平坦になる。壁は中央から燃焼部寄りがオーバーハング状になっている。

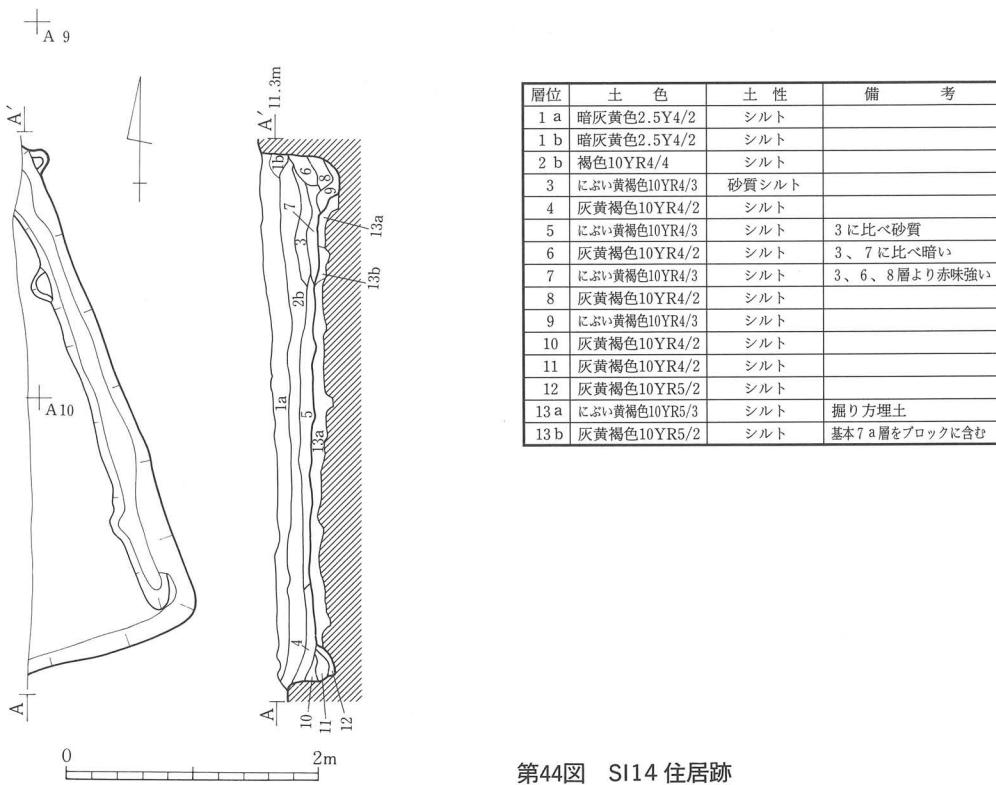
[出土遺物] **堆積土出土遺物** 非クロ土師器壺(第43図5)・甕、ロクロ土師器甕(8)、須恵器壺・甕・蓋(6)が出土している。5は表面が磨滅しているが、体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリが施されるようである。6は端部が小さく折り曲げられる。**床面出土土器** 非クロ土師器甕(4・7)、ロクロ土器器甕、須恵器壺(2・3)・甕・蓋(1)が出土している。4はカマド出土の小型の甕である。7は中央南寄りの床面から出土した。2・3はカマド脇から出土した須恵器壺で、底部は回転ヘラ切りである。1の蓋は天井部外面に回転ヘラケズリが施され、扁平なつまみがつく。

[小結] 床面出土土器の特徴から、平安時代の表杉ノ入式期(9世紀前半)の住居跡と考えられる。



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特 徴	登録
1 床面直上	須恵器蓋	15. 4	3. 6		1/2	外：(上)回転ケズリ→つまみ→ロクロナデ (下)ロクロナデ 内：ロクロナデ	E 3	
2 カマド脇	須恵器坏	14. 5	9. 2	3. 9	0. 63	1/3	底：回転ヘラ切り 内外：ロクロナデ	E 5
3 カマド脇	須恵器坏	13. 8	8. 6	4. 1	0. 62	1	底：回転ヘラ切り→ナデ 内外：ロクロナデ 輪積み痕	E 4
4 カマド	土師器鉢	10. 0	6. 9	7. 1	1/2		口外：ヨコナデ 体外：ハケメ 口内：ハケメ→ヨコナデ 体内：ナデ、オサエ 底：圧痕（原体不明）あり	C 8
5 4層上面	土師器坏	14. 6	8. 6	3. 9	0. 59	1/2	底：回転ヘラケズリ？ 内：ヘラミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ	D 4
6 5層上面	須恵器蓋					1/4>	外：(上)回転ケズリ (下)ロクロナデ 内：ロクロナデ	E 2
7 床面直上	土師器甕		10. 9			(3/4)	内：不明 外：ヘラケズリ？	C 7
8 6層	土師器甕	27. 8				1/4>	外：ロクロナデ、ヘラケズリ 内：ロクロナデ	D 5

第43図 S113 出土遺物



第44図 SI14 住居跡

SI14 住居跡（第44図）

[位置・確認面] A10 グリッドを中心に5層上面で確認した。

[重複] 小溝状遺構群を切っている。

[平面形・規模] 東辺4m、南辺1.5mの東南隅を検出したのみで大半は調査区外である。

[堆積土] 15層に分層される。1～12層は住居内堆積土で、13層が住居掘り方埋土である。

[床面] 13層を床面としている。ほぼ平坦である。

[壁] 確認した部分の壁は20～30cmである。急な立ち上がりである。

[柱穴] 確認されなかった。

[周溝] 東壁沿いに確認された。幅25～35cmで深さ5～15cmである。

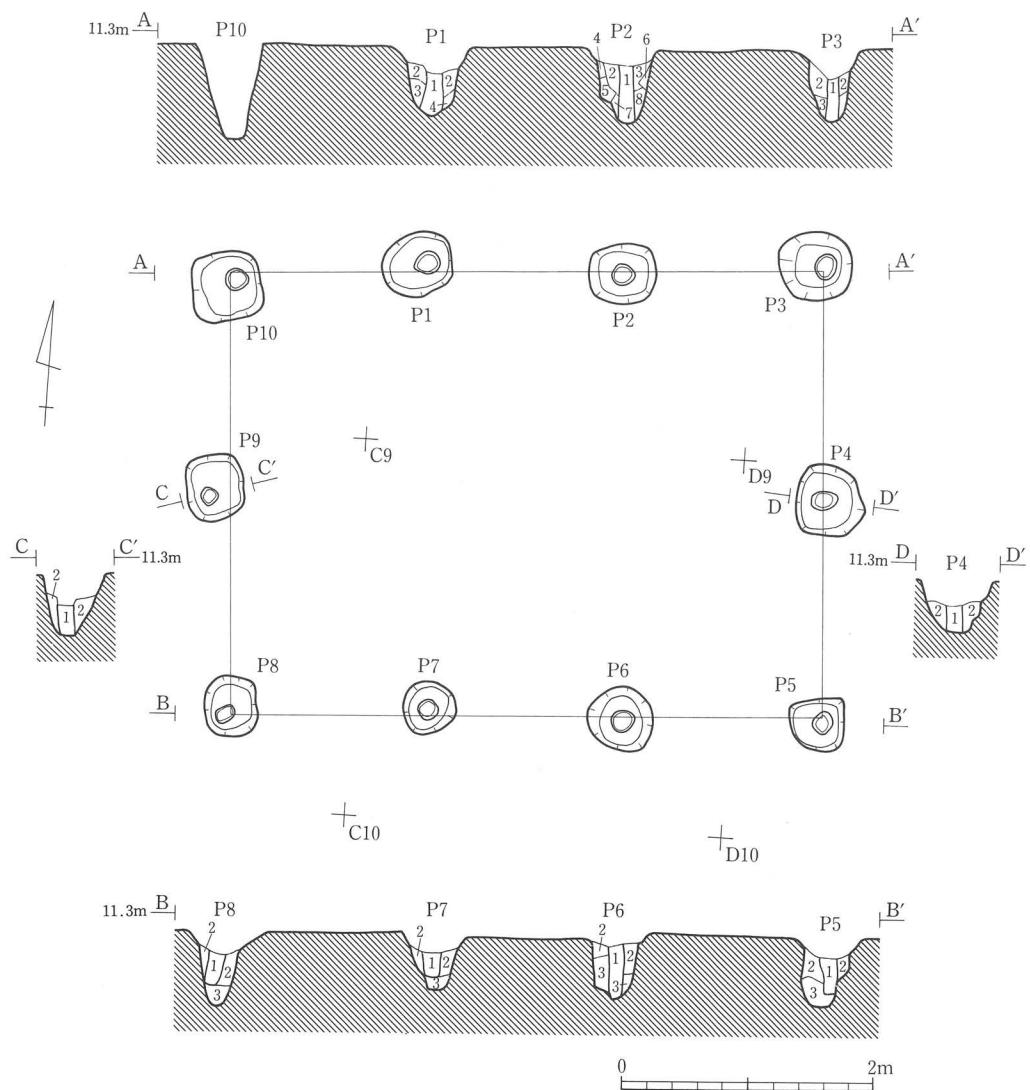
[カマド] 確認されなかった。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[小結] 住居に伴う遺物がないので時期は不明である。

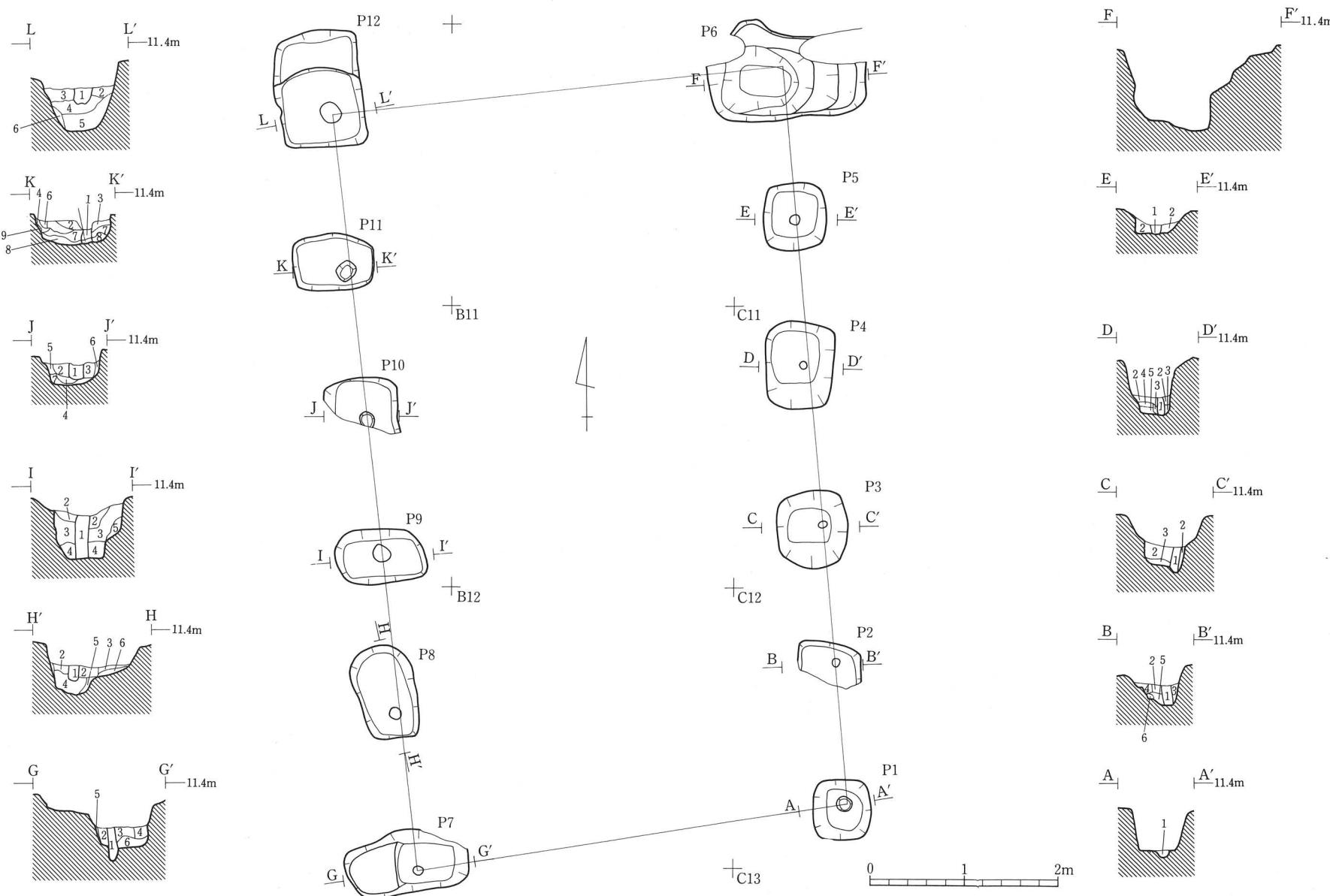
②建物跡

SB1 建物跡（第45図）



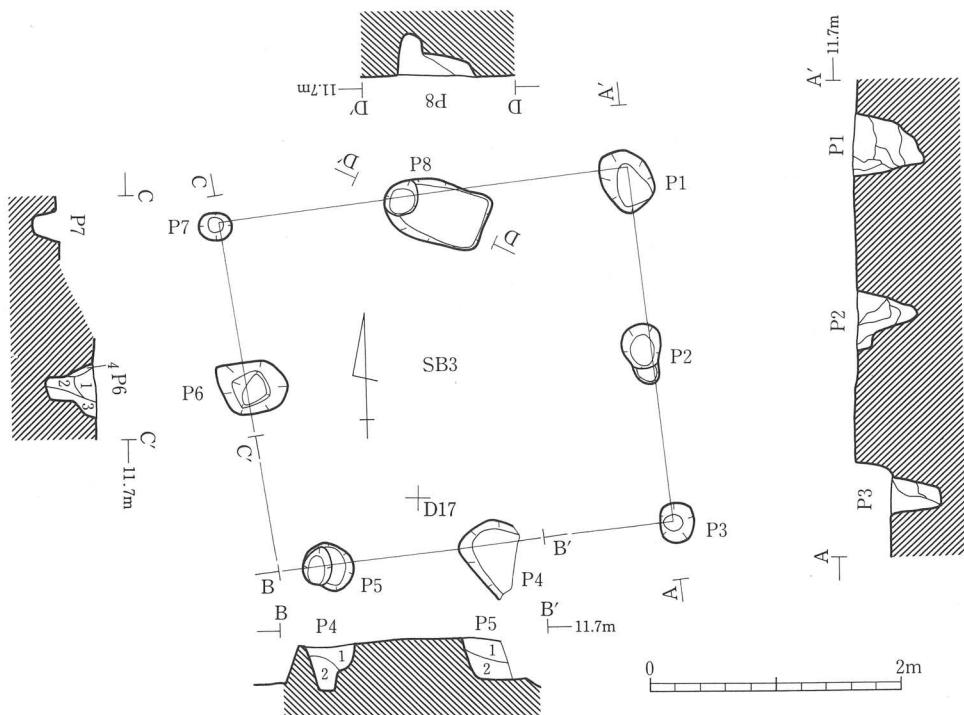
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
P 4	1	灰黄褐色10Y4/2	シルト		III区SB1P1	1	灰黄褐色10Y4/2	シルト	
	2	灰黄褐色10Y4/2	シルト	基本7層を含む		2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	基本7層を含む
P 5	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト		III区SB1P1	3	褐灰色10YR4/1	シルト	基本7層を含む
	2	暗灰黄色2, 5Y4/2	シルト	基本6層を含む		4	褐灰色10YR4/1	シルト	3より粘性あり
	3	暗灰黄色2, 5Y4/2	砂質シルト		P 2	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	
P 6	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	基本7層を含む		2	灰黄褐色10YR4/2	シルト	基本6層を含む
	2	にぶい黄褐色10YR4/3		基本6・7層を含む		3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	基本7層を含む
	3		シルト	基本6・7層を含む		4	にぶい黄褐色10YR5/3	シルト	
P 7	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	基本6・7層を含む		5	黒褐色10YR3/1	粘土	基本6層を含む
	2	暗灰黄色2, 5Y4/2	シルト			6	灰黄褐色10YR4/2	シルト	
	3	暗オリーブ褐色2, 5V3/3	シルト			7	褐灰色10YR4/1	粘土	本6層を含む
P 8	1	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト		P 3	1	黄褐色10YR4/2	砂質シルト	
	2	灰黄褐色10YR4/2	シルト	基本7層を含む		2	灰黄褐色10YR4/2	シルト	
	3	灰黄褐色0YR4/2	粘質シルト			3	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
P 9	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト						
	2	灰黄褐色10YR4/2	シルト	基本7層を含む					

第45図 S B 1 建物跡



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
MESBPI	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		P 5	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		P 9	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		P 11	3	暗褐色0YR3/3	シルト質粘土	
P 2	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		2	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト	褐灰色土を含む		2	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		4	褐灰色10YR5/1	シルト質粘土			
	2	黒褐色10YR3/1	シルト質粘土	黄褐色土を多量に含む	3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質シルト			3	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト		5	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト			
	3	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト		4	灰黄褐色10YR5/2	シルト質粘土			4	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土	暗褐色土を含む	6	灰黄褐色10YR5/2	シルト質粘土	暗褐色土を含む		
	4	灰黄褐色10YR5/2	シルト質粘土		5	褐灰色10YR5/1	シルト質粘土			5	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト		7	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土			
	5	褐灰色10YR5/1	シルト質粘土		6	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	灰黄褐色土を含む		P 10	1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	明黄褐色土を含む	8	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト		
	6	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト		7	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト			2	灰黄褐色10YR4/2	シルト		9	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土			
P 3	1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭を少量含む	8	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	灰黄褐色土を含む		3	灰黄褐色10YR4/2	シルト		10	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト			
	2	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト		9	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	黒褐色土を含む		4	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	灰黄褐色土を含む	P 12	1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト		
	3	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト		10	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土			5	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		2	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト			
P 4	1	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト		11	灰黄褐色10YR5/2	シルト質粘土			6	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト		3	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト			
	2	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト		12	褐灰色10YR4/1	シルト質粘土			7	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土		4	褐灰色10YR4/1	シルト質粘土			
	3	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト		13	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	黒褐色土を含む		P 11	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		5	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土		
	4	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト	灰黄褐色土を含む	14	灰黄褐色10YR2/2	粘土質シルト			2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土		6	黒褐色10YR3/1	シルト質粘土			
	5	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト																

第46図 S B 2 建物跡



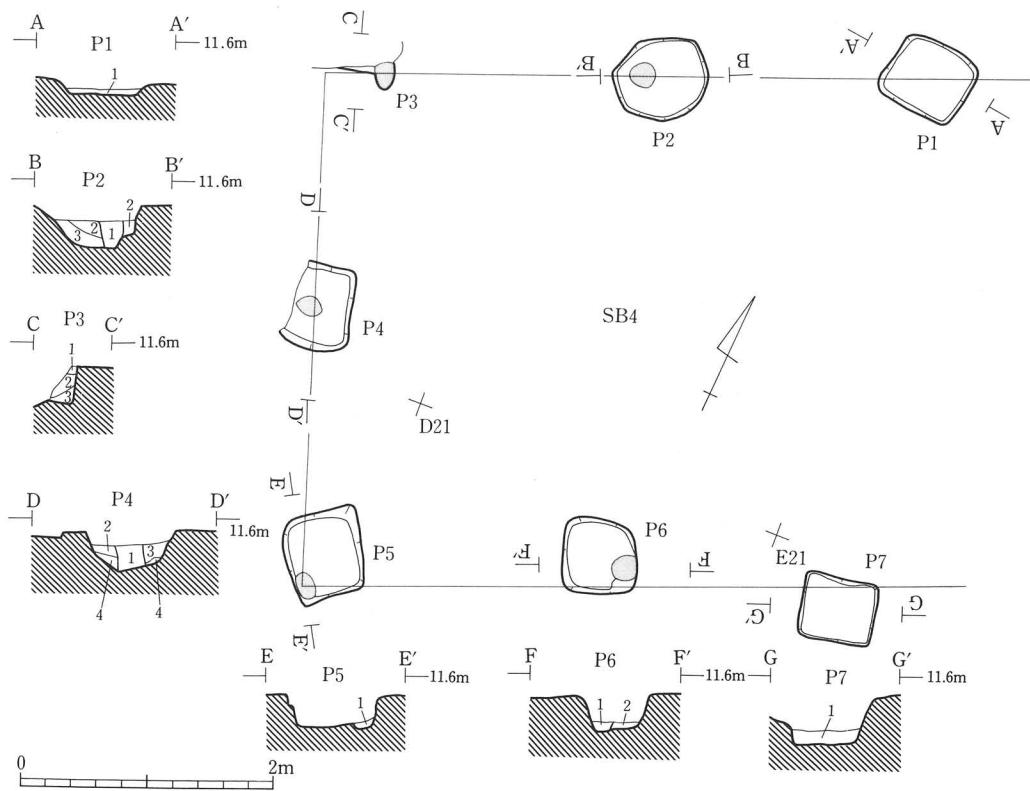
遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
P1	1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土	焼土含む	P4	1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	炭を少量含む
	2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	焼土、炭を多量に含む		2	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	
	3	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト			1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	炭を少量含む
	4	灰黄褐色10YR4/2	粘土			2	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	
	5	灰黄褐色10YR4/2	粘土			1	黄灰色2, 5Y4/1	粘土	炭を少量含む
P2	6	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土	黒色土少量含む		2	暗褐色10YR3/3	粘土	炭を多量含む
	1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト			3	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土	
	2	灰黄褐色10YR4/2	粘土	焼土、炭を少量含む		4	褐色10YR4/4	粘土	
	3	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	灰色の土を含む		1	黑褐色2, 5Y3/2	粘土	径 2 cm の炭を含む
	4	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土			2	黑褐色2, 5Y3/2	粘土	
	5	黑褐色2, 5Y3/2	粘土質シルト						
P3	1	黑褐色2, 5Y3/2	粘土質シルト						
	2	黑褐色10YR3/2	粘土質シルト						
	3	黑褐色10YR3/2	粘土	炭を少量含む					

第47図 SB3 建物跡

II区 CD-8・9 グリッドの 5 層上面で確認した。小溝状遺構よりも新しい。桁行 3 間、梁行 2 間の東西棟である。建物総長は桁行が 4.65～4.73m、梁行が 3.45～3.6m である。柱間寸法は桁行が 1.53～1.62m である。方向は N-87° -E でほぼ東西方向である。柱穴は 50cm 前後の方形、不整円形である。深さは P10 が 70cm、他は 50～55cm である。いずれも径 10～15cm の柱痕跡を持つ。出土遺物はない。

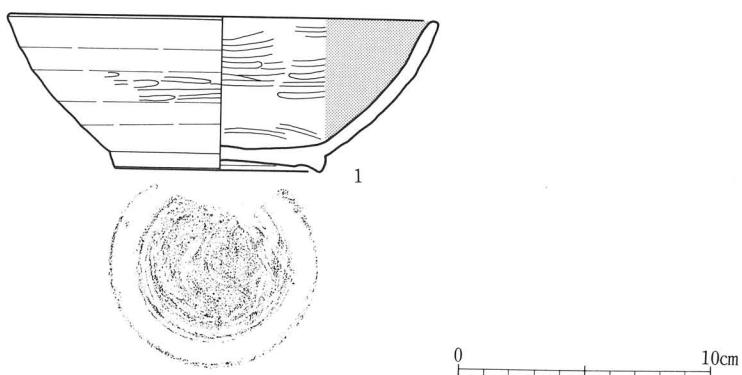
SB2 建物跡（第46図）

II区 A～C・10～12 グリッドの 5 層上面で確認した。小溝状遺構より新しい。桁行 5 間、梁行 1 間の南北棟である。建物総長は桁行が 8.13～7.85m、梁行が 4.7～4.6m である。方向は N-7° -W で真北からやや西に振れている。柱穴は方型を基調としているが規模は 60cm 四方から



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
P 1	1	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	灰色土まだらに含む	P 4	1	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	
P 2	1	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト			2	灰黃褐色10YR4/2	シルト質粘土	灰色黑色土をまだらに含む
	2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	灰色、黄色の土まだらに含む		3	暗灰黄色2, 5Y4/2	シルト質粘土	灰色土まだらに含む
	3	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	灰色、黄色の土まだらに含む		4	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	黒灰色土を多量含む
P 3	1	暗灰黄色2, 5Y4/2	シルト質粘土		P 5	1	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	灰色、黄色土を多量含む
	2	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト		P 6	1	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	灰色、黄色土を多量含む
	3	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト			2	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	

第48図 SB4 建物跡



遺構	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1	SB4柱穴	土師器碗	17.0	8.3	6.1	1/4	底：回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 外：ロクロナデ→ヘラミガキ 内：ヘラミガキ、黒色処理	D38

第49図 SB4 出土遺物

150×85cmまであり不揃いである。P 6以外は10~17cmの柱痕跡を持つ。出土遺物はない。

SB3 建物跡（第47図）

III区C・D-16・17グリッドの6層上面で確認した。SI 6より古い。南北2間、東西2間だが、東西がやや長く東西棟とした。建物総長は桁行が3.2~2.8m、梁行が2.65~2.75mである。柱間寸法は1.35~1.5mである。方向はN-82°-Eである。柱穴は形状も規模も不揃いで、深さは20~55cmである。出土遺物はない。

SB4 建物跡（第48図）

III区C・D-19~20グリッドの6層上面で確認した。梁行2間、桁間2以上の東西棟と考えられる。梁行は4.05mで、柱間寸法は1.95~2.54mである。方向はN-70°-Eである。柱穴は50~60cmの方形で、深さは20~35cmである。P 2~5は柱痕跡を持つ。柱穴のひとつから土師器碗が出土している（第49図1）。丸みを持つ体部であり、高台は低く、断面三角形である。磨滅しているが、体部外面にもヘラミガキが一部残存している。

小結

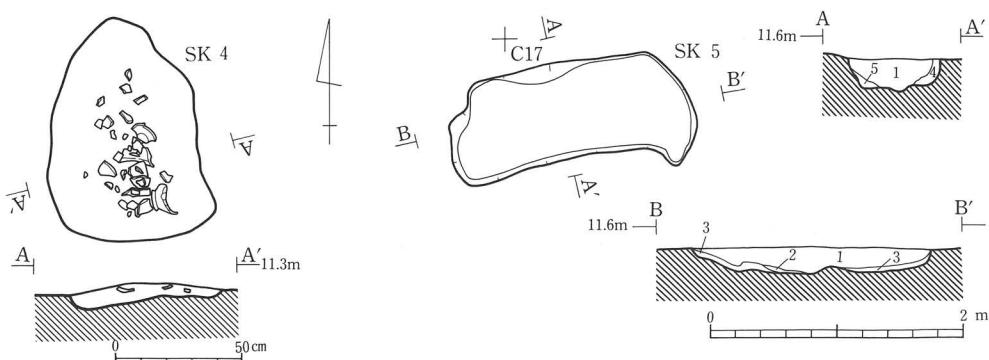
建物跡の時期は、SB 1・2は後述する東西方向の小溝状遺構群Bを切っており、B群を切る小溝状遺構群A群が平安時代初期以前に位置づけられることから、おおむね奈良時代以降の所産と考えられる。SB 3は上面の住居群の時期からおおむね奈良時代以降の所産と考えられる。SB 4は柱穴出土遺物から平安時代の所産と考えられる。

③土坑（第4表）

I区の5層でSK 4 土坑、III区の6層でSK 1 土坑を検出している（第50図）。SK 4からは

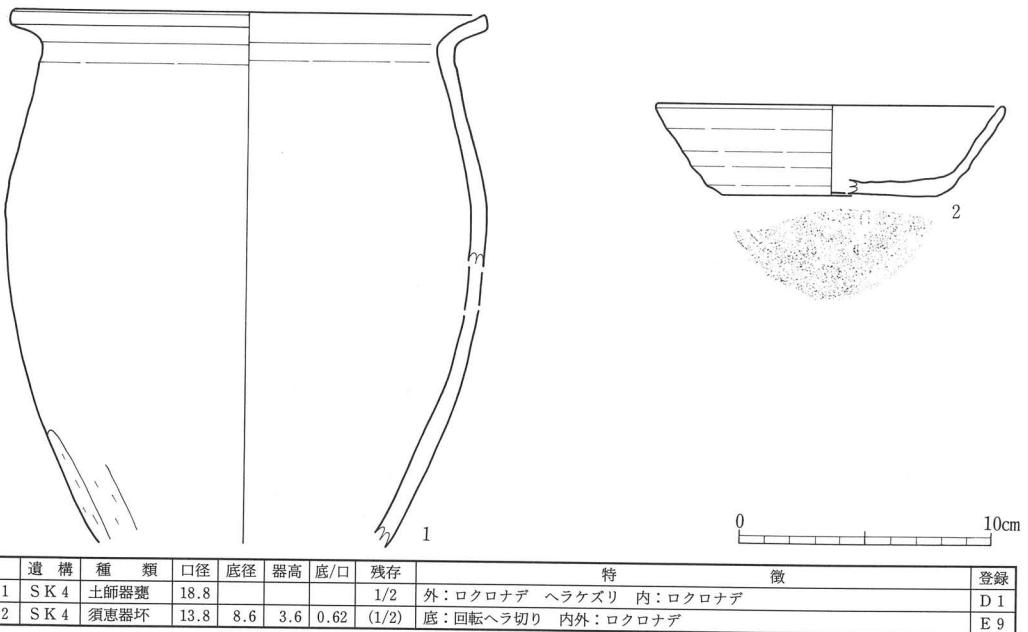
遺構名	地 区	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	断面計	備 考
SK4	I A 5 5層	0.9×0.6	—	8	Ⅲ形	
SK5	III C17 6層	1.95×0.75	1.85×0.7	22	U字形	

第4表 土坑計測表(1)



遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SK4	1	黒褐色10YR2/3	砂質シルト		SK5	3	黒褐色7.5YR3/2	砂質シルト	
	2	にぶい黄褐色10YR4/3	細砂質シルト			4	暗褐色10YR3/3	砂質シルト	
						5	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	

第50図 SK 4・5 土坑



第51図 SK 4 出土遺物

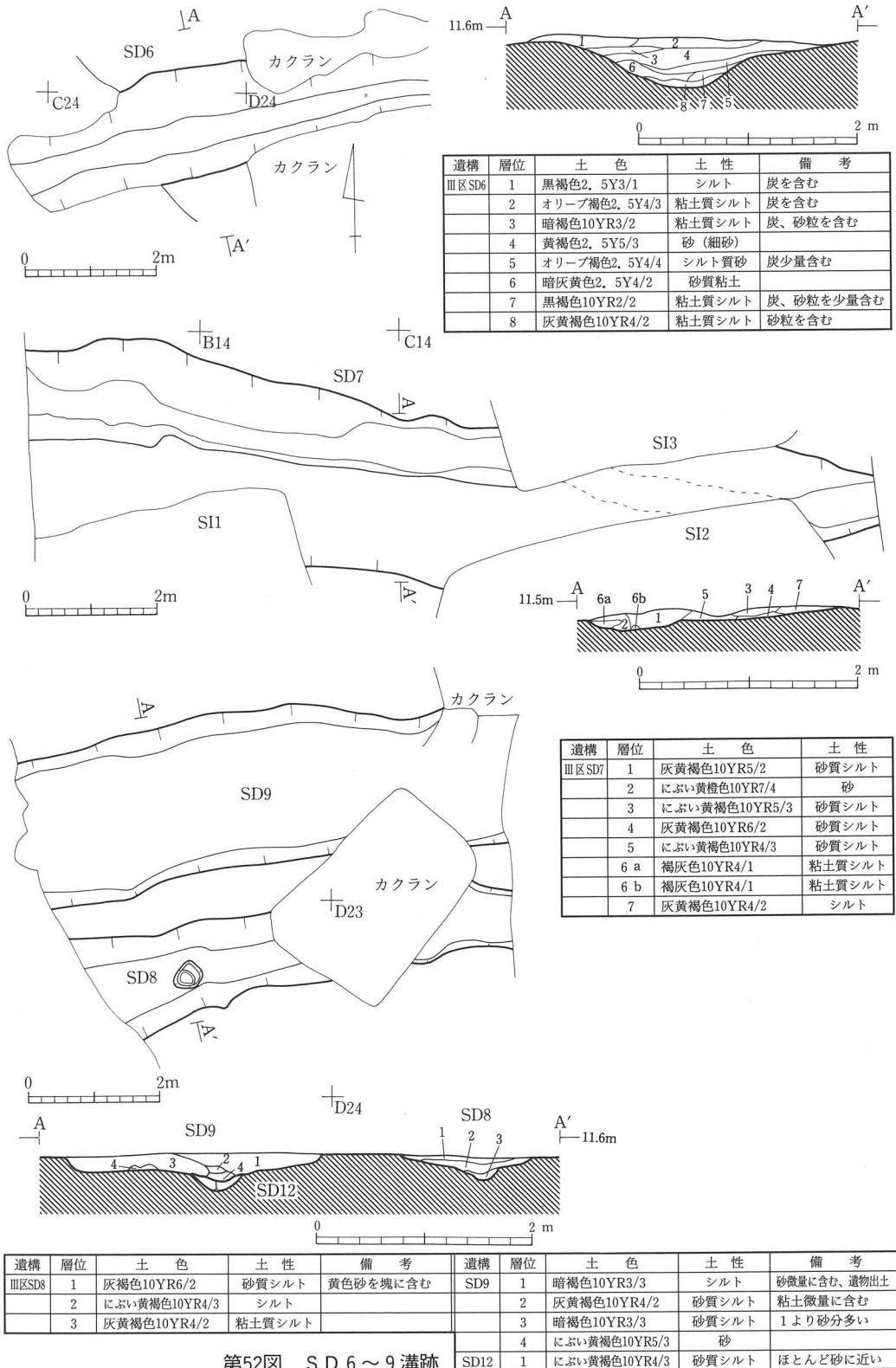
土師器甕と須恵器坏が出土している（第51図1・2）。1は基本層4層出土片と接合している。ロクロ使用のもので、体部下半にヘラケズリを施される。2は底部の切り離しが回転ヘラ切りである。SK 4は遺物から平安時代の所産とされ、SK 1は上下の層からおおむね古墳時代とされよう。

④溝跡 (第5表)

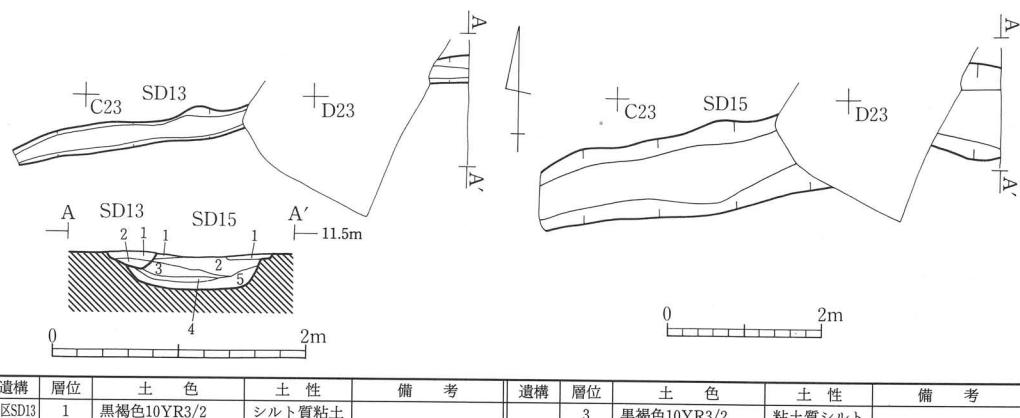
5層でSD23・24溝跡を検出している。SD23はSD2、小溝状遺構群よりも新しく、堆積土中位に灰白色火山灰を含んでいる。非ロクロ土師器坏、ロクロ土師器坏（第57図8）が出土している。8は厚手の坏でSD24出土片と接合している。底部は回転糸切り後無調整である。底部内面のヘラミガキは放射状である。SD24は小溝状遺構群より新しく南東方向がA4・5グリッドで南東方向へ強く屈曲している。II区5～7グリッド付近のみに分布する5c層の供給源と考えられる。SD23は堆積土と遺物から平安時代の所産と考えられ、SD24もそれに近い時期とされよう。SD25AはSD25B・Cより新しく、SD25B・Cの新旧は不明である。これらの時期の詳細は不明である。

6層でSD6・7溝跡を検出している。SD6から非ロクロ土師器坏（内黒）・甕が、SD7からは非ロクロ土師器坏（内黒）が出土しているが、小破片で図示していない。これらの時期は上下の層の時代から大まかに古墳時代とされよう。

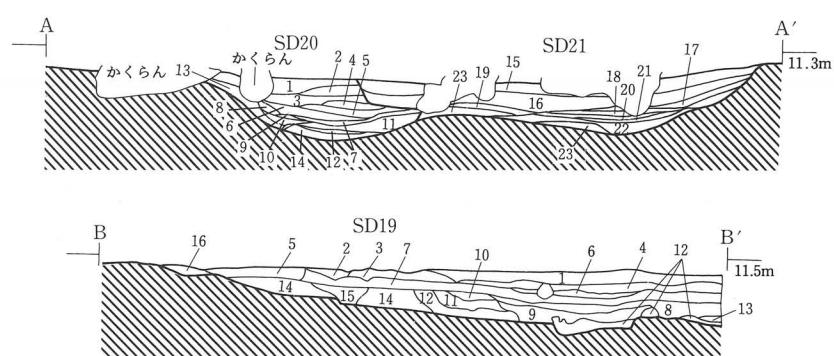
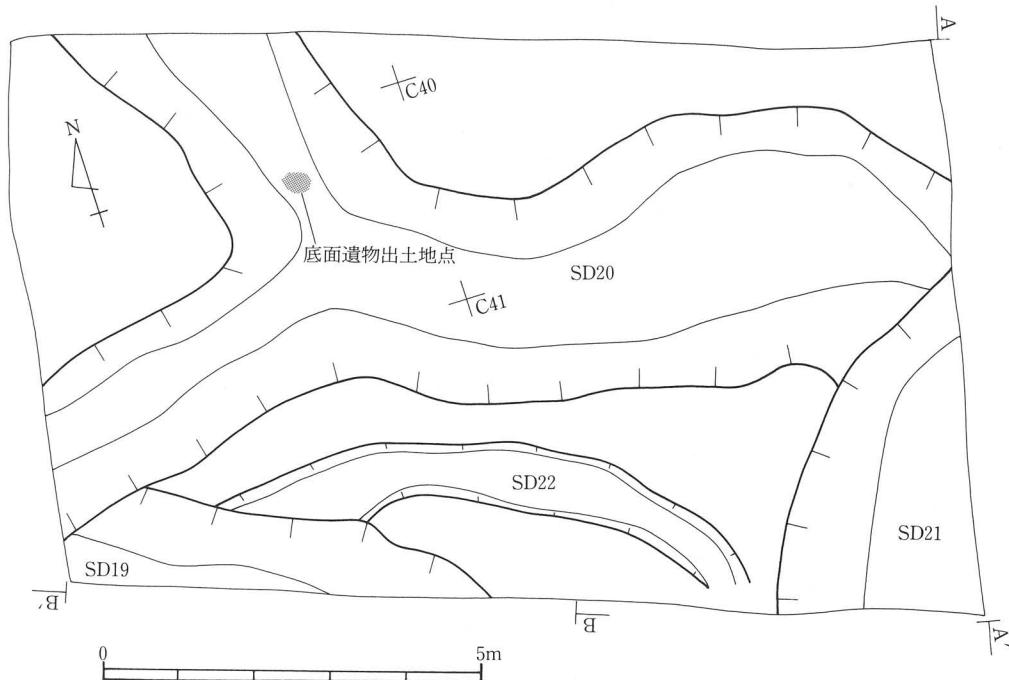
7a-1層ではSD8・9を検出している。SD8からは非ロクロ土師器甕が出土しているが小破片で図示していない。SD9はSD12、畦畔8より新しく、非ロクロ土師器甕・紡錘車が出土



第52図 S D 6 ~ 9 溝跡

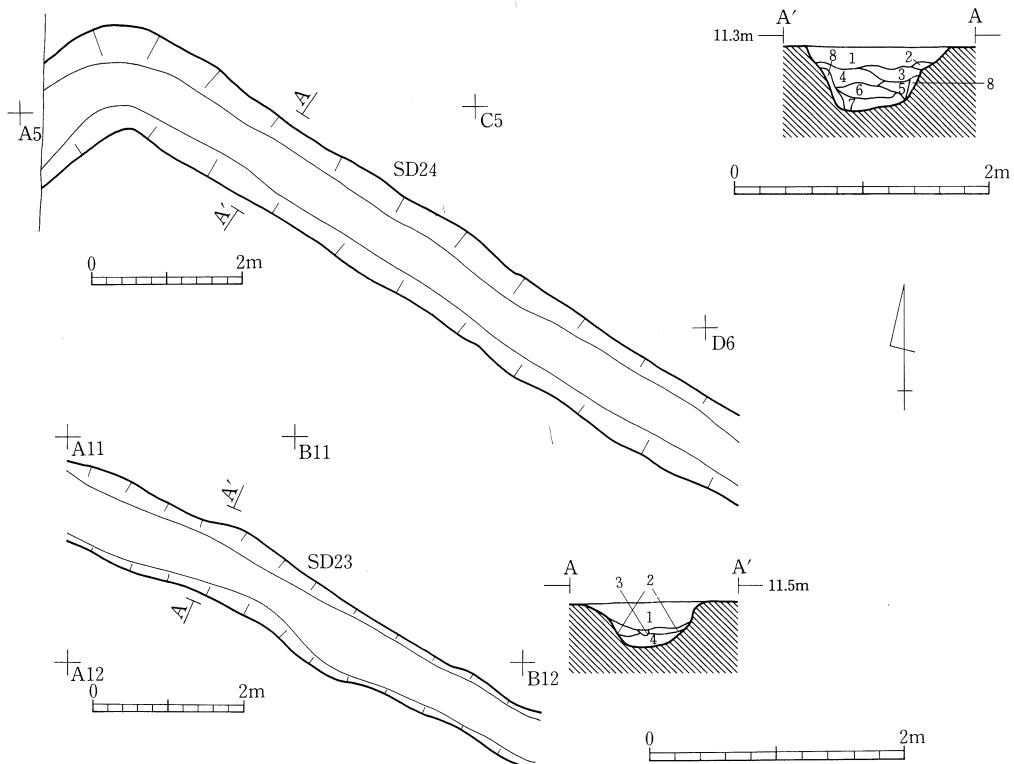


第53図 S D 13・15溝跡



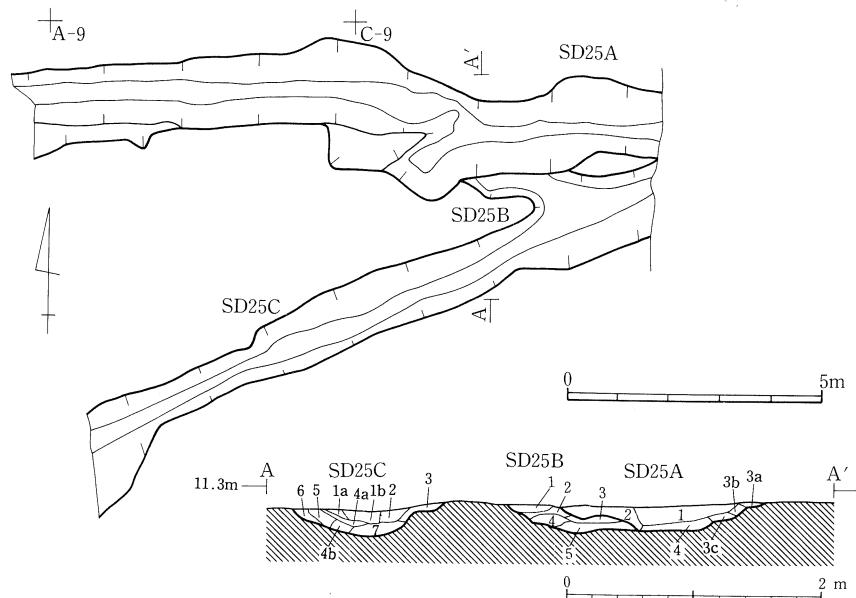
第54図 IV南区 S D 19～22溝跡

遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
IV区SD20	1	灰黄褐色10YR5/2	シルト			2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	
	2	灰黄褐色10YR4/2	シルト			3	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	3	黒褐色10YR3/2	シルト			4	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	
	4	暗褐色10YR3/3	シルト			5	黒褐色10YR3/2	シルト	
	5	にぶい黄褐色10YR4/3				6	灰褐色10YR4/2	粘土質シルト	
	6	黒褐色10YR3/2	粘土			7	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	7	灰黄褐色10YR4/2	粘土	炭縞状にあり		8	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
	8	灰黄褐色10YR5/2	シルト			9	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	炭、焼土を含む
	9	黒褐色10YR3/2	粘土			10	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	
	10	黄灰色10YR4/1	粘土			11	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
	11	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土			12	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト	
	12	褐色7.5Y4/6	粘土			13	黒褐色10YR3/2	シルト	炭、焼土を含む
	13	褐灰色10YR5/1	粘土質シルト			14	灰黄褐色10YR5/2	粘土質シルト	
	14	褐灰色2.5Y4/1	粘土			15	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
SD19	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト						

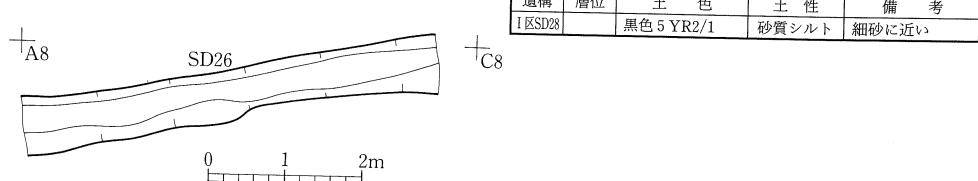
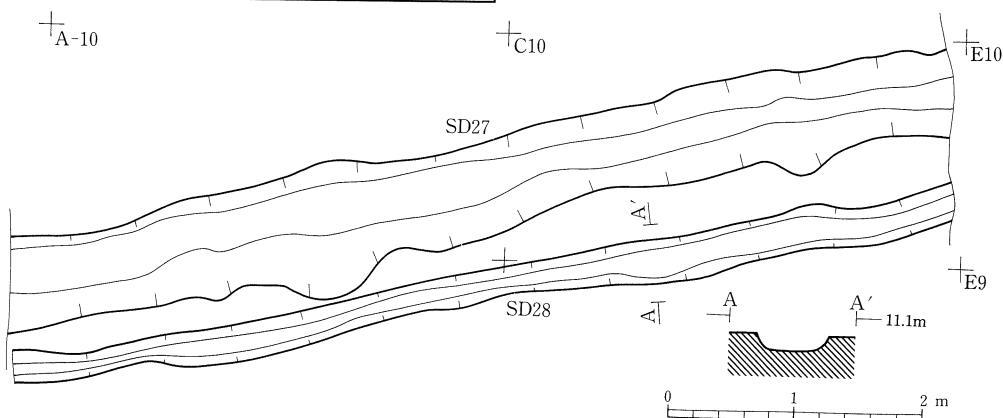


遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
III区SD23	1	暗灰黄色2.5Y4/2	シルト	灰白火山灰を含む	IV区SD24	3	灰黄褐色10YR4/2	細砂	
2	暗灰黄色2.5Y4/2	シルト	灰白火山灰を含む		4	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト		
3	黒褐色2.5Y3/2	粘土質シルト			5	にぶい黄褐色10YR5/3	粗砂		
4	暗灰黄色2.5Y4/2	粘土質シルト			6	灰黄褐色10YR4/2	細砂	基本6層を塊状に含む	
III区SD24	1	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	炭を含む	7	黒褐色10YR3/1	粘土	基本6・7層を塊状に含む	
	2	にぶい黄褐色10YR5/4	細砂		8	にぶい黄褐色10YR4/3	細砂		

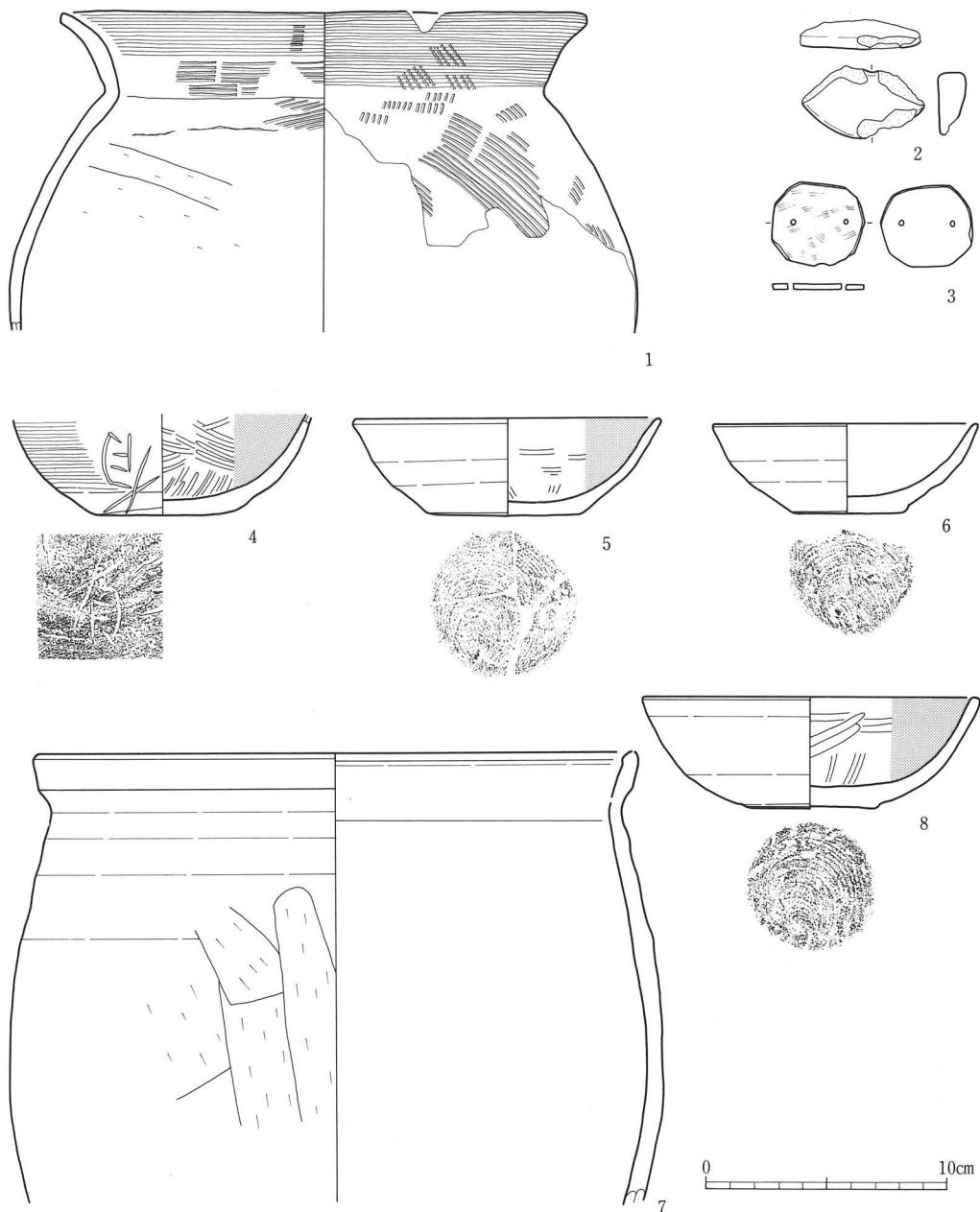
第55図 S D 23・24溝跡



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SD25A	1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土		SD25C	1 a	褐色10YR4/4	シルト質粘土	
	2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土			1 b	褐色10YR4/4	シルト質粘土	
	3 a	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土			2	にぶい黄褐色10YR5/4	シルト質粘土	
	3 b	暗褐色10YR3/4	シルト質粘土			3	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
	3 c	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土			4 a	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土	
	4	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土			4 b	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	
SD25B	1	褐色10YR4/4	砂			5	暗褐色10YR3/3	砂	
	2	褐色10YR4/4	シルト			6	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土	
	3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト			7	褐色10YR4/4	シルト	
	4	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト						
	5	褐色10YR4/4	シルト						



第56図 S D 25~28溝跡



遺構	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1 SD9 ①	土師器甕	21.6				1/4	口内外：ハケメ→ヨコナデ 体外：ハケメ 体内：ケズリ	C 32
4 SD20底面	土師器坏？		5.5			(1)	外：ナデ 内：ヘラミガキ、黒色処理 線刻「有」焼成前	C 38
5 SD20底面	土師器坏	12.7	6.2	4.1	0.49	3/4	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理	D 102
6 SD20底面	赤燒土器坏	11.0	4.8	3.7	0.44	1/4	底：回転糸切り	D 101
7 SD20底面	土師器甕	25.0				3/4	外：ロクロナデ、ヘラケズリ	D 103
8 SD23・24	土師器坏	14.0	5.2	4.6	0.37	1/4	底：回転糸切り 内：ヘラミガキ、黒色処理 外：ロクロナデ	D 6

第57図 溝跡出土遺物

している（第57図1・2）。1は体部が丸く膨らみ、口縁部が外反し、体部外面の調整がハケメで、古墳時代前半のものである。2は紡錘車の破片である。これらの時期は7層の大まかな時期と遺物から弥生時代後期から古墳時代前半にかけてのものといえる。

7a-2層でIII区 SD11・12・13・15・16・17、I区 SD26・27・28を検出している。SD11・16・17は畦畔6・7とSD12は畦畔8とともに水田跡を構成するものである。SD13・15はSD8の下位にあるものでSD13がSD15よりも新しい。SD15からは非ロクロ土師器甕が出土しているが、小破片で図示していない。SD26・27・28の堆積土中からは弥生土器が出土しているが、I区では7a-2層が7層の上面でその弥生包含層を掘り込んでいること、I区D10一括土器（南小泉式）がSD27の上面にのることなどから、SD26・27・28は弥生時代後期から古墳時代前半にかけてのものとされる。

IV南区では5層でSD19・20・21・22溝跡を検出した。SD20は調整区中央やや西寄りで合流し、東へ延びている。SD20の堆積土、底面から遺物が出土している。堆積土からは非ロクロ土師器壺（内黒、非内黒）・甕、ロクロ土師器壺・高台壺・甕、赤焼土器壺、須恵器壺、石製模造品（第57図3）が出土している。底面からは非ロクロ土師器壺（内黒・非内黒）・同壺（同図4）、ロクロ土師器壺（5）・甕（7）・赤焼土器（6）、須恵器壺・甕が出土している。4は壺で焼成前に外面に「有」の文字が逆位に線刻されるもので、7世紀後半から8世紀前半の頃のものと考えられる。7の甕は口縁部が短く直立気味である。SD20は4以外の底面出土の土器の特徴から平安時代の所産とされる。

⑤水田跡（第58・59図）

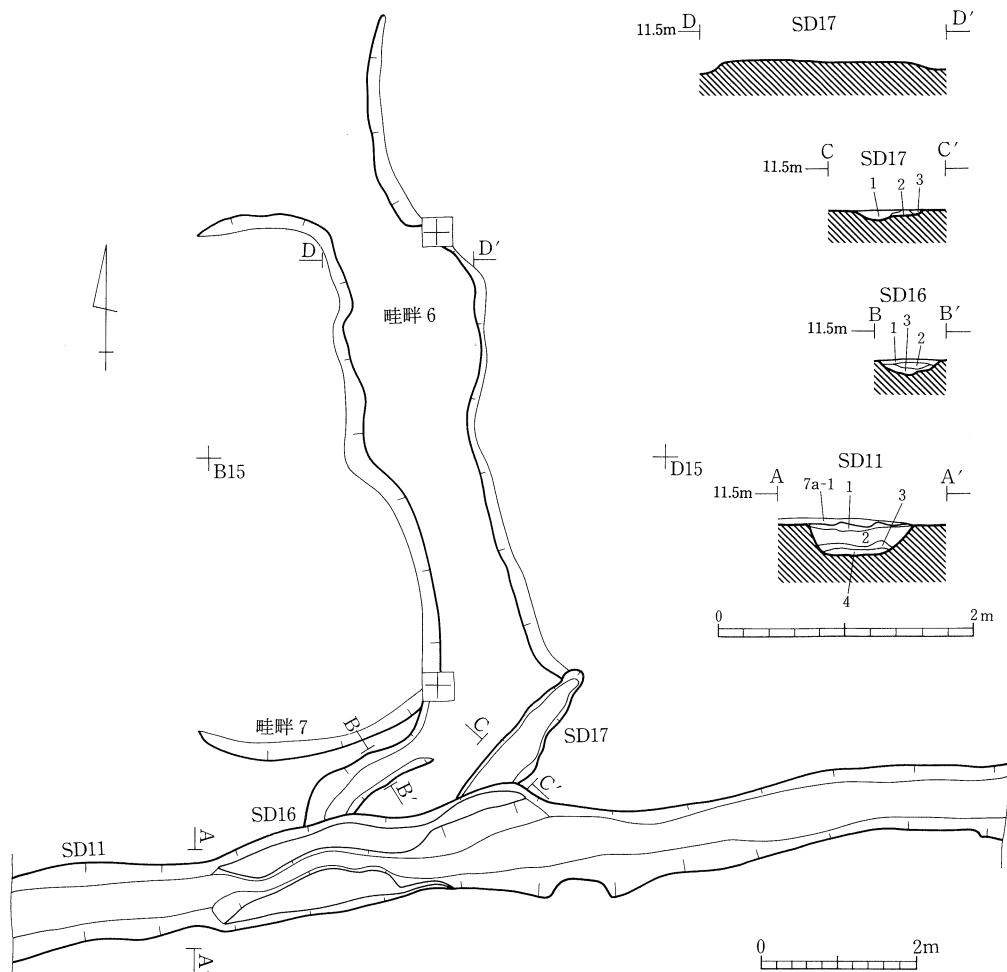
7a-2層で検出された畦畔6・7・8とSD11・12・16・17で構成される。畦畔の計測表は第6表である。畦畔6・8と同一のもので、総長27mになる。畦畔6の南端部で畦畔7と交わ

遺構名	地区	検出長(m)	方 向	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)	断面形	備 考
SD6	C・D-23・24	6.7	N-77°-E	106~170	20~50	45	舟底形	東へやや傾斜
SD7	A-C-14・15	13	N-80°-W	80~270	30~70	10~15	皿形	東へやや傾斜
SD8	B-C-22・23	6.8	N-80°-E	90~160	47~93	15	皿形	東へやや傾斜
SD9	B-C-22	7	N-83°-E	230	185	15~25	舟底形	東へやや傾斜
SD11	A-E-18・17	13	N-82°-E	80~110	30~70	25	舟底形	東へやや傾斜
SD12	B-C-19~22	15	N-15°-W N-78°-E	30~ 60	15~30	15	U字形	南西へ傾斜
SD13	B-C-22・23	6	N-78°-W	27~ 45	20~30	13	U字形	東へやや傾斜
SD15	B-C-22・23	6.3	N-80°-E	100~120	40~80	25	舟底形	
SD16	B-17	2.4	N-46°-E	50	30	12	皿形	
SD17	C-17	2.4	N-40°-E	30~ 80	15~40	8	皿形	
SD19	IV南区	5.7	N-60°-W	—	—	35	—	
SD20	IV南区	7.5	N-72°-W	200~370	60~200	70	舟底形	東へ傾斜
SD21	IV南区	5	N-36°-E	—	—	70	—	
SD22	IV南区	7.5	N-65°-W	60~100	38~80	8	—	
SD23	IIA・B-11・12	12	N-62°-W	70~100	40~70	35	舟底形	埋土中に灰白あり
SD24	A-D-4~6	13	N-55°-W N-45°-E	100~120	50~60	50	舟底形	東へ傾斜、西で屈曲
SD25A	A-D-9	13	N-87°-W	130~150	20~60	20	皿形	東へ傾斜
SD25B	D-8	0.7	—	90	60	20	—	
SD25C	A-D-7・8	12	N-65°-E	70~140	20~50	20	皿形	東へやや傾斜
SD26	A・B-8	5.5	N-80°-E	60~ 80	20~40	20	—	
SD27	A-D-9・10	12.5	N-78°-E	100~170	30~70	15~30	—	西へやや傾斜
SD28	A・B-9、C・D-10・11	13.0	N-78°-E	30~ 60	10~40	20	—	東へやや傾斜

第5表 SD計測表（2）

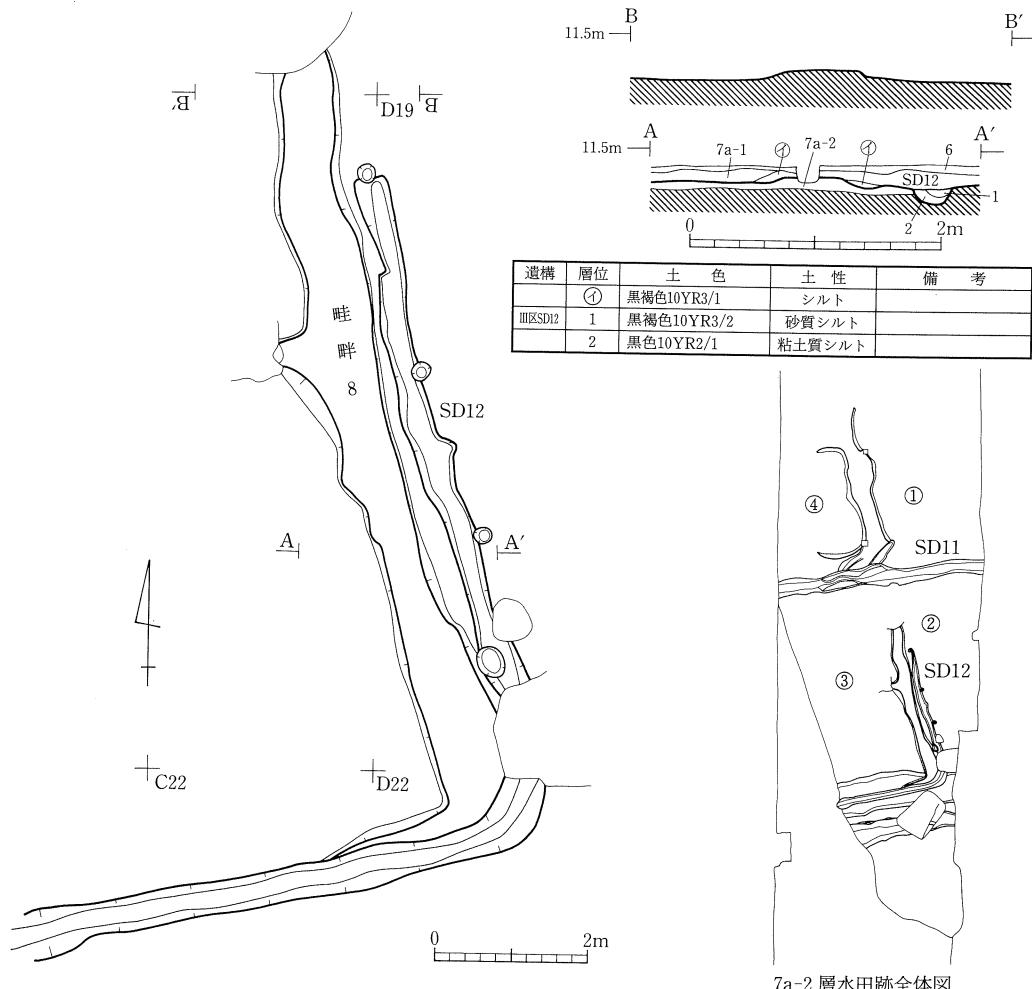
り、畦畔7の南に接し、畦畔6に直交してSD11が延びている。畦畔6・7の交点部分でSD11からSD16・17が北東方向に分岐している。さらにこの場所の底部は細くすぼまっている。SD11の堆積土下部には砂層があり、SD16・17の堆積土も砂・砂質土であることから水路と考えられ、SD16・17は水口と理解される。SD12は畦畔8の東に接して南下し、ほぼ直角に西に曲がり東西方向になる。東西方向部分に畦畔はないがSD9に切られたと考えられ、SD12畦畔に伴う溝と理解される。これらの畦畔や溝跡により四つの水田区画(①～④)が考えられ、さらに畦畔8の中央付近から西へ畦畔が若干分岐する箇所がみられ、③はさらに区画される可能性がある。区画レベルは④③①②の順に低くなる。

これらの水田跡の耕作土は検出面である7a-2層と考えられる。ただし7a-2層の畦畔が疑



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
Ⅲ区SD16	1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質砂		Ⅲ区SD11	1	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	
	2	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質砂			2	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	
	3	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質砂	1・2層より砂粒を多く含む		3	褐色灰10YR6/1	砂	
Ⅲ区SD17	1	灰黄褐色10Y4/2	砂質シルト			4	褐色灰5/1	砂質シルト	
	2	暗褐色10YR3/3	砂質シルト						

第58図 7a-2層水田跡 (1)



第59図 7a-2層水田跡（2）

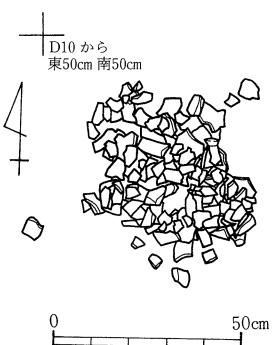
7a-2層水田跡全体図
(1/500)

畦畔No	検出長(m)	方向性	方 向	上幅(cm)	下幅(cm)	高さ(cm)	備 考
6	9	直	N-13°-W	90~180	125~210	5~14	
7	3.2	直	N-77°-E	90	120	5	SD11に接する
8	10	直	N-13°-W	70~100	80~130	5~12	SD12に接する

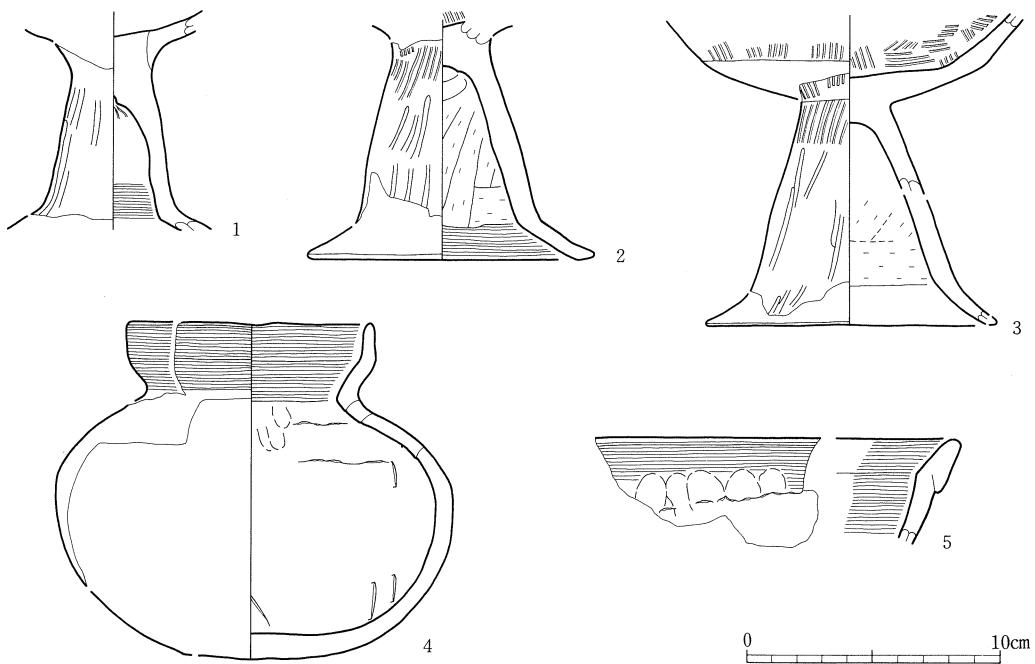
第6表 畦畔計測表（2）

似畦畔B（斎野：1987）とすれば上層の7a-1層が耕作土である可能性がでてくる。7a-1層の分布が畦畔が検出された範囲と一致することやSD 8・9の間が畦状に盛り上がりことなどはそれを物語るものかもしれない。

この水田跡の時期は、7a-2層がI区で弥生の包含層であるもののIII区では遺物が少なくなることや7a-1層検出のSD 9から古墳時代前半の土器が出土していること、SD15から非口クロ土師器片が出土していることなどか



第60図 I区 D10—括土器



種類	口径	底径	器高	残存	特徴	登録
1 土師器高壺					壺内外：ハケメ 脚外：ハケメ→ヘラミガキ 脚内：ナデ、ヘラケズリ	C 1
2 土師器高壺					壺内：ハケメ 脚外：ハケメ→ミガキ、ナデ？→ミガキ 脚内：ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	C 4
3 土師器高壺					脚外：ヘラミガキ 脚内：ヨコナデ	C 3
4 土師器壺	9.5	6.0	13.4	1/2	口内外：ヨコナデ 体内：ヘラナデ	C 6
5 土師器甕					ヨコナデ	C 5

第61図 I区 D10 一括土器遺物

ら、弥生時代後期から古墳時代前期の時期と捉えたい。

⑥ I区 D10 グリッド一括土器 (第60・61図)

6層相当層中で45×55cmの楕円形、深さ4cmの範囲内に土師器がまとまって出土した。土坑などのプランは確認されなかった。7層上面検出のSD27の堆積土上位に位置し、SD27の時期の下限を示すものである。器種は高壺(1～3)、壺(4)、甕(5)がある。高壺の脚部は中空で、台部の広がりはわずかである。壺は短頸で、口縁部が屈曲して直立し、体部の張りは強い。これらの土器はその特徴から古墳時代中期の南小泉式に比定される。完形に復元できる個体はないことから廃棄されたものの可能性が高い。

⑦ 小溝状遺構群 (第16図)

I・II・III区23グリッド以北の5・6層で検出されている。これらの小溝状遺構は分布域と方向性から大きくABCの3群に分けられる。

A群はI区7グリッドからII区6グリッドにかけて検出された南北方向の一群である。おも

に5層上面で検出されている。方向は真北から西へやや振れた(10°程)ものがある。幅20~80cmであるが40cm前後のものが多い、深さは3~22cm、平均13cmである。間隔は10~150cmで、B・C群に比べ疎である。B群を切っている。

B群はI区8グリッドからII区にかけて5層及び6層で検出された東西方向の一群である。方向はやや南に振れる(10°以内)ものも多いがほぼ東西方向といえる。幅20~70cmであるが30cm前後のものが多い。深さは3~12cm、平均8cmである。間隔は10~120cmでA群に比べ密である。II区6グリッド以北ではA群に切られているが6グリッド以南では東に10°ほど振れた平行する南北の2本の小溝を介在させて三つの切り合いがみられる。

C群はIII区の17~22グリッドを中心に6層上面で検出された南北方向の一群である。方向は東へ10°ほど振れた南北方向のものがほとんどである。幅は30~60cmであるが40cmのものが多い。深さは2~16cmで平均7cmである。間隔は10~100cmでA群に比べ密である。AB群との新旧関係は不明である。

出土遺物としては非クロロの土師器坏(内黒・非内黒)・甕があるが小破片のため図示していない。

これら的小溝状遺構群の性格については、周辺地区での調査例からも畠跡に関連するものであろう(佐藤甲:1993、神成:1995)。時期については、III区のC群が上層で検出された住居群の時期からおおむね古墳時代と考えられること、II区でA群が9世紀前半頃のSI13に切られることから平安時代初め以前と考えられることなどから、A~C群は古墳時代から平安時代初め頃にかけての所産とされよう。

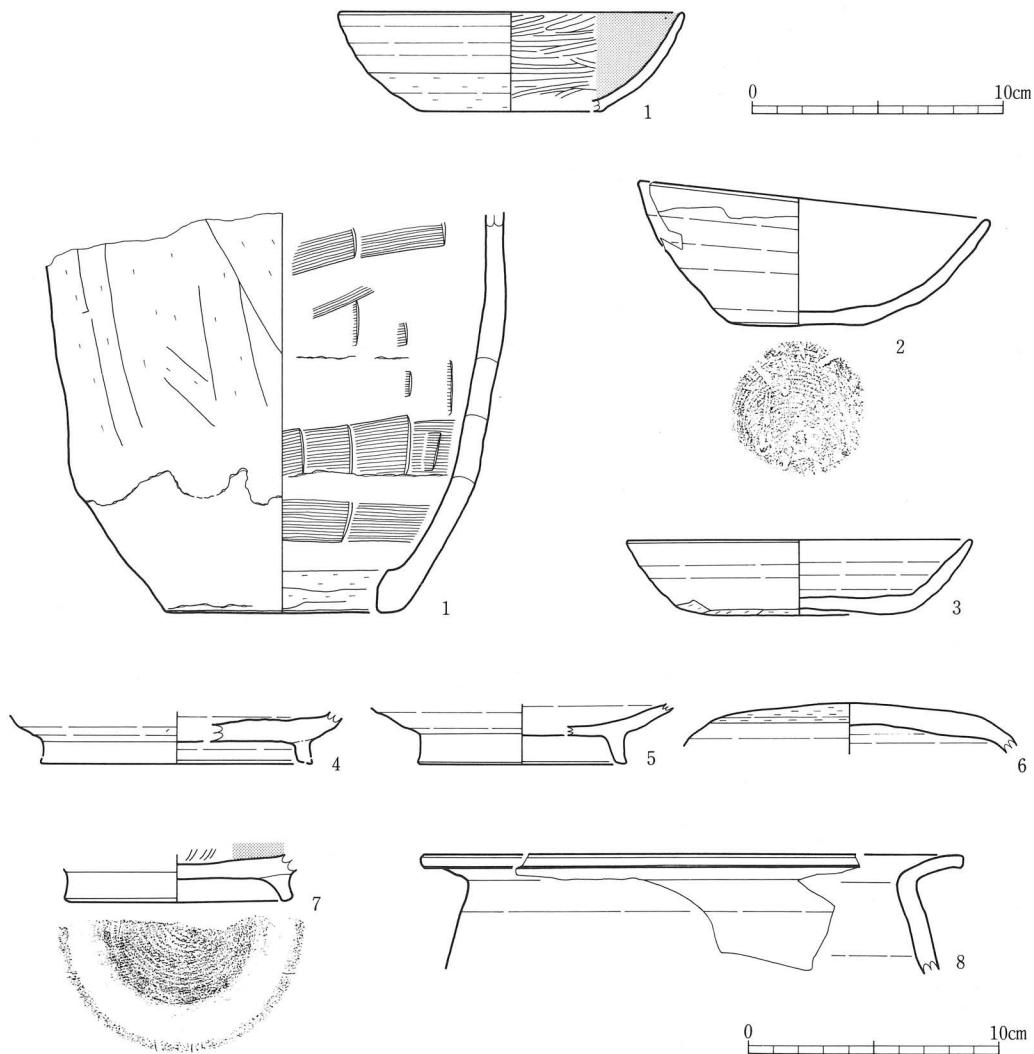
⑧基本層位出土遺物(第62図)

1層 非クロロ土師器坏(内黒・非内黒)・甕・甌(1)、クロロ土師器坏・甕・赤焼土器坏、須恵器坏・甕が出土している。

2層 非クロロ土師器坏(内黒・非内黒)・甕、クロロ土師器坏・高台坏・甕、赤焼土器坏・高台坏、須恵器坏(2)・高台坏・甕・壺・蓋が出土している。2は一応須恵器としたが色調が灰白色で焼きが甘く、内外面に黒斑を有していることから、他の資料とは印象の異なるものである。

3層 非クロロ土師器坏(内黒・非内黒)・甕・クロロ土師器坏・甕、赤焼土器坏・高台坏、須恵器坏(3)・高台坏(4・5)甕が出土している。4・5の高台は直立気味である。3は底部は切り離し後に手持ちヘラケズリされている。

4層 非クロロ土師器坏(内黒・非内黒)・甕、クロロ土師器高台坏(7)・甕(8)、赤焼土器坏・高台坏、須恵器坏(回転ヘラ切り)・高台坏・甕・蓋(6)が出土している。6の蓋は天井部外面に回転ヘラケズリが施されている。8の甕は口縁部が強く外半している。



層位	種類	口径	底径	器高	底/口	残存	特徴	登録
1 S×3	土師器杯	13.8	7.8	4.0	0.57	1/3	体外~底:回転ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黒色処理	D39
2 1層	土師器甌		9.4			(1/4)	外:かるいヘラケズリ 内:ヘラナデ、ヘラケズリ 底:木葉痕	C37
3 2層	須恵器環	14.2	5.0	5.7	0.35	1/2	底:回転糸切り 輪積み痕あり	E48
4 3層	須恵器環	13.8	9.0	3.0	0.65	1/3	底:手持ちヘラケズリ 内:ロクロナデ、ナデ	E47
5 3層	須恵器高台环		10.6			(1/4)	底:不明→回転ヘラケズリ→高台貼付→ロクロナデ	E10
6 3層	須恵器高台环		8.2			(1/3)	底:回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ	E11
7 4層	須恵器蓋					1/4	ロクロナデ 頂部:ヘラケズリ	E12
8 4層	土師器高台环		8.9			(1/2)	底:回転糸切り→高台貼付→ロクロナデ 内:ヘラミガキ、黒色処理	D 7
9 4層	土師器甌	21.6				1/4	ロクロナデ	D 2

第62図 S X・基本層出土遺物

5層 非クロ土師器壺（内黒・非内黒）、甕、ロクロ土師器壺、赤焼土器壺、須恵器壺が出土している。

6層 非クロ土師器壺（内黒）・甕が出土している。

7層 非クロ土師器壺、須恵器甕が出土している。

8層 非クロ土師器甕が出土している。

9層 非クロ土師器壺（内黒）、須恵器壺（回転糸切り）・甕が出土している。

（注：弥生時代の包含層が7層であることから、7層以下の遺物は取り上げ等の誤りがあると考えられる。）

（2）弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は7c層および8層上面で竪穴遺構2基、土壙3基、埋設土器遺構1基、遺物包含層を検出している（注）。

①竪穴遺構

SI15 竪穴遺構（第64図）

[位置確認面] I区C2・3グリッドの8層上面で確認した。

[重複] ピット群を切っている。

[平面形・規模] 上面の平面形は南東隅がやや膨らむ隅丸方形であるが、底面は北東隅が丸くなる不整方形である。南北軸長2.6～3.2m、東西軸長3mで、深さは約25cmである。

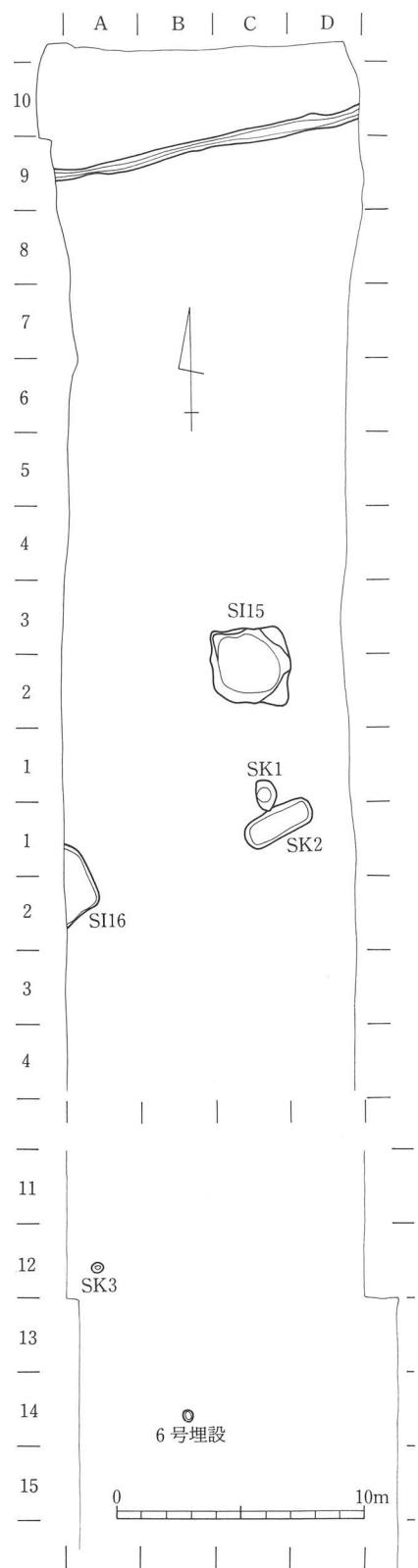
[堆積土] 7層に大別され、13層に細分される。1～5層は黒褐色シルトでほぼ全体に堆積している。4層に遺物が多く含まれる。6・7層は東半部に堆積している。

[底面] 基本層8・9層が底面となり、軟弱である。ほぼ平坦であるが北側がやや高くなっている。ピットが25個検出されているがいずれも深さが1～13cm（平均5cm）と小さく、柱穴と考えられるものはない。炉など住居に関係する施設は確認されていない。

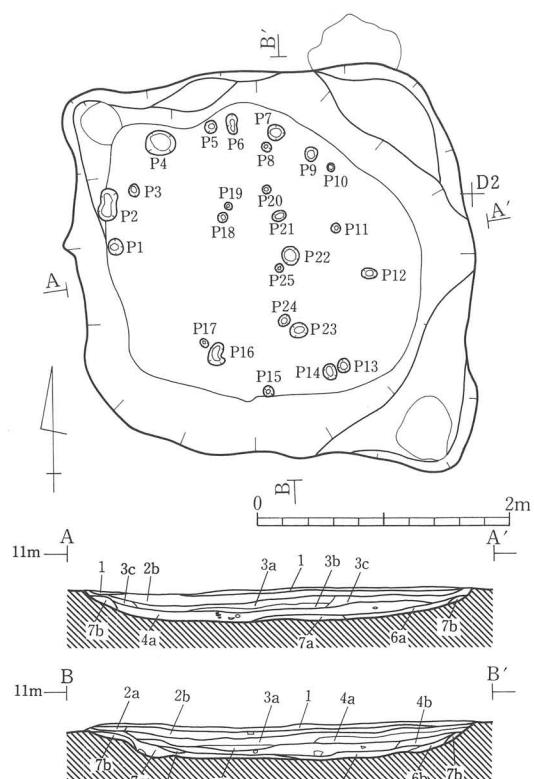
[壁] 8層を壁とし、壁高は約20cmでかなり緩く立ち上がる。確認した部分は40～50cmと良好に残存している。立ち上がりは急である。

[その他] 北辺と南東隅に緩斜面の中段部があるが施設かどうかは不明である。

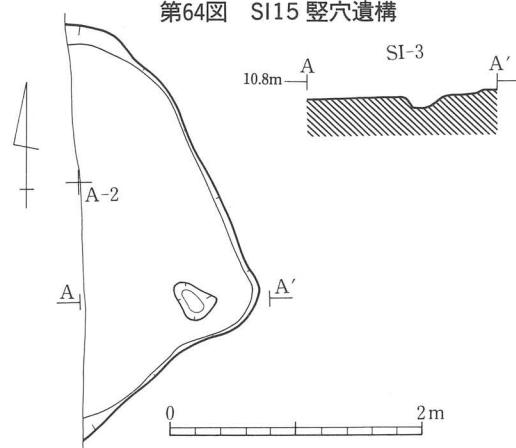
[出土遺物] 底面、堆積土中より土器、石器が出土している。土器（第66図、第67図1～8）壺・壺或は甕の口縁部・蓋・底部・体部が出土している。1は壺の頸部から肩部にかけてのもので、肩部には地文がなく、そこに斜行する2本同時の平行沈線状のものが数条観察されているがかなり痕跡が薄く調整痕の可能性もある。体部中央より下は斜行するLR縄文である。この壺は堆積土下半部から出土しているが底面直上のものが多い。第66図7・8は平行沈線文が施文されている。同図9～67図5は壺ないし甕の口縁部で、9～第67図2は複合口縁ないし肥厚する口



第63図 弥生時代遺構配置図

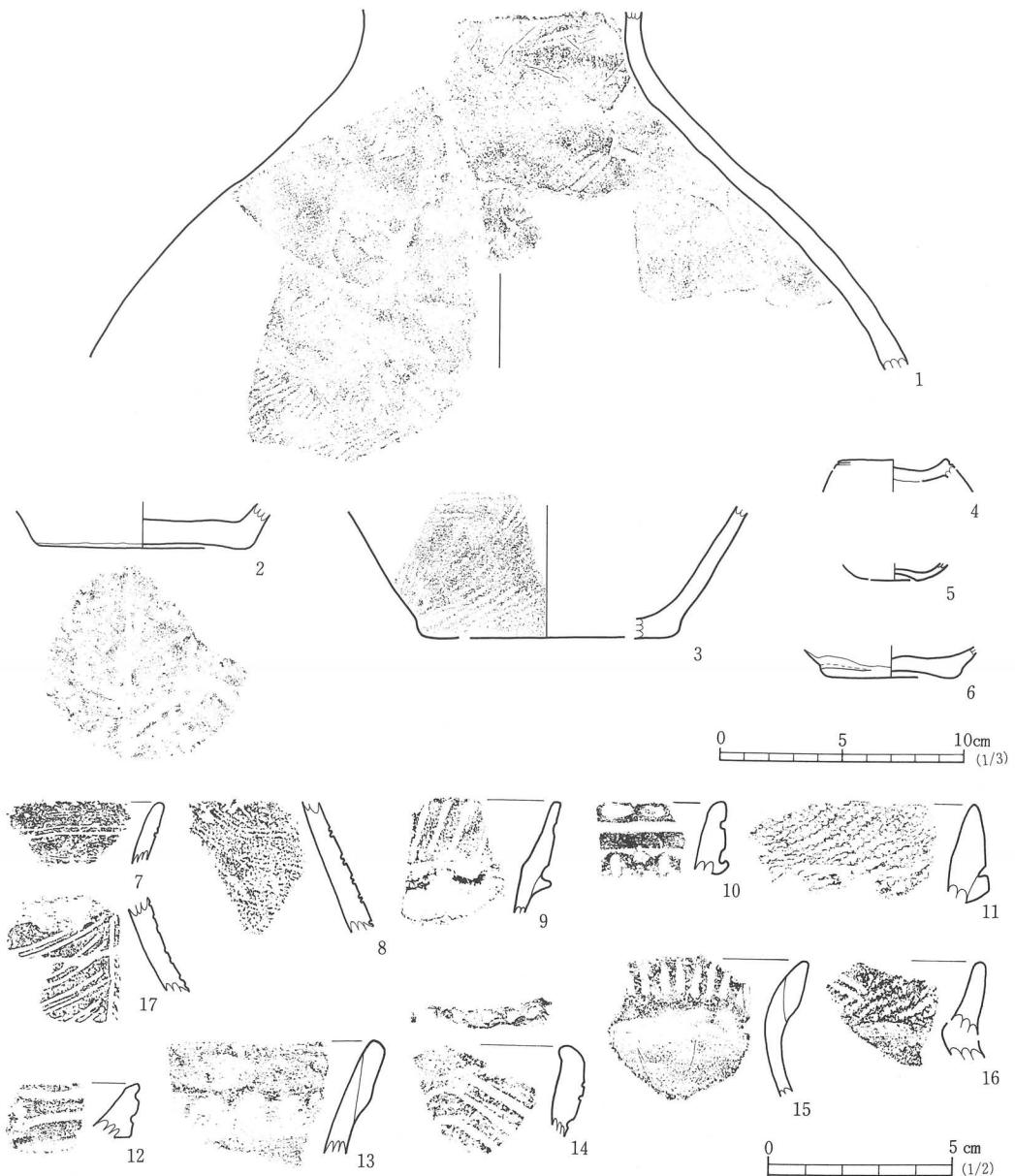


第64図 SI15 縦穴遺構



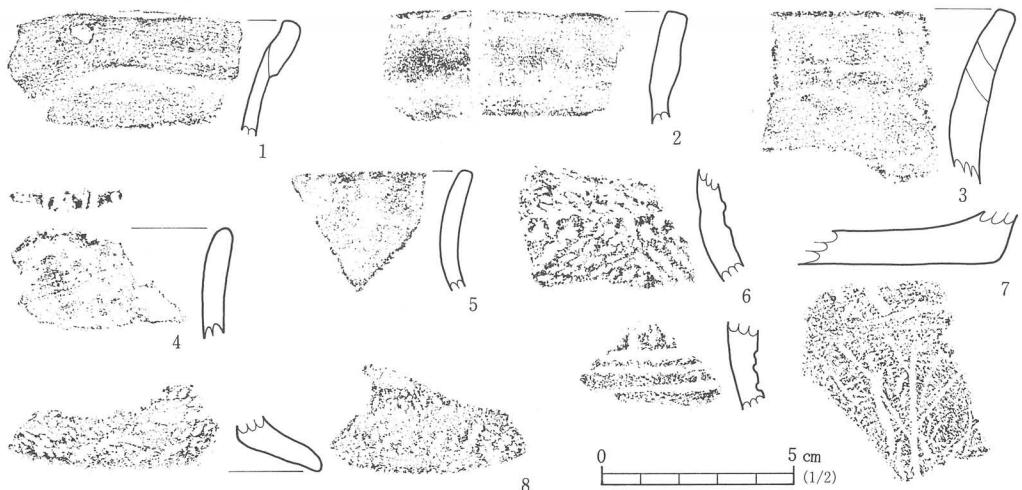
第65図 SI16 縦穴遺構

遺構	層位	土色	土性	備考
I区SI15	1	黒褐色10YR2/2	砂質シルト	
	2 a	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	2 b	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	遺物を含む、2aより黒っぽい
	3 a	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	
	3 b	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	3 aより黒っぽい
	3 c	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	
	4 a	黒色10YR2/1	粘土質シルト	遺物を含む
	4 b			
	5	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	6 a	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト	6 bより砂質
	6 b	にせい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
	7 a	にせい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	遺物を含む
	7 b	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	

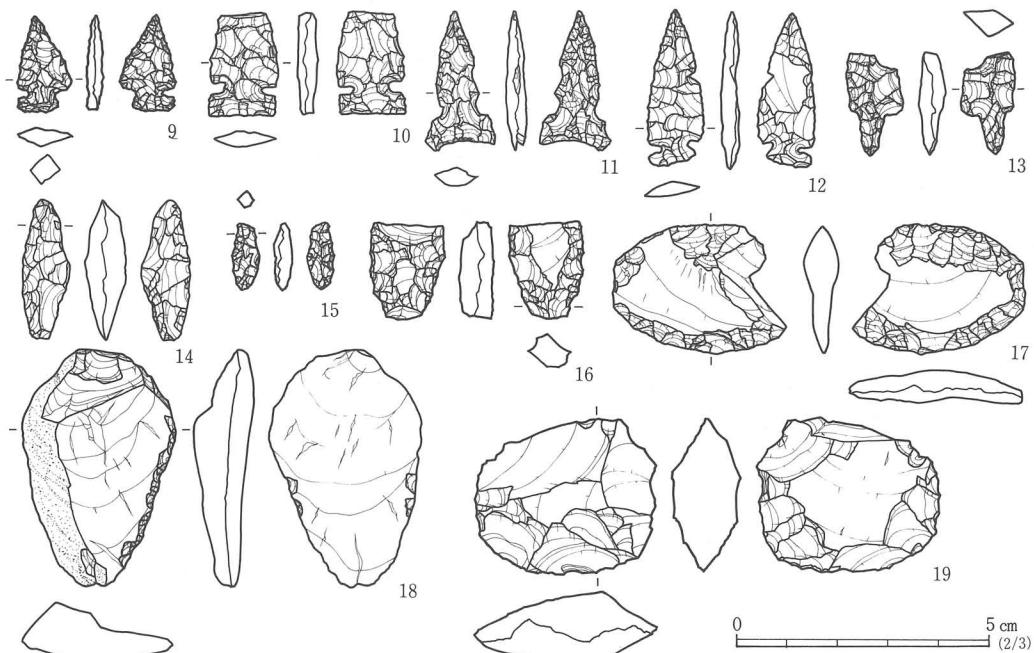


番号	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ℓ 4a,6		壺	頸～体上半	上半無文（ケズリ、ナデ）、LR繩文、内面摩滅	B218	51-1
2	ℓ 4			底	木葉痕、内面ナデ	B278	
3	床直			底	LR繩文、一部羽状、内面ミガキ	B261	
4	ℓ		蓋？	頂部	沈線	B266	
5	ℓ 2a			底	凹底、凹内ユビナデ	B280	
6	ℓ			底	内外面ナデ	B267	
7	ℓ 2b	I	甕 or 壺	口縁	横走文、2本同時、内面ナデ	B336	53-1
8	ℓ 1	I	壺	体上半	重山形文、2本同時、内面ナデ	B386	53-2
9	ℓ	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）	B161	53-3
10	ℓ 2b	II A	壺・甕	口縁	口上半：刺突、平行沈線文、口下半：交互刺突文（上刺突2ヶ）	B 50	53-4
11	ℓ 2b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）、内面ナデ	B191	53-5
12	ℓ 4a	II B	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：軽い押圧	B195	53-6
13	ℓ 3a	II C1	壺・甕	口縁	口上半：沈線文、刺突、内面ナデ	B 25	53-7
14	ℓ 3a	II C1	壺・甕	口縁	口唇：刺突文、口上半：沈線文	B421	53-8
15	ℓ	II C1	壺	口縁	口上半：スリット文	B 79	53-9
16	ℓ	II	口縁	口上半：LR繩文、内面ナデ	B396	53-10	
17	ℓ 3	I	壺	体部上半	縞文区画文、連弧文、2本同時、内面ナデ	B354	

第66図 S I 15出土遺物 (1)

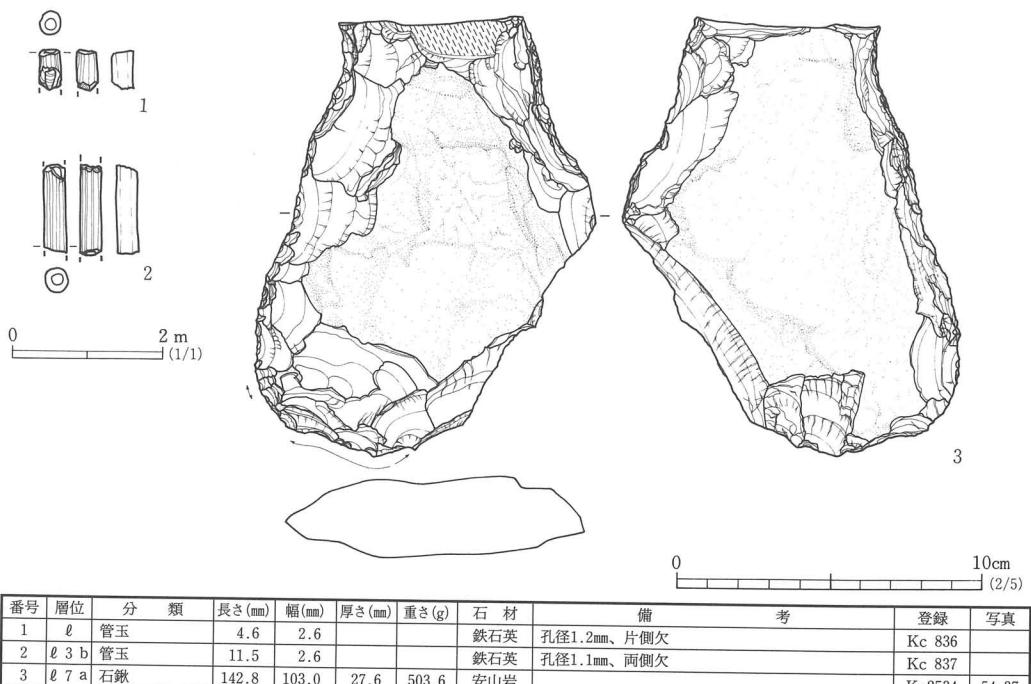


番号	層	分類	器種	部 位	特 徴	登 錄	写 真 図 版
1	ℓ 4a	II C1	壺・甕	口縁	口上半：無文、内外面ナデ	B 89	53-11
2	ℓ 7b	II C2	壺・甕	口縁	口上半：無文、内外面ナデ	B 11	53-13
3	ℓ 4a		壺・甕	口縁	無文（ナデ）	B 426	53-12
4	ℓ 3		壺・甕	口縁	口唇：刻目、口縁：無文、内外面ナデ	B 423	
5	ℓ 7a		壺・甕	口縁	無文、内外面ナデ	B 419	53-14
6	ℓ	II	壺・甕	頸	交互刺突文、繩文（撚糸文）？	B 39	53-15
7	ℓ			底	木葉痕	B 250	
8	ℓ		蓋		内外面：LR繩文	B 181	53-16

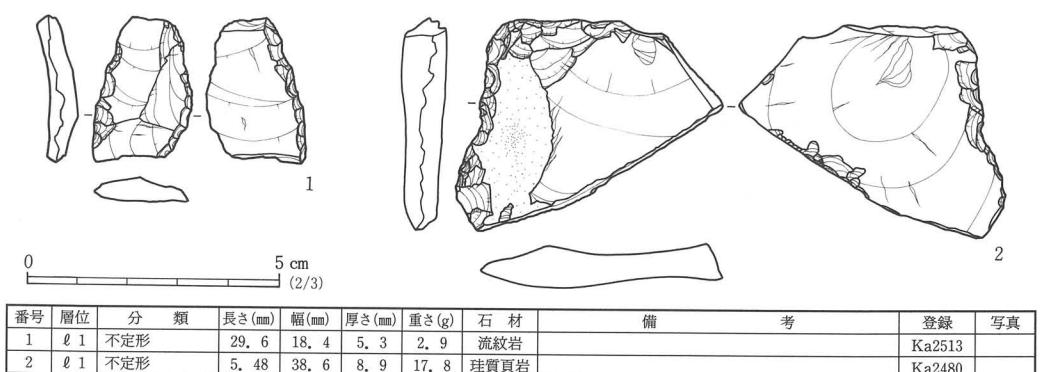


番号	層位	分 類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登 錄	写 真
9	ℓ 7 b	アメリカ式石鏃	19.1	10.9	3.0	0.5	流紋岩	素材面方面	Ka2397	54-27
10	ℓ 2 b	アメリカ式石鏃	(20.4)	13.2	3.6	1.1	流紋岩	先端部欠損	Ka2389	54-28
11	ℓ 7 b	アメリカ式石鏃	27.5	13.7	3.6	0.9	黒曜岩	素材面方面	Ka2394	54-29
12	ℓ 3 b	アメリカ式石鏃	30.2	10.7	2.3	0.7	鉄石英		Ka2414	54-30
13	ℓ 2 b	石鏃	(20.4)	10.5	4.6	0.6	珪質頁岩	上半部欠損	Ka2407	54-31
14	ℓ 5	石錐	27.3	9.3	7.7	1.4	流紋岩		Ka2437	54-32
15	ℓ 6 a	石錐	(13.3)	4.9	3.3	0.2	珪質頁岩	先端部欠損	Ka2436	
16	ℓ 7 a	石錐	(18.5)	14.6	6.4	1.9	流紋岩	先端部欠損	Ka2415	
17	ℓ 7 b	不定形	34.1	25.7	5.9	4.7	流紋岩		Ka2453	54-34
18	ℓ 3 b	不定形	46.9	30.4	9.9	11.0	流紋岩		Ka2488	54-36
19	ℓ 3 b	不定形	36.8	30.9	12.5	13.3	流紋岩		Ka2447	54-35

第67図 SII 15出土遺物 (2)



第68図 S.I. 15出土遺物 (3)



第69図 S.I. 16出土遺物

縁を有し、9～11には交互刺突状の施文がある。第66図4・67図8は蓋、66図2・5・6、67図7は底部、67図6は撚糸圧痕に交互刺突文のある頸部片である。石器（第67図9～19、第68図4）9～12はアメリカ式石鍬で、9は底面出土で基部が不揃いだが完形である。11は底面直上で出土している。13は有茎の石鍬上半部が欠損している。14～16は石錐で16は基部である。17～18は不定形石器で、17はスクレイパーエッジをもつもの、18は細かな二次加工が施されるもの、19は粗い両面加工によりジグザク状の縁辺をもつものである。第68図3は底面直上から出土した石鍬で安山岩製である。図示しなかったが他にアメリカ式石鍬2点、石鍬1点が出土している。石製品（第68図1・2）管玉で鉄石英製である。自然遺物 炭化米が底面や堆積土

中から622点（うち完形85点）出土している。4a層が最多で159点、次が底面で116点である。

SI16 積穴遺構（第65図）

[位置確認面] II区A 1・2グリッドの7c層上面で確認した。

[重複] 重複はない。

[平面形・規模] 東辺と南辺の一部を検出したのみで全体は不明である。東南隅と北東隅の形状から隅丸方形の可能性がある。東辺の長さは2.6m、南辺の検出長は1.6mである。

[堆積土] 単層で基本層7b層である。

[底面] ほぼ平坦であるが西側がやや低くなっている。南東隅で35×28cmの不整形のピットを検出しているが深さは約10cmで柱穴とは考えられない。他に炉などの施設は確認されていない。

[壁] 7c層を壁とし、壁高はわずか3～7cmほどである。

[出土遺物] 堆積土中より土器20点、石器6点が出土しているが、図示し得たのは土器2点、石器2点である。ともに不定形石器である。土器（第78図4、6）4は高壺の脚部である。6は3本同時の平行沈線文である。石器（第69図）1・2は不定形石器である。

②土壙

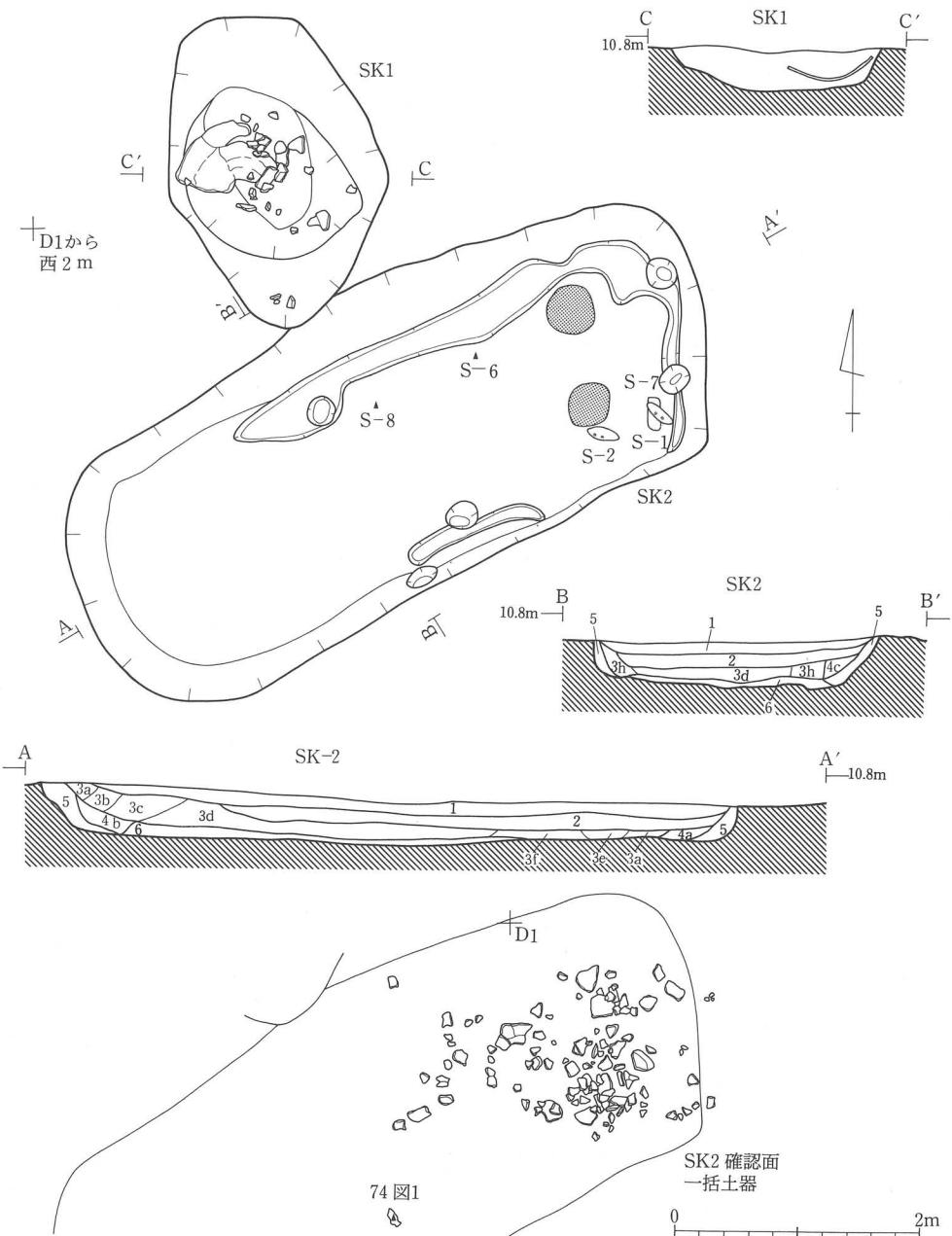
SK1 土壙（第70図）

I・II区C1グリッドの8層上面で確認した。SK2より新しい。平面形は不整橢円形で長軸1.3m、短軸0.9m、深さは約15cmである。長軸の方向はN-10°-Wである。断面形は舟底形で、堆積土は1層で黒褐色（10YR3/1）粘土質シルト層である。底面ほぼ中央で壺の体部から底部にかけての大きな破片が横位の状態で出土している。堆積土からも出土している。

[出土遺物]（第70図1～3）1は底面出土の壺である。底面から体部半ばまでの破片が主で、体部上半破片は若干、口縁部は1点確認されたのみである。1の確実な残存高は25cmで、体部上半以上は図上での推定である。器形は体部中央が膨らみ、頸部にかけて緩くすぼまり、口縁部が外反するものとみられる。口縁部片にはLR縄文と綾絡文が施文されている。体部から底部にかけては器面が摩滅しているもののLR縄文と綾絡文が観察される。底部には粉痕が多数みられる（写真105-18）。2・3は堆積土中から出土した口縁部で交互刺突文と刺突が施文されている。

SK2 土壙（第70図）

II区CD1グリッドの8層上面で確認した。SK1より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸2.8m、短軸1.2mで、深さ20cmである。長軸の方向はN-75°-Eである。断面形は舟底形で、堆積土は6層に大別される。底面はほぼ平坦である。東半部で周溝状のものとピットを検出している。周溝状のものは幅5～20cmで、深さは1～3cmとかなり浅いものである。ピットは3～8cmである。両者とも性格は不明である。東壁から約40cmの所で円形の赤色顔料の分布を2ヶ所



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
II SK2	1	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト			3 g	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	2	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	1層より多少明るい		3 h	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	3 b・6層より暗い
	3 a	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト	焼土炭を少量含む		4 a	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	炭、焼土を少量含む
	3 b	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	焼土、炭を多量含む		4 b	灰黃褐色10YR4/2	シルト	炭、焼土を少量含む
	3 c	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	3 d層より多少暗い		4 c	にぶい 黒褐色10YR4/3	シルト	
	3 d	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト			5	褐色10YR4/4	シルト質粘土	
	3 e	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト			6	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	焼土、炭を含む
	3 f	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	3 d層よりやや明るい					

第70図 SK2 土壌



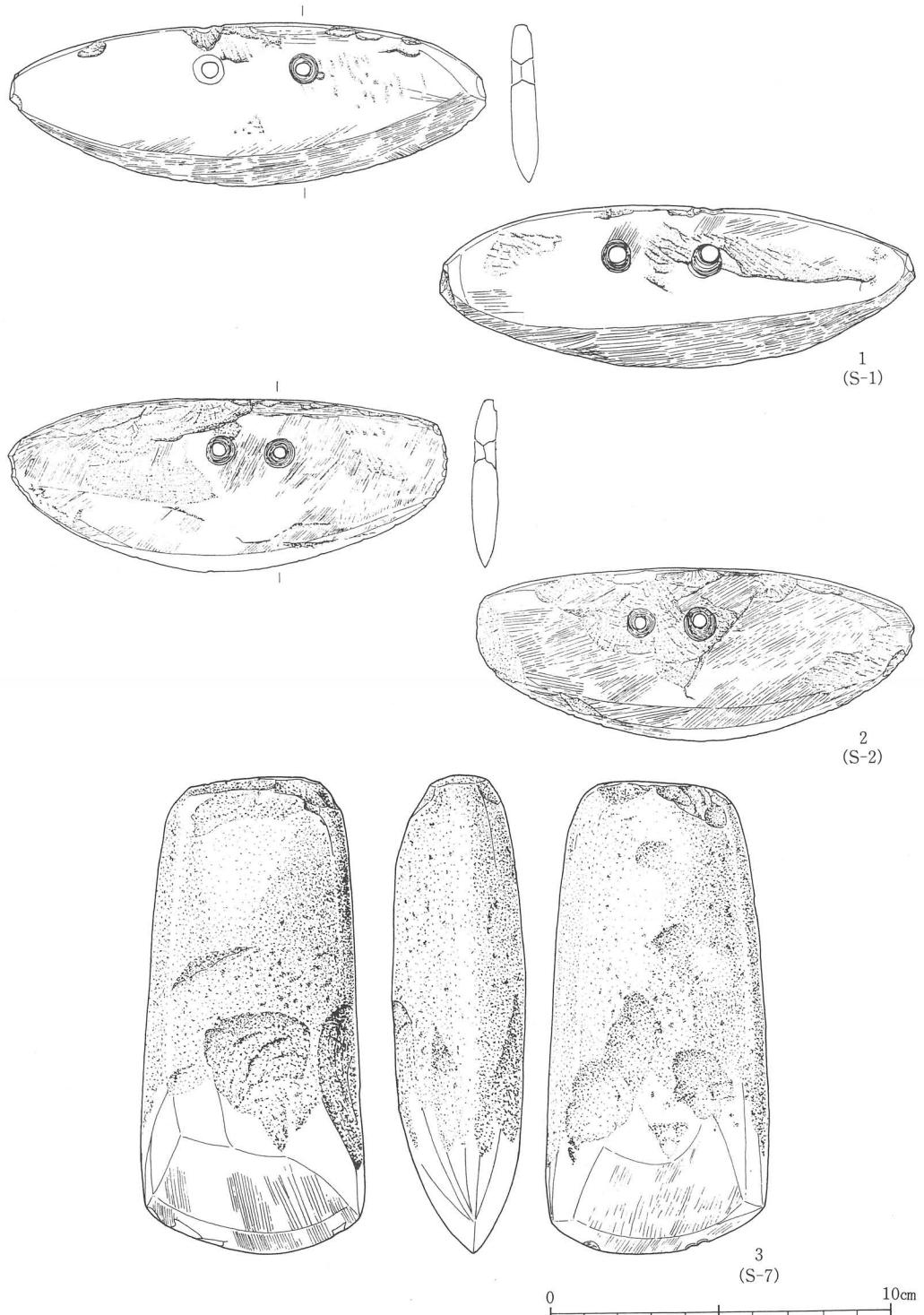
番号	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ℓ	II	壺	口～底	口～体下半：LR繩文、綾絡文 底：端部折返し風、粗痕多數、残高25.0mm、底径10.3mm	B220 B315	51-2 105-18
2	ℓ	IIA	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突文、頸：沈線文	B144	53-17
3	ℓ	II	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：刺突（不揃い）	B175	53-18

第71図 SK 1 出土遺物



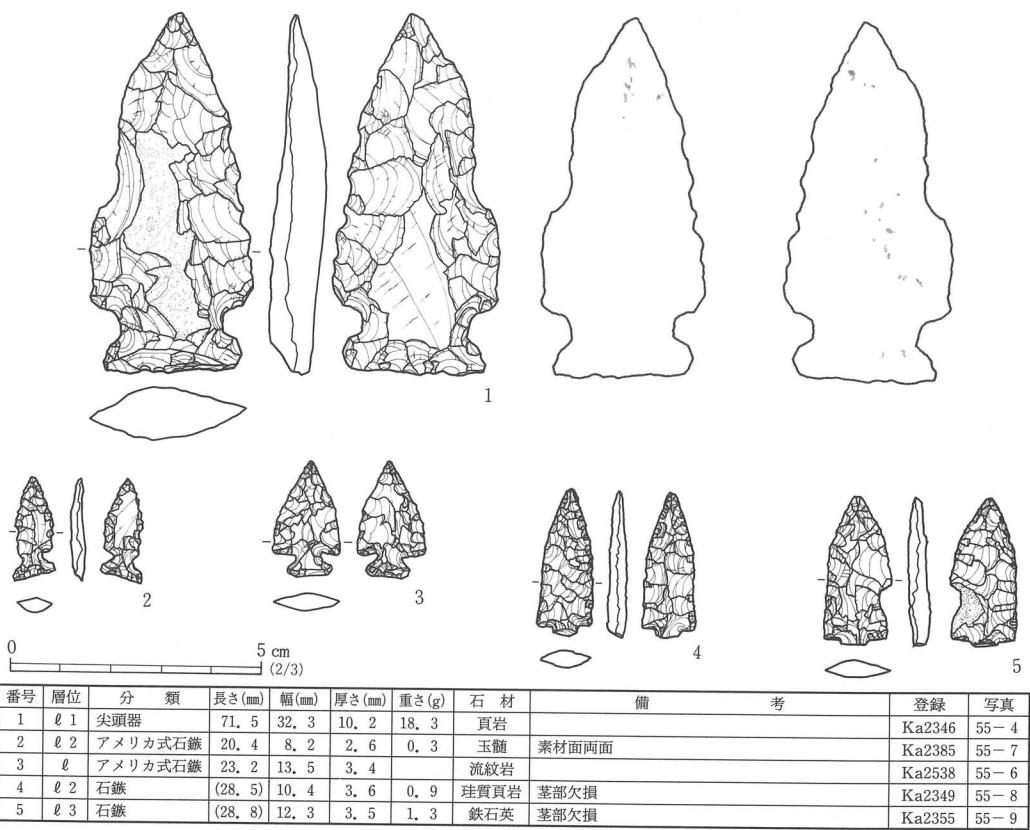
番号	層	分類	器種	部 位	特 徴	登録番号	写真図版
1	ℓ 1	II	壺	口～体	口：連続山形文（2本同時）、LR繩文、頸：重山形文（2本同時）、体：連続山形文、LR繩文	B216	52-1
2	ℓ	II	甕	口～体	口縁：やや肥厚、内外面ナデ？	B207	53-23
3	ℓ 1	I	壺か甕	体	重山形文、2本同時	B318	53-19
4	ℓ	I	壺	体	同心円文、3本同時	B348	53-20
5	ℓ 3	I	蓋？	頂部？	重山形文、2本同時？ 内面オサエ痕	B399	53-21
6	ℓ			底	LR繩文、木葉痕	B248	
7	ℓ 1	II	壺か甕	口縁	口唇：繩文、口上半無文（ナデ）、頸：繩文、内面ナデ	B 23	
8	ℓ 1	II	壺か甕	口縁	7と同一個体	B 23	53-22
9	ℓ 1	IIA	壺か甕	口縁	口唇：刻目、口上半：スリット文、口下半：押圧（横から）、内面ナデ	B188	53-24

第72図 SK 2 出土遺物 (1)



第73図 83 SK 2 出土遺物（2）

番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	備考	登録	写真
1	IIESK2	ℓ 3 上	石庖丁	141.0	58.0	7.0		粘板岩か砂岩	紐穴間隔28mm、穴径 4 mm	Kc834	55-1
2	IIISK2	ℓ 3 上	石庖丁	130.0	51.0	9.0		粘板岩か砂岩	紐穴間隔17mm、穴径 4 mm	Kc833	55-2
3	IIISK2	ℓ 3 上	大型蛤刃石斧	141.5	66.0	40.0					Kc835 55-3



第74図 SK 2 出土遺物 (3)

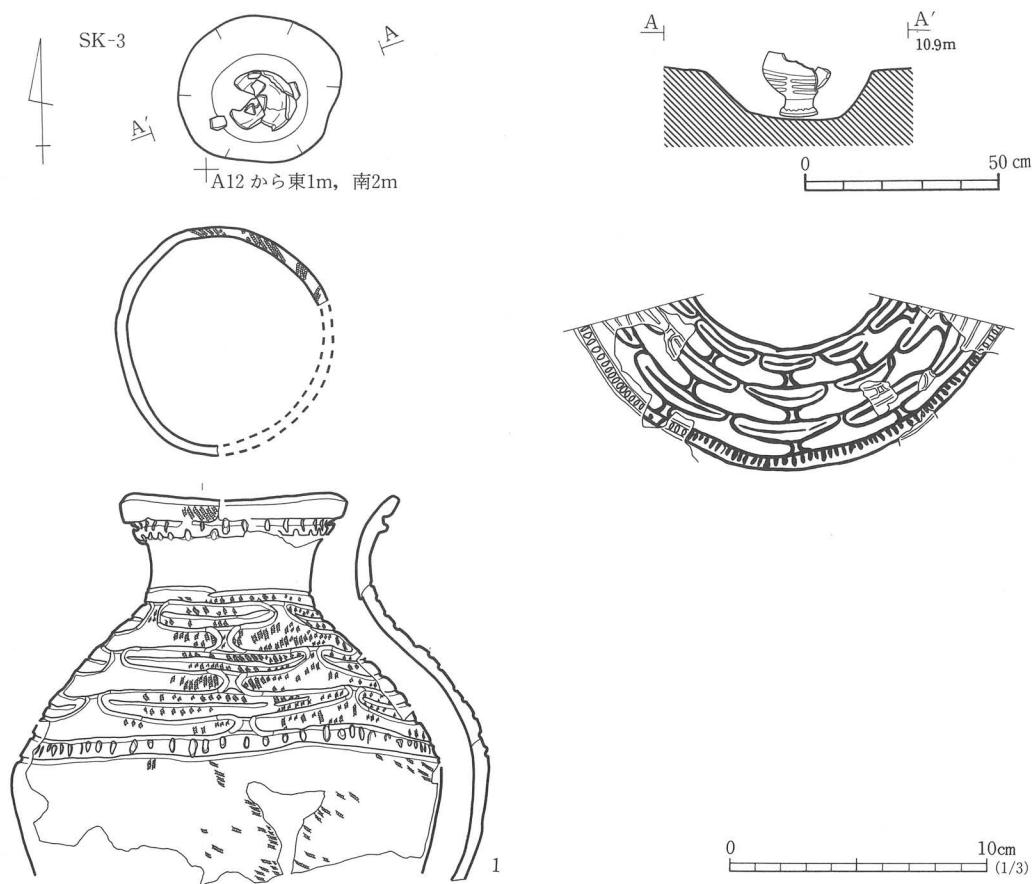
検出した。底面より約5cm浮いている。両者は約20cm離れて並んでおり、径は約20cmで中央がややへこんでいる。南の赤色分布のすぐ脇の同じ面から石庖丁2点(S-1・2)、大型蛤刃石斧1点(S-7)が出土した。またほぼ同じ面の北壁寄りからはアメリカ式石鏃(S-8、写真55-5)と石鏃(S-6、第74図5)が出土している。確認面では一括土器や石器、堆積土から土器、石器が出土している。

〔出土遺物〕 土器 (第72図1~9) 1・2は確認面の一括土器である。1は壺の口縁部と体部上半である。口縁部はC2グリッド出土であるが同一個体である。口縁部は受け口状になり、頸部との接合部では内面に明瞭な稜をもつ。口縁外面にはLR縄文と2本同時の鋸歯文がある。頸部は2本同時の重山形文で、頸部下端は2本の平行沈線と1本の鋸歯文である。2は口縁部がやや肥厚する甕で無文である。3~5は平行沈線文で、7・8は複合口縁で同一個体、9は口縁上半でスリット文、下半に粘土貼付け後指頭によるオサエを行っている。

石器 (第73・74図) 73図1・2は粘板岩製の石庖丁である。これらには使用痕が観察されるがこれについては概報III(須藤・阿子島:1984)を参照されたい。3は安山岩製の大型蛤刃石斧である。74図1は確認面で出土した尖頭器でアスファルトが付着している。2・3はアメリ

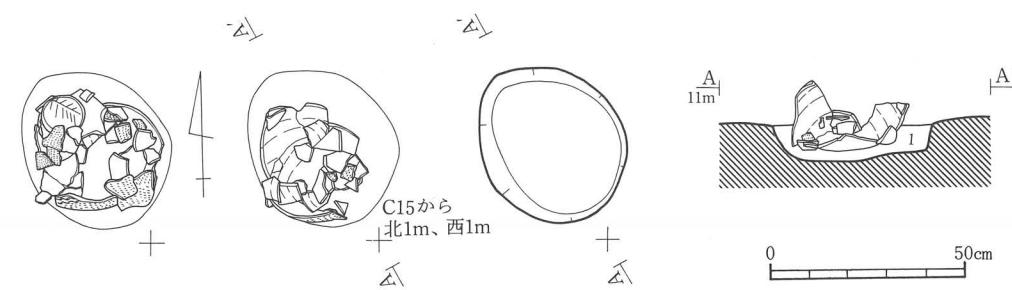
カ式石鏃、4・5は石鏃である。図示できなかったアメリカ式石鏃（写真55-5）、石鏃が各1点ある。

自然遺物 堆積土中から炭化米が90点（うち完形24点）出土しているが堆積土2層のものが



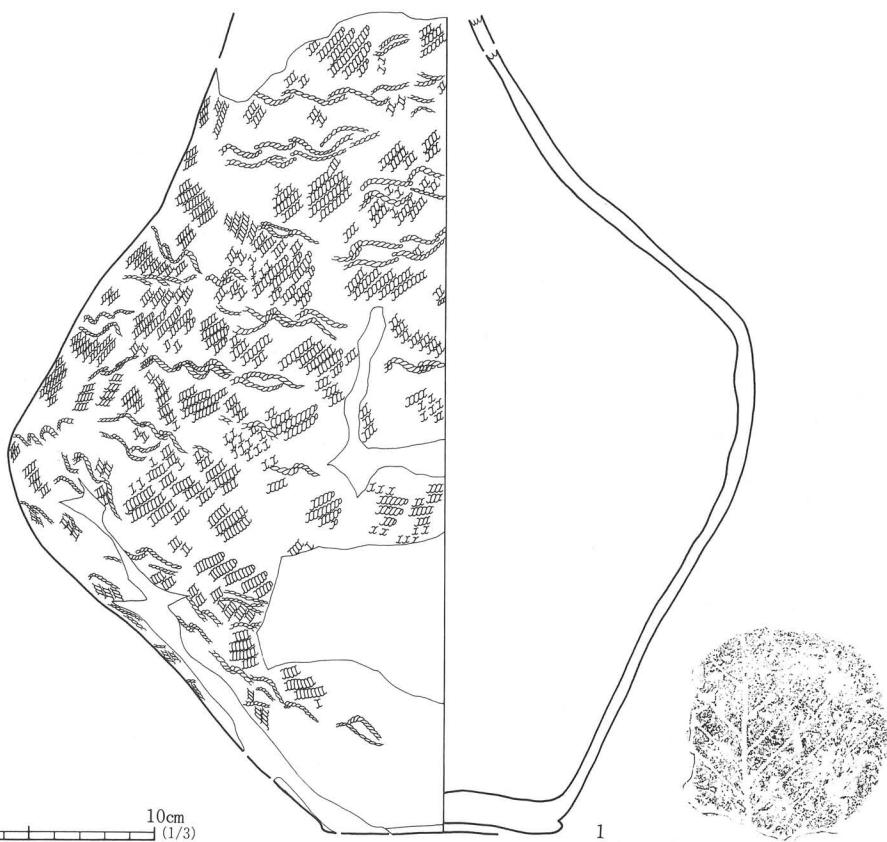
番号	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ℓ	IIA	壺	口～体下半	口唇：RL縄文、口上半：RL縄文、口下半：交互刺突文、体：工字状沈線文、刺突文、RL縄文、内部ナデ、口径9cm、最大体部径17cm、残存高15.7cm	B 439	52-2

第75図 SK-3 土壙



遺構	層位	土色	土性	備考
	1	灰黄褐色10YR4/2	シルト	
土器内埋土		灰黄褐色10YR4/2	シルト	炭を少量含む

第76図 6号埋設土器



第77図 6号埋設土器

多い（50点）。

SK3 土壌（第75図）

II区 A12 グリッドの7c層上面で確認した。平面形は径約40cmの不整円形で、深さは約17cmである。断面形は逆台形で、堆積土は1層で黒褐色（10YR2/2）シルト質粘土である。壺（第75図1）が倒立して出土している。1は口縁部の1/4と底部を欠損している。口縁部下半に交互刺突文、体部上半に工字状文を施文している。

③埋設土器遺構

6号埋設土器遺構（第76図）

III区 B14 グリッドの8層上面で確認した。40×45cmの不整円形の掘り方に壺が横位の状態に埋設されていた。壺（第77図）は口頸部が欠損している。体部中央が強く膨らみ頸部へやや外反氣味にすぼまる器形である。文様はLR 繩文と綾絡文である。

④遺物包含層

基本層 7 層が弥生時代の遺物包含層である。7 層は 7a-1、7a-2、7b、7c 層に細別され、特に 7b 層に比較的の遺物が集中しているが、細別層間で接合関係がみられるため、ここでは一括して扱うこととする。7 層はほぼ全域に分布するが遺物は II 区 5 グリッド以北の I・II 区にかけて多く分布する。とくに目立った遺物集中ではなく全体に遺物が多いが、前述した SR1 の影響によりできた溝状の落込みにあたる CD10 グリッドにやや遺物が集中する傾向がある。II 区の 6 グリッド以南は遺物量がかなり減少するが、いくらかの小さな遺物のまとまりがみられる。SK3 周辺の A12 グリッド、6 号埋設土器遺構周辺の B14・15 グリッド、および DE16・17 グリッド周辺である。とくに A12 グリッドでは石器の製品（石鏃 3 点、アメリカ式石鏃 2 点、石錐 1 点、石匙 1 点）と紡錘車が出土している。DE16・17 グリッドでは石鍬が出土している。包含層全体からの出土遺物は、弥生土器、土製品、石器、礫石器、石製品である。

土器（第79図～第96図）第79～81図には実測が可能な個体を中心に図示した。第82～86図は平行沈線文系の土器群、第87～94図は天王山式系の土器群、第95・96図はその他の土器群を図示している。

土製品（第97図）1～5 は紡錘車で、6 は板状の、7 は環状の不明土製品、8 は土偶状の下部と考えられる。

土器（第98～107図）石器は、石鏃、アメリカ式石鏃、尖頭器、石錐、不定形石器、二次加工のある剝片、剝片、石核、石鍬、大型板状安山岩製石器、礫石器が出土している。

石製品 鉄石英製の管玉で、長さ 11.8mm、径 4.8mm、孔径 1.5mm である。片端の整形が不完全である。I 区 D 7、8 層上面出土。

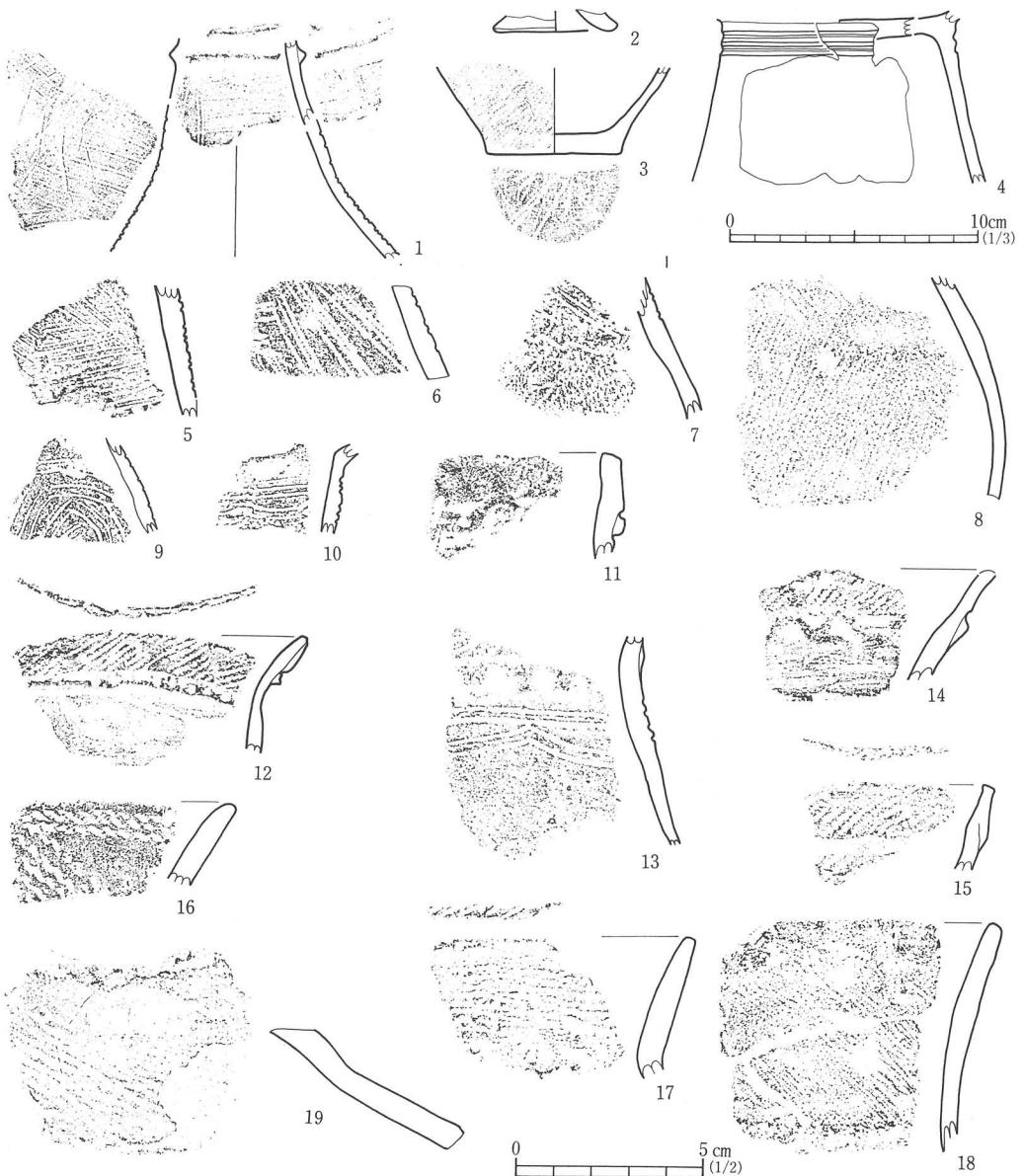
⑤ピット状の落込み

8 層上面でおびただしい数のピット状の落ち込みを検出したが、平面形が不整形であり、底面の凹凸が激しく人工的とは考えにくいことから遺構と認定しなかった。しかし、遺物は出土しており、第108・109図に示した。

⑥その他の遺構出土遺物（第78図・110図）

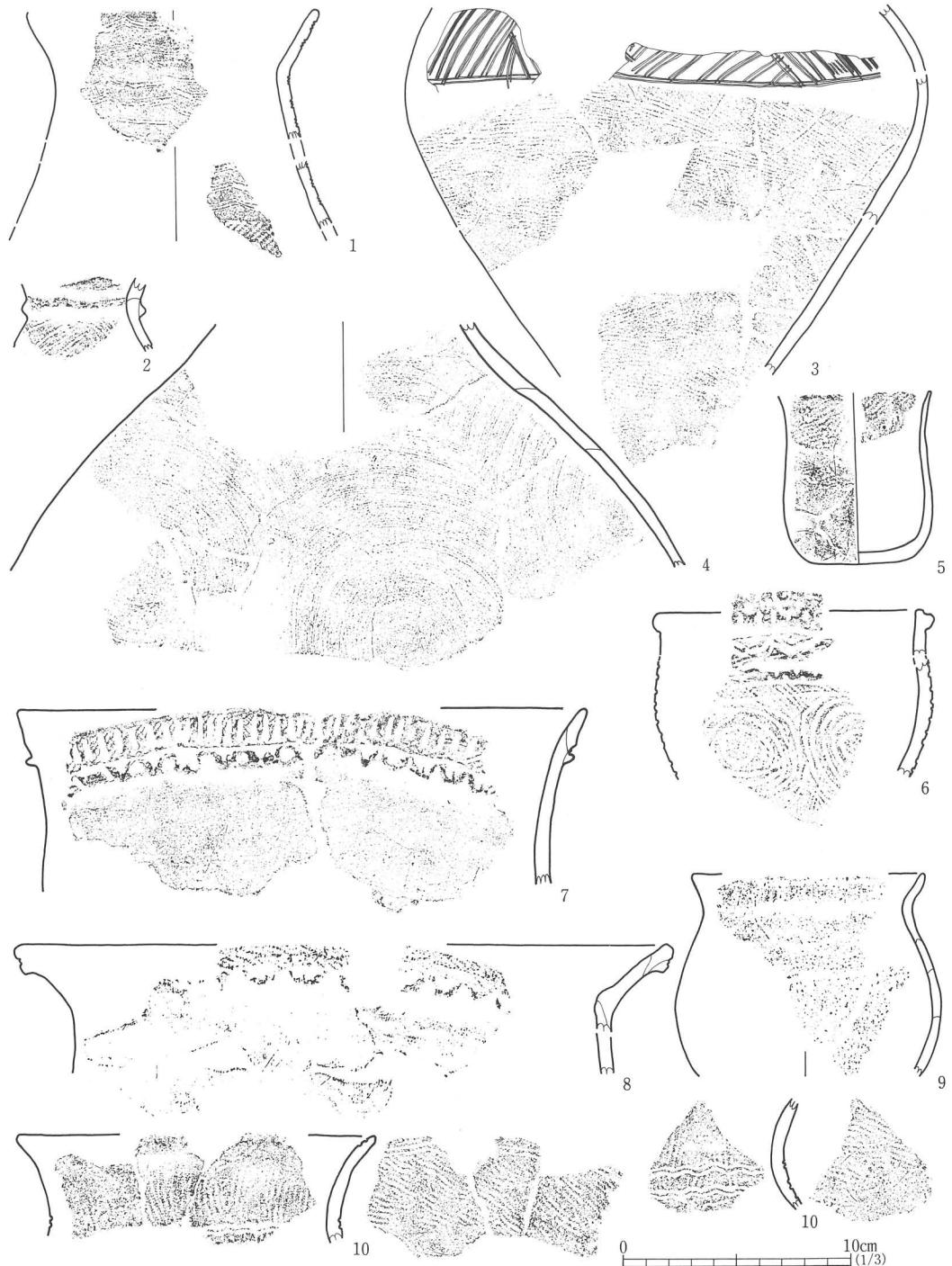
7 層上面以上の遺構内から出土した弥生土器を第78図に、石器を第110図に示した。

注) 概報（篠原他：1984）では溝跡として SD8 を報告している。SD8 としたものは上幅 5m、下幅 1～3.5m、深さ 10～20cm である。幅の割に浅く、壁もかなり緩く立ち上がり、約 60cm 下の 8 層中に幅 5m、深さ 1m の SR2 河川跡（第171図後述）が存在することなどから、SR2 の影響で形成された溝状の浅いくぼみと判断し遺構から抹消した。堆積土も 7 層細分層に対応している。



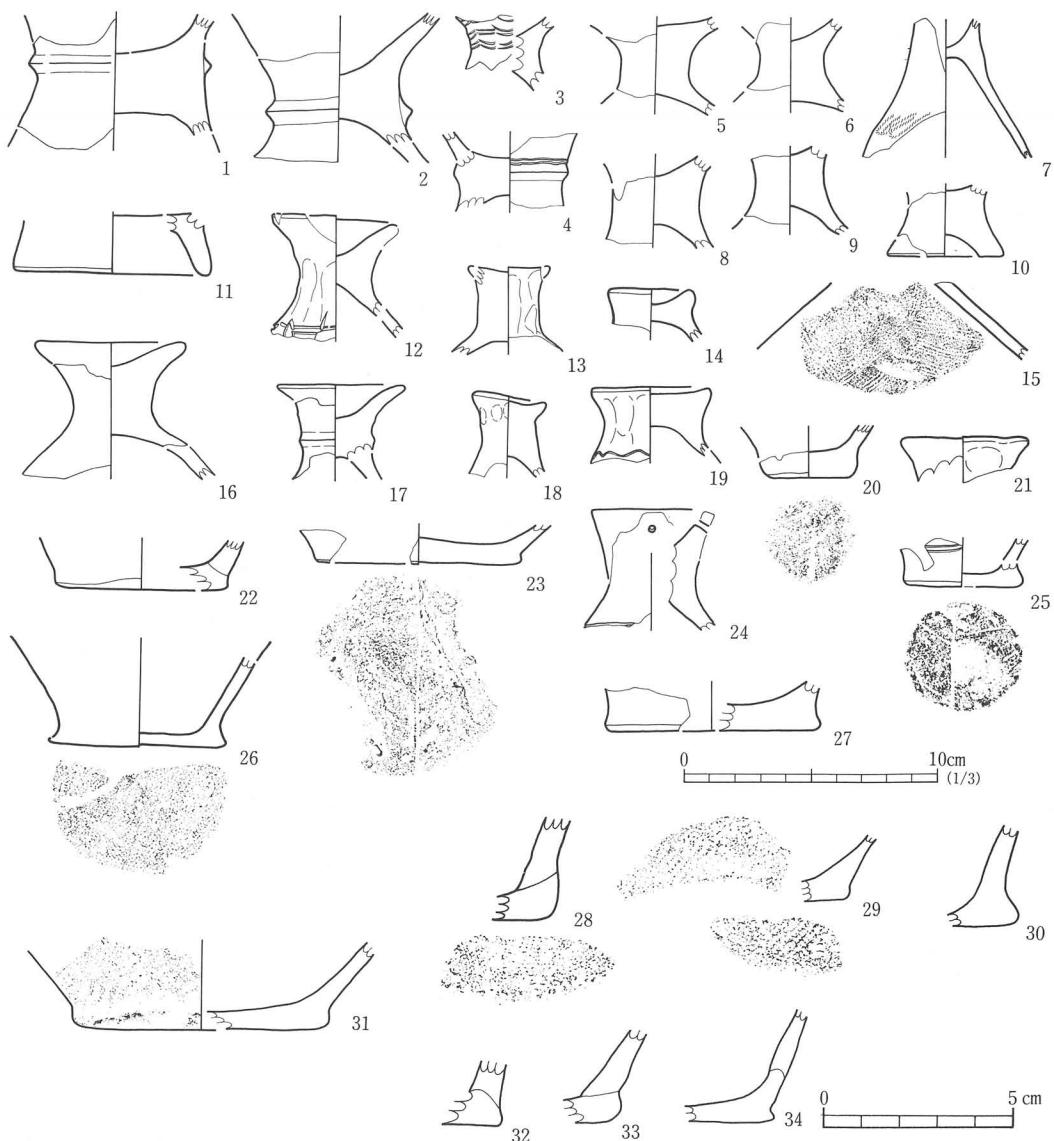
図版番号	遺構	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	SD27	ℓ	I	壺	頸	隆帯、縦位区画文、横走文、重山形文、2本同時	B298	53-33
2	SD28	ℓ			脚?		B229	53-34
3	SD27	ℓ			底	LR繩文、木葉痕	B262	
4	SI16	ℓ		高坏	脚部	平行沈線文、内面ミガキ	B438	53-32
5	SD27	ℓ	I	壺	体上半	重菱形文、2本同時	B319	54-12
6	SI16	ℓ	I	壺	体上半	重山形文、3本同時	B392	54-13
7	SD27	ℓ	I	壺	体上半	重菱形文、2本同時、内面ナデ	B300	54-14
8	SD28	ℓ	I	壺	体中央	重菱形文、2本同時、内面ナデ?	B163	54-16
9	小溝状遺構	ℓ	I	壺	体上半	同心円文、2本同時	B332	54-15
10	SD26	ℓ	I	甕	口縁	横走文、連弧文、2本同時、内面ナデ	B373	54-17
11	SD28	ℓ	IIA	壺か甕	口縁	口上半:無文、口下半:波状文(下押圧)	B43	54-18
12	SD28	ℓ	IIA	壺か甕	口頸	口唇:沈線、横からの押圧、口上半:LR繩文、口下半:内面ナデ	B30	54-19
13	SD26	ℓ	IIA	壺か甕	口頸	口上半:繩文、 口下半:波状文(下押圧)、頸:沈線、連弧文(2本同時)	B157	54-20
14	SD27	ℓ	IIA	壺か甕	口頸	口上半:繩文、口下半:波状文(下押圧)、内面ナデ	B122	54-21
15	SD27	ℓ	IIC	壺か甕	口頸	口唇・口縁・口頸:LR繩文	B186	54-22
16	小溝状遺構	ℓ		壺か甕	口縁	撚糸(LR)圧痕	B132	54-23
17	SD27	ℓ		壺か甕	口縁	口唇・口縁:R撚糸文	B428	54-25
18	SD27	ℓ		壺か甕	口~体	R撚糸文?、内面ミガキ	B109	54-26
19	SD27	ℓ		蓋		R撚糸文、内面ミガキ	B222	54-24

第78図 遺構出土弥生土器



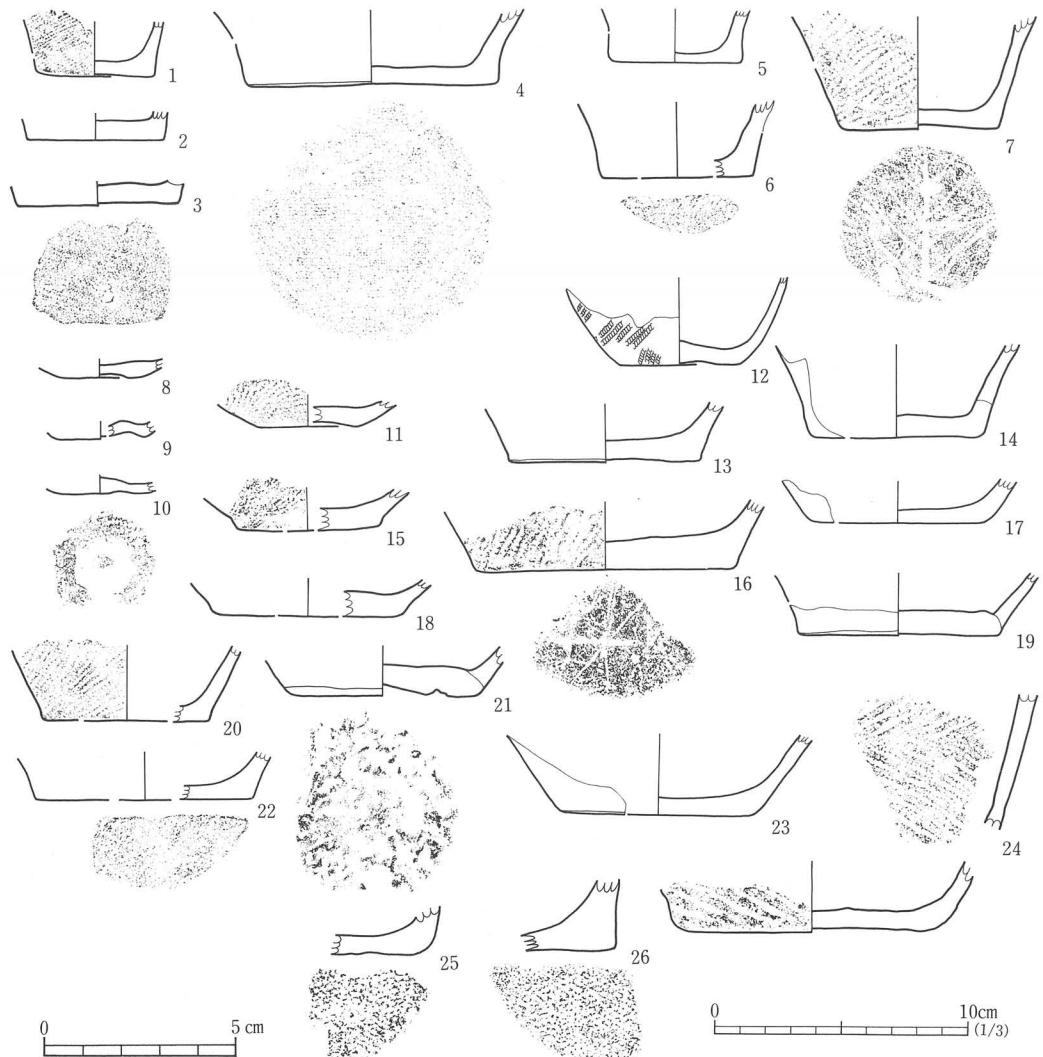
番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I A 5	7b	I	壺	口頸	連弧文、3本同時、LR繩文、内面ナデ、推定口径12.8cm	B375	56-1
2	I A10	7a	I	壺	頸	隆帶、重山形文、2本同時	B291	56-2
3	I CD10	7	I	壺	体	重山形文、2本同時、R燃系文	B217	
4	I D10	7c	I	壺	体	同心円文、2本同時	B219	55-12
5	III DE16	7		小型土器	口～底	繩文、口径6.4cm、器高7.5cm、底径4.0cm	B328	
6	II B 4	7c	II B	甕	口～体	口端：隆帶、交互刺突文、頸：連弧文、下端交互刺突文 体：同心円文、RL繩文	B208	56-4
7	I B5・II A1	7b	甕	II A	口頸	口上半：スリット文、LR繩文 口下半：交互刺突文（上2ヶ）、内面ナデ、推定口径25cm	B 93	56-3
8	II B11	7c	II A	甕	口頸	口上半：RL繩文 口下半：交互刺突文（上2ヶ）、内面ナデ、推定口径14.5cm	B209	56-7
9	I A～D9・10	7		甕	口～体	器面摩滅、推定口径10.2cm	B205	56-5
10	I A7	7a		甕	口頸～体	口：外・縦走RL繩文、内・沈線文、斜行RL繩文、 体：上端波状沈線（2本1描）、推定口径15.6cm	B102	56-6

第79図 7層出土土器（1）



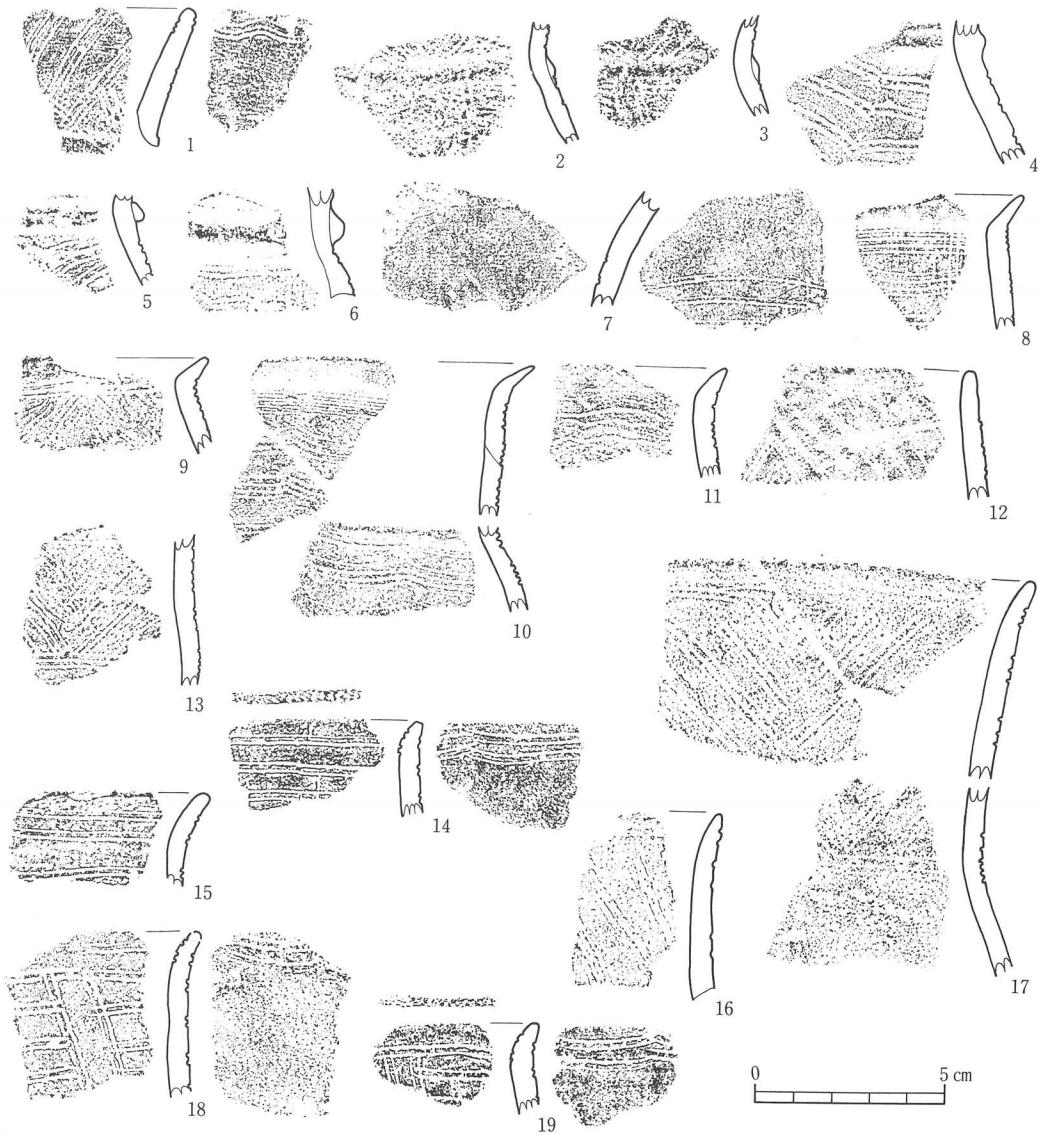
番号	地 区	層	器 種	部 位	特 徴	登 錄	番号	地 区	層	器 種	部 位	特 徴	登 錄
1	I AB9	7	高坏	脚部	隆带	B242	18	II C1	7c	蓋	つまみ	内面ナデ	B231
2	I B8	7a	高坏	脚部	隆带	B243	19	I B3	7	蓋	つまみ	細沈線文	B223
3	II・B4	7b	高坏か蓋	脚?	連弧文、2本同時	B226	20	I 東壁	7	蓋?	底		B276
4	I A6	7a	高坏	脚部	隆带、細沈線、2本同時	B238	21	I D10	7	高坏か蓋	つまみ		B434
5	II B1	7b	高坏か蓋	脚?		B233	22	II B6	7c		底		B275
6	II C5	7c	高坏か蓋	脚?		B236	23	III	7		底	木葉痕	B255
7	III B15	7	高坏か蓋	脚?	L繩文、内外面ナデ	B221	24	I C10	7c	蓋?	つまみ	穿孔(焼成前)、沈線文	B235
8	I D3	7c	高坏?	脚?		B230	25	II D1	7c		底	細沈線文、木葉痕	B260
9	I A10	7b	高坏?	脚?		B237	26	I A11	7b		底	布目痕	B265
10	9・10列	7	高坏	脚部	外面ナデ	B234	27	I C10	7c		底	外面オサエ	B274
11	II B1	7b	台付	台部		B435	28	I C9	7		底	布目痕	B244
12	I D10	5	蓋	つまみ	細沈線文	B239	29	III C20	7	蓋?	頂部?	体・頂:LR繩文	B249
13	I B2	7a	蓋	つまみ	内面ナデ凹凸	B224	30	I B9	8		底		B272
14	I B11	7b	蓋	つまみ		B227	31	III A20	7		底	LR繩文	B256
15	I A6	7	高坏か蓋	脚?	重菱形文、4本同時	B327	32	III A20	7		底	LR繩文	B217
16	9・10列	7	蓋	つまみ		B241	33	I D1	7b		底	底部外面に圧痕	B273
17	I B3	7	蓋	つまみ	隆带、内外面ナデ	B225	34	III D22	7		底	内面ナデ	B268

第80図 7層出土土器 (2)



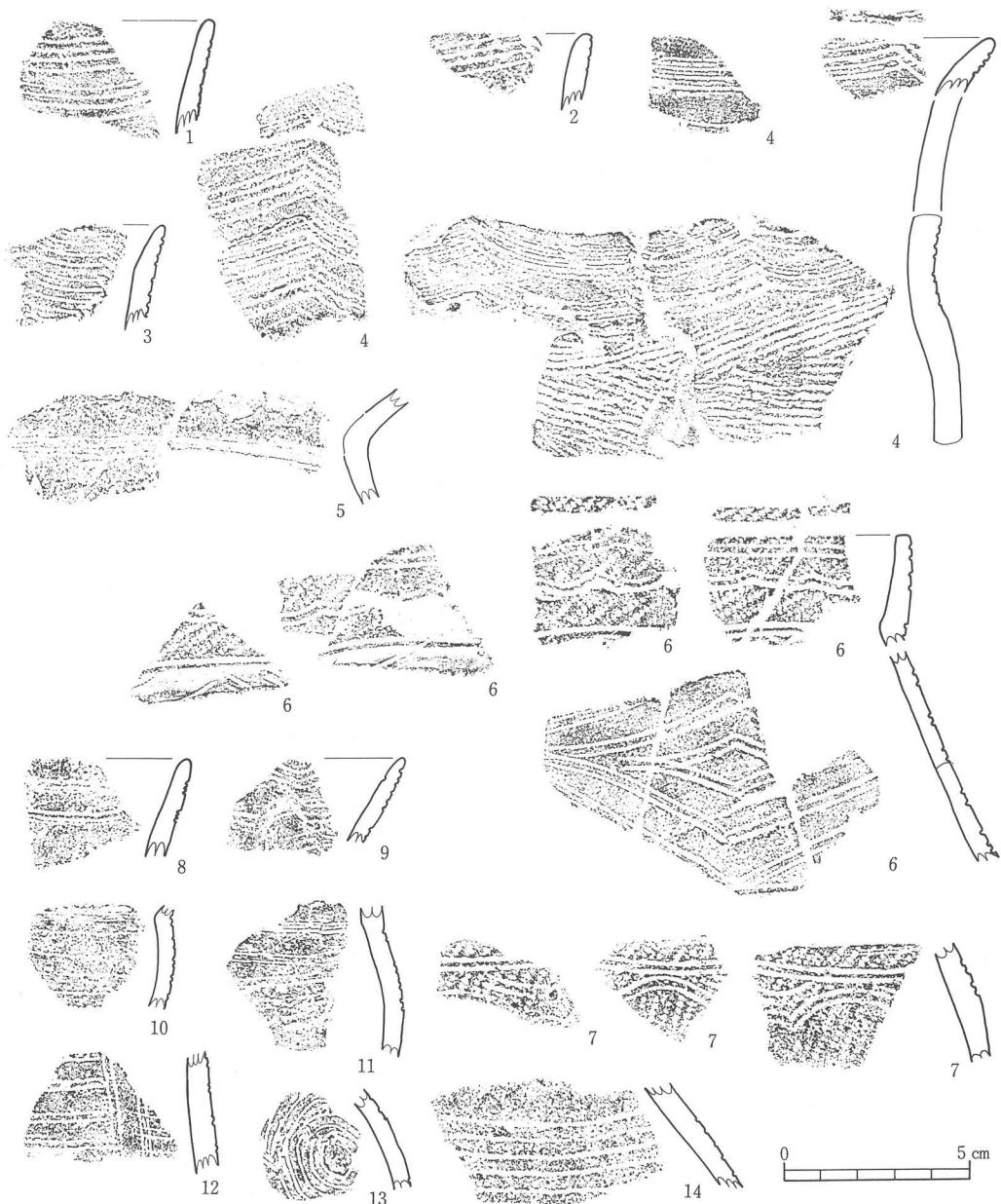
番号	地 区	層	部 位	特 微	登 錄	番号	地 区	層	部 位	特 微	登 錄
1	II C11	7	底	LR 繩文、底部ミガキ	B259	14	I B5	7a	底	布目痕	B252
2	I B9	7a	底	木葉痕ナデ消し、内面粗いミガキ	B283	15	I C9	7	底	LR 繩文、内面ナデ	B432
3	I A7	7b	底	布目痕、粗痕	B29	16	II D7	7b	底	LR 繩文、木葉痕	B285
4	I A6	7b	底	LR 繩文、布目痕 写真105-17	B263	17	III C15	7	底	オサエ	B281
5	I C9	7b	底	木葉痕	B284	18	I C9	7	底		B436
6	I C5	7c	底	布目痕、外面ケズリ、内面ナデ	B246	19	I A-D4	7	底	木葉痕	B290
7	I A6	7b	底	LR 繩文、木葉痕	B264	20	I A-D4	7	底	LR 繩文	B258
8	II A1	7b	底	凹底、内外面ナデ	B270	21	III B15	8	底	木葉痕	B286
9	I D10	7	底	凹底、凹内ナデ	B269	22	III C24	7	底	布目痕	B253
10	II A2	7c	底	凹底、凹内ユビナデ	B277	23	I C8	7c	底		B289
11	II B7	7a	底	LR 繩文、凹底	B257	24	III CD21	7	体・底	L・R 摻条文、羽状	B210
12	III B15	7	底	LR 繩文、外面粗痕	B288	25	I B4	7a	底	布目痕	B247
13	I C7	7c	底		B287	26	I C10		底	布目痕	B245

第81図 7層出土土器 (3)



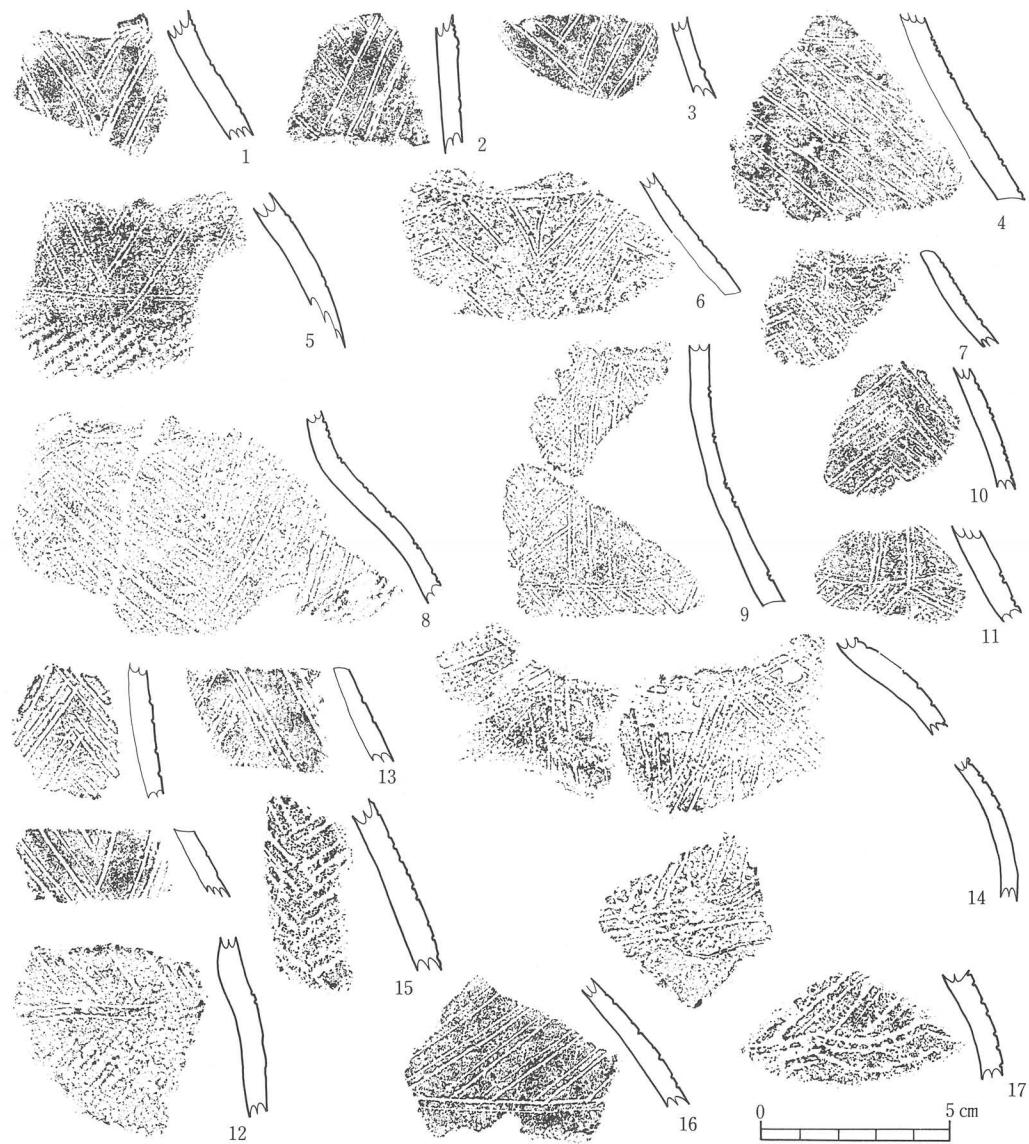
番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I A6	7a	I	壺	口縁	重山形文、内面波状文、3本同時	B323	56-23
2	I C10	8	I	壺	口縁	隆帶、細沈線文、内面ナデ	B296	56-24
3	I C10	7	I	壺	口縁	隆帶、縦位区画文、2本同時	B293	56-25
4	II A10	7b	I	壺	体上半	隆帶、連弧文、2本同時、内面ミガキ	B379	56-26
5	I B4	7a	I	壺	口縁	隆帶、連弧文、2本同時、内面ナデ	B297	56-27
6	II D5	7b	I	壺	口縁	隆帶、縦位区画文、横走文、2本同時	B295	56-28
7	I D9	8	I	広口壺	口縁	内面細沈線文、2本同時	B338	57-1
8	I A1	7c	I	広口壺	口縁	細沈線文、4本同時、内面ミガキ	B317	57-2
9	I C7	7	I	広口壺	口縁	重山形文、3本同時に	B292	57-3
10	I A3・10	7a	I	広口壺	口縁	連弧文、4本同時に、内面ミガキ	B372	57-5
11	II B2	7b	I	広口壺	口縁	波状文、2本同時に	B366	57-6
12	II A8	7b	I	広口壺	口縁	重山形文、2本同時に	B302	57-7
13	I C9・10	7	I	広口壺	口縁	重山形文、3本同時に、9と同一個体	B292	57-4
14	II B6	7b	I	広口壺	口縁	口唇：LR繩文、外面：横走文、内面：連弧文、ナデ、2本同時に	B356	57-9
15	I BC2	7b	I	広口壺	口縁	口唇：繩文？、外面：横走文、2本同時に、内面ナデ	B414	57-8
16	I B8	7a	I	広口壺	口縁	重山形文、3本同時に	B390	57-11
17	I A～D9・10	7	I	広口壺	口～体	重山形文、3本同時に	B389	57-12
18	I C4	7b	I	広口壺	口縁	外面：縦位区画文、横走文、内面：連弧文、2本同時に	B177	57-13
19	I C2	7	I	広口壺	口縁	口唇：LR繩文、外面：縦位区画文、横走文、内面：連弧文、2本同時に 14と同一	B356	57-10

第82図 7層出土遺物 (4)



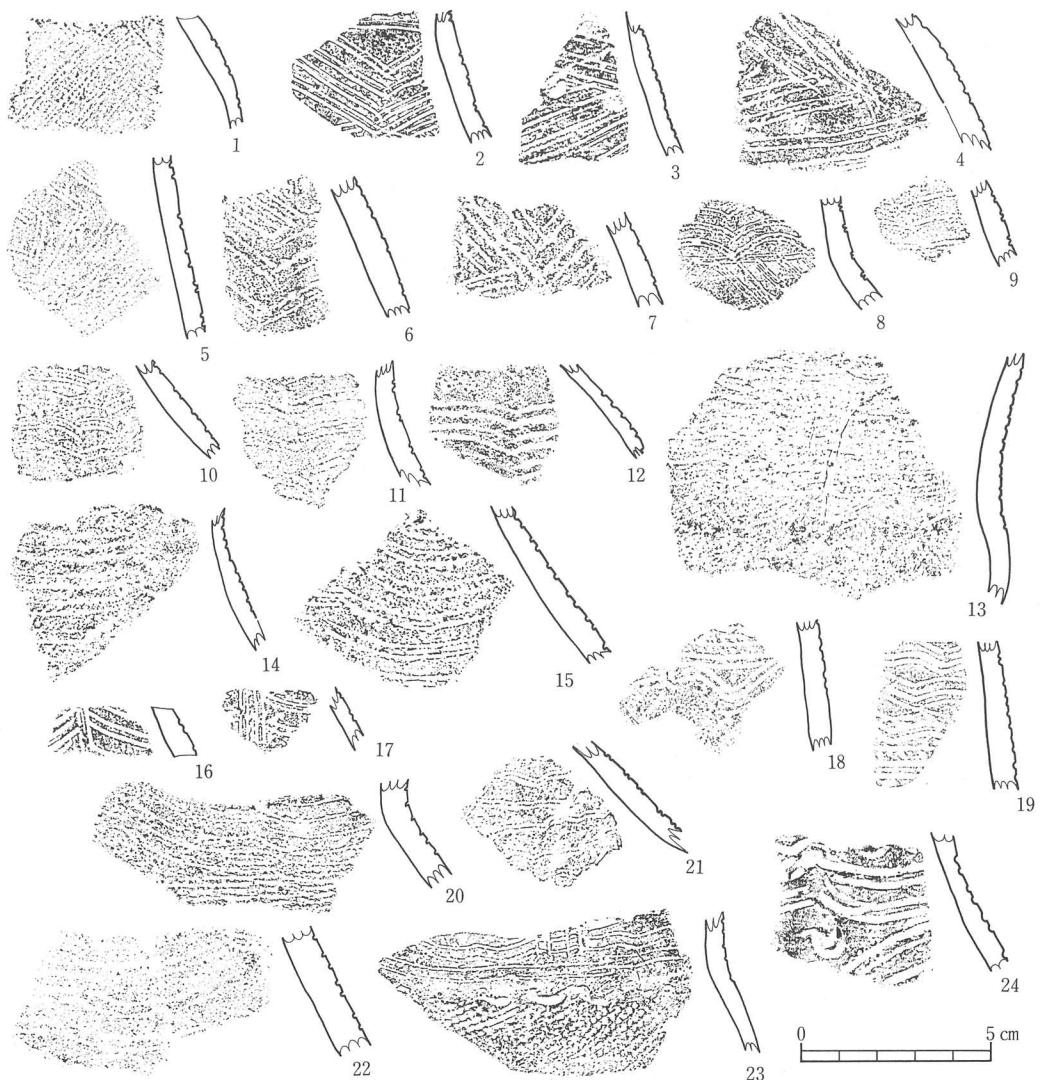
番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ID1	7a	I	広口壺	口縁	連弧文、4本同時	B314	57-14
2	IC9	7	I	広口壺	口縁	連弧文、4本同時	B316	57-15
3	IIB6	7	I	広口壺	口縁	連弧文、4本同時	B383	57-16
4	ICD9・10	7	I	広口壺	口・体	連弧文、4本同時、R捺糸文、内面ナデ	B101	57-17
5	ICD10	7b	I	壺か蓋	口頸	横走文、櫛歯状施文具？	B110	57-18
6	I・IIAB1・2	7b	I	広口壺	口頸	口唇：LR繩文、口縁：横走文、連弧文、LR繩文 頸：重菱形文、2本同時	B103	57-19
6	IA～C1	7a	I	広口壺	体	6と同一個体、横走文、連弧文（上向き） ブリッジ付連弧文（下向き）、2本同時	B103	57-19
7	I	6b	I	広口壺	口縁	連弧文、3本同時	B374	57-20
8	ID6	7a	I	壺か蓋	口縁	波状文、3本同時	B352	57-21
9	IA9	7	I	壺か蓋	頸	横走文、2本同時（上深、下浅）、内面ナデ	B337	57-22
10	IID10	7c	I	壺か蓋	頸	横走文、2本同時、内面ナデ	B339	57-23
11	IB2	7b	I	壺	頸	縦位区画文、横走文、2本同時、内面ナデ	B356	57-24
12	IA5	7c	I	壺	体	同心円文、2本同時	B334	57-25
13	ICD10	7a	I	壺	体	横走文、内面ミガキ	B335	57-26

第83図 7層出土遺物（5）



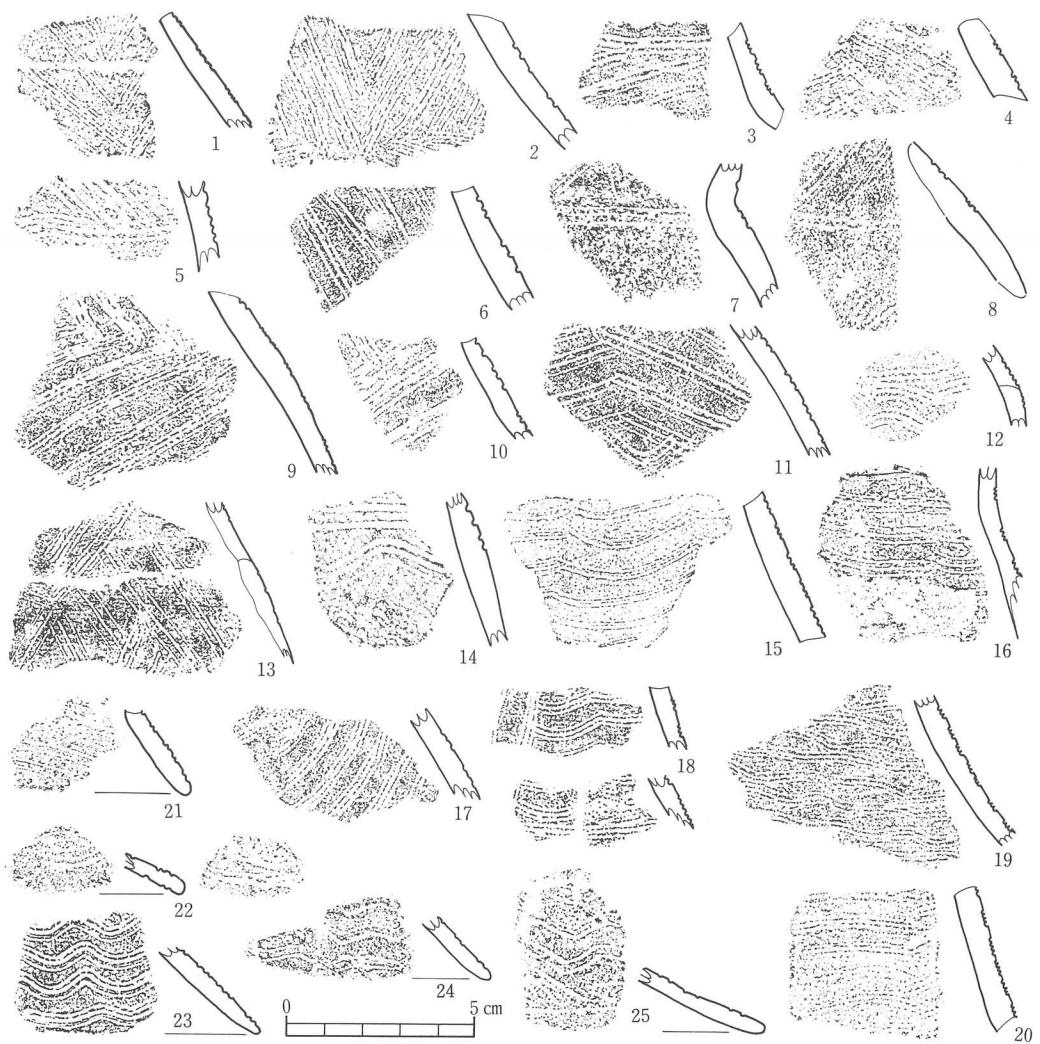
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I C10	7a	I	壺	体	重山形文、2本同時	B308	57-27
2	I B9	8	I	壺	体	重山形文、2本同時	B307	57-28
3	I A10	7a	I	壺	体	重山形文、2本同時	B301	57-29
4	I A1	7b	I	壺	体	重山形文、2本同時	B306	57-30
5	II A1	7b	I	壺	体	重山形文、2本同時、LR 繩文、内面ナデ	B345	57-31
6	I A10	7b	I	壺	体	重山形文、2本同時、内面ナデ	B341	57-32
7	II D4	7b	I	壺	体	重山形文、連弧文、2本同時、内面ナデ	B343	57-33
8	I B5	8	I	壺	体	重山形文、2本同時	B174	58-1
9	I A3・6	7a	I	壺	頸~体	縦位区画文、重山形文、2本同時、内面ナデ	B169	58-2
10	I C9	7	I	壺	体	重山形文、2本同時、内面ナデ	B324	58-3
11	I D9	7	I	壺	体	縦位区画文、重山形文、2本同時、内面ナデ	B353	58-4
12	I A8B10	7	I	壺	体	重山形文、2本同時、付加条	B304	58-5
13	II C4	7b	I	壺	体	重山形文、2本同時	B305	58-6
14	I A10、CD9	7	I	壺	体	重山形文、2本同時	B313	58-7
15	I D10	7	I	壺	体	重山形文、2本同時、内面ナデ	B349	58-8
16	I A8	7a	I	壺	体	重山形文、2本同時、内面ナデ	B344	58-10
17	I D9	7c	I	壺	体	重山形文、連弧形、2本同時、内面ナデ	B349	58-9

第84図 7層出土遺物 (6)



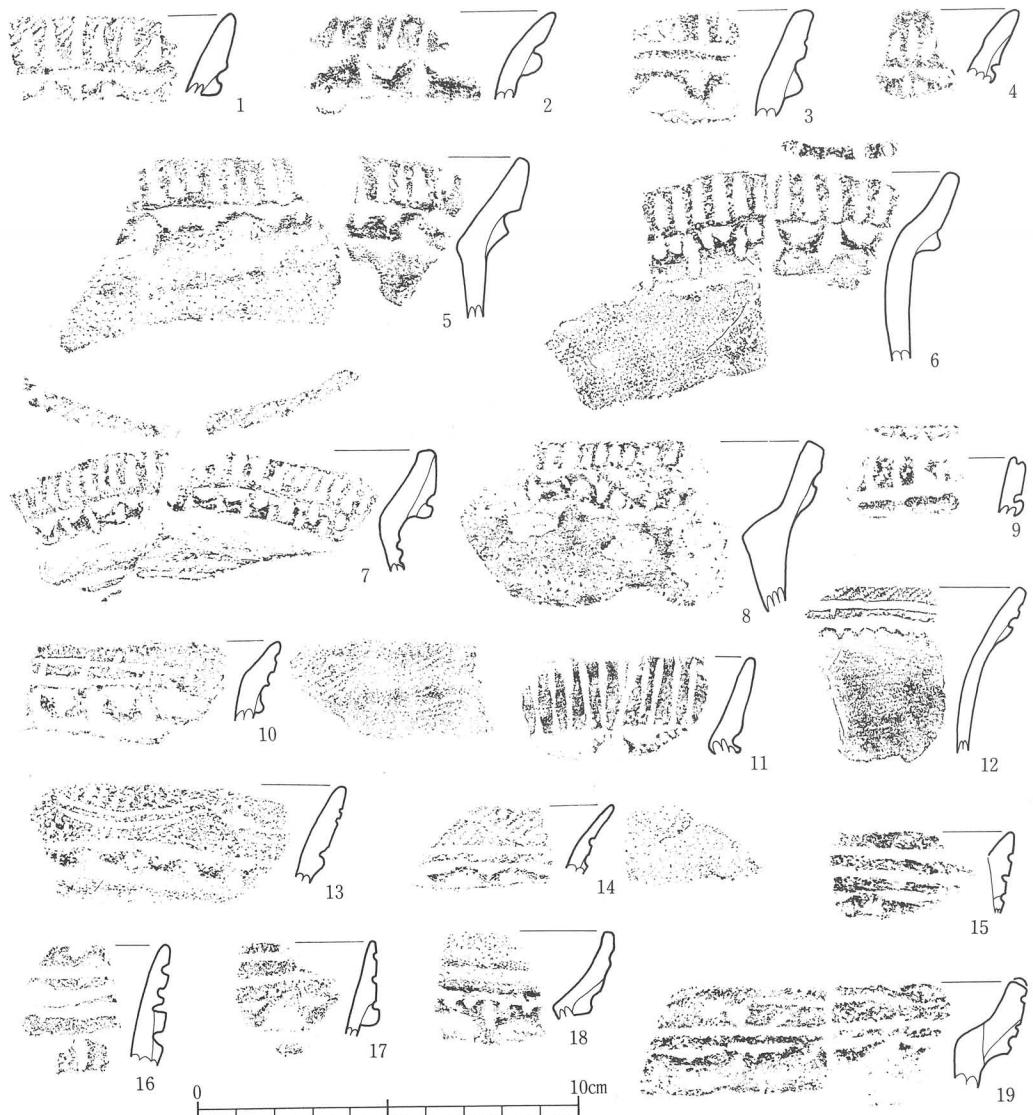
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I A2	7b	I	壺	体	重菱形文、2本同時、内面ナデかミガキ	B320	58-11
2	I B2	7b	I	壺	体	重菱形文、2本同時、内面ナデ	B321	58-12
3	I B8	5	I	壺	体	重菱形文、2本同時、内面ナデ	B322	58-13
4	I CD10	7	I	壺	体	重菱形文、2本同時、内面ナデ	B325	58-14
5	I A-D9・10	7	I	壺	体	重菱形文、2本同時	B200	58-15
6	I A2	7c	I	壺	体	重菱形文、2本同時、内面ナデ	B349	
7	I D9	7a	I	壺	体	重菱形文、2本同時	B326	
8	I D4	7	I	壺	体	連弧文、重山形文、2本同時、内面ナデ	B347	58-16
9	II D2	7a	I	壺	体	連弧文、2本同時	B385	58-17
10	I C10	7	I	壺	体	連弧文、2本同時	B369	58-18
11	I A9	7b	I	壺	体	連弧文、2本同時	B382	58-19
12	I B11	7	I	壺	体	連弧文	B371	58-20
13	I C9	7c	I	広口壺	頸～体	連弧文、波状文、2本同時、体部縄文？	B201	58-23
14	I A-D9・10	7	I	壺	体	連弧文、2本同時	B381	58-24
15	I A3	10	I	壺	体	連弧文、2本同時	B384	58-25
16	I D3	7c	I	壺	体	縦位区画文、連弧文、2本同時	B358	58-21
17	I B4	7c	I	壺	体	縦位区画文、連弧文、2本同時に	B359	58-22
18	II C11	7c	I	壺か甕	体	横走文、波状文、2本同時に、LR縄文	B213	
19	II ピット68	8	I	壺か甕	体	波状文、横走文、2本同時に、LR縄文、18と同一個体	B213	58-26
20	I CD10	7b	I	壺	体	連弧文、燃糸文	B377	58-27
21	I D11	7	I	壺	体	波状文、2本同時に	B363	58-28
22	I A7・9	7	I	壺	体	連弧文、2本同時に	B 20	58-29
23	I CD10	7b	I	広口壺	体	縦位区画文、波状文、2本同時に、LR縄文、綾絡文、内面ミガキ	B360	58-31
24	II C3	7	II ?	壺か甕	体	重菱形文、小円文、2本同時に、連続山形文	B 19	58-30

第85図 7層出土遺物 (7)



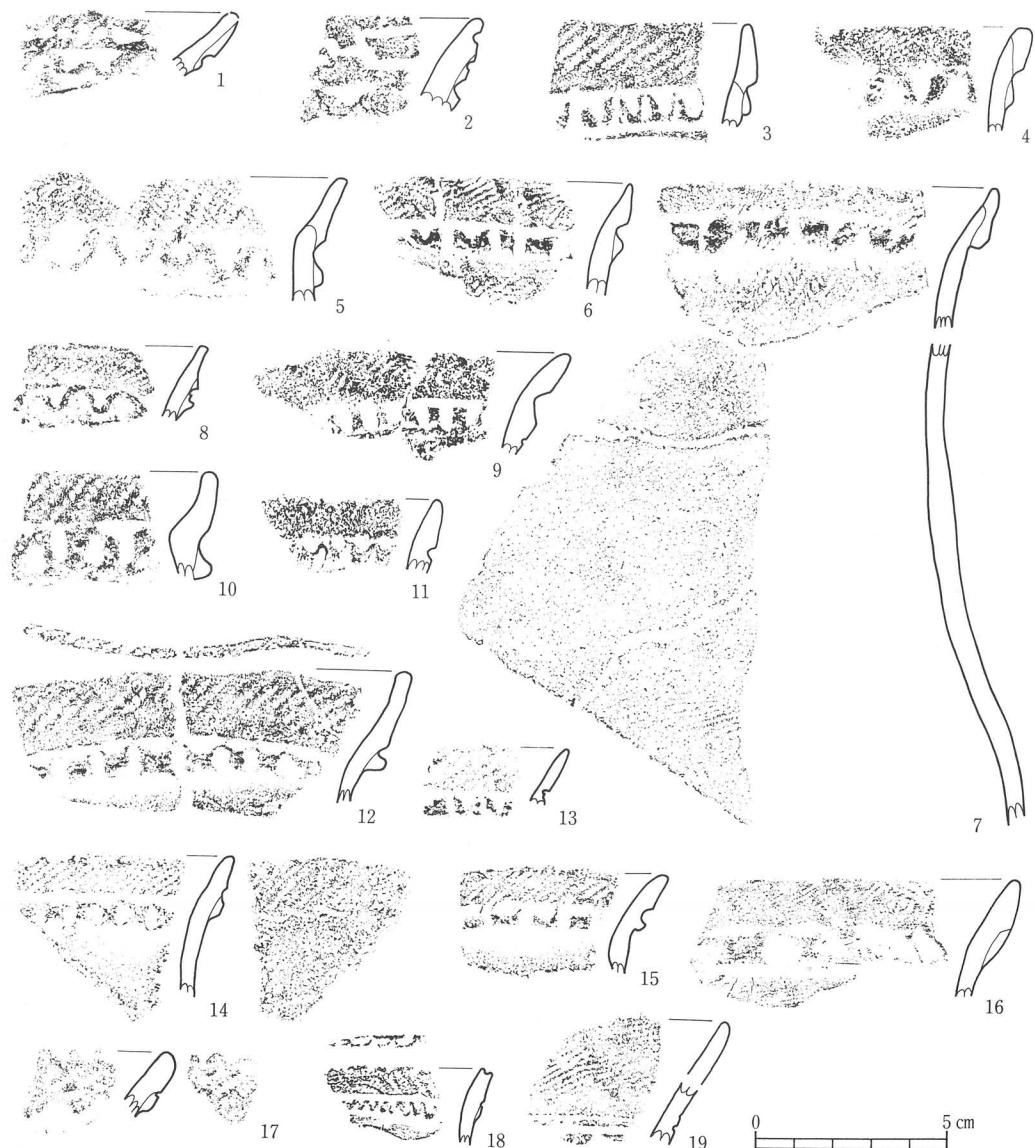
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I B2	7c	I	壺	体	重山形文、4本同時	B 315	58-32
2	IID5	7b	I	壺	体	重山形文、3本同時、内面ナデ	B 3	58-33
3	IA2	7a	I	壺	体	重菱形文?、3本同時	B 391	58-34
4	IB5	7a	I	壺	体	重菱形文?、3本同時	B 388	58-35
5	IA10	7b	I	壺	体	重山形文、3本同時、内面ナデ	B 387	58-36
6	IIA4	7b	I	壺	体	重山形文、3本同時	B 395	58-37
7	I ピット27	8	I	壺	体	重山形文、3本同時	B 310	58-38
8	ID4	7b	I	壺	体	重山形文、3本同時	B 394	58-40
9	ID3	7b	I	壺	体	重菱形文、3本同時、内面ナデ	B 340	59-1
10	IIA4	7b	I	壺	体	重菱形文、3本同時、内面ミガキ?	B 393	58-39
11	IIA2	7b	I	壺	体	重菱形文、3本同時	B 346	59-2
12	IA10	7	I	壺	体	連弧文、3本同時、内面ナデ	B 165	58-41
13	IA5・6	7c	I	壺	体	重菱形文、3本同時	B 342	59-3
14	IIB10	7a	I?	壺or甕	体	波状文、3本同時、横走文、LR繩文、内面ナデ	B 98	59-4
15	IBC1	7a	I	壺	体	連弧文、3本同時、内面ナデ	B 370	59-5
16	IA9	7b	I	壺	体	連弧文、3本同時、内面ナデ	B 376	59-6
17	IB10	7	I	壺	体	同心円文、3本同時	B 333	59-9
18	ICD10 IIB1・2	7	I	壺	体	縦位区画文、連弧文、3本同時	B 355 B 357	59-10
19	IC10	7a	I	壺	体	波状文、3本同時、内面ナデ	B 351	59-11
20	II4・5列	7b	I	壺	体	連弧文、4本同時	B 78	59-15
21	IICD10	7b	I	蓋か高坏	端部	連弧文、2本同時	B 365	59-7
22	IC10	7	I	蓋?	端部	内外面細沈線文、2本同時	B 368	59-8
23	ID4	7b	I	蓋	端部	波状文、3本同時、端部：繩文、内面ミガキ	B 350	59-12
24	IC8	7c	I	蓋	端部	連弧文、2本同時、内面ナデ	B 380	59-13
25	IA11	7b	I	蓋?	端部	波状文、2本同時	B 367	59-14

第86図 7層出土土器 (8)



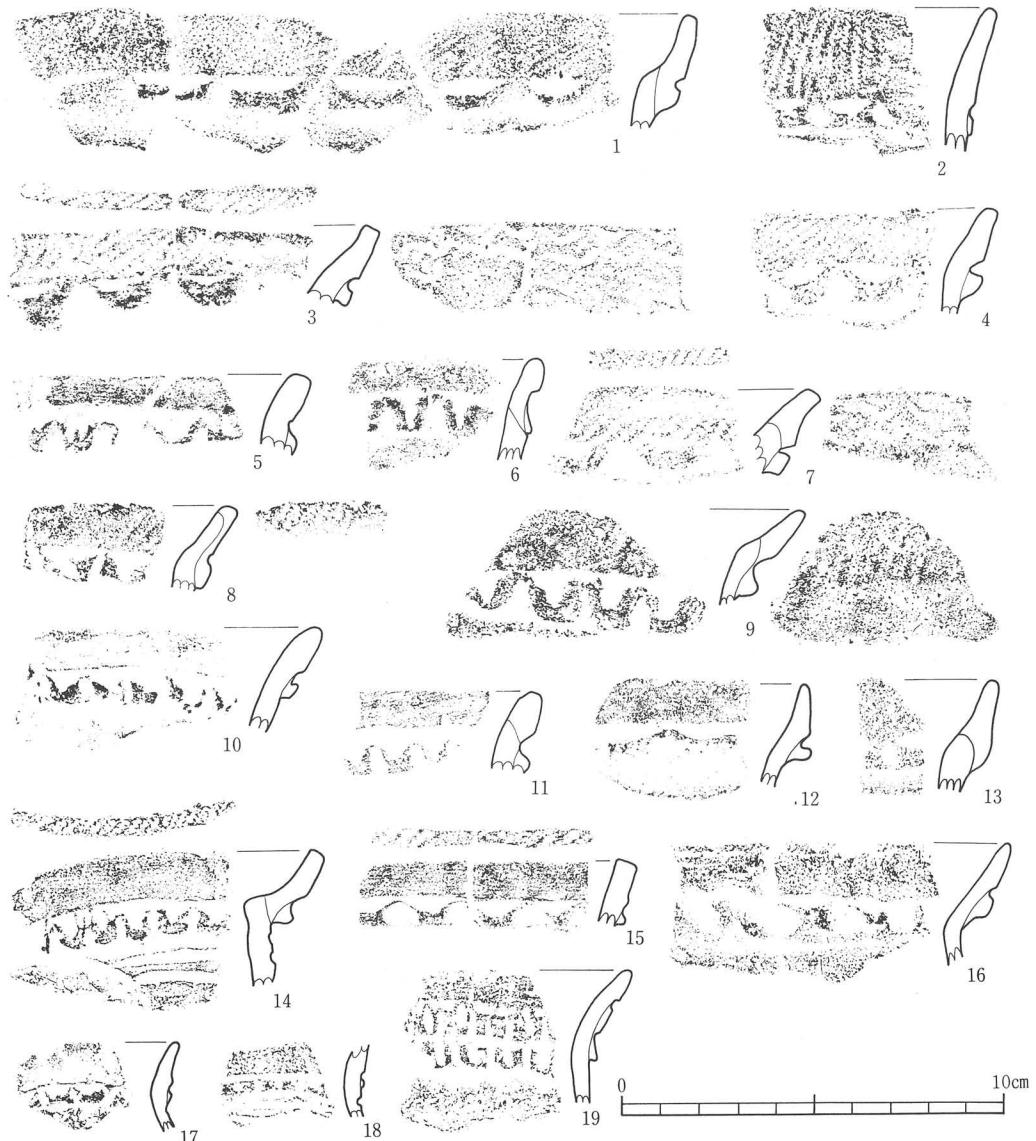
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I C1	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、LR繩文、口下半：交互刺突文	B 192	59-16
2	II A2	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突文	B 172	59-17
3	I D1~4	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突類似文（上刺突、下押圧）	B 155	59-18
4	I A6	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：波状文（下押圧）	B 37	59-19
5	I A2B1	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、 口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）、内部ナデ	B 120	59-20
6	II CD5・7	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突文（上刺突2ヶ）、内部ナデ	B 117	59-21
7	I D7、B10	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、 口唇：LR繩文、頸：沈線文、内面ナデ	B 92	59-22
8	III A15	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：交互刺突文、内面上縄文？ナデ	B 112	59-23
9	I A9	7	II A	壺・甕	口縁	口唇：沈線、刺突、口上：スリット文、口下半：押圧？	B 47	59-24
10	II C5	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、スリット文、口下半：交互刺突文、 内面：LR繩文？ナデ	B 185	59-25
11	I E4	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、 口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）、内面ナデ	B 24	59-26
12	III A15	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、LR繩文、口下半：波状文（上刺突）、内面ナデ	B 128	59-27
13	III B17	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文（0段多条）、連弧文（2本同時） 口下半：波状文（下押圧）	B 33	59-28
14	II C2	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文（0段多条）、口下半：波状文（下押圧）、内面LR繩文	B 168	59-29
15	I C8	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、口下半：波状文（下押圧）、内面ナデ	B 16	59-30
16	II A4	7b	II A	壺・甕	口縁	口唇：刺突、口上半：沈線、口下半：交互刺突文	B 184	59-33
17	I A8	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、口下半：波状文（下押圧）	B 15	59-32
18	I B6	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、繩文、口下半：波状態文（下押圧）	B 31	59-31
19	I B5	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線、繩文、口下半：波状態文（下押圧）	B 56	59-34

第87図 7層出土土器（9）



図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I B5	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：刺突文、口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）	B 59	59-35
2	I B5	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：沈線文、口下半：波状文	B 83	59-36
3	III C16	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：繩文、口下半分：交互刺文	B135	59-37
4	I B10	5	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：交互刺突類似文（上刺突、下押圧）	B121	59-38
5	I B6・D3	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文（0段多条）、口下半：交互刺突類似（上刺突、下押圧）内面LR繩文	B 14	59-39
6	II C1	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：交互刺突文 頸：LR繩文、内面：LR繩文、ナデ	B 17	59-40
7	II C9・10	7	II A	壺・甕	口～体	口上半：LR繩文、口下半：交互刺突文、頸～体：LR繩文、内面ナデ	B100	60-9
8	I A7	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、 口下半：交互刺突類似文（上刺突、下押圧）、内面LR繩文	B 5	59-41
9	II A2	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：繩文、口下半：刺突文	B 65	59-42
10	I A4	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：交互刺突文	B 41	59-43
11	II B10	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：繩文、口下半：交互刺突文、内面上半：繩文	B123	59-44
12	III BC15	7	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）	B114	59-45
13	II B2	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：交互刺突文	B167	
14	I A3	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）、内面LR繩文、綾絹文	B187	59-46
15	II C5	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）	B 81	59-47
16	II A9	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文？、口下半：波状文（下押圧）	B156	60-1
17	II A5	7b	II A	壺・甕	口縁	口唇：刺突、口上半：LR繩文、 口下半：波状文（下押圧）、内面LR繩文	B199	60-2
18	II B12	7b	II A	壺・甕	口縁	口唇：沈線、刺突、口上半：LR繩文、口下半：波状文（上刺突）	B107	60-3
19	I B7	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：繩文、口下半：波状文（下押圧）	B409	60-4

第38図 7層出土土器 (10)



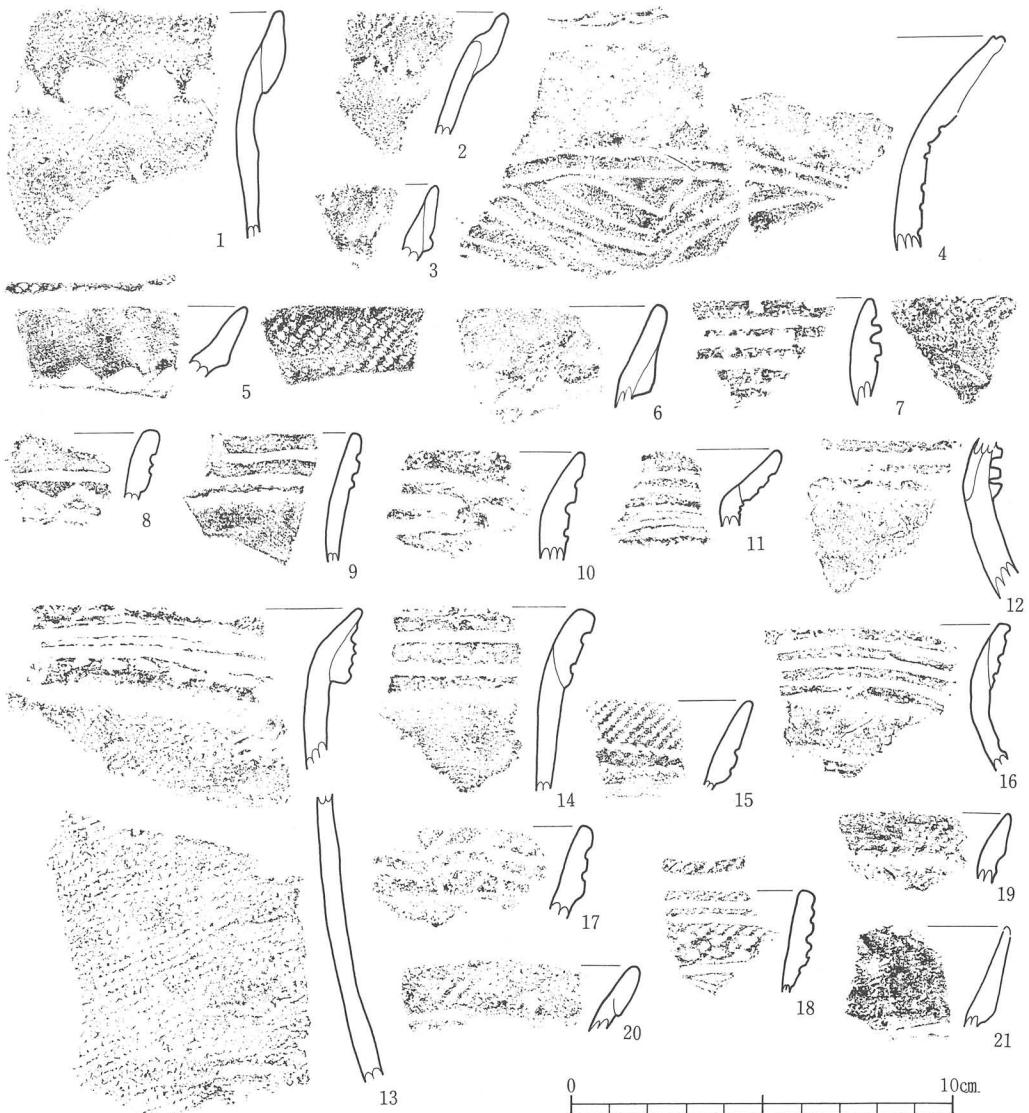
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I BC2・4	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）	B 55	60-5
2	I A~D9・10	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文（0段多条）、口下半：波状文（下押圧）、補修孔	B 42	60-6
3	II A5	7b	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口上半：LR繩文（0段多条） 口下半：波状文（下押圧）、内面 縹絡文	B179	60-7
4	I B1	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：LR繩文、口下半：波状文（下押圧）、内面ナデ	B190a	
5	I B2	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：交互刺突文類似文（上刺突、下押圧）	B152	60-10
6	I B5	7c	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：交互刺突文類似文（上刺突、下押圧）	B118	60-8
7	I B4	7c	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口上半：LR繩文、 口下半：波状文（下押圧）、内面 縹絡文	B190b	60-11
8	I A9	7c	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文（0段多条）、口下半：交互刺突文、内面LR繩文	B 51	60-12
9	I B5	5	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文？ 口下半：交互刺突文類似文（上刺突、上押圧）、内面LR繩文	B139	60-16
10	II A1	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：交互刺突文	B166	60-13
11	II A2	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：交互刺突文	B154	60-14
12	I 4列	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：波状文（下押圧）	B194	60-15
13	I C4	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：波状文（下押圧）	B196	
14	不明	7	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口上半：無文、口下半：交互刺突文 頸：沈線文、内面ナデ	B136	60-17
15	IIICD20・21	7	II A	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口上半：無文、口下半：波状文（下押圧）	B119	60-18
16	IIIB14	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：波状文（下押圧）	B127	60-19
17	I C1	7a	II A	壺・甕	口縁	口唇：無文、口下半：波状文（下刺突）	B 36	60-21
18	IIC1	7b	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：円形刺突文、頸：沈線文	B 27	60-22
19	ID1	7a	II A	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下半：交互刺突文2段、内面ナデ	B159	60-20

第89図 7層出土土器 (11)



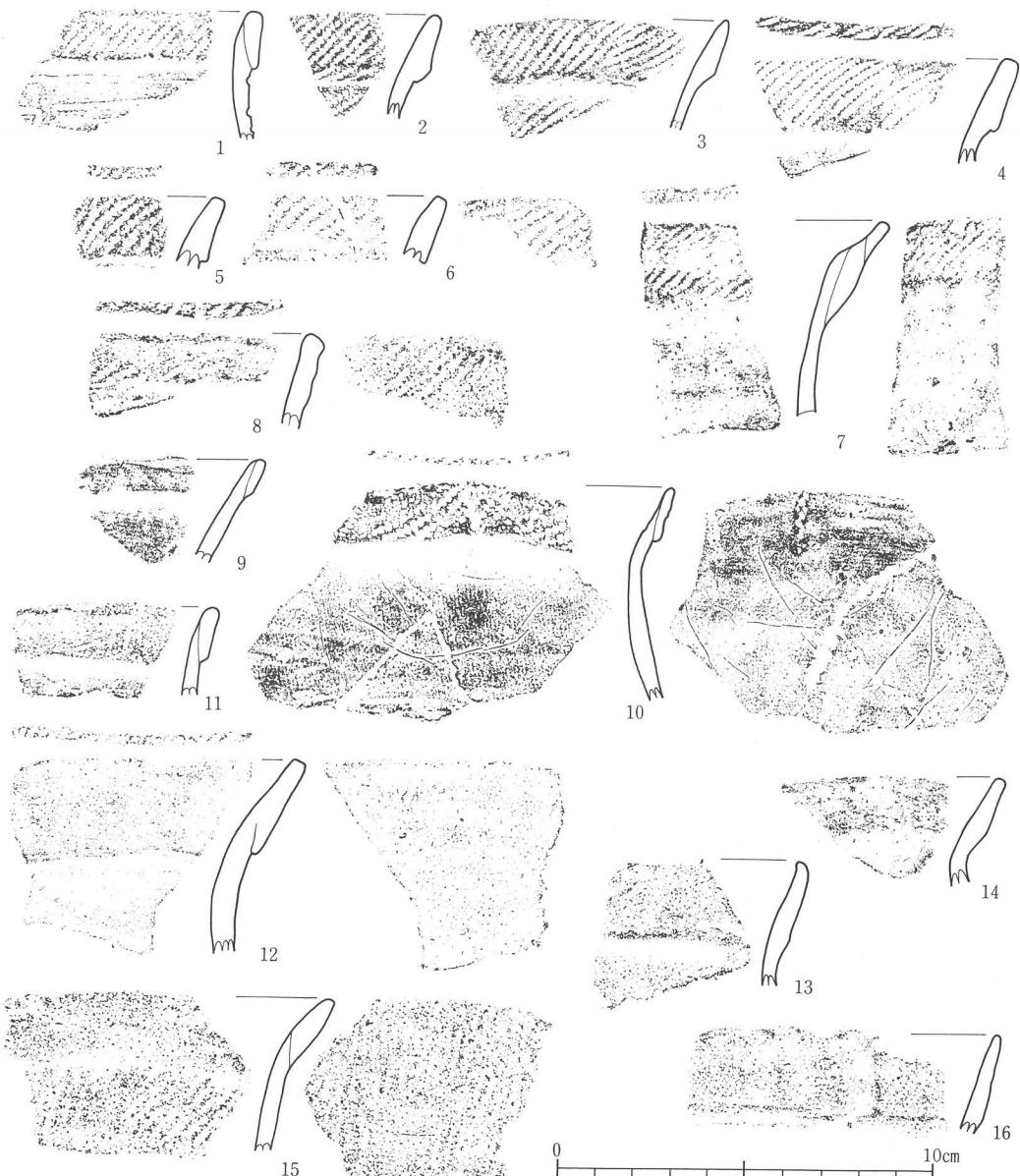
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ID7	7a	II B	壺・甕	口縁	口唇: LR繩文、口上半: スリット文、口下半: 交互刺突文	B 4	60-23
2	III B15	7	II B	壺・甕	口縁	口上半: 沈線、口下半: 交互刺突文、内面LR繩文	B129	60-25
3	III C16	7	II B	壺・甕	口縁	2と同一体	B124	60-24
4	II A~C2+4+5	7b	II B	壺・甕	口頸	口: 突起、菱形文、LR繩文、下端: 交互刺突文、頸: 重菱形文風、頸下端: 交互刺突文	B 67	60-29
5	III B14	7	II B	壺・甕	口頸	口上半: 連続山形文、LR繩文、口下半: 刺突文、頸: LR繩文、内面ナデ	B131	60-26
6	ID9	8	II B	壺・甕	口頸	口唇: 沈線、口上端: 交互刺突文、口中: 連弧文、口下端: 刺突文、頸: 連弧文	B111	60-30
7	II D11	7c	II B	壺・甕	口縁	口唇: 繩文、口上半: 沈線、繩文、口下端: 刺突文、内面ナデ	B158	60-27
8	II D6	7b	II B	壺・甕	口縁	口唇: 刺突、口上半: 沈線、下口端: 交互刺突文	B 61	60-28
9	II D22	7	II B	壺・甕	口頸	口唇~口上半: RL繩文、口下端: 鱗状刺突文、頸: 横走文(5本同時?) 内面ナデ、同一体部片RL繩文多数有	B212	60-31
10	I B9	7	II B	壺・甕	口縁	口上半: 沈線、連弧文、口下端: 交互刺突文、内面LR繩文(0段多条)	B 87	60-32
11	II A3	7b	II B	壺・甕	口頸	口上半: 連弧文、LR繩文、口下端: 押圧文、内面ナデ	B 48	60-37
12	II CD12	8	II B	壺・甕	口縁	口上半: 沈線、口下端: 押圧文	B171	60-36
13	II D25+26	7d	II B	壺・甕	口縁	口上半: L燃系文、口下端: 刺突文、内面ナデ	B170	60-33
14	III BC19	7	II B?	壺・甕	口縁	口上半: 付加条(RL+L)、連弧文、内面ミガキ	B 12	60-35
15	III C15	7b	II B	壺・甕	口縁	口上半: LR繩文、口下端: 押圧文	B433	60-34
16	II D23	7	II B	壺・甕	口縁	口上半: LR繩文、口下端: 刺突文	B206	61-1
17	III B15	7	II B	壺・甕	口頸	口上半: LR繩文、口下端: 綾絹文	B151	61-2

第90図 7層出土土器 (12)



図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	IB1	7b	II B	壺・甕	口頸	口上半：無文、口下端：押圧文、内面ナデ？	B 82	61-3
2	IB4	7	II B	壺・甕	口頸	口上半：繩文？、口下端：交互刺突文	B 64	61-4
3	IB2	7	II B	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下端：刺突文	B 85	
4	IA5	7c	II B	壺・甕	口頸	口唇：沈線文、刺突文、口上半：剥落、口下端：押圧文、頸：重山形文風	B 113	61-7
5	II	-	II B	壺・甕	口頸	口唇：LR繩文、口上半：無文、口下端：押圧文、内面：LR繩文	B 134	61-5
6	IB1	7	II B	壺・甕	口縁	口上半：無文、口下端：押圧文	B 193	61-6
7	IB1	7b	II C1	壺・甕	口縁	口縁：沈線、内面：繩文	B 43	
8	IIA3	7b	II C1	壺・甕	口縁	口縁：沈線、連続山形文	B 189	61-8
9	III C15	7	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、内面ナデ	B 10	61-9
10	IIA2	7b	II C1	壺・甕	口縁	口縁：沈線（破線状）	B 49	61-10
11	IIB5	7a	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、頸：横走文	B 422	61-11
12	IIA7	7c	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、内面凹凸あり	B 97	61-15
13	III E16	7b	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、刺突文、頸：付加条（LR+R）、内面ナデ	B 203	61-14
14	IB9	7	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、内面ナデ	B 146	61-16
15	I	II C1	壺・甕	口縁	口縁：LR繩文、撫糸圧痕（LR）	B 57	61-12	
16	IA5	7	II C1	壺・甕	口頸	口縁：沈線、頸：沈線	B 80	61-13
17	III C22	7	II C1	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口縁：連弧文、LR繩文、頸：LR繩文	B 6	61-17
18	III A17	7	II C1	壺・甕	口縁	口唇：LR繩文、口縁：沈線、刺突文、LR繩文、頸：沈線文	B 115	61-23
19	II B5	7	II C1	壺・甕	口縁	口縁：無文、内面ナデ	B 23	
20	II C2	7b	II C1	壺・甕	口縁	口縁：LR繩文？	B 197	61-18
21	IA10	7a	II C1	壺・甕	口縁	口縁：無文、内面ナデ	B 23	

第91図 7層出土土器 (13)



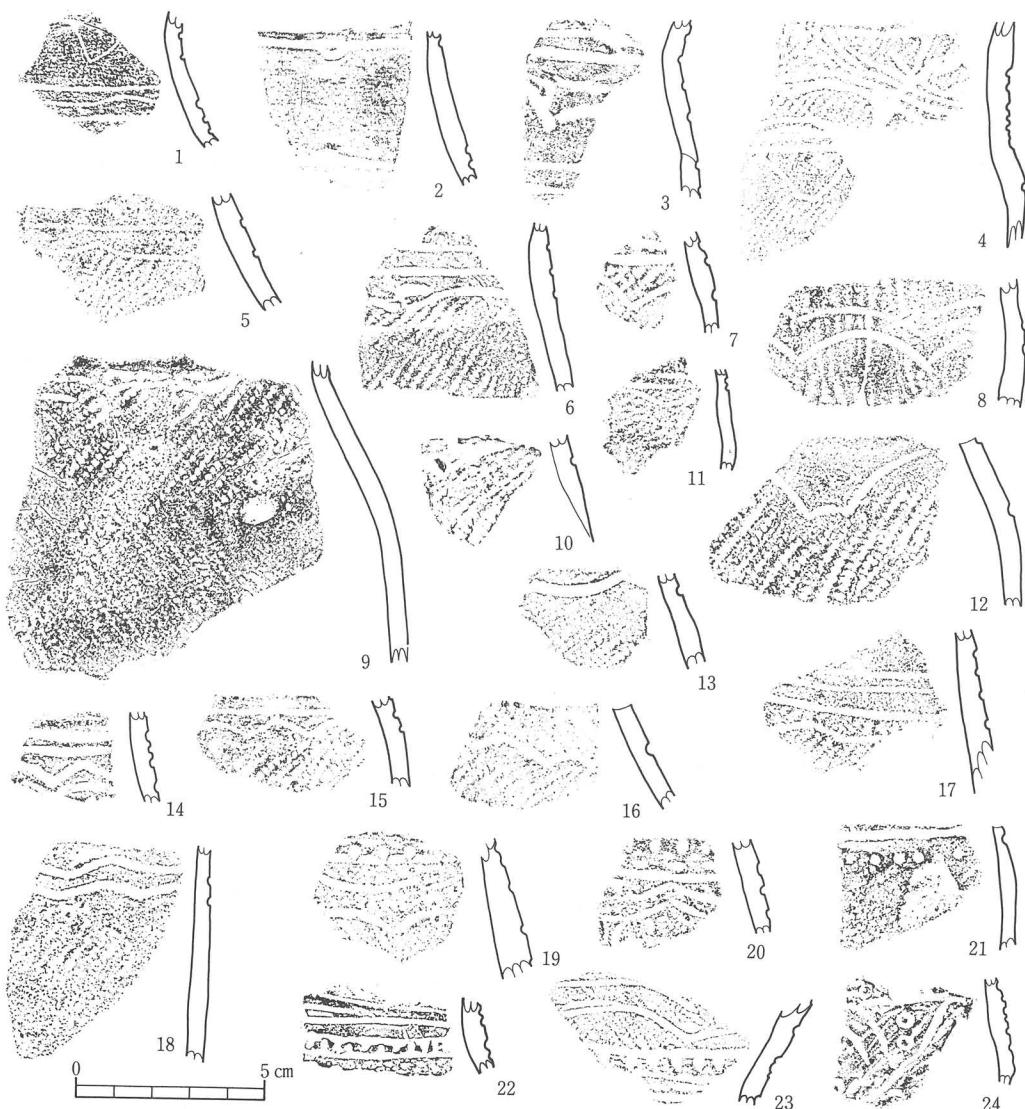
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I A10	7a	IIC1	壺・甕	口頸	口縁：LR縞文、頸：沈線文（工字文風？）	B 75	61-19
2	IIIC14	7	IIC1	壺・甕	口頸	口～頸：LR縞文、内面ナデ	B 21	61-20
3	III14列	7	IIC1	壺・甕	口頸	口～頸：LR縞文	B 54	61-21
4	II	7	IIC1	壺・甕	口頸	口唇～口縁：LR縞文（0段多条）、内面ナデ	B104	61-24
5	II A2	7b	IIC1	壺・甕	口縁	口唇～口縁：LR縞文、内面ナデ	B 22	61-22
6	IIIC19	8	IIC1	壺・甕	口縁	口唇：口縁外面：LR縞文	B 91	
7	IID5	7	IIC1	壺・甕	口頸	口唇・口縁外面：LR縞文	B 73	61-26
8	I A9	8	IIC1	壺・甕	口縁	口唇・口縁外面：LR縞文	B 18	61-25
9	II B11	7b	IIC1	壺・甕	口頸	口縁：無文	B 60	61-29
10	II A12	7c	IIC1	壺・甕	口頸	口唇・口縁：LR縞文、内面撚糸圧痕LRナデ	B 40	61-28
11	IIIB15	8	IIC1	壺・甕	口頸	口縁：無文、内面ナデ	B 84	61-30
12	IIIB15	7	IIC1	壺・甕	口頸	口唇：縞文、口縁無文、内面ナデ	B 96	61-31
13	IIIB15	7	IIC1	壺・甕	口頸	口唇：軽い押圧、口縁：無文	B214	61-33
14	I B3	7	IIC1	壺・甕	口頸	口縁：無文	B 26	
15	I A10	7	IIC1	壺・甕	口頸	口縁：無文、頸：LR縞文？、内面LR縞文	B418	61-32
16	IIIB15	7	IIC1	壺・甕	口頸	13と同一個体	B214	61-34

第92図 7層出土土器 (14)



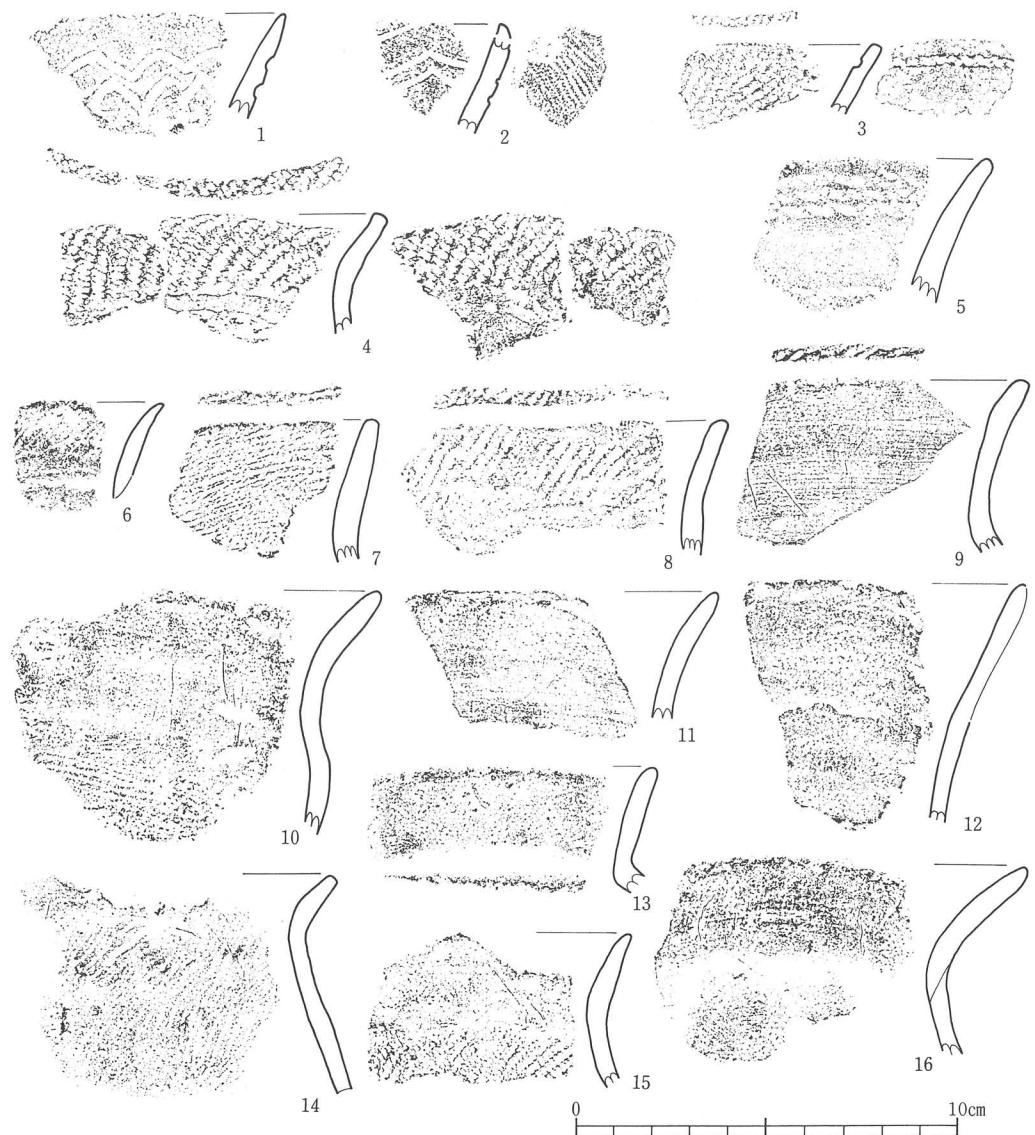
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	III B17	7	II C2	壺・甕	口縁	口縁：横走文、連弧文、LR縄文（0段多条）	B 13	61-35
2	II A11	7b	II C2	壺・甕	口頭	口縁：LR縄文	B 125	61-36
3	III CD15	7	II C2	壺・甕	口頭	口縁：LR縄文	B 138	61-37
4	III A10	7	II C2	壺・甕	口頭	口唇～頸：LR縄文、内ミガキ	B 2	61-38
5	II C14	8'	II C2	壺・甕	口頭	口唇～頸：LR縄文、内面LR縄文	B 52	61-39
6	II C 5	7b	II C2	壺・甕	口頭	口縁～頸：LR縄文、内面上端LR縄文	B 424	61-40
7	II B3・4	7	II C2	壺・甕	口縁	口縁内外面：LR縄文	B 32	61-41
8	II A2	7b	II C2	壺・甕	口頭	口唇・口縁：LR縄文	B 397	61-43
9	I C1～3	7c	II C2	壺・甕	口頭	口縁：LR縄文	B 74	61-42
10	II A10	7b	II C2	壺・甕？	口縁	口縁：LR縄文	B 95	62-1
11	I C2	7b	II C2	壺・甕	口縁	口縁：小突起、山形文、内面ナデ	B 425	62-2
12	I A7B6	7	II C2	壺・甕	口頭	口縁：無文	B 66	62-3
13	III D25	7		体		細沈線文、ボタン状貼付文	B 145	62-4
14	III D25	7		体		沈線文、ボタン状貼付文、縄文	B 133	62-5
15	II B 7			体		横走文、小円文	B 410	62-6
16	I B2	7c		体		沈線文、磨消縄文、LR縄文（0段多条）	B 72	62-9
17	II B6	7b		体		沈線文、磨消縄文、LR縄文	B 183	69-7
18	I C1～3	7c		体		沈線文、弧状文、縄文	B 44	69-11
19	I C4	7		体		沈線文、弧状文、LR縄文	B 69	69-12
20	II B4	7b		体		沈線文、連続山形文、工字状文？	B 405	69-13
21	II D5	7b		体		沈線文、工字状文？、LR縄文（細）	B 70	69-8
22				体		沈線文、工字状文？、縄文？	B 408	69-10
23	I A 9	7c		体		沈線文、工字状文？	B 63	69-14

第93図 7層出土土器（15）



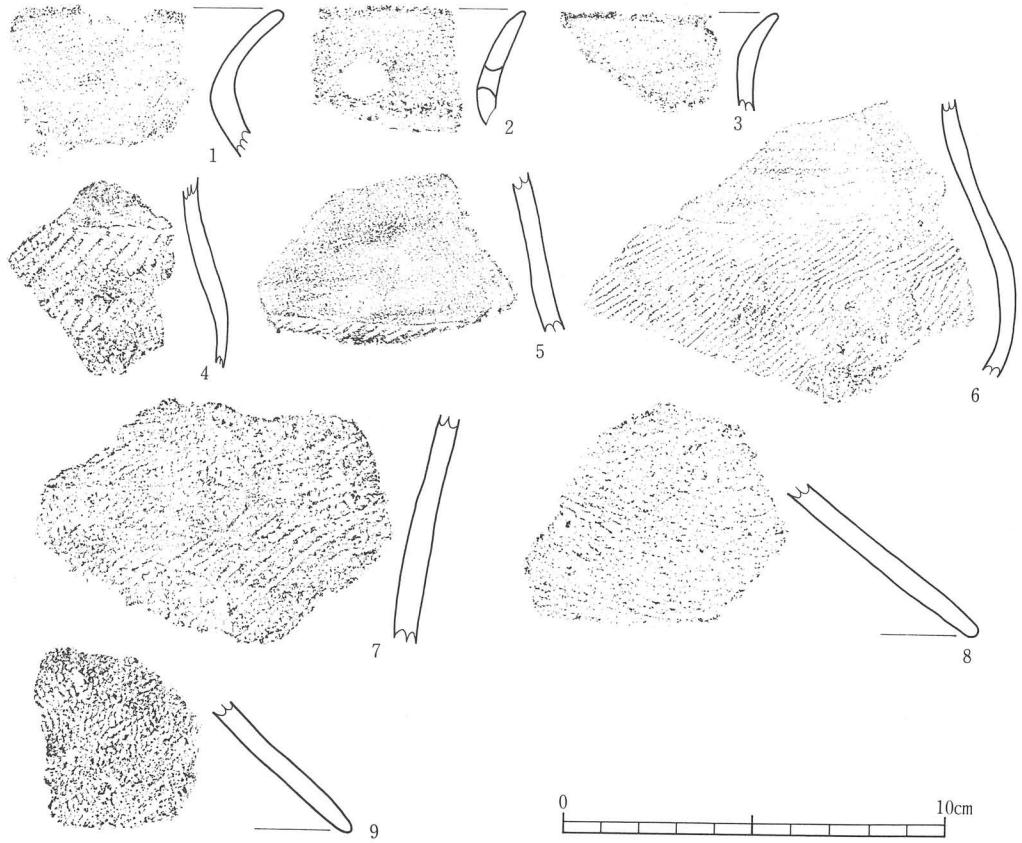
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	III C19	7		壺・甕	頸	小形文	B 398	62-15
2	III 14列	7		壺・甕	頸	横走沈線、小弧状文、内面ナデ	B 8	62-16
3	I CD10	7b		壺・甕	頸	山形文、内面ナデ	B 176	62-17
4	III A17	7		壺・甕	頸～体	頸：弧状沈線文、LR繩文、体：連続山形文、LR繩文、内面ナデ	B 99	62-19
5	II C1	7b		壺・甕	体	連弧文、繩文	B 404	62-18
6	II A12	7b		壺・甕	体	ブリッジ付連弧文、LR繩文	B 147	62-26
7	I B5	7c		壺・甕	体	連弧文、繩文LR、内面ナデ	B 402	62-20
8	II B5	7b		壺・甕	体	連弧文、縦走繩文	B 153	62-30
9	III C20	8'		壺・甕	体	連弧文、LR繩文、内面ナデ	B 38	62-21
10	II B4	7b		壺・甕	体	沈線文、LR繩文	B 406	62-22
11	II B19・20	7		壺・甕	体	連続山形文、繩文	B 162	62-23
12	III AB20・21	7		壺・甕	体	ブリッジ付連弧文、LR繩文	B 1	62-29
13	II B1	7c		壺・甕	体	連弧文、LR繩文	B 407	62-24
14	I C1～3	7c		壺・甕	体	連続山形文	B 71	62-25
15	I A4	7a		壺・甕	体	連続山形文、LR繩文	B 403	62-28
16	I D1	7c		壺・甕	体	連続山形文、LR繩文	B 401	62-27
17	III D20	8		壺・甕	体	連続山形文、LR繩文	B 7	62-37
18	III 14列	7		壺・甕	体	連続山形文、LR繩文	B 143	62-33
19	I A5	7		壺・甕	体	刺突文、連弧文、RL繩文	B 77	62-31
20	II A5	7b		壺・甕	体	刺突文、連弧文、RL繩文？	B 90	62-32
21	II B19	7		壺・甕	体	円形刺突文、LR繩文？	B 54	62-34
22	I A2	7		壺・甕	頸～体	頸：横走沈線文、頸下端：交互刺突文、体：繩文	B 62	62-35
23	IIC3	7b	II B	壺・甕	口縁	口上半：連弧文、RL繩文、口下半：刺突文	B 86	62-36
24	III AB14	7		壺・甕	頸	連弧文、円形刺突文、内面ナデ	B 9	62-38

第94図 7層出土土器 (16)



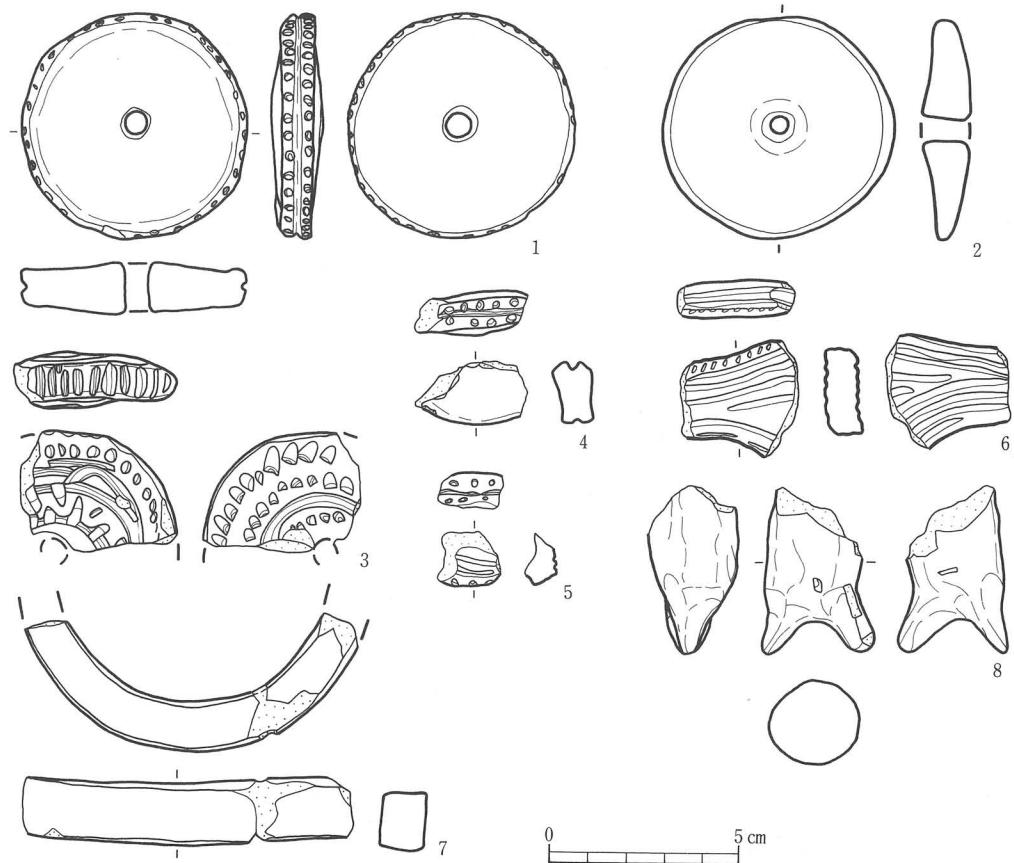
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	IIB1	7a		壺・甕	口縁	連続山形文	B 35	62-39
2	I C7	7		壺・甕	口縁	山形文、内面RL繩文	B 400	62-40
3	IIA2	7b		壺・甕	口縁	口唇・口縁：LR繩文、内面撚糸圧痕（LR）	B 150	
4	IIB12D6	7b		壺・甕	口縁	口唇・口縁：LR繩文（0段多条）、帯状ナデ、内面LR繩文	B 140	62-41
5	IID2	7b		壺・甕	口縁	撚糸圧痕（LR）	B 94	62-42
6	IIA5	7b		壺・甕	口縁	LR繩文、内面ナデ	B 411	
7	ID4	7		甕	口縁	口唇・口縁：R撚糸文、内面ナデ	B 429	62-44
8	III B14	7		壺・甕	口縁	口唇・口縁：LR繩文（0段多条）	B 106	62-43
9	I C5	8		甕	口縁	口唇：繩文、口縁：ヨコナデ明瞭、内面ナデ	B 105	62-45
10	I B11	7b		甕	口～体	口縁：無文、ナデ、体：撚糸文	B 431	62-48
11	ID10	7		甕	口縁	口縁：無文、ヨコナデ	B 430	62-46
12	IA10	7b		甕	口縁	内面ナデ	B 412	62-49
13	IC10	7c		甕	口縁	口唇：部分的に繩文、口縁無文	B 420	62-47
14	III C15・19	7		壺・甕	口～体	口縁：無文、体：撚糸文、内面上端：繩文	B 58	63-1
15	III AB20・21			甕	口～体	口縁：無文、体：LR繩文	B 427	63-2
16	IA～D9・10	7		甕	口縁	口縁：無文ナデ	B 417	63-3

第95図 7層出土土器（17）



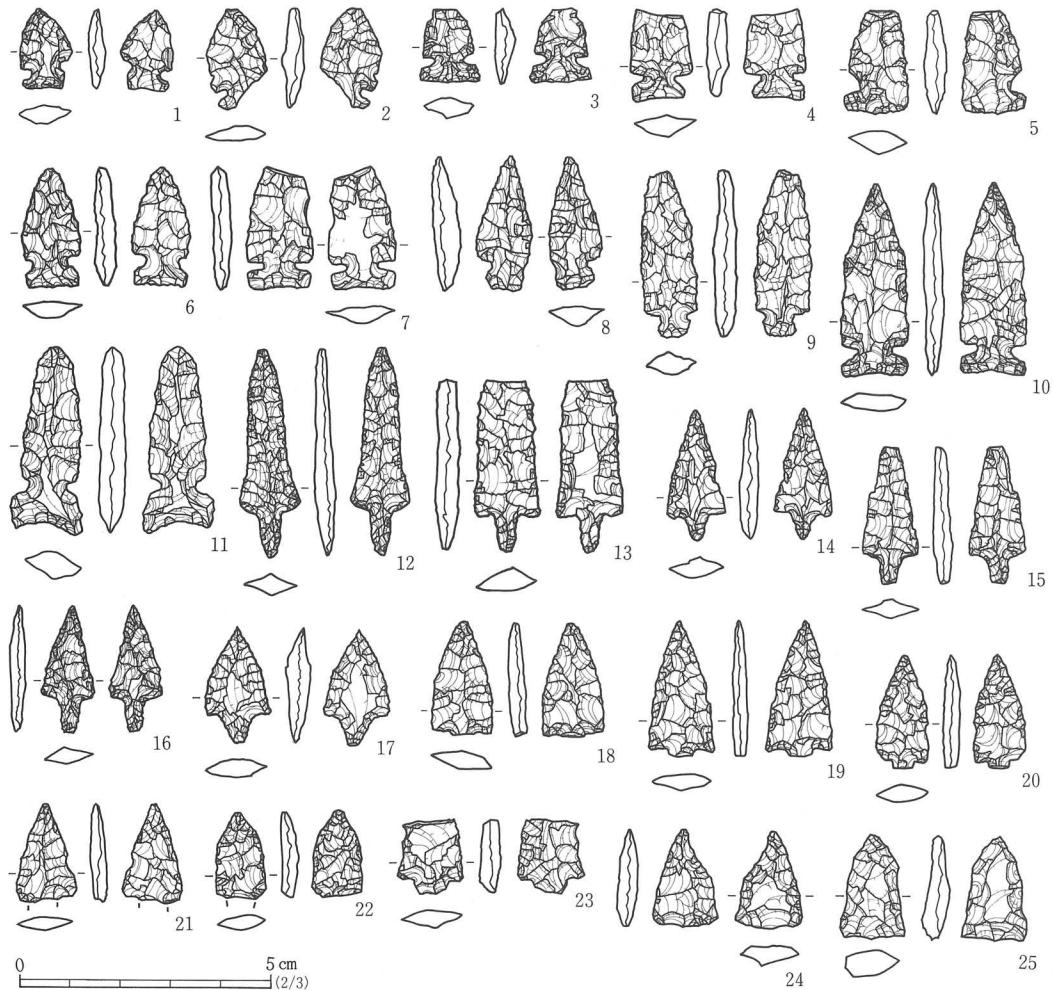
図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	ID9	7c		甕	口縁	内外面摩滅	B173	63-4
2	IBC6	7		甕	口縁	補修孔	B415	63-5
3	IC9	7		甕	口縁	口唇：繩文	B416	63-6
4	IIIC15	7		壺・甕	頸～体	頸：ミガキ、体：LR繩文	B202	63-7
5	IC8	7c		壺・甕	頸～体	頸：ナデ？、体：L繩文	B149	63-8
6	IIIB16	7		壺・甕	頸～体	頸：ナデ（ヨコ）、体：LR繩文、内面ナデ（ヨコ）	B182	63-10
7	IID16	7d		体		付加条（原体不明）	B204	
8	IA10	7b		蓋	端～体	撚糸文	B180	63-9
9	IC9	8		蓋	端～体	LR繩文、内面ナデ	B413	63-11

第96図 7層出土土器 (18)



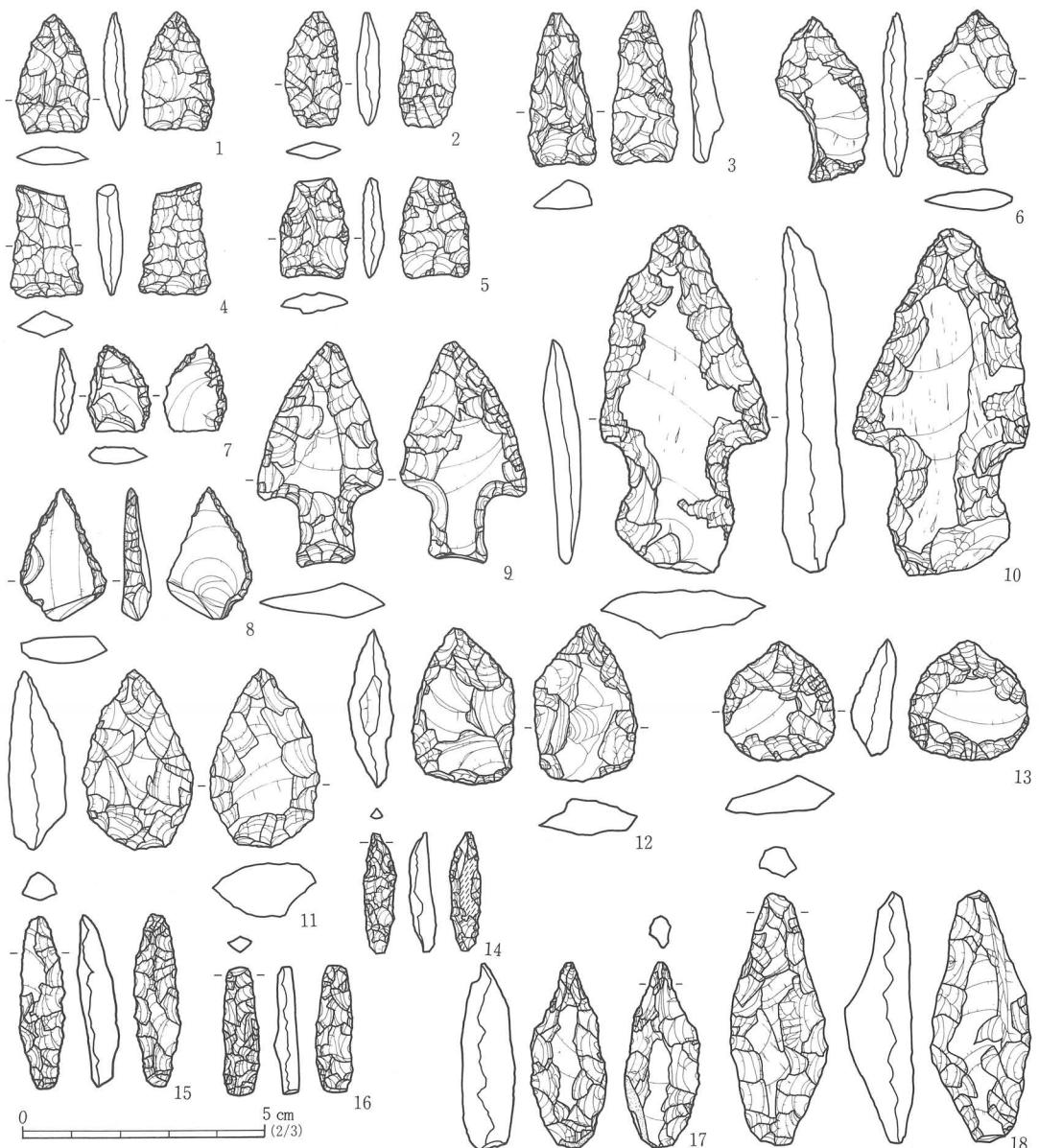
番号	種類・部位	地区・層位	特 徴	写真	登録
1	紡錘車	I 区 A~D 7 7 a	径6.0cm、最大厚1.4cm、孔径0.5cm、縁部に刺突文が2列あり、その間に沈線	63-12	P-803
2	紡錘車	II 区 B 6 7 c	径6.0cm、厚さ1.3cm、孔径0.5cm	63-14	P-27
3	紡錘車	II 区 A12	復元径6.0cm、残存長3.25cm、最大幅4.2cm、厚さ1.45cm、沈線文、刺突文	63-13	P-26
4	紡錘車	III 区 B 15 7	残存長1.6cm、残存幅2.7cm、厚さ1.0cm、縁部に刺突文と沈線文		P759
5	紡錘車	III 区 D 20 7	残存長1.4cm、残存幅1.6cm、厚さ0.8cm、刺突文と沈線文		P758
6	土偶？	III 区 B 15 7	残存長3.15cm、最大幅3.0cm、厚さ0.9cm、腕部か？、沈線部と刺突文	63-15	P-10
7	環状土製品	II 区 A 6 7 a	長さ1.7cm、残存幅8.8cm、厚さ1.2cm	63-17	P-756
8	土製品	I 区 7	残存長4.5cm、幅2.4cm、厚さ2.25cm、土偶か？	63-16	P-741

第97図 7層出土土製品



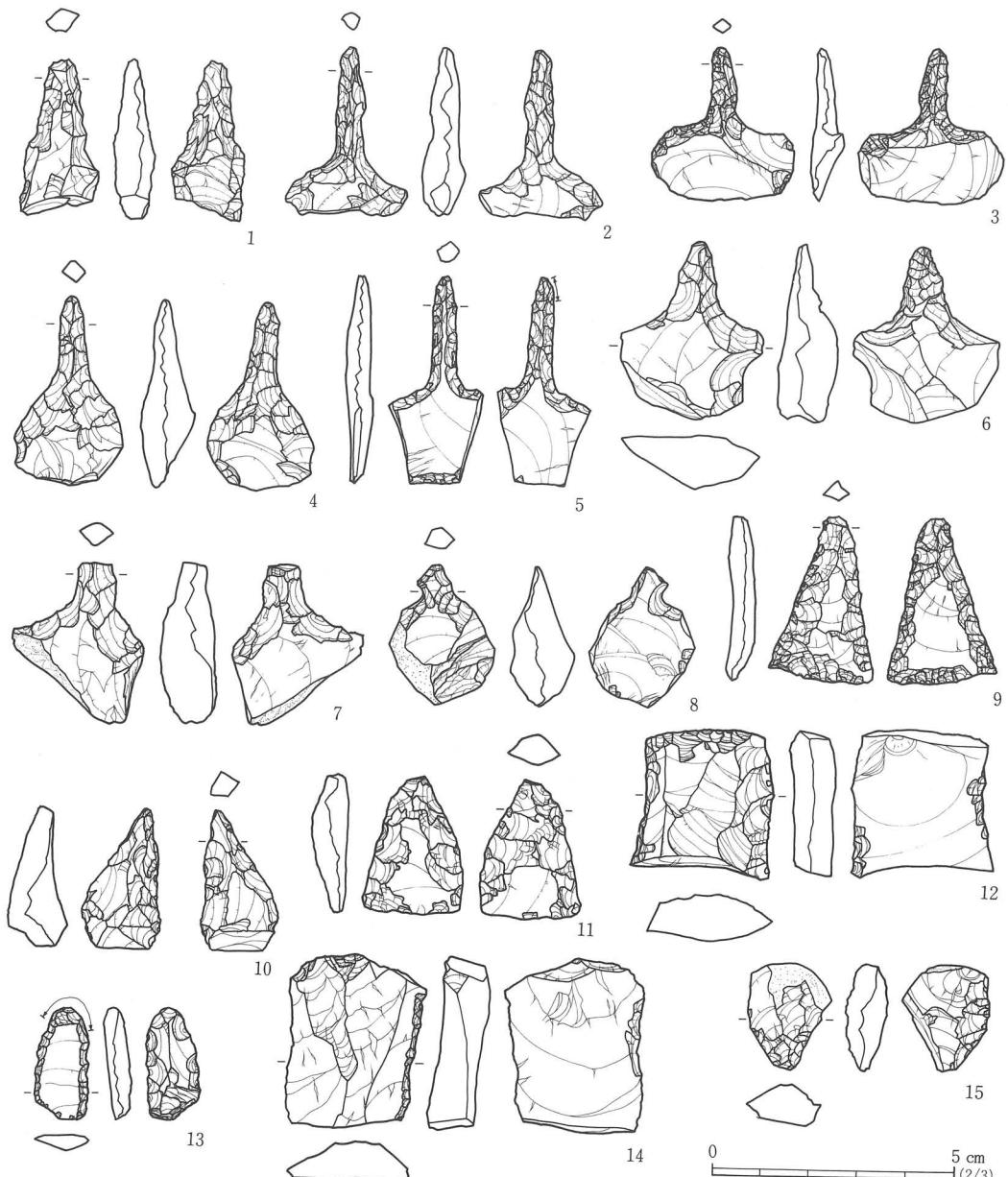
番号	地区	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 材	備 考	登録	写真
1	I A 1	7 b	アメリカ式石鏃	16. 2	10. 5	3. 0	0. 4	珪質頁岩	素材面両面、基部片側欠損	Ka2360	63-18
2	I A 1	7 a	石 鏃	(19, 7)	11. 4	4. 1	0. 6	流紋岩	先端部、基部片側欠損	Ka2386	63-19
3	I B 6	7 a	アメリカ式石鏃	(14, 4)	11. 3	3. 9	0. 5	珪質頁岩	先端部欠損	Ka2396	63-20
4	I D 2	7 c	アメリカ式石鏃	(17, 9)	12. 0	4. 0	0. 8	流紋岩	先端部欠損、素材面片面	Ka2388	63-21
5	I C 3	7 b	アメリカ式石鏃	(20, 5)	12. 4	4. 3	0. 8	珪質頁岩	先端部欠損、素材面両面	Ka2382	63-22
6	I A 5	7 b	アメリカ式石鏃	23. 6	11. 5	4. 1	0. 9	流紋岩		Ka2372	63-23
7	II C 12	7 c	アメリカ式石鏃	(23, 9)	12. 8	3. 4	1. 1	流紋岩		Ka2371	63-24
8	II A 12	7 c	アメリカ式石鏃	26. 7	11. 0	4. 7	1. 1	流紋岩	素材面両面	Ka2363	63-25
9	II B 11	7 c	アメリカ式石鏃	(32, 9)	11. 2	4. 2	1. 3	流紋岩	先端部欠損	Ka2384	63-26
10	II C 12	7 c	アメリカ式石鏃	38. 2	13. 2	3. 6	1. 7	珪質頁岩		Ka2366	63-27
11	III C 24	7	アメリカ式石鏃	36. 8	13. 9	4. 9	2. 4	珪質頁岩	先端部摩耗、素材面両面	Ka1911	63-28
12	II D 6	7 b	石 鏃	(41, 0)	11. 6	3. 6	1. 0	珪質頁岩	先端部欠損	Ka2398	63-29
13	I A 10	7	石 鏃	(33, 2)	13. 0	4. 4	1. 9	玉髓	先端部欠損、素材面片面	Ka2381	63-30
14	I A 9	7 b	石 鏃	25. 8	11. 3	3. 5	0. 7	珪質頁岩	素材面片面	Ka2362	63-31
15	I B 10	7	石 鏃	(27, 2)	11. 0	3. 8	0. 7	珪質頁岩	先端部から側辺へ欠損	Ka2351	63-32
16	I B 6	7 a	石 鏃	24. 5	10. 1	2. 8	0. 5	鉄石英	素材面片面	Ka2352	63-33
17	III C 21	8'	石 鏃	22. 3	12. 7	4. 0	0. 8	玉髓	素材面両面	Ka1871	63-34
18	I B 2	7	石 鏃	(22, 2)	11. 8	2. 8	0. 8	玉髓	茎部欠損	Ka2392	
19	I A 7	7 b	石 鏃	(26, 5)	12. 7	2. 9	0. 8	流紋岩	茎部欠損	Ka2350	63-36
20	I B 9	7	石 鏃	(22, 4)	10. 2	3. 1	0. 6	流紋岩	茎部欠損	Ka2368	63-37
21	II C 6	7 c	石 鏃	19. 5	11. 7	2. 6	0. 6	流紋岩	茎部欠損、素材面両面	Ka2361	63-38
22	I D 10	7 a	石 鏃	(17, 0)	9. 5	3. 0	0. 5	黒曜岩	茎部欠損	Ka2383	63-35
23	I A 5	7 c	石 鏃	(14, 2)	12. 9	3. 6	0. 7	流紋岩	先端部欠損	Ka2348	
24	I 4列ベルト	7 a	石 鏃	19. 3	12. 9	3. 5	0. 7	流紋岩	素材面片面	Ka2374	63-39
25	I A 4	7 c	石 鏃	20. 6	12. 8	4. 3	1. 0	流紋岩		Ka2405	63-40

第98図 7層出土剝片石器 (1)



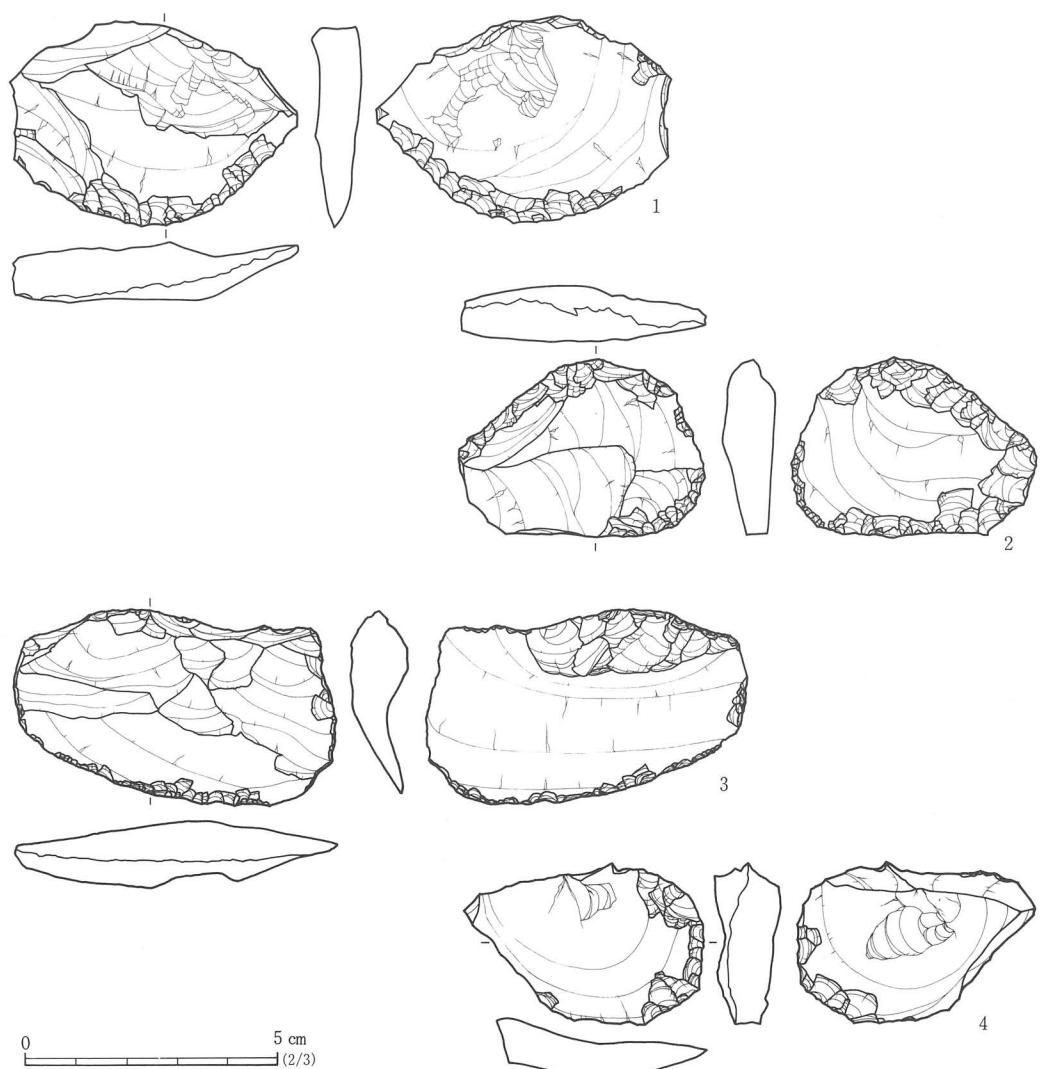
番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登録	写真
1	I B 7	7b	石鎌	24.1	14.5	3.9	1.3	流紋岩		Ka2376	63-41
2	I CD10	7b	石鎌	(23, 5)	11.4	4.5	1.1	流紋岩	先端部欠損	Ka2393	63-43
3	II A 12	7a	石鎌	(31, 1)	13.5	5.7	1.7	流紋岩	素材面両面、先端部欠損	Ka2370	63-42
4	CD10	7b	石鎌	(23, 0)	14.3	4.9	1.2	流紋岩	先端部欠損	Ka2409	
5	I 4列ベルト	7a	石鎌	(20, 8)	14.3	3.9	1.1	流紋岩	先端部欠損	Ka2358	
6	B 7	8	石鎌	34.1	18.8	4.3	2.4	流紋岩	素材面両面、側刃部欠損	Ka2408	
7	II B 4	7a	尖頭器	18.2	12.7	3.0	0.8	珪質頁岩		Ka2359	63-44
8	I D 10	7a	尖頭器	26.9	16.8	5.4	1.9	珪化凝灰岩		Ka2354	63-45
9	I B 4	7c	尖頭器	46.7	26.1	7.0	5.8	玉髓		Ka2345	64-2
10	II A 12	7c	尖頭器	72.3	34.7	12.3	24.2	流紋岩		Ka2347	64-1
11	III C 13	7c	尖頭器	36.4	22.0	10.6	7.5	流紋岩		Ka1872	64-3
12	III DE16	7	尖頭器	31.9	20.8	8.2	4.6	流紋岩		Ka1914	64-4
13	III A 17	8'	尖頭器	24.4	23.6	7.3	3.8	珪質頁岩		Ka1873	64-5
14	I D 12	7a	石錐	24.3	6.1	4.5	0.7	玉髓		Ka2430	64-6
15	I 4列ベルト	7a	石錐	35.2	9.2	6.0	1.9	流紋岩		Ka2422	64-7
16	I A 6	7	石錐	(25, 8)	7.2	4.7	0.9	流紋岩	先端部欠損	Ka2423	64-8
17	II C 4	7b	石錐	38.4	15.7	10.1	6.4	珪質頁岩		Ka2434	64-9
18	I C 7	8	石錐	51.8	20.4	13.6	10.3	流紋岩		Ka2426	64-10

第99図 7層出土剝片石器 (2)



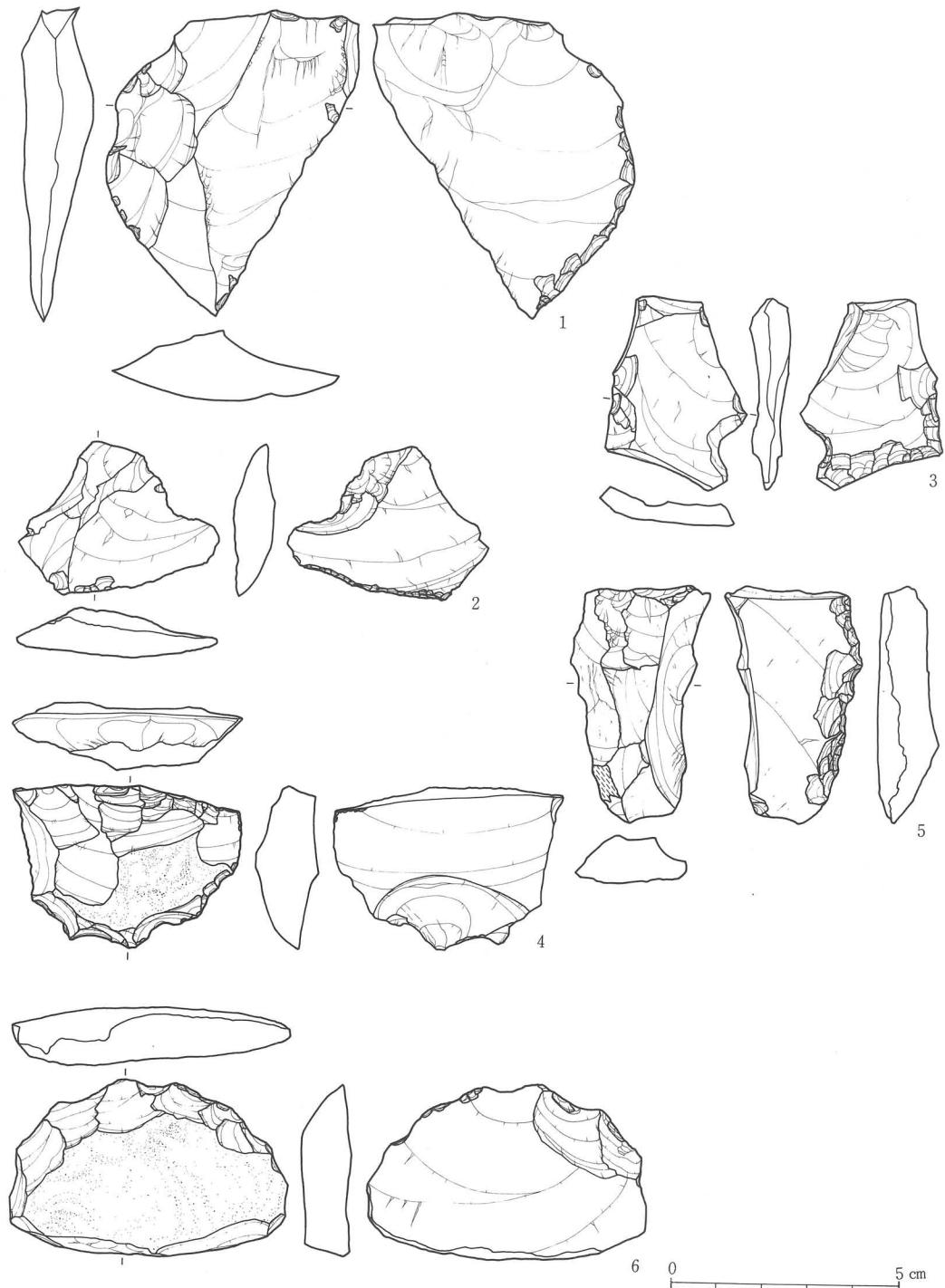
番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登録	写真
1	III C 20	7	石錐	32. 6	17. 2	8. 1	3. 4	流紋岩		Ka1912	64-11
2	I・IIベルトC	7b	石錐	34. 6	25. 1	9. 2	2. 7	流紋岩		Ka2441	64-12
3	II B 11	7c	石錐	31. 9	29. 3	4. 8	2. 8	珪質頁岩		Ka2438	64-13
4	I A 6	7	石錐	39. 1	21. 9	11. 0	5. 0	鉄石英		Ka2419	64-14
5	II D 7	7b	石錐	42. 7	18. 8	4. 9	2. 4	珪質頁岩		Ka2443	64-15
6	I A 4	7	異形石器	36. 8	29. 4	12. 2	8. 1	流紋岩		Ka2446	64-16
7	II B 1	7b	石錐	(33. 9)	27. 2	10. 8	7. 5	流紋岩	先端部欠損	Ka2431	64-17
8	II A 12	7c	石錐	29. 0	21. 6	12. 6	6. 3	鉄石英		Ka2429	64-18
9	I C 6	7a	石錐	(33. 9)	21. 7	4. 9	3. 1	珪質頁岩	先端部欠損	Ka2420	64-19
10	II C 3	7a	石錐	29. 8	14. 7	10. 5	3. 2	珪質頁岩		Ka2417	64-20
11	ICD10	7b	石錐	(28. 5)	20. 7	7. 2	3. 2	流紋岩	先端部欠損	Ka2425	
12	III C 24	7	不定形	31. 3	30. 0	9. 2	10. 4	珪質頁岩		Ka1926	64-23
13	ID 10	7	石錐	22. 7	10. 5	4. 2	1. 2	珪質頁岩	先端部磨耗	Ka2506	64-21
14	II A 1	7b	不定形	36. 9	28. 1	9. 2	10. 2	流紋岩		Ka2491	
15	ID 6	7c	不定形	21. 8	17. 3	7. 8	2. 5	黒曜岩		Ka2507	64-22

第100図 7層出土剣片石器 (3)



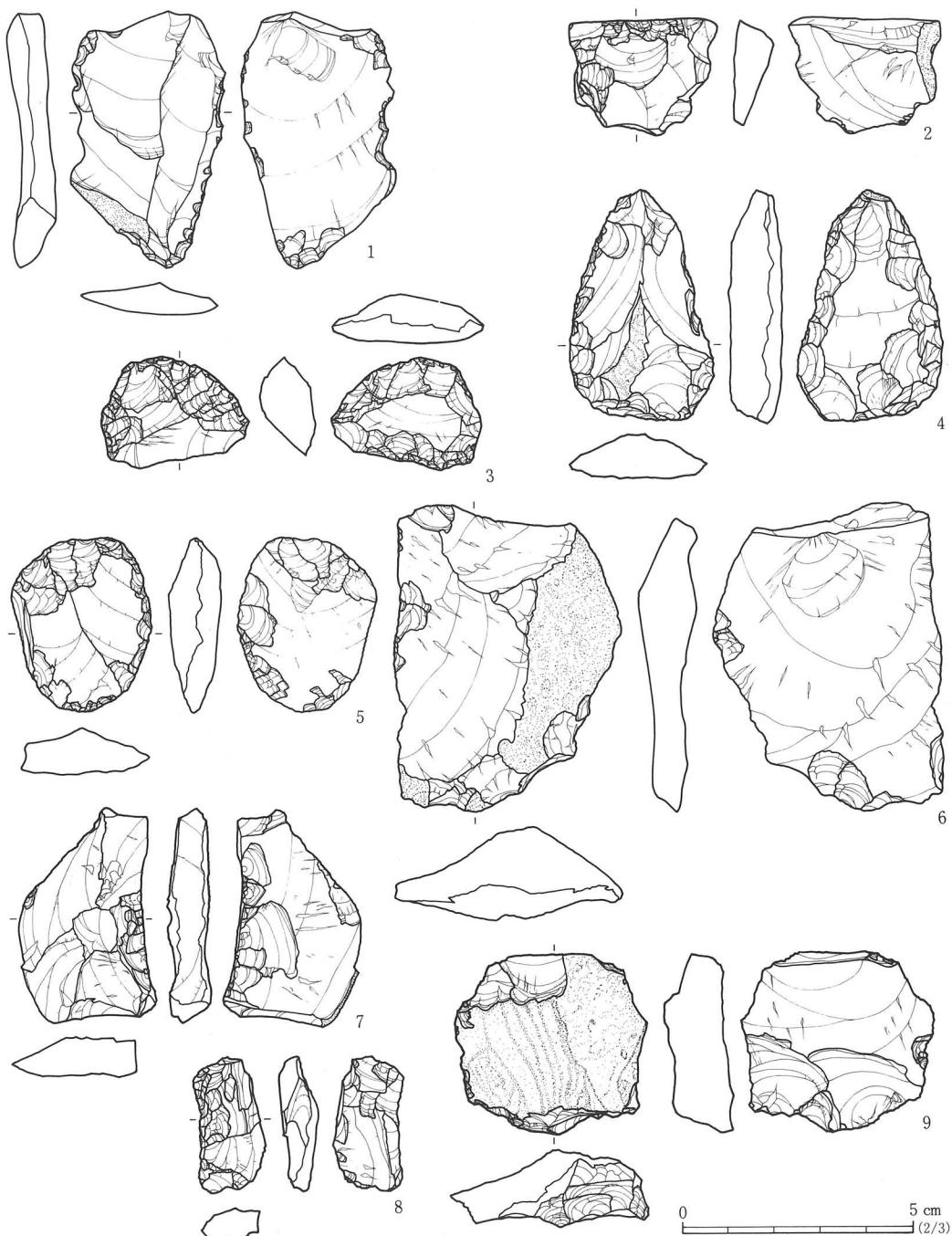
第101図 7層出土剥片石器 (4)

番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	備考	登録	写真
1	III C 20	7	不定形	57.7	39.8	9.8	20.3	流紋岩		Ka1930	64-24
2	III C 16	7	不定形	47.7	35.3	10.4	17.3	流紋岩		Ka1915	64-25
3	I A 8	8	不定形	63.6	36.6	10.9	19.9	珪質頁岩		Ka2454	64-26
4	III C 18	7	不定形	48.0	31.6	12.0	14.1	流紋岩		Ka1921	64-27



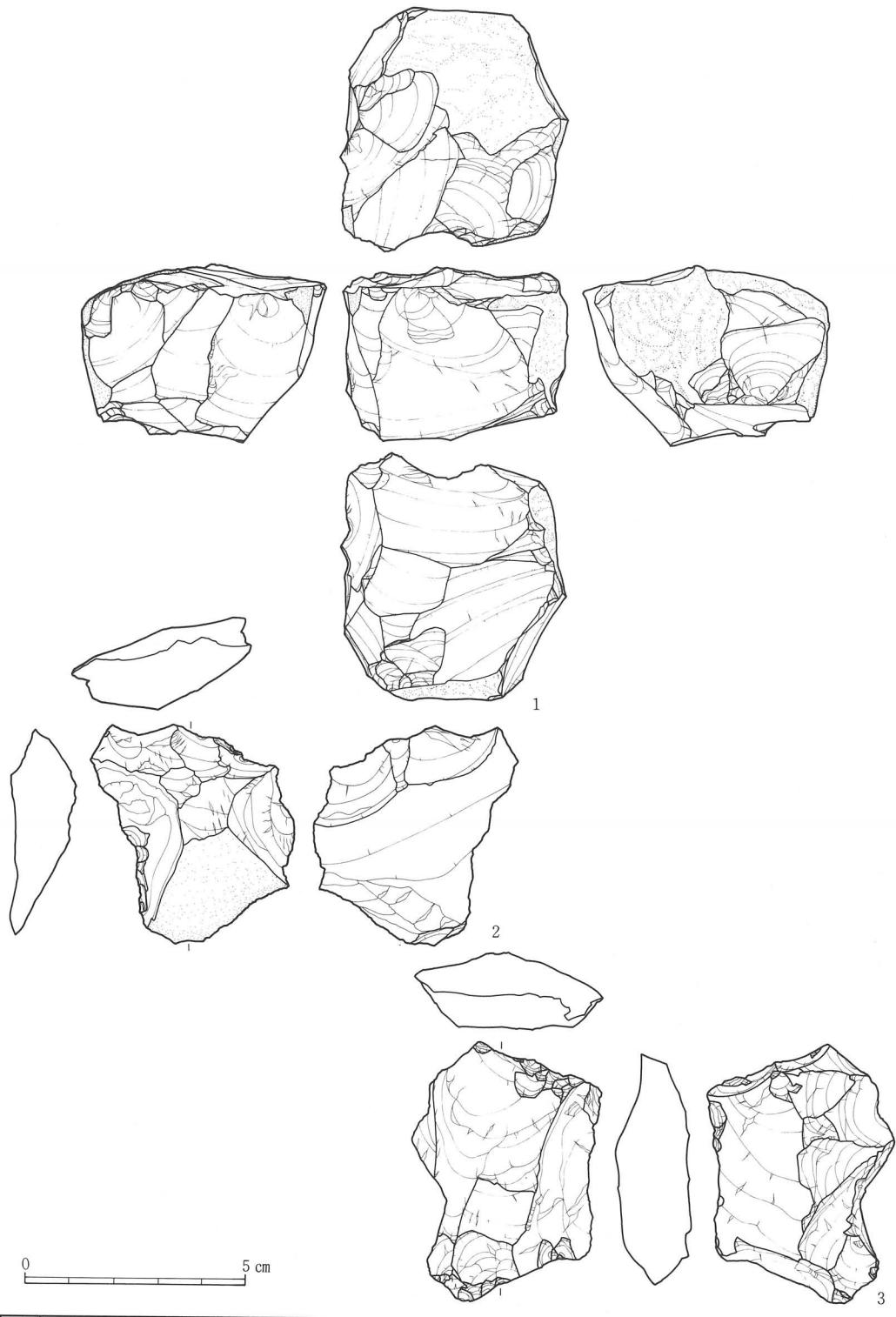
番号	地区	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石材	備考	登録	写真
1	III A 17	7	不定形	72.4	44.2	15.7	43.9	頁岩		Ka1917	64-28
2	II A 12	7 b	不定形	43.6	34.2	9.5	9.7	流紋岩		Ka2478	
3	I C 10	7	不定形	43.8	31.5	7.2	7.8	流紋岩		Ka2524	
4	II C 4	7 b	不定形	49.6	36.6	13.0	23.8	珪質頁岩		Ka2463	64-29
5	II B 2	7 b	不定形	52.4	29.2	12.4	17.2	珪質頁岩		Ka2469	64-30
6	II D 10	7 b	不定形	60.5	38.2	11.0	29.8	流紋岩		Ka2452	64-31

第102図 7層出土剝片石器(5)



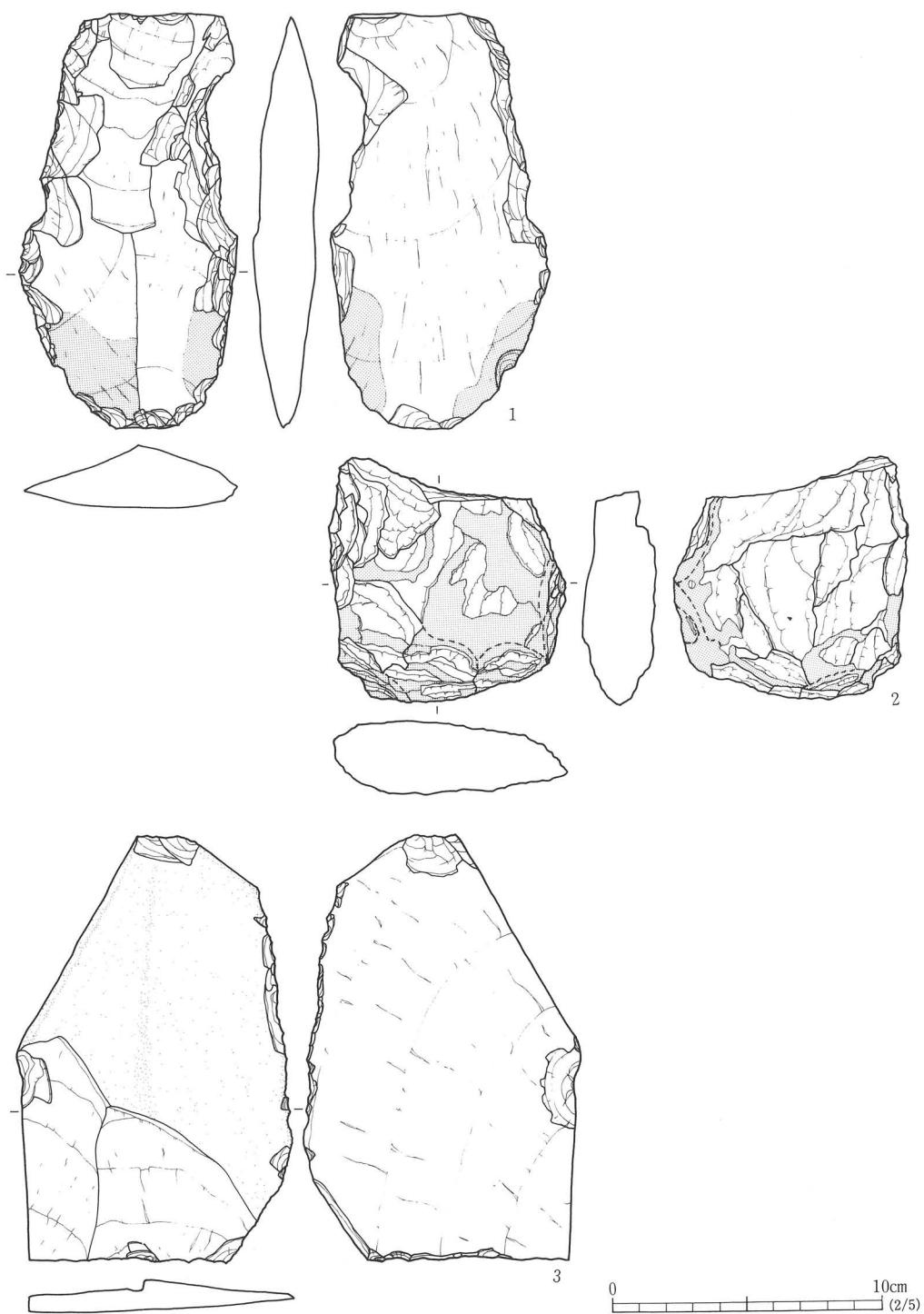
番号	地 区	層位	分 類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登録	写真
1	III A 15	7	不定形	55. 5	32. 8	9. 3	14. 1	流紋岩		Ka1927	65- 1
2	I C 9	7	不定形	32. 5	25. 3	9. 9	7. 3	黒曜岩		Ka2498	65- 2
3	I C 8	7 c	不定形	31. 9	23. 5	10. 2	6. 0	珪質頁岩		Ka2450	65- 3
4	II A 12	7 b	不定形	50. 3	31. 2	11. 2	17. 3	頁岩		Ka2461	65- 4
5	I D 1	7 b	不定形	37. 9	28. 9	11. 5	11. 4	流紋岩		Ka2449	65- 5
6	II C 5	7 c	不定形	66. 7	48. 4	18. 0	45. 6	流紋岩		Ka2517	65- 8
7	II B 2	7 c	不定形	48. 2	34. 3	9. 1	11. 9	珪質頁岩		Ka2470	
8	II A 12	7 a	不定形	29. 7	14. 9	7. 6	3. 1	黒曜岩		Ka2496	65- 6
9	I A 10	7 a	石核	44. 4	43. 2	14. 0	21. 8	碧玉		Ka2526	

第103図 7層出土剝片石器 (6)



番号	地 区	層位	分 類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登録	写真
1	II C 1	7 b	石核	59. 5	49. 6	39. 2	138. 0	珪質頁岩		Ka2536	65-7
2	I C 1	8	石核	52. 8	42. 4	15. 5	25. 6	頁岩		Ka2525	65-9
3	II C 1	7 b	石核	58. 7	40. 9	16. 2	36. 2	流紋岩		Ka2529	65-10

第104図 7層出土剝片石器 (7)



第105図 7層出土石器

番号	地区	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 材	備 考	登録	写真
1	III D 16	7	石鉗	153. 2	79. 8	23. 5	328. 0	石英安山岩	スクリトン部磨耗	Kc816	65-11
2	I A 6	7	石鉗	92. 5	84. 0	27. 2	252. 7	石英安山岩	スクリトン部磨耗	Kc832	65-12
3	I A 3	7	大型板状安山岩製石器	166. 0	105. 5	11. 0	193. 8	石英安山岩		Kc831	65-13



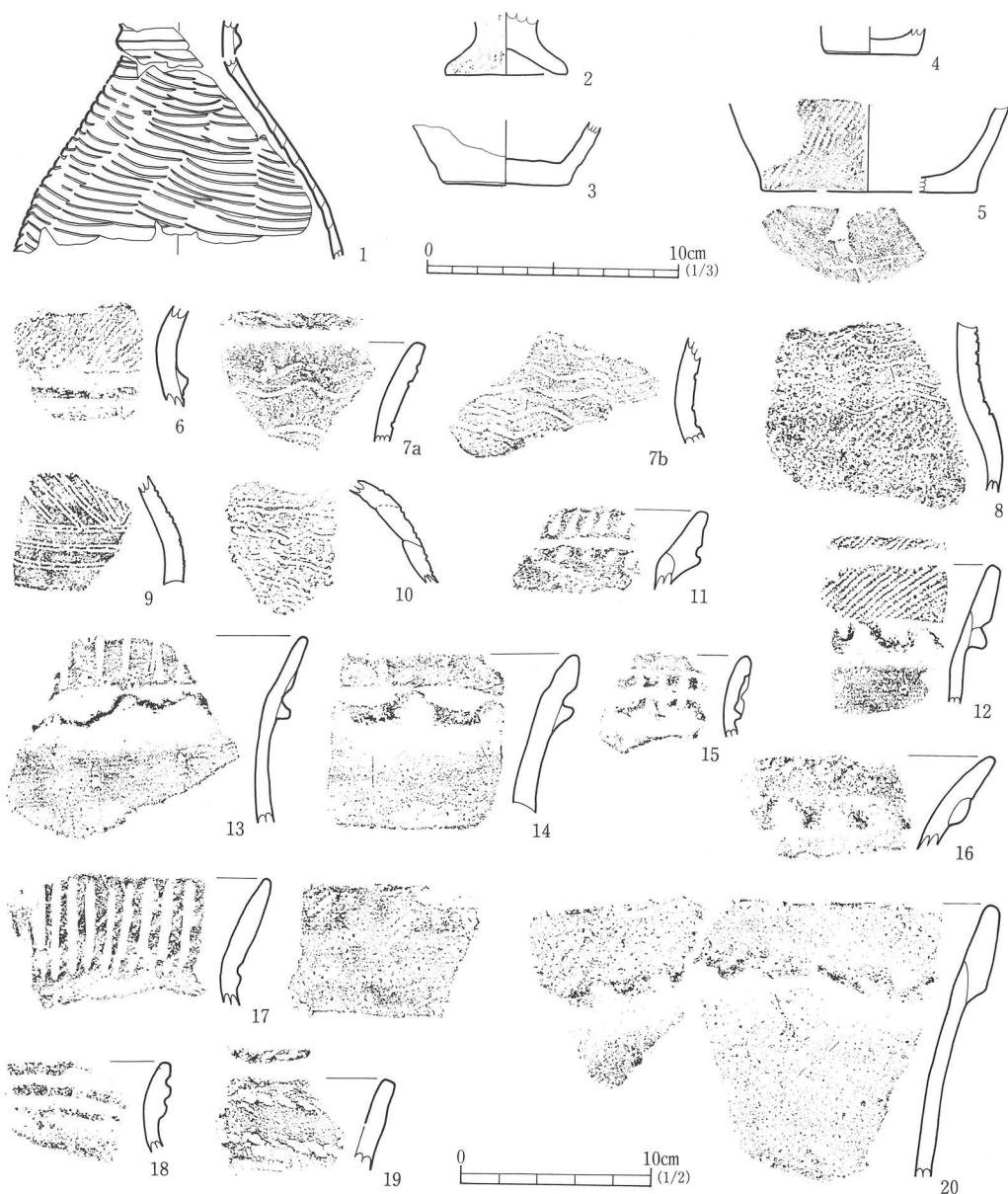
番号	地 区	層位	分 類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備 考	登 錄
1	III区A-15	8	I類 凹み	8.7	5.2	4.2	168.9	石英安山岩質凝灰岩		Kc266
2	III区C-15	7	I類 凹み	(9.2)	4.8	3.2	230.1	安 山 岩		Kc285
3	I区B-12	7c	I類 凹み	13.2	7.2	4.0	447.7	安 山 岩		Kc162
4	II区	7	I類 凹み	8.5	6.4	4.2	284.8	安 山 岩		Kc271
5	III区B-14	8上	I類 凹み	11.2	7.4	3.6	450.1	安 山 岩		Kc272
6	III区C-17	7	I類 凹み	10.7	7.1	4.4	370.8	石英安山岩質凝灰岩	写真65-15	Kc406
7	II区	8上	VII類 凹み+蔽	13.2	4.8	3.3	291.9	安 山 岩	写真65-17	Kc502
8	I区	7c	VII類 凹み+蔽	9.75	5.2	3.75	174.6	安 山 岩		Kc488

第106図 7層出土礫石器 (1)



番号	地 区	層位	分 類	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備 考	登 錄
1	III区C-24	7	VII類 凹み+敲	10.65	6.1	5.9	363.0	安 山 岩	写真65-14	Kc372
2	II区A-2	7b	X類 磨 + 敲	5.3	8.5	6.5	389.1	花 岗 灰 緑 岩	写真65-16	Kc 97
3	III区D-17	7b	IX類 磨	10.6	9.0	7.4	999.4	安 山 岩		Kc 19
4	III区D-13	7	XII類 敲	11.65	10.9	8.1	1340.0	花 岗 灰 绿 岩	写真65-18	Kc619
5	I 区	7	XV類 石皿、脚付	14.5	11.3	9.6		石英安山質角砾凝灰岩	写真65-19	Kc692

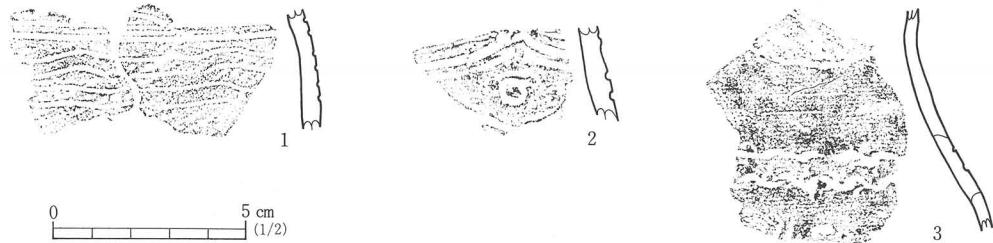
第107図 7層出土礫石器 (2)



図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	I C7	8	I	壺	頸～体	頸：隆帯、体：連弧文（2本同時）、内面粘土紐積上げ痕	B299	53-34
2	II B4	8			脚？	縄文？	B232	
3	I	8			底		B279	
4	I C4	8			底		B282	
5	II A12	7b			底	縄文LR、木葉痕	B251	
6	I C5	8	I	壺	頸	付加条(LR+L)、隆帯、内面ナデ	B294	53-25
7	IIC9・10	8		壺・甕	口縁	口唇：縄文、口縁：波状文（2本同時）	B148	53-26
8	I A9	8	I	壺・甕	頸～体	頸：連弧文、連続山形文（2本同時）	B378	53-27
9	I A4	8	I	壺	体	重山形文、横走文（2本同時）	B303	53-28
10	I A3	8	I	壺	体	波状文（2本同時）	B362	53-29
11	II B20	7	II A	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下半：押圧文、内面ナデ	B108	53-30
12	III C15	8	II A	壺・甕	口頸	口唇・口上半：LR縄文、口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）、内面ナデ	B130	53-31

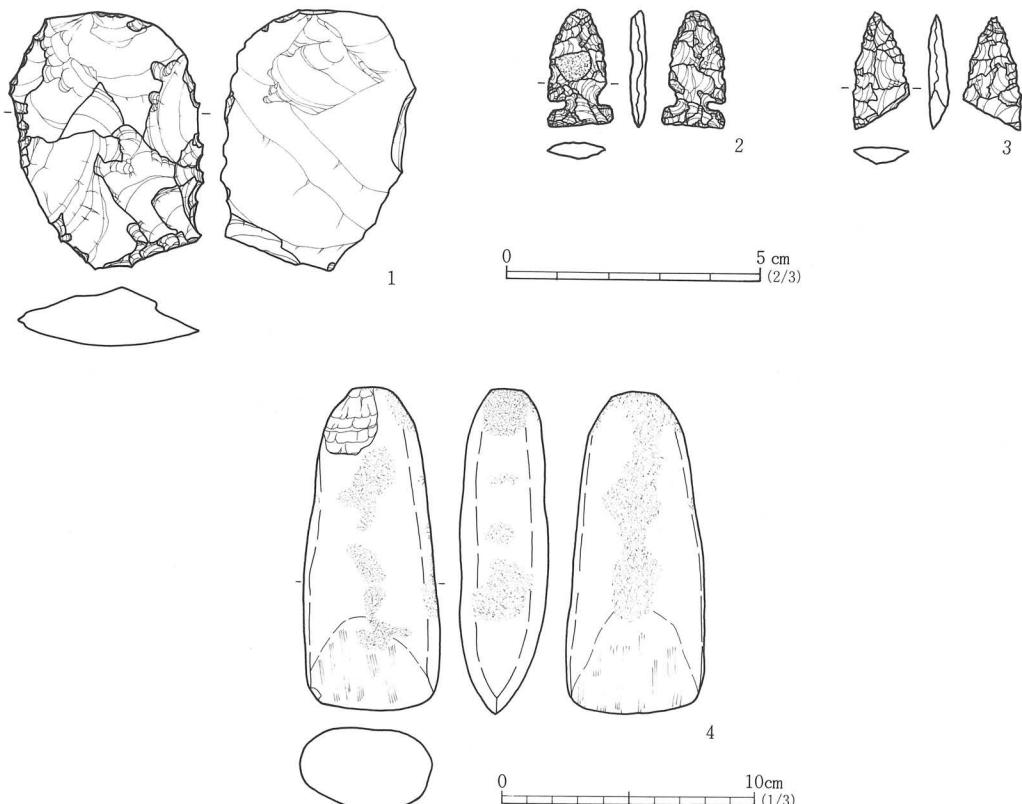
第108図 ピット群出土弥生土器（1）

図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
13	II	8	II A	壺・甕	口頸	口上半：スリット文、口下半：交互刺突類似文（上刺突2ヶ、下押圧）、内面ナデ	B178	54-1
14	I B4	8	II A	壺・甕	口頸	口上半：撫文、口下半：波状文（下押圧）	B141	54-2
15	I B5	8	II A	壺・甕	口頸	口上半：撫文、口下半：上段刺突文、下段交互刺突文	B76	54-3
16	I C・D3	8	II A	壺・甕	口縁	口上半：繩文？、口下半：波状文（下押圧）	B126	54-4
17	II A12	7b	II B	壺・甕	口縁	口上半：スリット文、口下端：刺突文、内面上端LR繩文	B116	54-5
18	I	8	II C1	壺・甕	口縁	口縁：横走沈線	B46	54-6
19	II A10	8	II C1	壺・甕	口縁	口唇：撚糸圧痕？、口縁：撚糸圧痕LR	B34	54-7
20	I C8	8	II B	壺・甕	口縁	口唇・口縁：LR繩文？、口下端：押圧文、内面上端LR繩文？	B88	54-8



図版番号	地区	層	分類	器種	部位	特徴	登録番号	写真図版
1	III B19	8		壺・甕	体	波状文（2本同時）、繩文	B164	54-10
2	III B15	7		壺・甕	頸～体	綾絡文、LR繩文、内面ナデ	B198	54-11

第109図 ピット群出土弥生土器（2）



番号	地区	層位	分類	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	石 材	備 考	登録	写真
1	III SD11	ℓ	不定形	50.9	41.8	11.4	21.0	流紋岩		Ka243	
2	II A12	7bピット	アメリカ式石鏃	22.6	12.2	2.8	0.8	碧玉	先端部欠損、素材面片面	Ka2353	55-10
3	III C23	7cピット	石鏃	(21.9)	11.5	3.0	0.6	流紋岩	基部欠損	Ka273	55-11
4	I 東壁	5	大型蛤刃石斧	128	54	35	376.3	安山岩	スクリントン部敵打痕	Kc811	102-13

第110図 ピット等出土弥生石器

(3) 縄文時代の遺構と遺物

1) 後期以降の遺構と遺物

後期以降の遺構は9・13・14層で検出されている。遺構は、竪穴住居跡1軒、配石遺構など11基、土壙130基、埋設土器遺構5基、ピット38基、倒木痕、河川跡、遺物包含層である。

①竪穴住居跡

SI17 竪穴住居跡（第111図）

[位置・確認面] III区 C23・24 グリッドの13層で確認している。

[重複] SR1、9号配石、SK85・86・112と重複しそれらより古い。

[平面形・規模] 大半がSR1に切られ平面形は不明である。東壁の検出長は3.5mである。

[堆積土] 2層である。

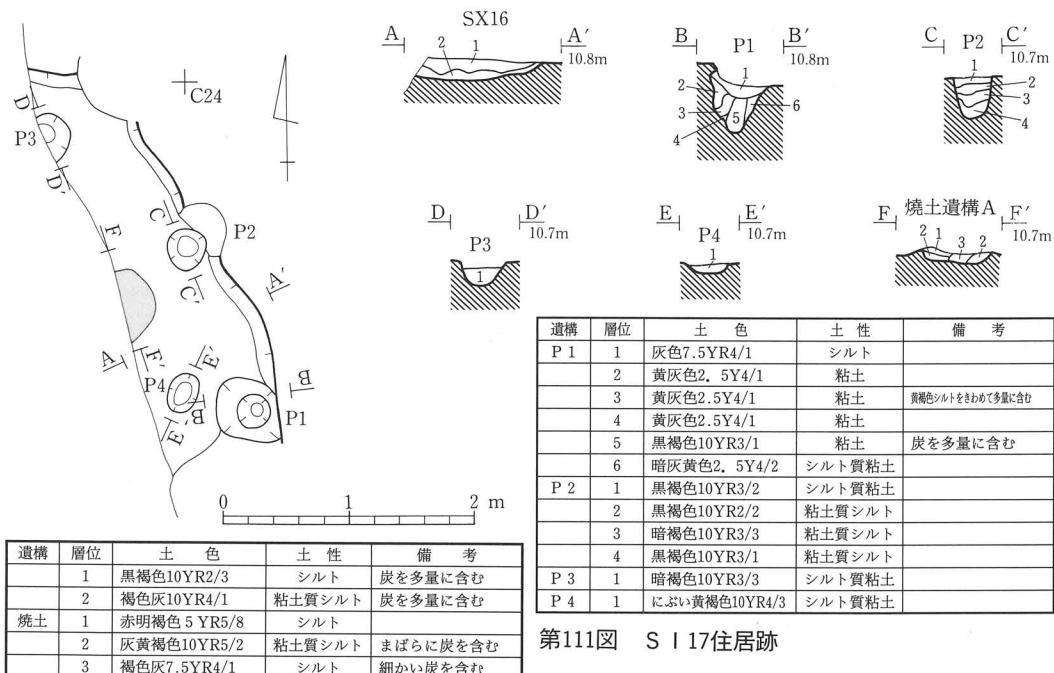
[床面] 床面はほぼ平坦である。

[壁] 壁はかなり緩く立ち上がる。東壁での高さは約18cmである。

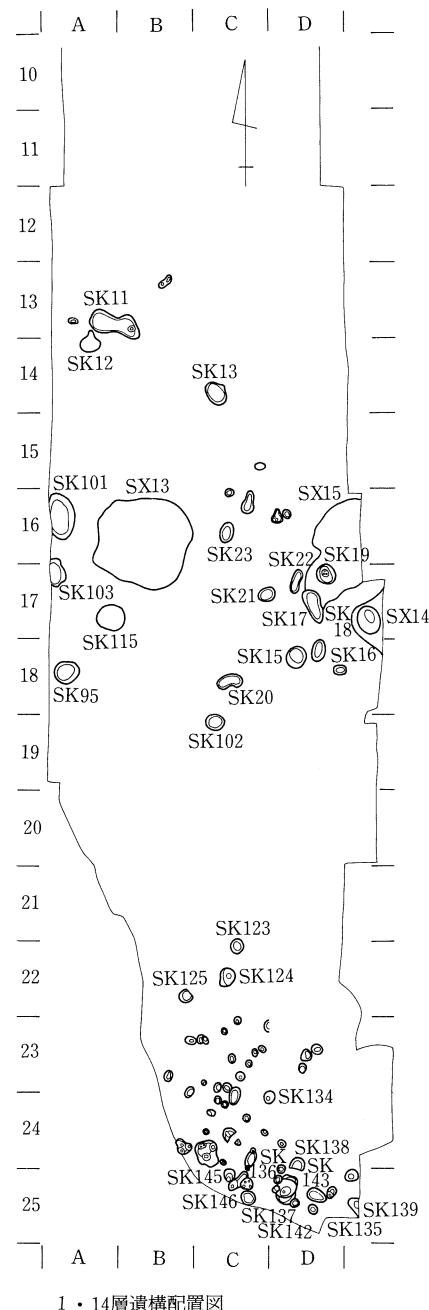
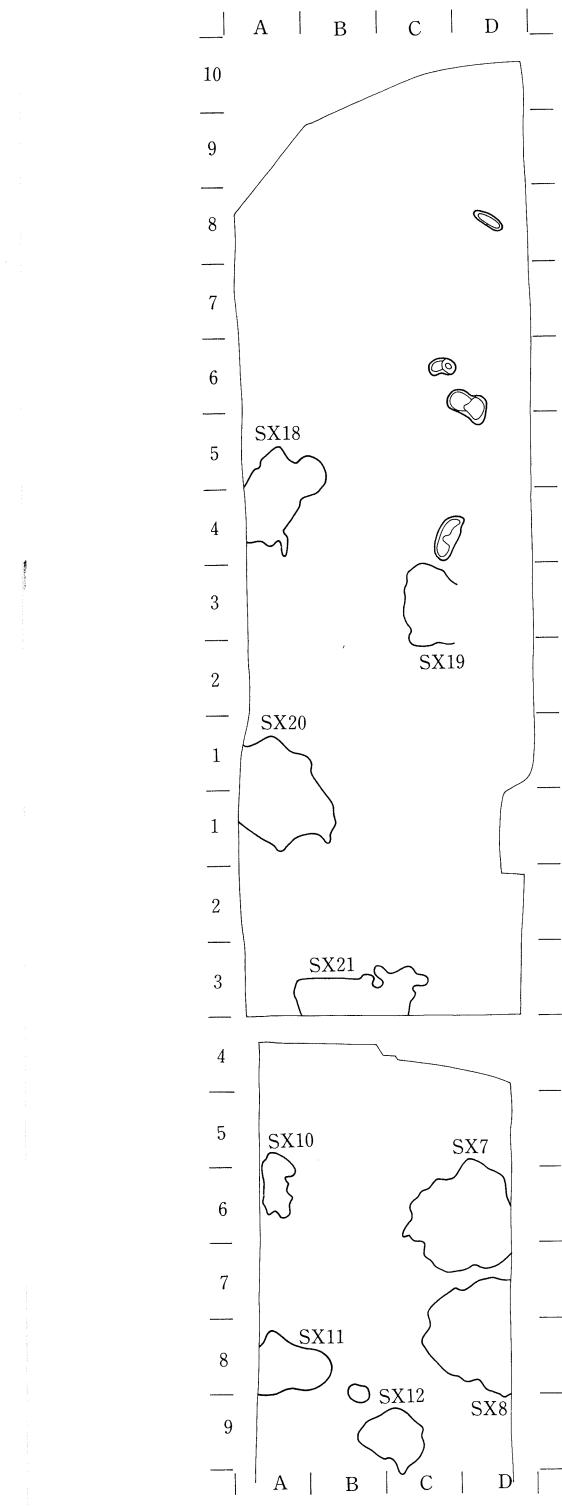
[柱穴] 床面でピット4個を検出した。P1は径50cmで深さ37cmである。P2は径30cmで深さは32cmである。P3は径35cmで深さは20cmである。P4は20×30cmで深さ8cmである。深さからP1、P2が柱穴と考えられる。

[炉] 焼土が55×25cmの範囲で検出されているが半分はSR1に切られている。炉石などはないが地床炉かどうか不明である。

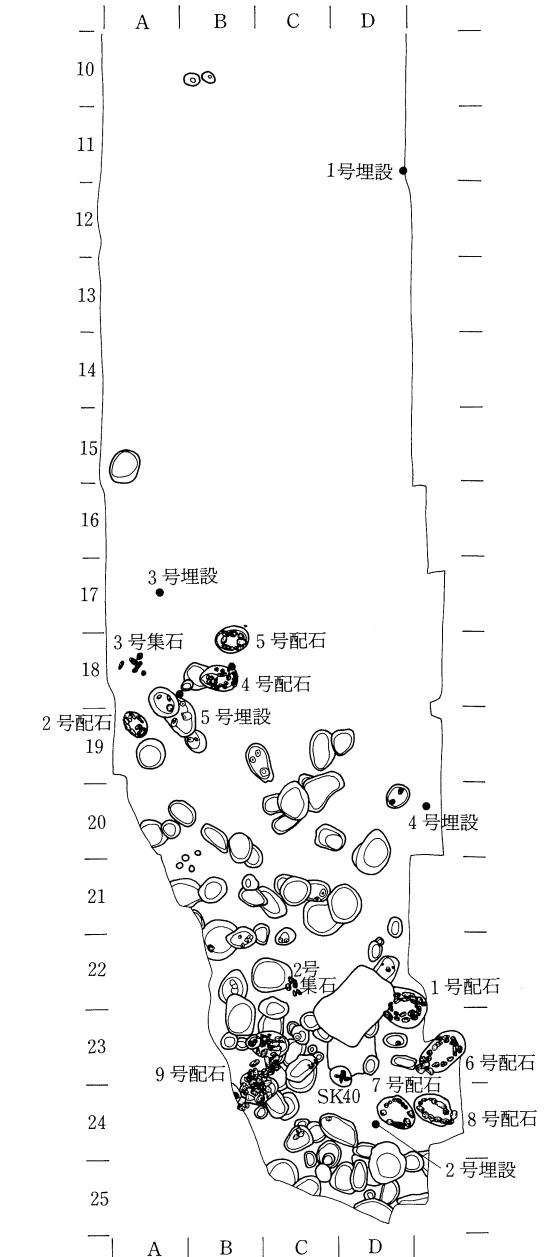
[出土遺物] 堆積土出土遺物 土器は小片、石器は数点の出土で図示できるものはない。ただし、土器片の中には連鎖状隆線の口縁部片、多条沈線の体部片などが認められる。



第111図 S I 17住居跡



1・14層遺構配置図



2・13層遺構配置図



第112図 繩文後期（13、14層）遺構配置図



[小結] 堆積土出土遺物からおおむね後期前葉の時期と考えられる。

②配石遺構

全体の状況（第113図）

礫の配置に規則性が窺え、下部土壙が存在するものを配石とし、礫が集合しているだけのものは集石とした。後述する土壙にも礫を伴うものがあるがそれらは土壙扱いとした。

配石が9基、集石が2基検出されている。大きく南北の2群にまとまる。北は2～5号配石と3号集石で、AB-18・19グリッド内に近接して存在する。南は1・6・9号配石と2号集石でB～E-22～24グリッドに位置し、さらに2号集石・9号配石は西側で、1・6～8号配石が東側で近接し、全体では環状を呈しているようである。

1号配石（第114図）

[位置確認面] III区D・E-22・23グリッド。立石が搅乱坑の壁に掛かっていたので早い時点から何らかの遺構の存在が予測されていた。11層で姿を現した段階では、外周の礫がめぐりその中に小礫が入っている状況であった。全貌を現し下部土壙が確認されたのは13層上面である。西端を搅乱により一部破壊されている。重複はない。

[配石] 配石は自然礫を二重の橢円形に配し、内周の東西端を立石とし、内側に小礫を詰め込んだものである。規模は長軸1.75m、短軸1.37m、長軸方向は立石の方向と一致し、N-82°-Eである。内周の礫は9個、外周は現存9個（推定12個）が並ぶ。西の立石は長さ60cm、東は37cmで、他の礫も30～50cm大である。確認時小礫は内周の礫を覆っていたことや、小礫の層が下部土壙の埋土1層を含めると厚さ20cmを越し、自重沈下が考えられることなどから、本来小礫はマウンド状になっていた可能性がある。さらに礫下位の堆積土1層が小礫を主体とする層であることなどから、小礫は配石を構築する基盤ともなっている。

[下部土壙] 土壙は二段構造になっている。上面平面形は橢円形で長軸1.7m以上、短軸1.5mである。深さ25～35cmで下段が掘り込まれ、平面形が長橢円形で、規模は長軸1.2m、短軸0.7m、深さ10～20cm、その底面の規模は長軸1.02m、短軸0.6mである。全体の深さは約50cmである。底面の方向はN-83°-Eで配石と同様であるが、上面の方向はN-68°-Wで北西へ振れている。堆積土は16層で底面直上の6b層から骨片が確認されている。底面でピットと礫が検出されている。ピットは中央やや西寄りに位置し、不整円形で28×23cm、深さ約22cm、堆積土は単層である。ピット壁面上部から土製耳飾が1点出土している。礫は32×22cmの扁平なもので、底面のほぼ中央から、やや浮いた状態で検出されている。

[出土遺物] 磫A下出土遺物（第119図1）1は外周の配石Aの下から出土した深鉢の体部片で、地文縄文LRに縦位の綾絡文が施文されている。堆積土出土遺物（第122図1～3）1は石鏃、2は石錐、3は不定形石器である。他に土器片が90点（多条沈線文、1・2条沈線文各1点あ

り) 出土しているが図示し得なかった。床面ピット出土遺物(第158図4)赤彩された有孔の土製耳飾で径1.9cmである。

[小結] 上面の配石、底面ピットからの土製耳飾の出土、底面の礫、埋土中に混入する骨片の存在から配石墓と考えられる。その構築法を復元すると、土壤を掘る→底面にピットを掘る→遺体を埋置する→礫を置く→堆積土3・4層まで埋め、立石二つを突き立てる→小礫を中心とする1a・1b層を入れる→配石を構成する礫を巡らせる→内周の礫の内部に小礫を詰め込み、さらにマウンド状にして内周の礫を覆う、となる。

2号配石(第114図)

[位置確認面] III区A-グリッド。配石は13層上面で、下部土壤は13層をやや掘り下げて確認された。重複はない。

[配石] 自然礫8個を長楕円形に配し、その両端を立石している。規模は長軸1.05m、短軸0.65mである。北西の立石は長さ45cmの礫を背高に据え、南東の立石は長さ40cmの礫を横長に据えている。内部に礫2個配しているが、南東のものは約30cmの扁平な礫で蓋石のような状態で確認され、北西のものはやや下位より出土している。長軸の方向はN-38°-Wである。

[下部土壤] 平面形は上面底面ともに楕円形である。規模は上面1.1m×0.8m、底面0.75m×0.55m、深さ15cmで、方向は配石と同じである。底面は平坦である。堆積土は3層である。

[出土遺物] 土壤の堆積土中より土器小片4点が出土しているが図示はしていない。

3号配石(第114図)

[位置確認面] III区A-18・19グリッド。配石は13層上面で、下部土壤は13層をやや掘り下げて確認された。SK114と重複しそれより新しい。

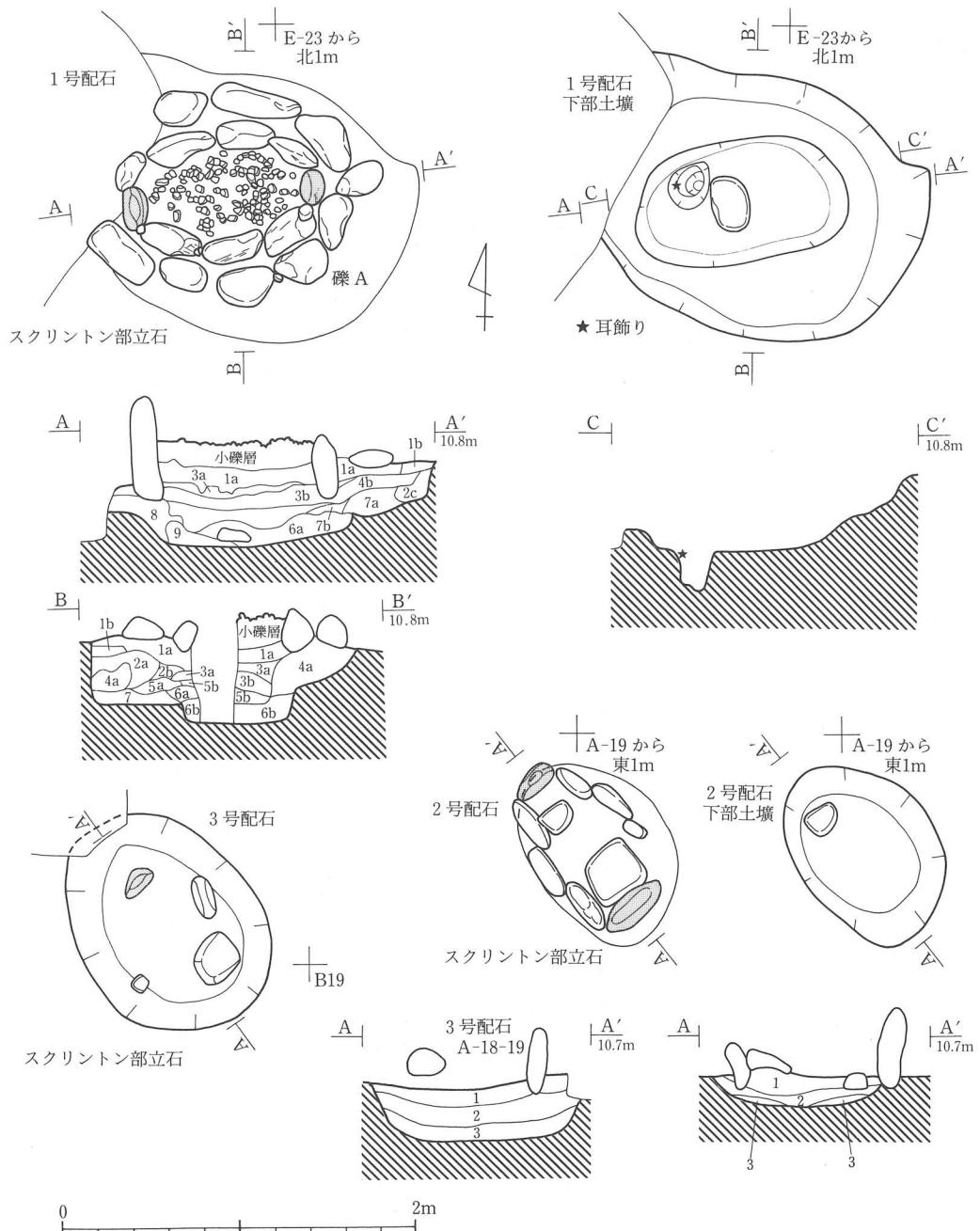
[配石] 残存していた自然礫は4個のみであったが、一つが立石となることから配石ととられた。平面計や規模、方向は不明である。北西側に立石があり、南北側にやや扁平な礫が置かれていることから本来は2号配石のような形態であった可能性が考えられる。立石の長さは約40cmである。

[下部土壤] 平面形は上面、底面ともに楕円形で、規模は上面推定1.33m×1.04、底面1m×0.6m、深さ34cmで、方向はN-36°-Wである。底面は平坦である。堆積土は3層である。

[出土遺物] 配石の礫(第123図1)1は凹痕のある礫石器である。配石面出土遺物(第119図3)3は小型土器であるが遺構に伴うものかは不明である。堆積土出土遺物(第122図4・5)4石鏃、5は不定形石器である。他に土器片18点(刺突入隆線1点あり)が出土しているが図示していない。

4号配石(第115図)

[位置確認面] III区B18グリッド。配石は13層上面で、下部土壤は13層をやや掘り下げて確認さ



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
1号配石	1 a	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土	小礫を多量に含む		6 b	褐灰色10YR4/1	シルト質粘土	炭、骨片を含む
	1 b	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土			7 a	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト	
	2 a	黒褐色7. 5YR3/1	シルト質粘土	骨片を含む		7 b	黒褐色7. 5YR3/1	シルト質粘土	2 c層より砂質
	2 b	灰褐色7. 5YR4/2	砂質シルト			8	黒褐色10YR3/1	シルト質粘土	5 b層が混入
	2 c	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土			9	黒褐色2. 5Y3/2	シルト質粘土	5 b層が混入
	3 a	褐色10YR4/4	シルト質粘土	炭、3 b層が混入	Pit		オリーブ黒色7. 5Y3/2	粘土質シルト	骨片、炭を含む
	3 b	褐灰色7. 5YR4/1	砂質シルト	炭を少量含む	2号配石	1	黒褐色2. 5Y3/2	シルト	炭を含む
	4 a	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	炭を含む		2	黒色2. 5Y2/1	砂質シルト	炭を含む
	4 b	黒褐色7. 5YR3/1	シルト質粘土			3	黄褐色2. 5Y4/1	シルト	
	5 a	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	灰色と褐色のまだら状	3号配石	1	黒褐色2. 5Y3/2	シルト	炭を含む
	5 b	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土	黄色土塊、炭を含む		2	黒色2. 5Y2/1	粘土質シルト	炭を多量に含む
	6 a	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土	炭を含む		3	黒褐色2. 5Y3/1	粘土質シルト	灰色土を塊状に含む

第114図 1～3号配石

れた。SK122と重複しそれより新しい。

[配石] 自然礫20数個を楕円形に2周させ、長軸の両端を立石とし、内部に小礫を配したものである。規模は長軸1.22m、短軸1m、方向はN-84°-Wでほぼ東西方向である。立石は長さ約40cmである。他の礫は20cm前後のものが多い。

[下部土壌] 平面形は上面が楕円形、底面が不整長楕円形である。規模は上面が1.56m×1m、底面1.25×0.6mである。方向は配石と同じである。底面は平坦でやや東に傾斜している。壁は東がやや緩く立ち上がるほかは舟底形である。堆積土は8層である。

[出土遺物] 配石面出土遺物（第123図2）石皿片である。堆積土出土遺物（第122図6）6は不定形石器である。他に土器片24点、石器2点、礫石器が1点出土しているが、図示していない。

[小結] 構造は基本的に1号配石などと同様であるが、全体に小振りであり、内部の小礫も少ないようである。

5号配石（第115図）

[位置確認面] III区Bグリッド。配石は13層上面で、下部土壌はやや掘り下げて確認されている。重複はない。

[配石] 自然礫8個を円形に配したものである。東端の礫は約40cmの角柱状のものが斜めの状態になっており、本来は立石であった可能性が高い。西端の礫も周囲の礫よりも深くなつており横位置の立石と考えられる。使用された礫は30～50cmの比較的大きいものである。東西端を立石とした場合の方向はN-86°-Wでほぼ東西である。

[下部土壌] 平面形は上面底面ともに楕円形である。規模は上面1.29×1.07m、底面1.2×0.75m、深さ29cmである。方向はやや南に振れてN-98°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は西側が直立気味に、東がやや緩く、短軸の断面形は舟底形である。堆積土は3層である。

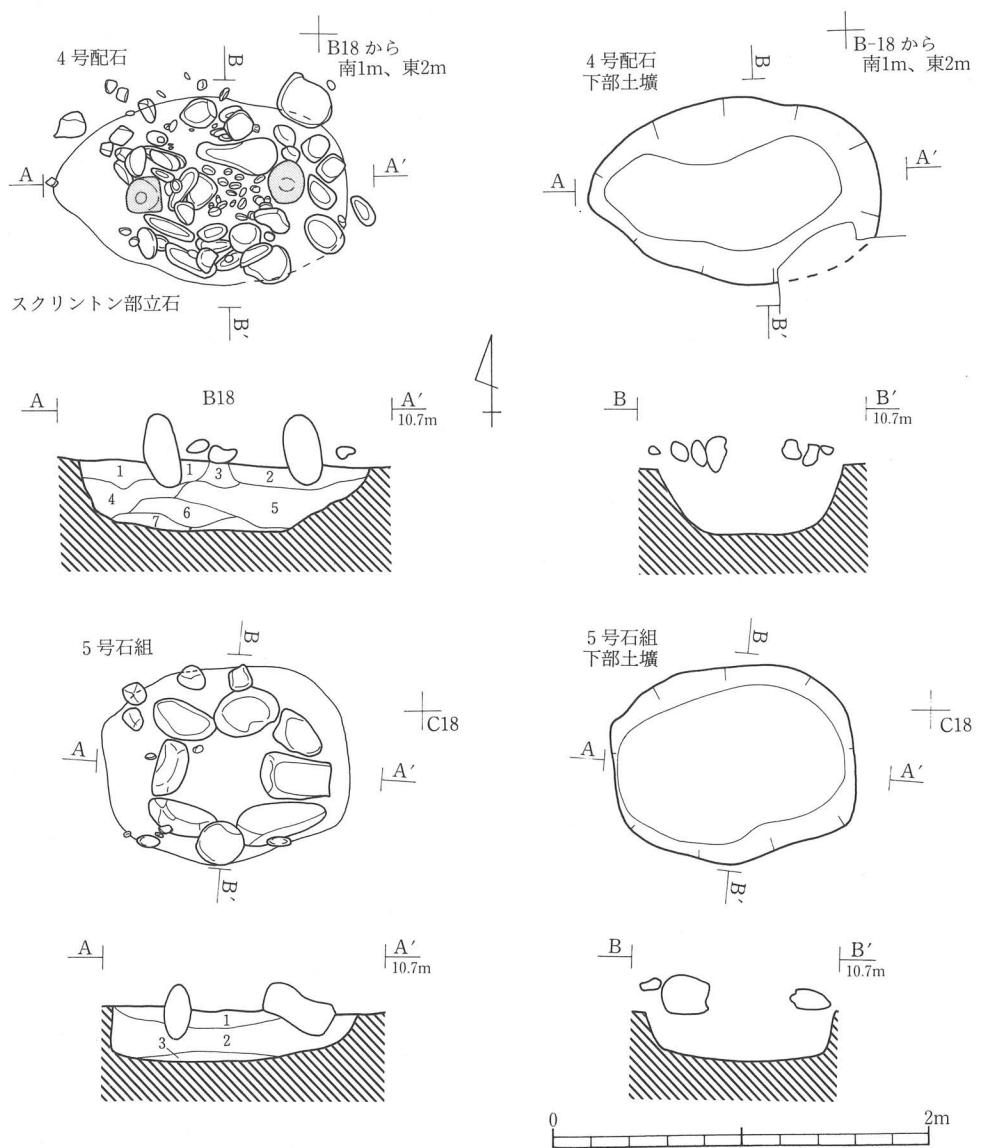
[出土遺物] 配石面出土遺物（第123図3～5）3は凹痕、4はタタキ痕、5は凹痕+磨痕の礫石器である。他に砥石が1点ある。堆積土出土遺物 土器片35点（蕨手文1点あり）、二次加工のある剝片が出土しているが図示していない。

[小結] 東端を立石とした場合、もう一方が横長の立石となり、2号配石と同じ構造になる。

6号配石（第116図）

[位置確認面] III区E23グリッド。立石は11層下部で確認されているが、全貌と下部土壌は13層上面で確認された。

[配石] 自然礫を楕円形に配し、長軸方向を立石とし、さらに内部に小礫を詰め込むものである。立石の外側には3～4個礫が配されており、本来礫は2周していた可能性がある。規模は長軸2.07m、短軸1.1mで、方向はN-41°-Wである。南西の立石は長さ約55cm、径30cmのかなり重量の大きなものである。北西のものは長さ40cmである。他の使用された礫は20～50cmのも



遺構	層位	土 色	土 性	備 考	遺構	層位	土 色	土 性	備 考
4号配石B18	1	黒褐色2. 5Y3/2	粘土質シルト	炭、小石を含む	5号石組B18	1	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	炭を少量含む
	2	黒褐色2. 5Y3/2	粘土質シルト	炭を少量含む		2	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	下部に炭を少量含む
	3	黒褐色2. 5Y3/1	粘土質シルト	炭を含む		3	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	砂を塊状に含む
	4	暗灰黄色2. 5Y4/2	粘土質シルト	炭を含む	5号石組C18	4	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	
	5	黒褐色2. 5Y3/2	粘土質シルト	炭を少量、灰色土を塊状に含む		5	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	
	6	灰色5Y4/1	粘土質シルト	下部に灰オリーブ色土を塊状に含む		6	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	
	7	灰オリーブ色5Y4/2	粘土質シルト	灰色土を塊状に含む		7	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	
	8	黒褐色2. 5Y3/1	粘土質シルト			8	灰オリーブ5Y4/2	シルト質粘土	

第115図 4・5号配石

のである。内部の小礫の上面で倒立した深鉢下半部をはじめ土器数点が確認されたが共伴するものかは不明である。

[下部土壙] 上面は長楕円形で規模は $2.04 \times 1.25m$ 、底面は不整楕円形で規模は $1.15 \times 0.7m$ 、深さは40cmである。方向はわずかに西に振れ N-45° - Wである。底面は平坦で、やや北に傾斜し、北西端で $30 \times 15cm$ 、深さ約30cmのピットが検出された。また、底面中央やや南西よりで短軸方向に長さ35cmほどの礫が3点出土している。堆積土は小礫層を除く4層である。

[出土遺物] 配石の礫 (第124図1) 1は礫aで石皿である。小礫上面出土遺物 土器 (第119図2) 2は外面櫛歯状文、内面縄文の厚みのある深鉢で、5は口縁部に無文部のある深鉢である。前述した倒立の深鉢底部は図示しなかったが、外面無文で網代痕がある (登録番号 A807)。礫石器 (第123図6) 6は凹痕の礫石器である。堆積土出土遺物 (第122図7・9) 7は石鏃、9は尖頭器である。他に不定形石器1点、二次加工のある剝片1点、土器片29点 (ジクザク文1点あり) 出土しているが図示していない。

[小結] 副葬品などはないが、埋土中に骨片があることや底面の並んだ礫などから配石墓と考えられる。

7号配石 (第116図)

[位置確認面] III区 D24 グリッド。配石、下部土壙とも13層上面で確認された。8号配石下部土壙と接するが新旧は不明である。また、西側15cmに2号埋設土器遺構がある。

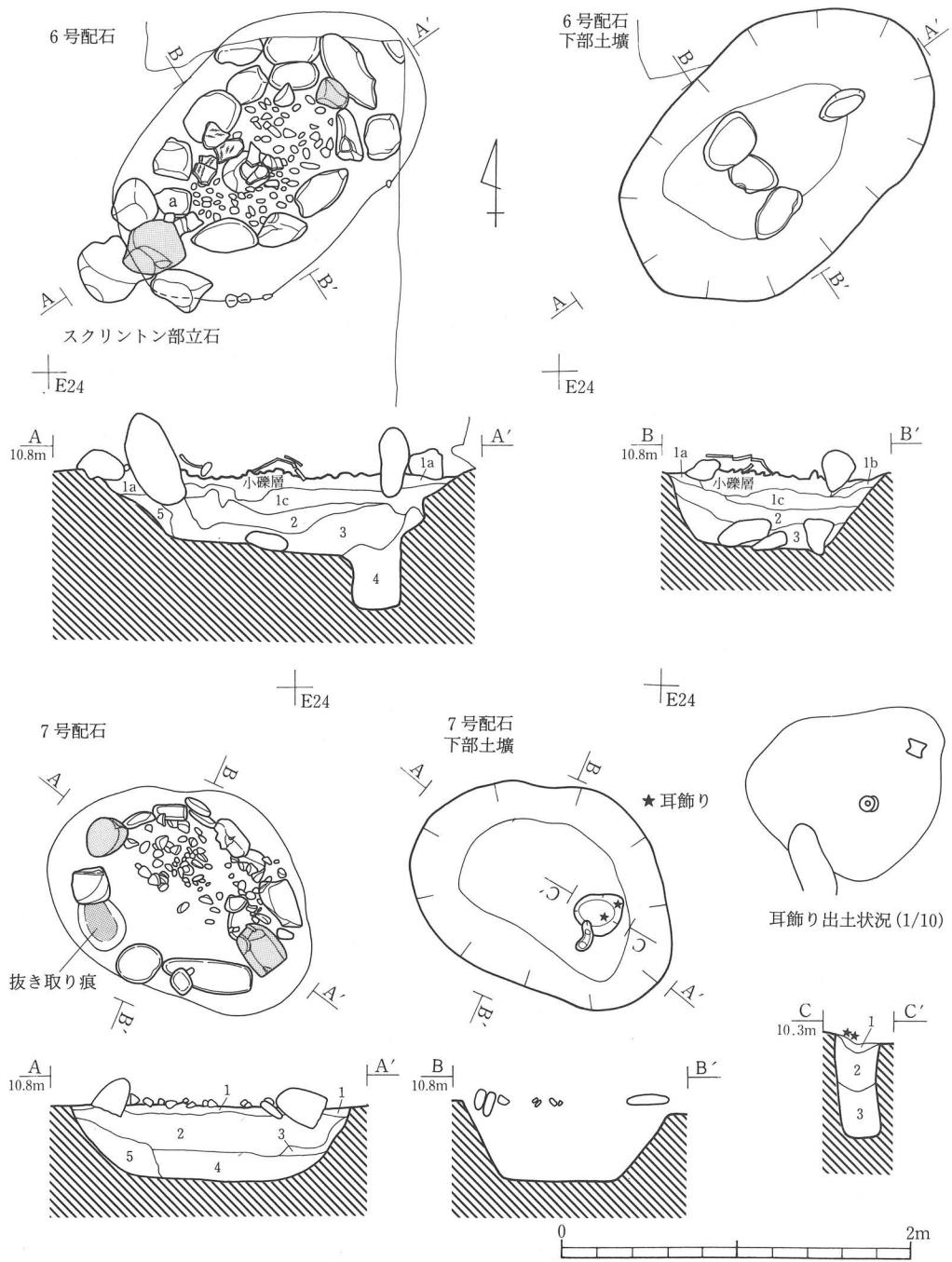
[配石] 自然礫12個を楕円形に配し、長軸方向を立石とし、さらに内部に小礫を詰め込むものである。規模は長軸 $1.35m$ 、短軸 $1.08m$ で、方向は N-52° - Wである。立石は長さ約50cmの同一礫を半割したもので、やや内側に倒れ込んでいる。試用された礫は15~50cmまでの大小様々である。現存する礫は12個であるが、抜取り痕が1個確認されており (スクリントン部)、本来は13個であったと考えられる。内側の小礫は北半分にのみ存在し、他に比べ少量である。

[下部土壙] 平面形は上面底面ともに楕円形である。規模は上面 $1.62 \times 1.22m$ 、底面 $1.08 \times 0.7m$ 、深さ45cmである。方向はやや西に振れ N-60° - Wである。断面形は逆台形で、堆積土は5層である。底面は平坦で、東端近くで $50 \times 60cm$ 、深さ60cmのピットが検出されている。その確認面で土製耳飾2点が15cm間隔で並んで出土している。

[出土遺物] 底面出土遺物 (第158図5・6) 5・6は赤彩された有孔の土製耳飾である。径 $2.3cm$ 前後でほぼ同じ大きさであるが、6がやや小さい。堆積土出土遺物 (第122図10) 10は不定形石器である。他に土器片30点が出土しているが図示していない。

[小結] 底面の土製耳飾は被葬者が装着していたもので、頭の位置を示すものと考えられる。配石墓である。

8号配石 (第117図)



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
6号配石E23	1 a	黒褐色10YR2/3	シルト質粘土		7号配石D24	1	黒褐色10YR2/2	シルト	小礫を含む
	1 b	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト			2	黒褐色10YR3/2	砂質シルト	オリーブ褐色を塊状に含む
	1 c	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	炭、小礫を含む		3	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
	2	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	黄褐色土を小塊状に含む		4	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	オリーブ褐色を大塊状に含む
	3	黒褐色2, 5Y3/1	粘土質シルト	オリーブ灰土、骨片を含む		5	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
	4	黒色2, 5Y2/1	粘土質シルト	オリーブ灰土、炭を含む	P 2	1	暗灰黄色2, 5Y4/2	粘土質シルト	下部に炭を多量に含む
	5	暗オリーブ褐色2, 5Y3/3	粘土質シルト			2	黒褐色2, 5Y3/1	粘土質シルト	
						3	オリーブ黒色5 Y3/1	シルト質粘土	灰オリーブ色土塊状に含む

第116図 6・7号配石

[位置確認面] III区 E24 グリッド。立石は12層で確認されているが、全貌と下部土壙は13層上面で確認された。下部土壙が7号配石下部土壙と接するが新旧は不明である。

[配石] 自然礫12個を楕円形に配し、長軸方向を立石とし、さらに内部に小礫を詰め込むものである。東の立石の外側にさらに3～4個礫が配されている。規模は長軸1.8m、短軸0.9mで、方向はN-65°～Wである。使用された礫は立石が長さ約50～55cm、他は20～50cmのものである。内部の小礫は北側の礫の下からも検出され、1号配石と同様に配石の基盤となっていた可能性がある。配石北側に接して倒立した深鉢底部が確認されたが共伴するものかは不明である。

[下部土壙] 土壙は二段になっている。上面平面形は楕円形で長軸1.85m、短軸1.2mである。深さ20～25cmで南側を段状にし、さらに10数cm掘り下げている。底面の平面形は長楕円形で規模は1.17×0.57mである。底面の方向はやや西に振れN-71°～Wである。底面はほぼ平坦であるがやや南に傾斜している。底面中央やや東寄りで大小1点ずつ礫が出土し、大きい礫の下位に径20cmに方形に近い浅いピットを検出している。段の東端では立石が段にくい込んでいた。また段のほぼ中央で完形の深鉢が出土している。深鉢は口縁を南に向け段面よりやや浮いた横位に近い状態で出土し、口縁付近に縦長の礫を伴っていた。

[出土遺物] 段上出土土器（第120図1）1は頸部がくびれて口縁が外傾する深鉢である。口縁部に貫通孔のある2個1対突起があり、下に橋状把手がある。体部には充填手法による波頭文と三角文が横位に展開する。配石上面出土遺物（第124図2・3）2は磨痕・凹痕・タタキ痕、3は凹痕・タタキ痕のある礫石器である。配石北側から出土した深鉢底部は図示していないが外面無文で網代痕である（登録番号A810）。堆積土出土遺物（第120図8）尖頭器である。他に堆積土中から土器片38点（深鉢H類小片1点あり）出土しているが図示していない。

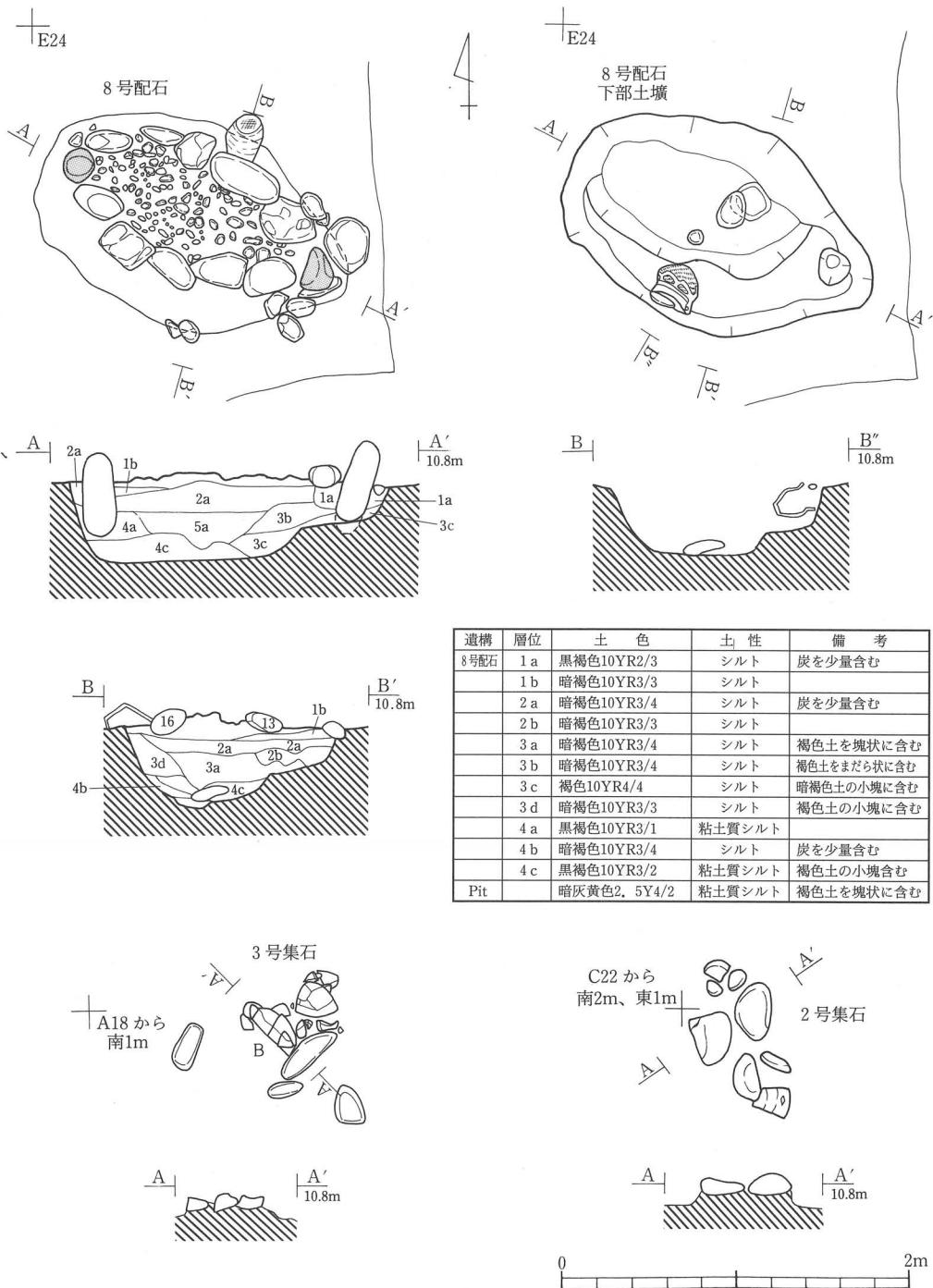
[小結] 深鉢は副葬品とも考えられるが礫を伴う点は埋設土器遺構と類似しており、そのような性格をあわせもつ配石墓の可能性も考えられる。

9号配石（第118図）

[位置確認面] III区 BC23・24 グリッド。12層中から集石状に確認されていたが全貌は13層上面で、下部土壙は礫除去後13層をやや掘り下げて確認された。下部土壙は他の土壙群と多数重複する。

[配石] 3.5×1.5mの範囲内に大小とりませ約80個（30～60cmの礫は約40個）の自然礫が集石状に検出された。後述するSK87とSK89の上位付近に比較的密集しており、下部に土壙もあることから2～3基の配石が崩れ集石状になったものと考えられる。大きめの礫は約40個であり、大きめの礫を多用する1・6・8号配石の使用礫数（15～20個）から換算しても、本来の数は2～3基で妥当といえる。

[配石中出土遺物] 土器（第121図1～4）1は櫛歯状文の口縁部、2・3は同一固体で壺、4



第117図 8号配石、2・3号集石

は台か蓋である。礫石器（第124図4～6）4・6は凹痕、5は凹痕+磨痕である。石製品（第316図8、第338図12）8は小型の石碗、12は石錐である。

[下部土壙] 少しとも配石の下部になる土壙を挙げると SK86・87・88・89・111・112・116・117 の8基になるが、土壙の新旧関係と礫の集中度から SK87・88・89 を配石に伴う土壙とした。ただし、SK88 は重複関係から SK89 より新しくなり、上位の礫の分布も若干希薄になることから、配石よりも新しくなる可能性がある。

[SK87 土壙] SK116・117 と重複するがそれより新しい。上面底面ともに楕円形で、規模は上面1.2×0.85m、底面0.9×0.55m である。方向は N-85°-W である。西半部に口径37cm、器高47cmの大型深鉢が埋設されていた。その掘り方は確認されず、土器の上位に大きな礫が存在することから、深鉢は土壙に伴うものと判断され、この土壙は土壙部と埋設部とで構成されることになる。底面は凹凸があり、埋設部と東端が低くなっている。土壙の堆積土は16層、埋設土器内の堆積土は5層である。

[出土遺物] 埋設土器（第120図2）深鉢で、底部穿孔（焼成後）である。口縁に2個1対の小突起が4単位ある。口縁直下には口縁部文様帯を区画するかのように2本沈線による扁平な入組が施文されるが、文様帯は幅がごく狭く存在は不明瞭である。体部文様は口縁の小突起を起点に3本の多条沈線による対称孤状文と下垂入組文、その間隙に単独の下垂入組文が描かれ、両者が下端で連結し、縦位単位文様が横に展開している状態である。地文は撚糸文Rである。

堆積土遺物（第122図13）13は不定形石器である。他に土器片22点、石器2点出土しているが図示していない。

[SK88 土壙] SK89・97 と重複しそれより新しい。上面底面ともに円形で、規模は上面が径は60cm、底面径48cm、深さ38cmである。断面形は逆三角形に近く、底面は西に傾斜している。土壙の堆積土は5層である。

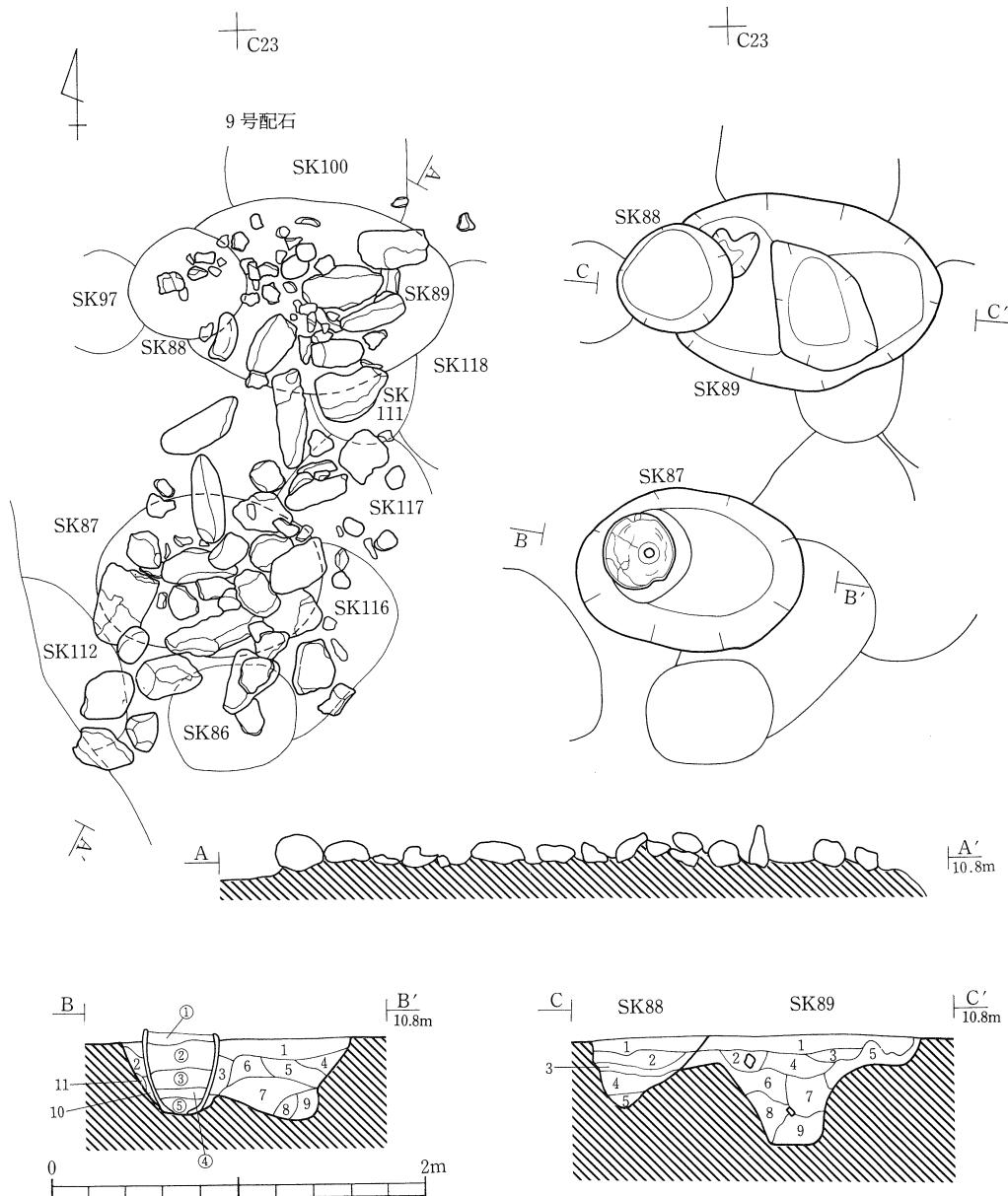
[出土遺物] 堆積土出土遺物 土器片5点、石器1点が出土しているが図示していない。

[SK89 土壙] SK88・100・111・118 と重複し、SK88 より古く他より新しい。上面は長楕円形で規模は長軸1.4m以上、短軸1.04m、方向は N-85°-W である。下面是二段で、深さ15cmで中段になり、その中央が88×50cmの大きさで45cm落ち込み、48×30cmの底面になる。堆積土は9層である。

[出土遺物] 堆積土出土遺物（第123図11・12・14）11・12は石鏃、14は石錐である。他に土器片59点が出土しているが図示していない。

[小結] SK87 の土器は底部穿孔であることから所謂埋設土器遺構と考えられ、SK87 はそのような性格をあわせもつ配石墓と考えられる。

2号集石（第117図）



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
Ⅲ区SK87	1	黒褐色10YR3/2	シルト		Ⅲ区SK88	1	黒褐色7. 5YR3/2	シルト	骨片を含む
	2	黒褐色10YR2/3	シルト質粘土			2	黒褐色10YR2/3	砂質シルト	
	3	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土			3	黒褐色7. 5YR3/1	粘土質シルト	炭を含む
	4	黒褐色10YR3/2	シルト質粘土			4	オリーブ黒色5Y3/1	粘土質シルト	炭、小礫を含む
	5	暗褐色10YR3/3	シルト質粘土	小礫を含む		5	黒褐色2. 5Y3/1	シルト	
	6	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土			6	黒褐色10YR3/2	シルト	
	7	灰黄褐色10YR4/2	シルト質粘土			7	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	炭を含む
	8	灰黄褐色10YR4/2	砂質シルト			3	暗褐色10YR3/3	粘土質シルト	
	9	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	黄褐土を含む		4	褐色7. 5YR4/3	粘土質シルト	
	10	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト			5	褐色7. 5YR4/4	シルト	
	11	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土			6	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	炭を塊状に含む
	①	黒褐色10YR2/2	シルト	砂質が強い		7	褐色10YR4/4	砂質シルト	
	②	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト質粘土			8	にぶい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	
	③	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト			9	暗灰褐色2. 5Y4/2	シルト	
	④	黒褐色10YR2/3	粘土質シルト						
	⑤	褐灰色10YR4/1	粘土質シルト						

第118図 9号配石

[位置確認面] III区 C22 グリッド。13層上面で確認された。重複はないがすぐ西に接して SK38 が存在する。

[集石] 88×50cmの範囲内に大小 7 個の礫が集中している。規則性はない。

[下部土壌] 土壌はない。

[下部遺物] 周辺出土土器 南端の礫と重複して深鉢が出土しているが図示していない(登録番号 A437)。

3号集石 (第117図)

[位置確認面] III区 A18 グリッド。13層上面で確認された。

[集石] 1×0.8m の範囲内に 6 個の礫が集中している。

[下部土壌] 13層中では土壌は確認されなかつたが、約35cm下の14層上面で SK95 (第143図) がほぼ重なる位置で検出されており、これが下部土壌である可能性も考えられる。

[出土遺物] 周辺出土土器 (第121図 5) 磚 B の下の一括土器を中心周辺出土土器片が接合して復元できた。口径41cm、器高51cmの大型深鉢である。口縁は小山形突起が 5 単位あり波状口縁になっている。口縁部文様帯が 1 本沈線で区画され無文となる。突起の下位に下垂沈線と盲孔があり、それを基点として 2 本沈線による対称孤状文とその中に 1 本の下垂沈線文が描かれ、孤状文が下端で連結するという、縦位単位文様が横に展開する文様である。地文は撚糸文 R である。

③埋設土器遺構

1号埋設土器遺構 (第126図)

I 区 D11 グリッド東壁際の13層上面で確認された。掘り方は径45cmの円形で確認面からの深さは20cmである。土器は口縁部から体部下半にかけての深鉢で底部は欠損している。やや北へ傾いた正立の状態で据えられている。

埋設土器 (第127図) 平縁の深鉢で横走する LR 繩文 (0 段多条) が施文されている。

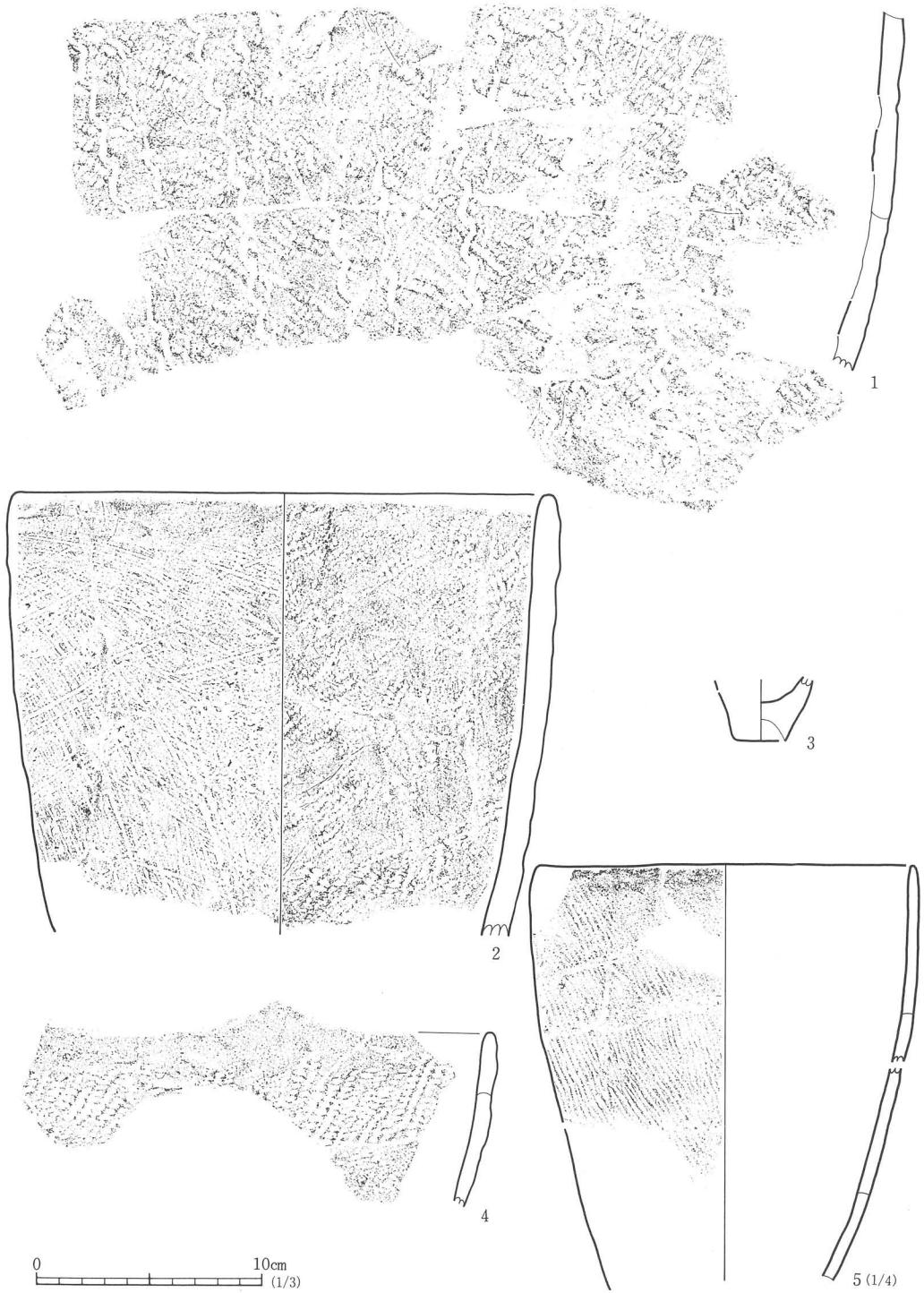
2号埋設土器遺構 (第126図)

III区 D24 グリッドの13層で確認された。15cm東に 7 号配石が存在する。掘り方は径約50cmの円形で確認面からの深さは20cmである。土器は口縁部から体部下半にかけての深鉢で底部は欠損している。正立の状態で据えられている。

埋設土器 (第128図 1) 平縁で口縁直下が幅2cm程無文となり、体部に下垂する櫛歯状文 (8 本 1 描) が施文されている。

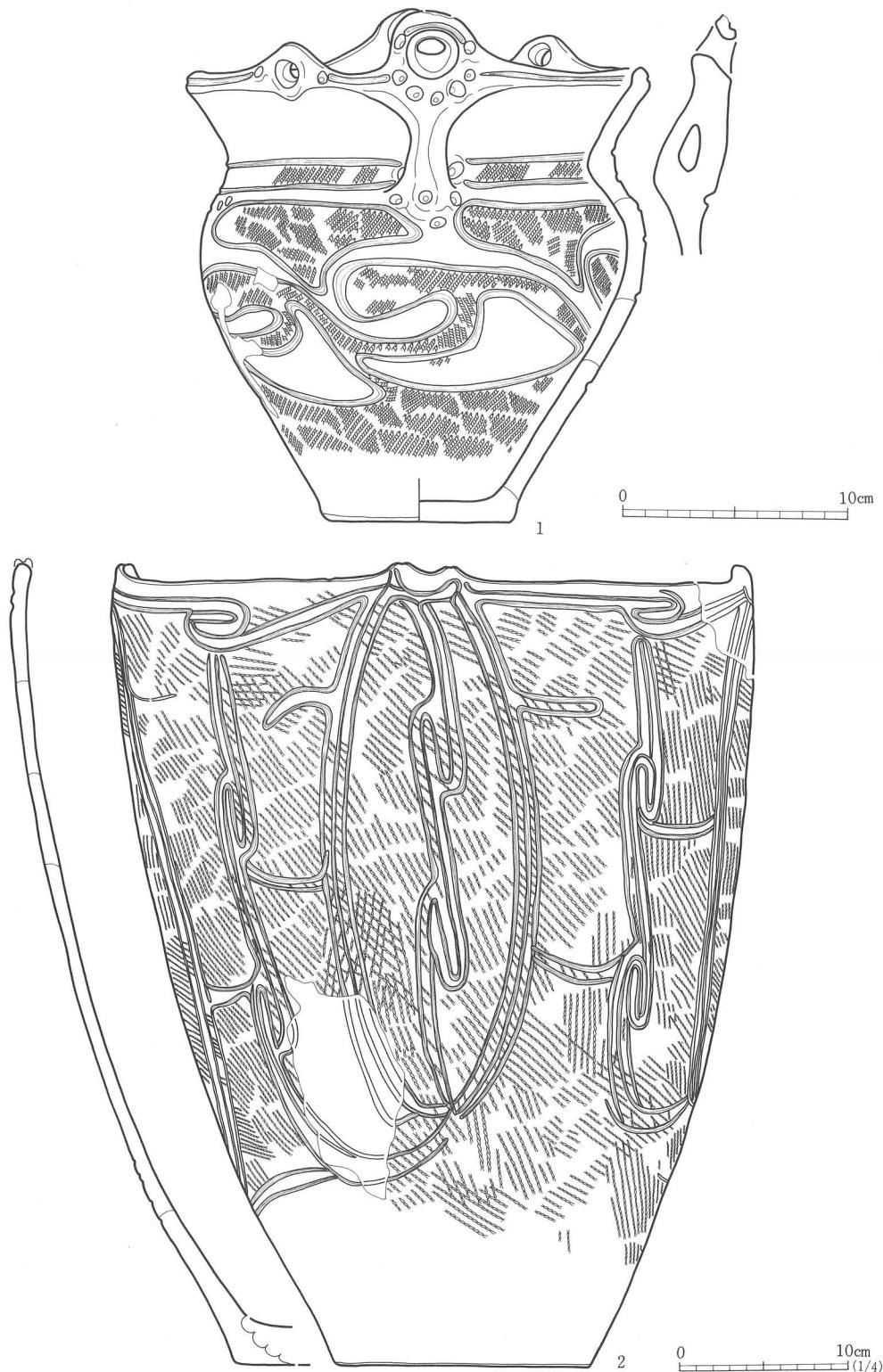
3号埋設土器遺構 (第126図)

III区 A17 グリッドの13層で確認された。掘り方は径約40cmの円形で確認面からの深さ約20cm である。土器は口縁部と底部を欠いた深鉢で正立の状態で据えられている。



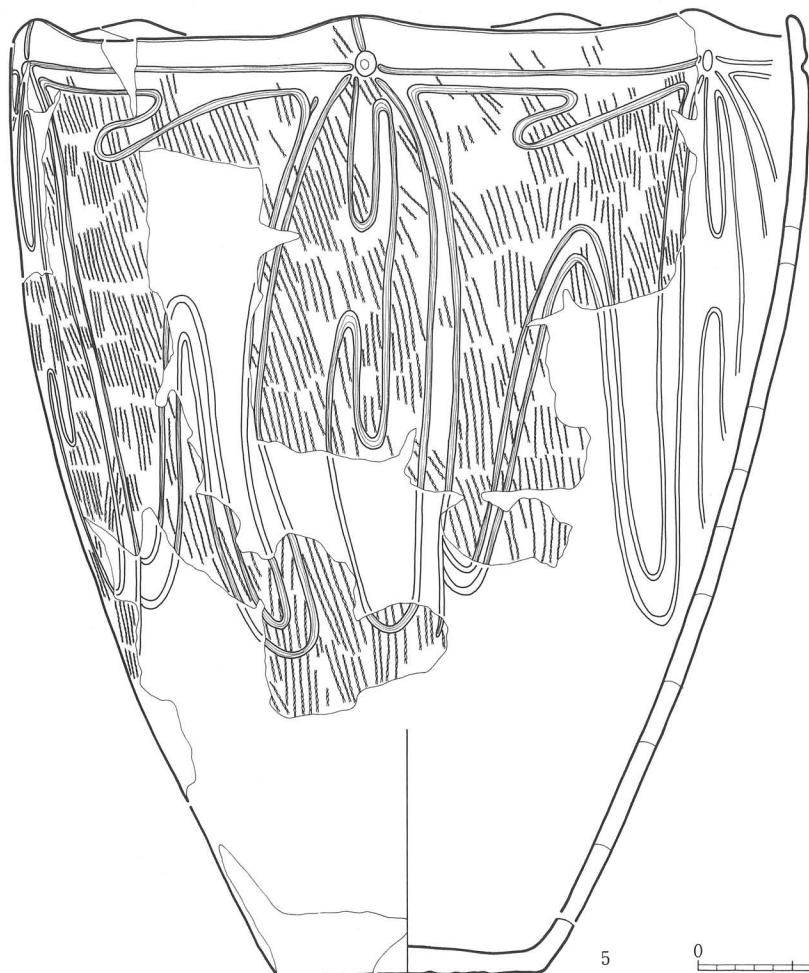
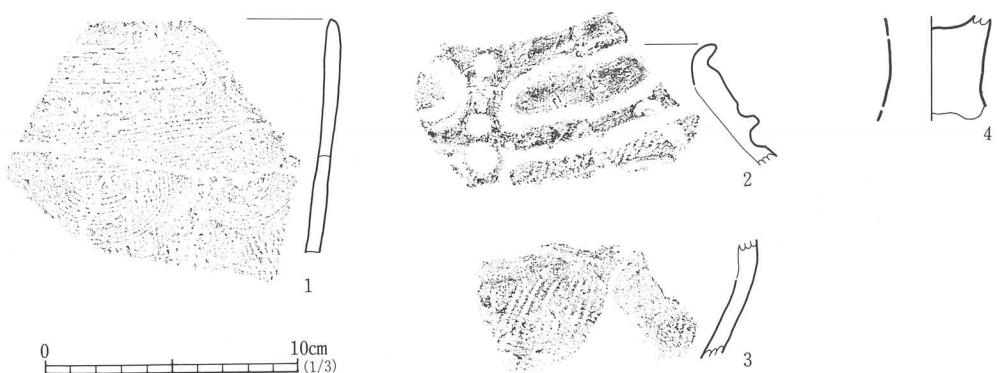
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	1号配石	ℓ 1・3	深鉢					LR縄文、綾絡文	A 731	
2	6号石組	配石上面	小型土器	23.2		(19.6)		内面：LR縄文、外面：櫛齒状文	A 732	66-1
3	3号石組	配石上面	小型土器		2.2	(2.8)		無文	A 1295	
4	7号石組	ℓ 2	深鉢					小突起、RL縄文	A 1231	
5	6号石組	小礫上面	深鉢	22.0		(15.3)	口：1/6	L燃系文	A 866	

第119図 配石出土土器（1）



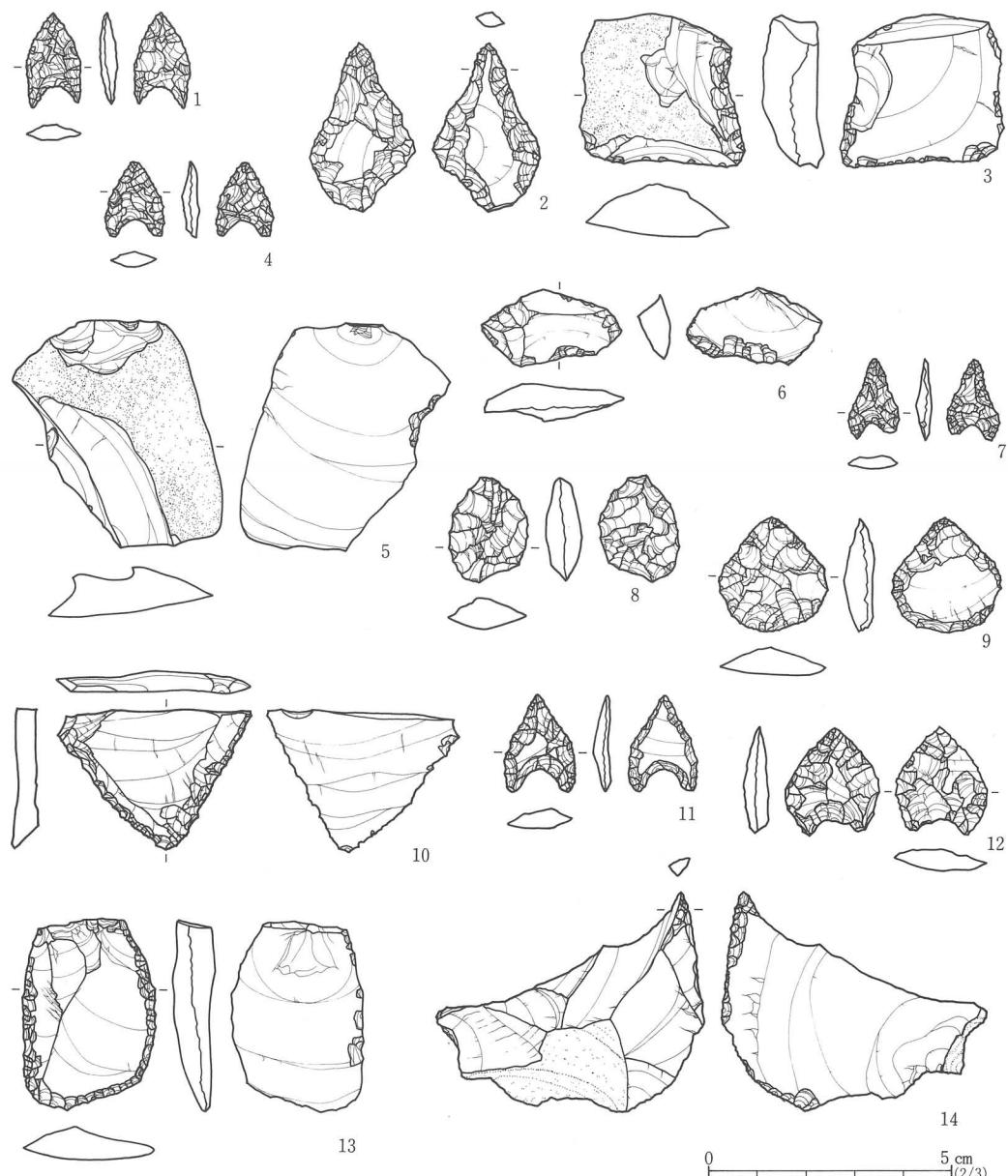
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	8号配石	段上	深鉢 E	20.0	8.6	23.6	完形	口縁: 突起付橋状把手、貫通孔、連続盲孔、沈線、 体部: 波頭文、三角文、充填繩文LR	A1444	66-2
2	9号配石	SK87 埋設	深鉢 A	37.0	15.0	47.1	口:7/8	口縁: 小突起、 体部: 多条沈線下垂入組文・対称弧状文・R燃糸文	A1370	66-3

第120図 配石出土土器(2)



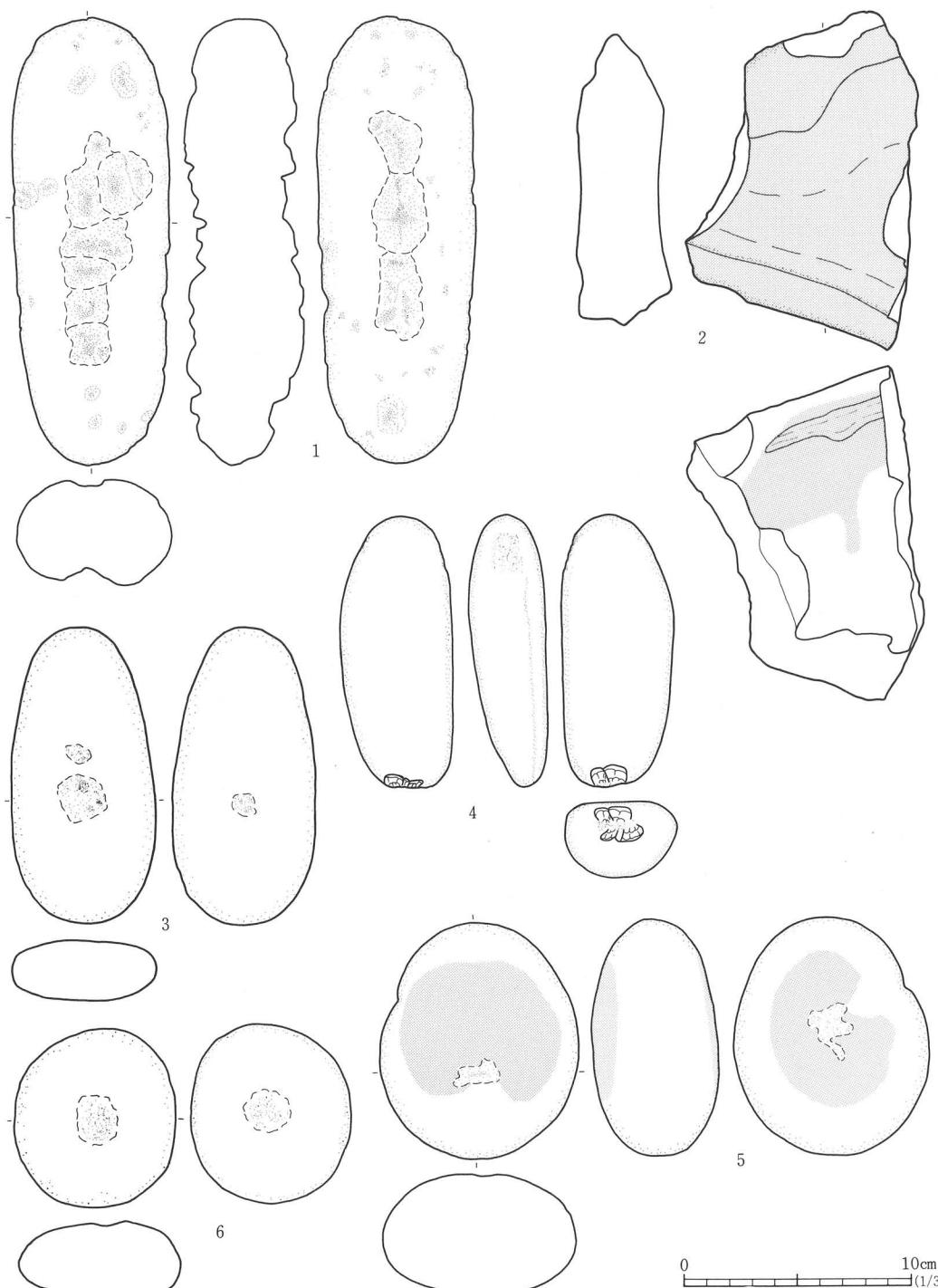
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	9号配石	配石中	深鉢					櫛齒状文、R燃系文	A 667	
2	9号配石	配石中	壺					口縁：隆沈線、盲孔、脩円文、体部：沈線文・LR繩文	A 1213	
3	9号配石	配石中	壺					2と同一、下半部	A 1213	
4	9号配石	配石中	小形土器			(4.1)		台？蓋つまみ？	A 1313	
5	3号配石周辺	12・13	深鉢A	41.0	14.0	51.0	口：1/2	口縁：小突起、下垂沈線、盲孔、 体部：下垂沈線、対称弧状文、R燃系文	A 1369	66-4

第121図 配石出土土器（3）



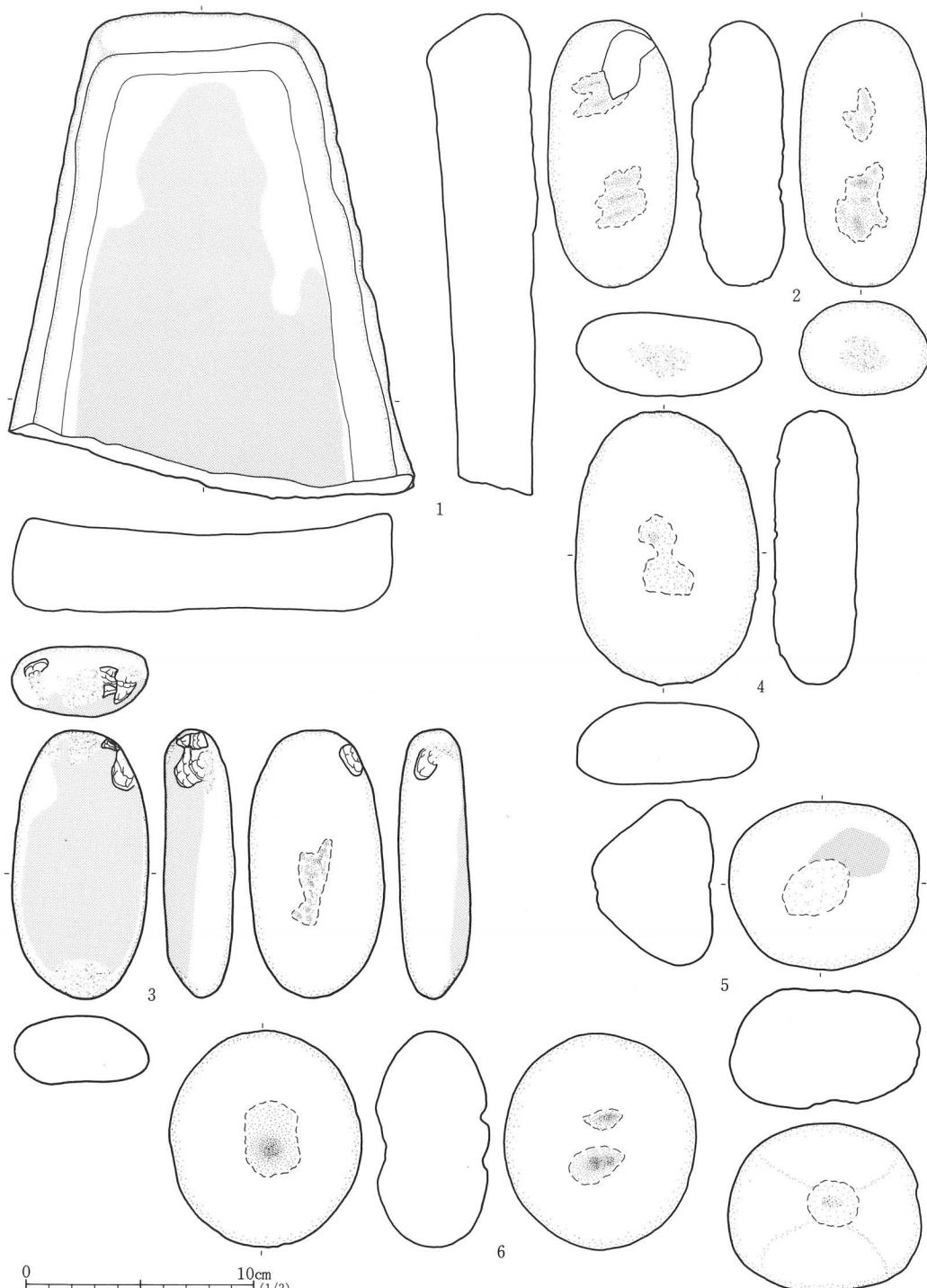
番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	備考	登録	写真
1	1号配石	ℓ 1	石鏃	19. 1	10. 7	2. 4	0. 5	珪質頁岩	素材面両面	Ka247	71-1
2	1号配石	小槻下部	石錐	33. 8	21. 1	8. 4	4. 9	珪質頁岩	素材面両面	Ka251	71-2
3	1号配石	ℓ 5	不定形	33. 3	30. 7	10. 6	12. 5	珪質頁岩	上部欠損	Ka254	71-3
4	3号配石	ℓ	石鏃	15. 1	11. 2	2. 8	0. 4	珪質頁岩		Ka248	71-4
5	3号配石	ℓ	不定形	47. 1	35. 8	10. 7	16. 7	珪質頁岩		Ka256	71-5
6	4号配石	ℓ	不定形	27. 4	15. 8	6. 1	2. 2	珪質頁岩		Ka257	71-6
7	6号配石	ℓ 2	石鏃	16. 1	10. 2	2. 5	0. 3	玉髓		Ka249	71-7
8	8号配石	ℓ 3 a	尖頭器	21. 6	15. 8	6. 8	2. 1	珪質頁岩	素材面片面	Ka253	71-8
9	6号配石	ℓ 1	尖頭器	22. 7	21. 2	5. 4	2. 6	珪質頁岩		Ka252	71-9
10	7号配石	ℓ	不定形	28. 1	39. 0	3. 3	4. 3	珪質頁岩		Ka258	71-10
11	SK89	ℓ 1	石鏃	19. 5	14. 1	3. 2	0. 7	珪質頁岩	素材面両面	Ka 33	71-12
12	9号配石		石鏃	21. 4	18. 4	4. 2	1. 5	珪質頁岩	素材面両面	Ka250	71-13
13	SK87	ℓ	不定形	38. 4	26. 5	7. 5	7. 7	珪質頁岩		Ka 59	71-11
14	SK89	ℓ	石錐	46. 9	54. 4	13. 5	18. 7	珪質頁岩		Ka 54	71-14

第122図 配石出土剥片石器



番号	地 区	層 位	分 類	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備	考	登 錄
1	3号配石	配石の疊	I類凹み	19.65	6.8	5.28	608.4	石 角 英 凝 安 山 灰 質 岩			Kc414
2	4号配石	配石面	XV類 石皿	19.9	13.8	5.2	1630	砂			Kc690
3	5号配石	配石面	I類 凹み	13.08	6.3	2.8	335.1	安 山 岩			Kc131
4	5号配石	配石面	III類 敲	11.95	4.9	3.3	308.0	真			Kc608
5	5号配石	配石面	II類 磨+凹み	10.4	8.6	5.4	722.3	安 山 岩			Kc 50
6	6号配石	小疊上面	I類 凹み	7.8	7.08	3.45	284.7	安 山 岩			Kc253

第123図 配石出土礫石器 (1)



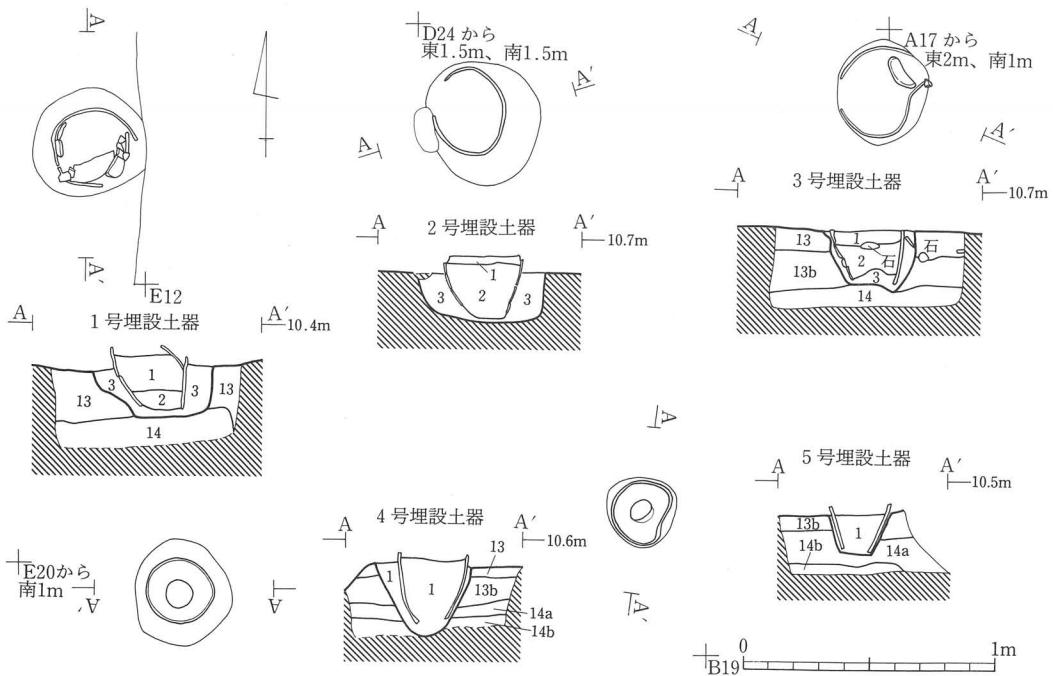
番号	地 区	層 位	分 類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備 考	登 錄
1	6号配石	配石の礫	XV 石皿	28.1	23.1	5.9	5400	砂 岩	写真72-37	Kc637
2	8号配石上面	配石上面	VII類 凹み+轍	11.8	5.7	4.0	360.9	安 山 岩		Kc498
3	8号配石	配石上面	III類 磨+凹み+轍	11.9	5.9	3.1	302.9	安 山 岩		Kc 92
4	9号配石	配石中	VII類 凹み+轍	12.05	8.05	3.7	490.9	安 山 岩		Kc218
5	9号配石	配石中	II類 凹み+磨	8.4	7.45	5.5	466.3	花 岗 閃 緑 岩		Kc 57
6	9号配石	配石中	I類 凹み	9.6	8.4	5.0	478.1	安 山 岩		Kc353

第124図 配石出土礫石器(2)



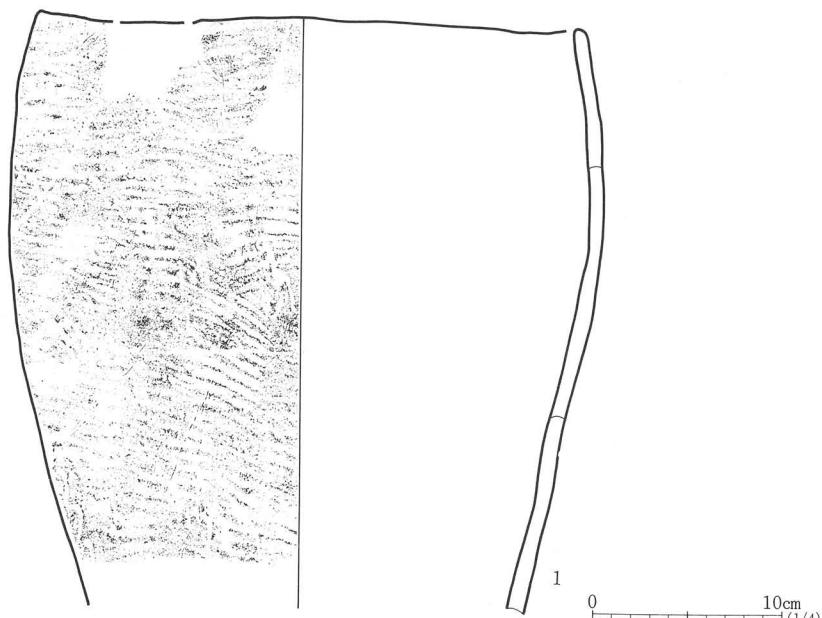
第125図 配石・埋設土器遺構出土礫石器

番号	地 区	層位	分 類	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材	備	考	登 錄
1	9号配石	配石中	I類 凹み	13.65	8.88	4.6	802.7	安 山 岩			Kc242
2	9号配石	配石中	IX類 磨石	11.9	10.8	5.3	1019.1	安 山 岩			Kc20
3	5号配石	配石面	I類 凹み	14.06	9.9	8.15	963.0	安 山 岩			Kc379
4	3号埋設土器	配石面	I類 凹み	17.3	6.5	4.85	691.1	安 山 岩			Kc121



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
1号埋設	1	黒褐色10YR3/1	粘土		3号埋設	1	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	炭を少量含む
	2	黒赤灰色2.5YR3/1	粘土	暗緑灰色粘土塊を含む		2	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	砂を少量含む
	3	黒褐色5YR2/2	粘土			3	オリーブ黒色5YR3/1	粘土質シルト	
2号埋設	1	黒褐色10YR3/2	シルト	炭を少量含む	4号埋設	1	黒色7.5YR2/1	粘土質シルト	
	2	暗褐色10YR3/3	シルト	炭、微少量含む、褐色土塊状に含む		1	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	
	3	褐色10YR4/4	シルト	炭、微少量含む、暗褐色土塊状に含む	5号埋設	1	黒褐色10YR2/2	粘土質シルト	炭を少量含む
Pit		黒褐色10YR2/2	砂質シルト						

第126図 埋設土器遺構



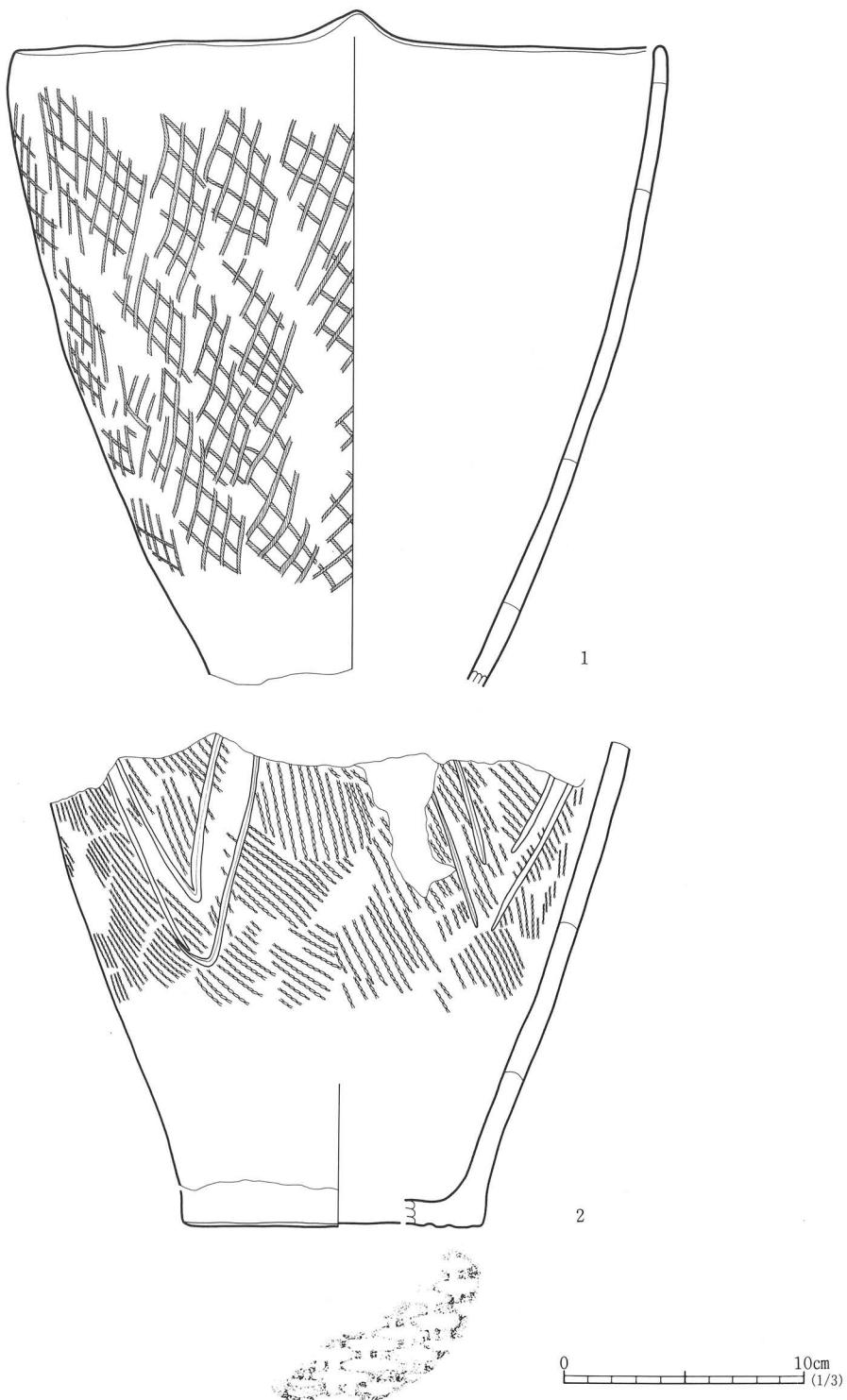
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	1号埋設土器		深鉢 A	28.5	(31.6)	口:3/4	0段多糸、LR繩文		A1385	66-5

第127図 1号埋設土器



図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	2号埋設土器		深鉢A	25		(35.6)	口:1/3	櫛齒状文(8本1描)	A1383	67-1
2	3号埋設土器		深鉢					櫛齒状文	A 841	

第128図 2・3号埋設土器



図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	4号埋設土器		深鉢 A	27		(27.0)	口:5/6	口縁:小突起、体部:網目状撚糸文(r)	A1417	67-2
2	5号埋設土器		深鉢		12.4	(20.6)		沈線文、山形文?、磨消繩文、R撚糸文、網代痕	A1445	67-3

第129図 4・5号埋設土器

埋設土器 (第128図2) 体部に下垂する櫛歯状文が施文されている。

4号埋設土器 (第126図)

III区 E20 グリッドの13層で確認された。礫を伴う SK96 の50cm東に位置する。掘り方は径約40cmの円形で確認面からの深さは約30cmである。土器は口縁部から体部下半にかけての深鉢で、正立の状態で据えられている。

埋設土器 (第129図1) 本来は小突起が3単位の波状口縁であるが2単位は故意にか欠損している。口縁直下が2~3cm無文帯となる。体部には無節の網目状撚糸文rが施文されている。

5号埋設土器遺構 (第126図)

III区 A18 グリッドの13層で確認された。3号配石下部土壙の北東でほぼ接している。掘り方は径約30cmの円形で確認面からの深さは15cmである。土器は体部下半から底部の一部にかけての深鉢で正立の状態で据えられている。

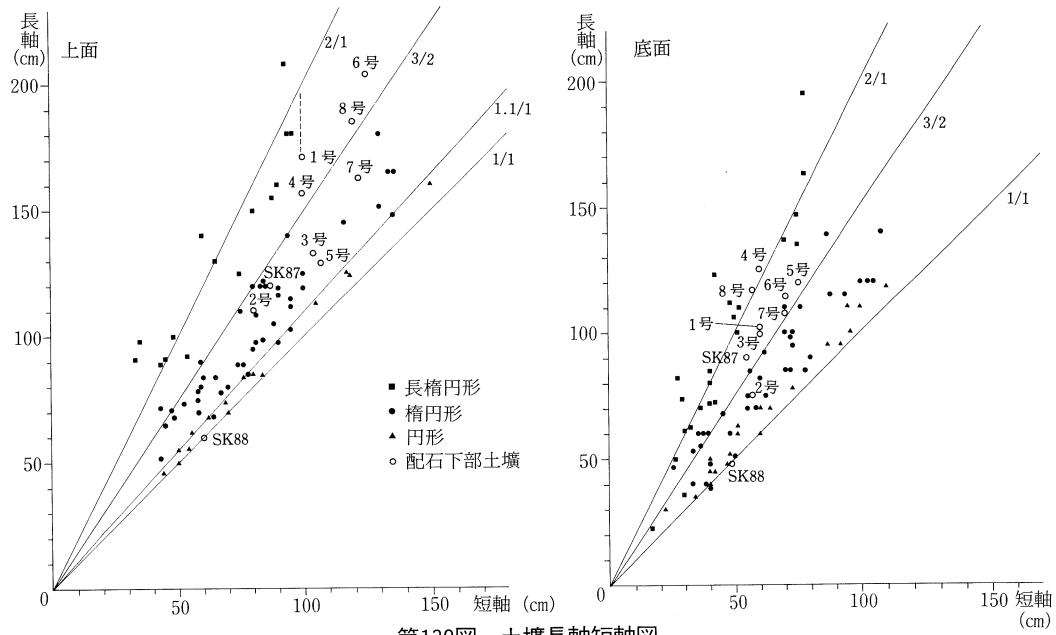
埋設土器 (第129図2) 体部は磨消繩文で地文は撚糸文Rである。

④土壤

土壙は9層で1基、13層で99基、14層で30基、計130基検出されている。ここでは13・14層検出土壙の概要を以下に記述する。土壙の図面は全体図を第112・113図、個別を第113~148図、計測値等は第7~10表に示した。

形態

土壙の上面の平面形は、円形、橢円形、長橢円形を基調としている。土壙の上面の長軸短軸の計測値を第130図に示した。円形ものは長軸/短軸が1.1~1、橢円形のものは1.1~1.5、長橢円



第130図 土壙長軸短軸図

形のものは2前後という値が一応の目安となろう。規模は全体としては長軸が約50～210cm、短軸が35～150cmの範囲にある。長軸の大きさから規模の大中小のまとめが看取できる。小は100cm以下、中は100～130cm、大は140cm以上である。各タイプ別にもおおむねこの範囲で規模に差がみられる。底面の平面形は上面と同じ場合がほとんどである。規模は長軸が30～195cm、短軸が20～110cmの範囲内にある。上面同様規模に大中小がみられる。小は90cm以下、中は90～120cm、大は135cm以上である。深さは10～60cmの範囲にあるが、10～50cmのものが多い。タイプ別では長楕円形には10～20cmの浅いものが多く、円形にはやや深めのものが多くなっている。底面での長軸が150cm以上のものが少ないとから成人では伸展葬は少なく、屈葬が多かったかも知れない（注1）。

配置

13層検出土壙はおもに18グリッド以南に分布する。とくに1・6～8号配石を囲むような孤状に分布している。さらにその中には互いに近接し重複し合う数基から10数基の小ブロックが看取できるようである。とくに9号配石付近では20数基、CD24・25グリッドでは20基近くが集中している。重複で最も多い例は5回（SK110→90→118→111→89→88）である。14層検出土壙は、13～18グリッドと22グリッド以南で検出されている。前者では13層でほとんど分布のみられない場所で検出されている。後者では13層CD24・25グリッド土壙群と重複する場所に多く分布している。

礫を伴う土壙

土壙の上面、堆積土中、底面で礫が検出されている。SK16・40・58・71・79・93・96・102・112・120・124である。SK40では土壙上面で十字状に並んだ礫4個が検出されている。SK40は1・6～9号配石の配置を環状とみた場合のほぼ中央に位置する。SK16・96では長軸方向に礫2個並んでいる。SK93・102では土壙のほぼ中央で立石になっている。SK73・79・112・120・124では上面で礫が1～数個検出されている。SK58では東隅の底面から壁にかけて6個の小振りの礫が出土した。SK71ではやや北寄りの堆積土上部で5個の扁平な礫が確認されている。

土器を伴う土壙

土壙に伴うと考えられる完形に近い土器あるいは大型破片が土壙上面、堆積土中、底面付近から出土している。前者の例はSK24・38・92である。SK24では底面から約20cm浮いた状態で深鉢が、SK38では底面からやや浮いて体部下半から底部を欠く深鉢とともに横位の状態で出土している。SK24は堆積土中から多くの土器石器が出土しており、とくに石鏃が7点あることは注目すべきであろう。SK92では土壙上面で深鉢が横位の状態で出土している。後者の例はSK53・73・126である。SK53では北隅で深鉢の口縁部の破片が裏面を上に出土し、SK126では東隅で口縁部から底部にかけての深鉢の破片が底部を上に出土している。SK73では土壙上

面で礫と並んで壺の片側半個体が横位で出土している。

〔出土土器〕 SK24 (第149図7) 口縁部が一部欠けるだけのほぼ完形の深鉢である。文様は撚糸文Rのみで口縁部付近は横走し、体部は斜行する。SK38 (第151図4) 深鉢でほぼ直線的に立ち上がる器形である。文様は無節繩文Lである。SK53 (第153図1) 頸部が強く屈曲し口縁部が内傾する深鉢の大型破片である。口縁部には突起と一体となった橋状把手が付く。体部文様は磨消繩文(LR)による沈線文と下垂する破線入沈線文である。SK73 (第153図5) 同一個体の片側半個体が約1m離れて出土しており、口縁部が1/3欠けているものの完形に近く復元されている。無頸の壺である。体部中央に最大径がある。文様は斜行する撚糸文Rである。SK92(第156図) ほぼ完形の深鉢である。外面は無文で、内面には下垂する2本同時施文の沈線が1~4cm間隔で約30条施されている。SK126(第157図2) 貫通孔付山形突起のある無文の深鉢である。

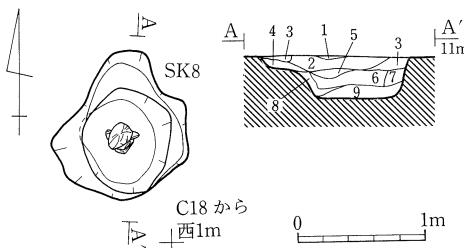
出土遺物

土壙ごとに図示した。土壙の堆積土を中心に土器(第149~157図)、土製品(第158~159図)、石器(第160~166図)、礫石器(第167~170図)が多数出土している。土製品には土製耳飾り・腕輪形土製品・土錐、石器には石鎌・尖頭器・石錐・石匙・異形石器・不定形石器・磨製石斧がある。土製耳飾りはSK43から小型品2点、SK117から中型品1点、腕輪形土製品はSK67とSK82各1点出土している。

注1)長野県、北村遺跡(平林他:1993)では埋葬姿勢別の墓坑底面の規模を検討し、長径150cm前後を成人の屈葬と伸展葬の一応の境としている。

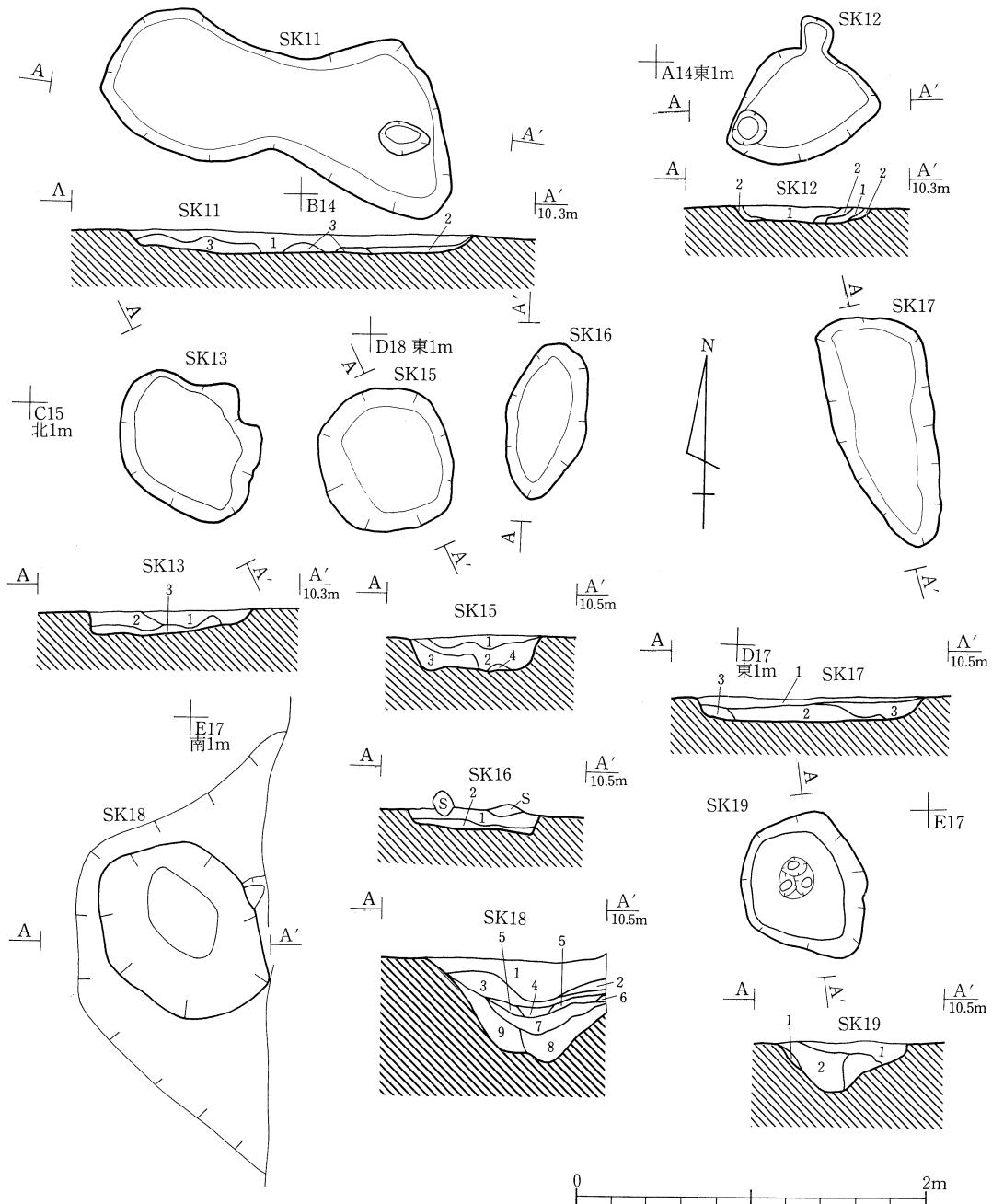
⑤ピット

II・III区の13層で16個、14層で36個のピットを検出した。径20~40cm、深さ20~60cm程である。明らかに柱穴と考えられるものや配置に規則性がみられるものはない。



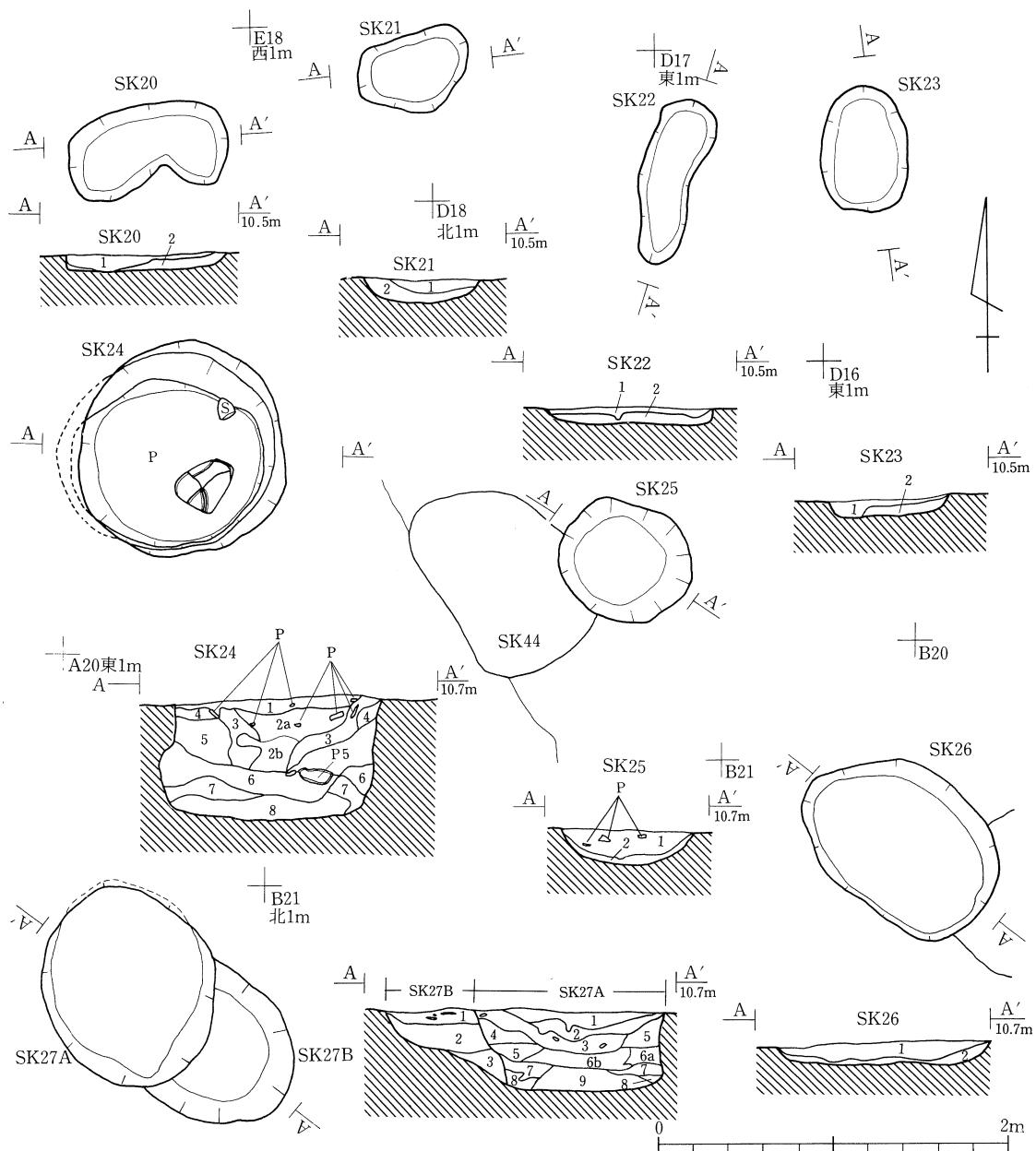
遺構	層位	土色	土性	備考
SK8	1	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	
	2	黒色10YR2/1	粘土質シルト	遺物を含む
	3	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	
	4	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	
	5	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	
	6	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	遺物を含む
	7	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	
	8	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	炭、遺物を含む
	9	黒褐色10YR3/1	粘土	

第131図 9層SK8土坑



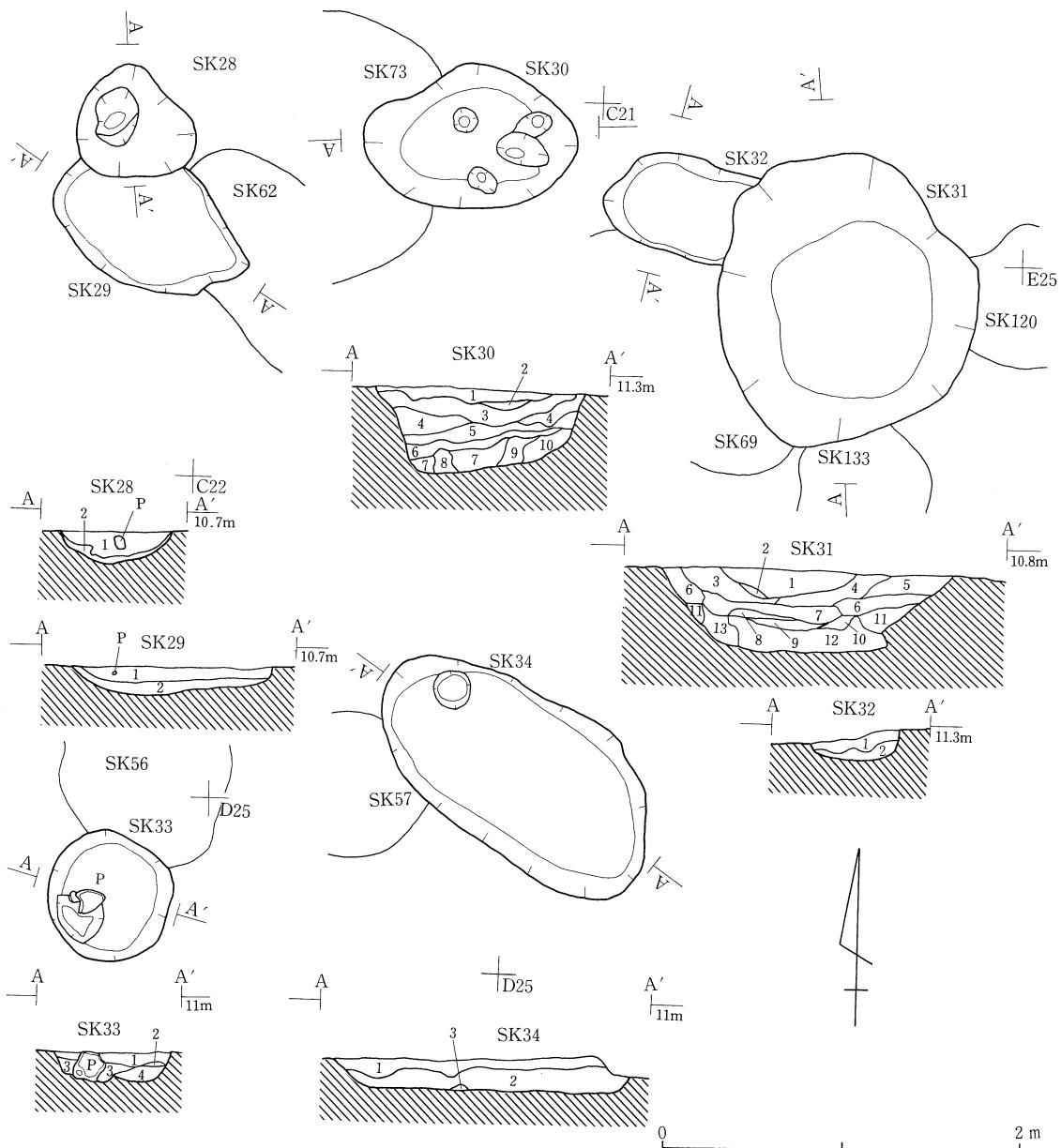
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK11	1	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む	SK17	1	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	
	2	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	黄色土を含む		2	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	
	3	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	オリーブ色土を含む		3	7, 5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	
SK12	1	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む	SK18	1	2, 5GY暗オリーブ灰色	シルト質粘土	
	2	2, 5GY暗オリーブ灰色	シルト質粘土	炭化物を含む		2	2, 5Y2/1黒色	シルト質粘土	遺物、炭化物を含む
SK13	1	7, 5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む		3	2, 5Y2/1黒色	シルト質粘土	炭化物を含む
	2	2, 5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む		4	7, 5Y2/1オリーブ黒色	砂質シルト	遺物、炭化物を含む
	3	2, 5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を少量含む		5	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む
SK15	1	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む		6	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む
	2	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む		7	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む
	3	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を少量含む		8	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
SK16	1	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む		9	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む
	2	2, 5Y3/1黒褐色	シルト質粘土		SK19	1	5Y2/1黒色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む、土器片を少量含む
SK17	2	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土			2	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む
	3	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土			3	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土	

第132図 土 壤 (1)



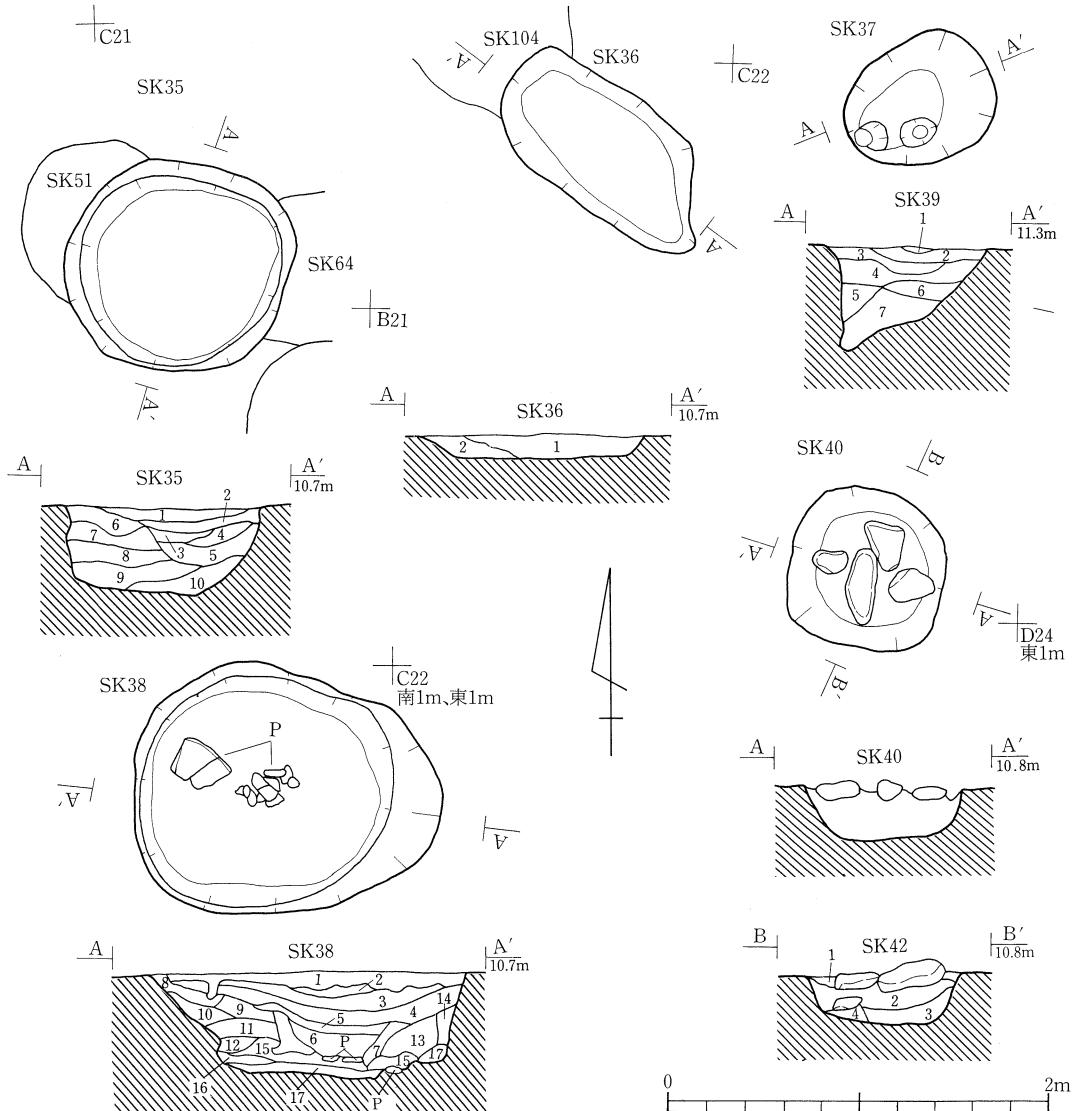
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK20	1	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト		SK25	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、砂、小石、土器片を含む
	2	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト			2	10YR3/2黒褐色	シルト質砂	
SK21	1	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト		SK26	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	小穢、炭化物、遺物、砂粒を含む
	2	5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト			2	10YR3/1黒褐色	シルト	
SK22	1	5Y3/1オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を少量含む	SK27A	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を多量含む、土器片を含む
	2	7.5Y2/2オリーブ黒色	粘土質シルト			2	10YR3/3暗黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む、土器片を含む
SK23	1	5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土			3	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物を多く含む、骨片を含む
	2	7.5Y2/2オリーブ黒色	シルト質粘土			4	10YR4/1褐灰色	シルト	
SK24	1	10YR1.7/1黒色	シルト質粘土	1~2mmの小石、数個の土器片を含む	SK27B	1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を若干含む
	2 a	7.5YR1.7/1黒色	シルト質粘土	炭化物少量含む		5	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	
SK24	2 b	7.5YR1.7/1黒色	シルト質粘土			6 a	2.5Y4/1黄灰色	砂質シルト	
	3	7.5YR2/1黒色	シルト質粘土	炭化物少量含む		6 b	2.5Y4/1黄灰色	砂質シルト	炭化物を多く含む
SK24	4	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土			7	2.5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を多く含む
	5	10YR2/1黒色	粘土質シルト			8	2.5Y3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
SK24	6	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト			9	2.5Y2/1黒褐色	シルト	殆んど炭化物の層
	7	5Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	約1mmの少量の小石、土器片含む	SK27B	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を多く含む、土器片を含む
SK24	8	5Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト			2	2.5Y2/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
						3	5Y5/2灰オリーブ	砂質シルト	

第133図 土 壤 (2)



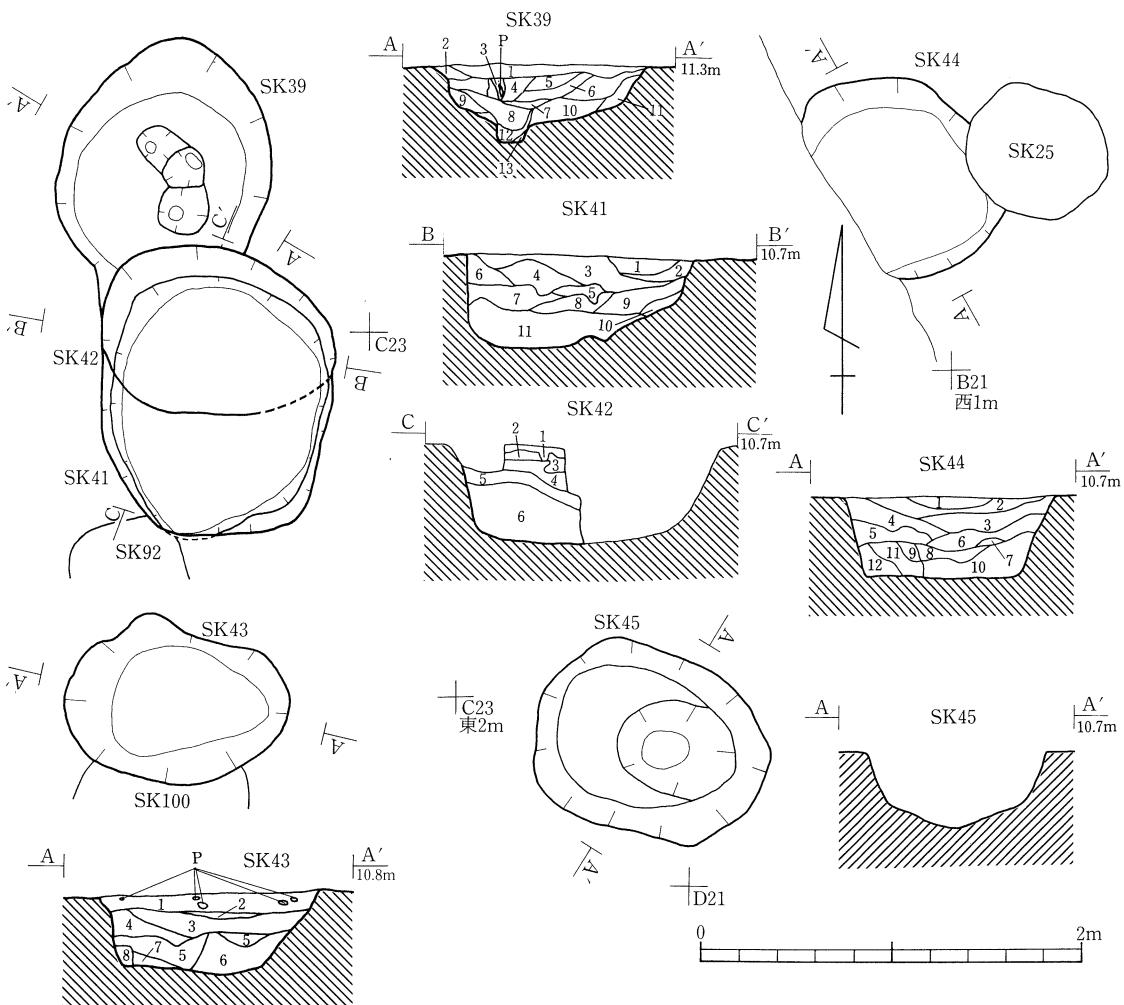
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK28	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	礫、炭化物、土器片を含む	SK31	5	7. 5YR2/3極暗褐色	シルト	少量の小礫、炭化物を含む
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	(サンプルあり)		6	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物、多量の砂粒、小礫含む
SK29	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	礫、炭化物、遺物を含む		7	10YR2/1黒色	シルト	少量の小礫、砂粒含む
	2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	(サンプルあり)		8	10YR4/6褐色	シルト	若干の砂粒含む、褐色土を多く含む
SK30	1	7. 5YR2/1黒褐色	シルト	多量の炭化物、小礫、砂粒含む		9	10YR2/3黒褐色	粗砂	
	2	10YR4/4褐色	シルト	少量の炭化物を含む		10	10YR3/4暗褐色	シルト	
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	若干の炭化物、砂粒、小礫を含む		11	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む		12	10YR3/2黒褐色	シルト	
	5	5Y3/1オリーブ黒色	砂質シルト	炭化物、砂粒を含む		13	10YR4/4褐色	シルト	
	6	5Y4/1灰色	シルト	炭化物、砂粒を含む	SK32	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物、砂粒少量含む
	7	10Y3/1オリーブ黒色	シルト	炭化物を含む		2	10YR3/4暗褐色	シルト	砂粒少量含む
	8	5GY4/1暗オリーブ灰色	シルト			3	10YR2/3暗褐色	シルト	
	9	7. 5Y3/2オリーブ黒色	シルト		SK33	1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	
	10	7. 5Y2/1黒色	粘土質シルト	炭化物、小礫を含む		2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む
SK31	1	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒、小礫を含む		3	7. 5YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	若干の炭化物を含む		4	7. 5YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含む
	3	7. 5YR2/2黒褐色	シルト	少量の小礫、炭化物を含む	SK34	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物、砂粒、小礫を含む
	4	7. 5YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、多量の砂粒、小礫を含む		2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒、砂粒を含む
						3	10YR4/4褐色	砂質シルト	

第134図 土 壤 (3)



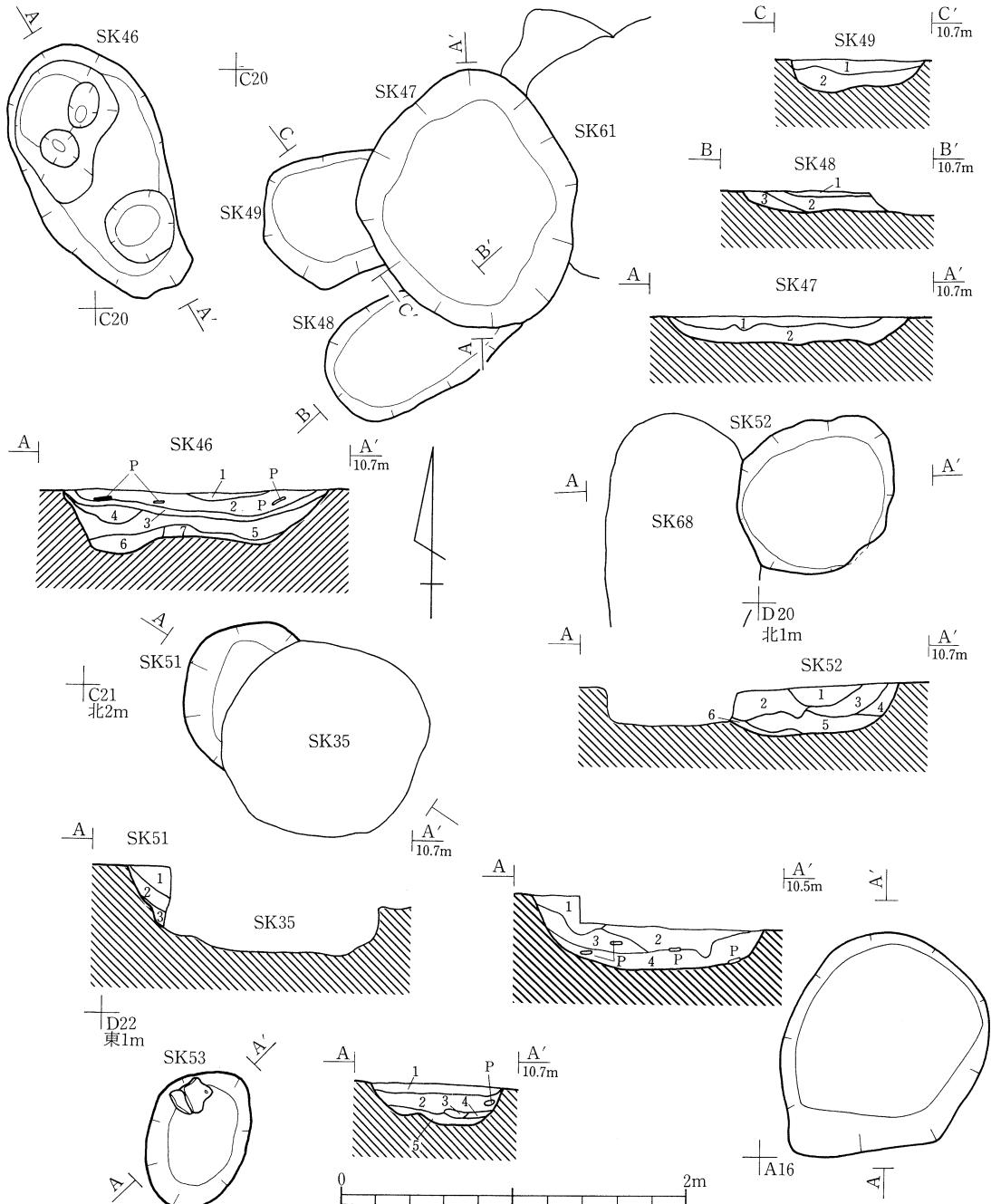
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK35	1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物、少量の炭化物含む	SK38	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物、砂粒を含む
	2	2. 5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む		3	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	小礫、砂粒炭化物を含む
	3	7. 5Y4/1灰色	粘土質シルト			4	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	4	5 Y2/1黒色	粘土質シルト	多量の炭化物、砂粒を含む		5	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	小礫、炭化物を含む
	5	7. 5Y3/2オリーブ黒色	粘土質シルト	砂粒を含む		6	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	小礫、炭化物を含む
	6	2. 5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む		7	2. 5YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	7	2. 5Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物、砂粒を含む		8	7. 5YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
	8	5 Y4/1灰色	粘土質シルト			9	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
	9	7. 5Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	多量の炭化物、砂粒を含む		10	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	
	10	10Y4/2灰黄褐色	シルト			11	2. 5YR3/1黒褐色	砂質シルト	
SK36	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、遺物を含む		12	2. 5YR3/2黒褐色	砂質シルト	
	2	10YR2/1黒色	砂質シルト	炭化物、遺物を含む		13	2. 5YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
SK37	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		14	2. 5YR3/2黒褐色	シルト	
	2	7. 5YR3/3黒褐色	シルト	炭化物を含む		15	2. 5YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を繊状に含む
	3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物、砂粒を含む		16	5 Y3/2オリーブ黒色	砂質シルト	炭化物を繊状に含む
	4	2. 5Y3/1黒褐色	シルト質粘土			17	5 Y3/2オリーブ黒色	砂質シルト	
	5	7. 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む	SK40	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	
	6	5 Y3/2オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を含む		2	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	
	7	10Y4/1灰色	シルト質粘土	炭化物を含む		3	10YR4/3/ぶい黄褐色	シルト質粘土	1mm程度の小石を含む
SK38	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト			4	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	砂、炭化物を少量含む

第135図 土 壤 (4)



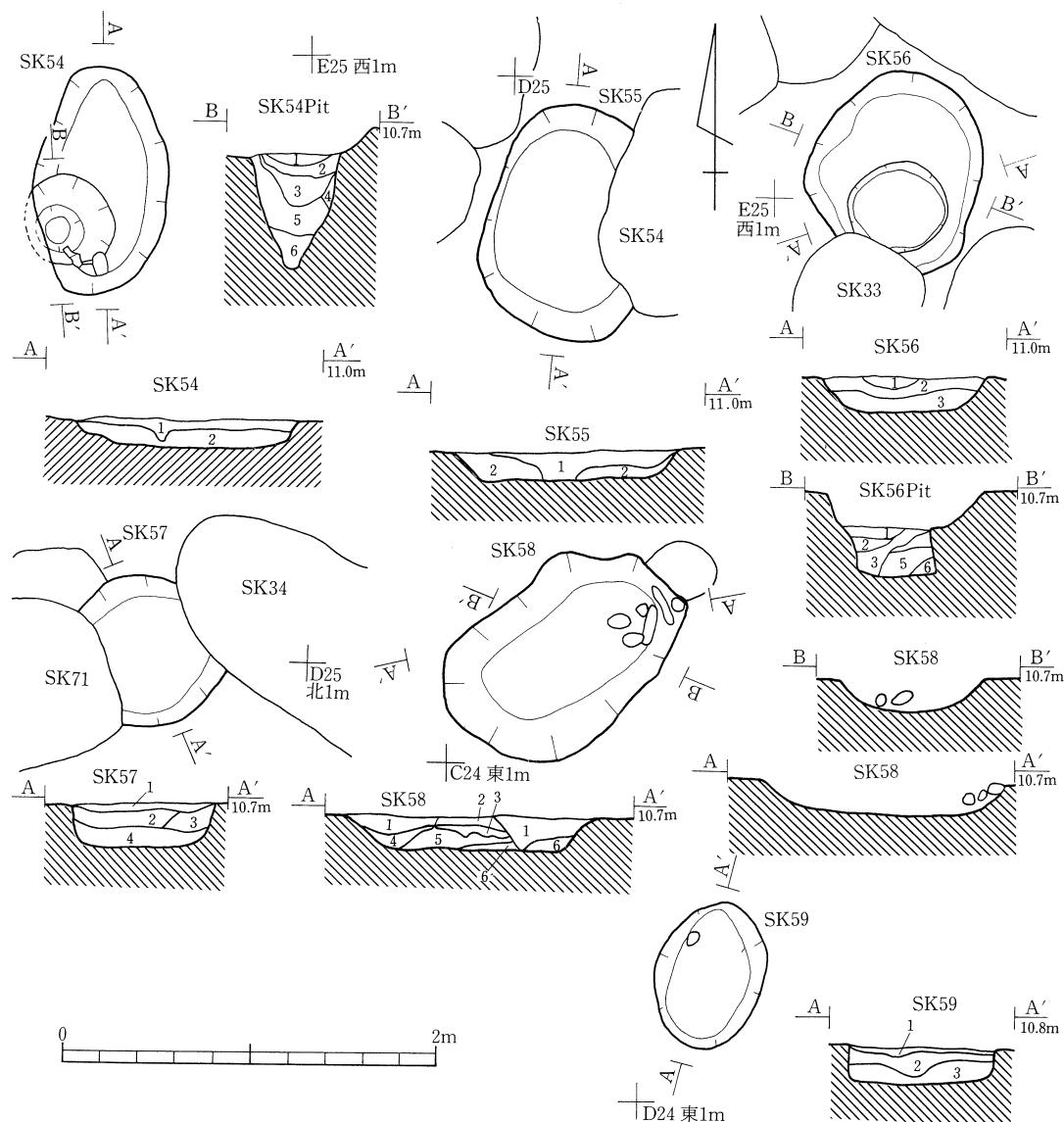
構造	層位	土色	土性	備考	構造	層位	土色	土性	備考
SK39	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む	SK42	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	小礫を含む		2	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	3	10YR2/2黒褐色	砂質シルト			3	10YR2/2黒褐色	砂質ルート	炭化物を含む
	4	10YR4/4褐色	シルト			4	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	5	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む		5	7.5YR2/2黒褐色	砂質シルト	小礫を含む
	6	10YR2/3黒褐色	砂質シルト			6	2.5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	7	10YR3/3暗褐色	砂質シルト		SK43	1	7.5YR2/1黒色	シルト	炭化物、小礫を多量に含む
	8	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む		2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を含む
	9	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト			3	7.5R3/3暗褐色	シルト	
	10	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト			4	10YR3/2黒褐色	シルト	
	11	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト			5	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	
	12	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト			6	10YR4/4褐色	粘土質シルト	砂粒を含む
	13	10YR3/1黒褐色	砂質シルト			7	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	
SK41	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、砂粒、焼けた礫を含む		8	10YR4/6褐色	粘土質シルト	
	2	7.5YR3/1黒褐色	シルト		SK44	1	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	3	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、焼けた礫を含む		2	2.5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物粒、粗砂を含む
	4	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、焼けた礫を含む		3	2.5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物粒を含む
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	粗砂	炭化物を含む		4	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	6	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物を含む		5	7.5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	7	10YR3/2黒褐色	シルト			6	5Y3/1オリーブ黒色	シルト	
	8	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む		7	7.5Y4/1灰色	シルト	
	9	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む		8	10Y3/1黒褐色	シルト	
	10	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	ℓ9をブロック状に含む		9	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	
	11	10YR3/1黒褐色	シルト			10	10.11.12	註記なし	

第136図 土 壤 (5)



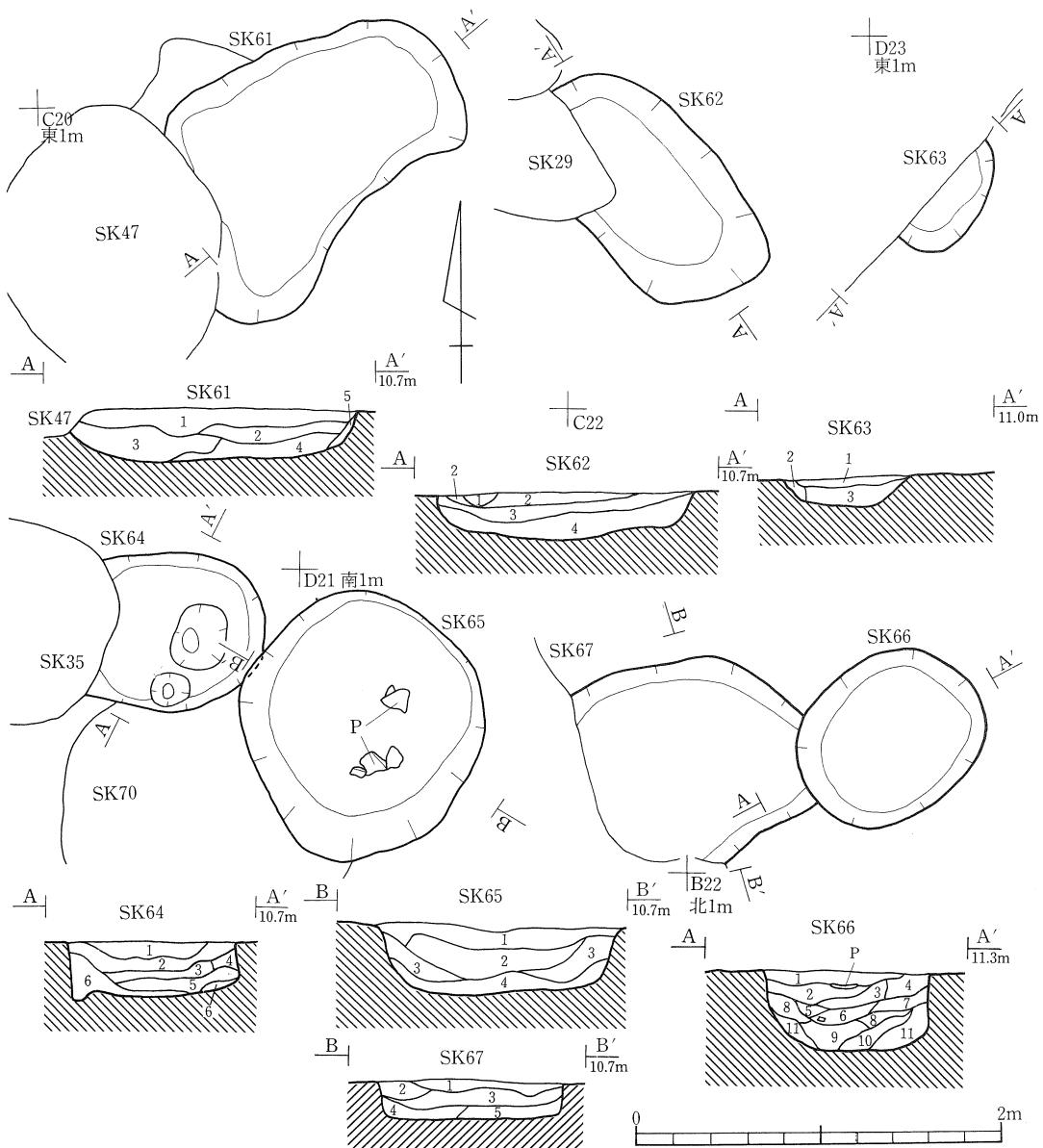
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK46	1	10YR3/1黒褐色	シルト	遺物を含む	SK49	1	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	多量の炭化物、砂粒、小礫を含む
	2	10YR2/1黒色	砂質シルト	炭化物、小礫、遺物を含む		2	7, 5Y4/1褐灰色	粘土質シルト	炭化物、小礫を含む
	3	10YR2/2黒褐色	シルト	小礫を含む		1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	4	2, 5YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、小礫を含む		2	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	5	2, 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む		3	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	6	5 Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む		4	10YR3/1黒褐色	シルト	
	7	7, 5Y3/2オリーブ黒色	砂質シルト			5	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
SK47	1	10YR2/1黒色	砂質シルト	炭化物を含む	SK50	1	黒褐色2, 5Y3/1	粘土質シルト	骨片を多量に含む
SK48	1	10YR2/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		2	" 2, 5Y3/2	シルト	骨片、炭を含む
	2	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		3	灰色10Y4/1	粘土質シルト	炭化物を少量含む
	3	10YR3/1黒褐色	シルト			4	オリーブ黒10Y3/1	"	暗緑灰土と骨片を含む

第137図 土 壤 (6)



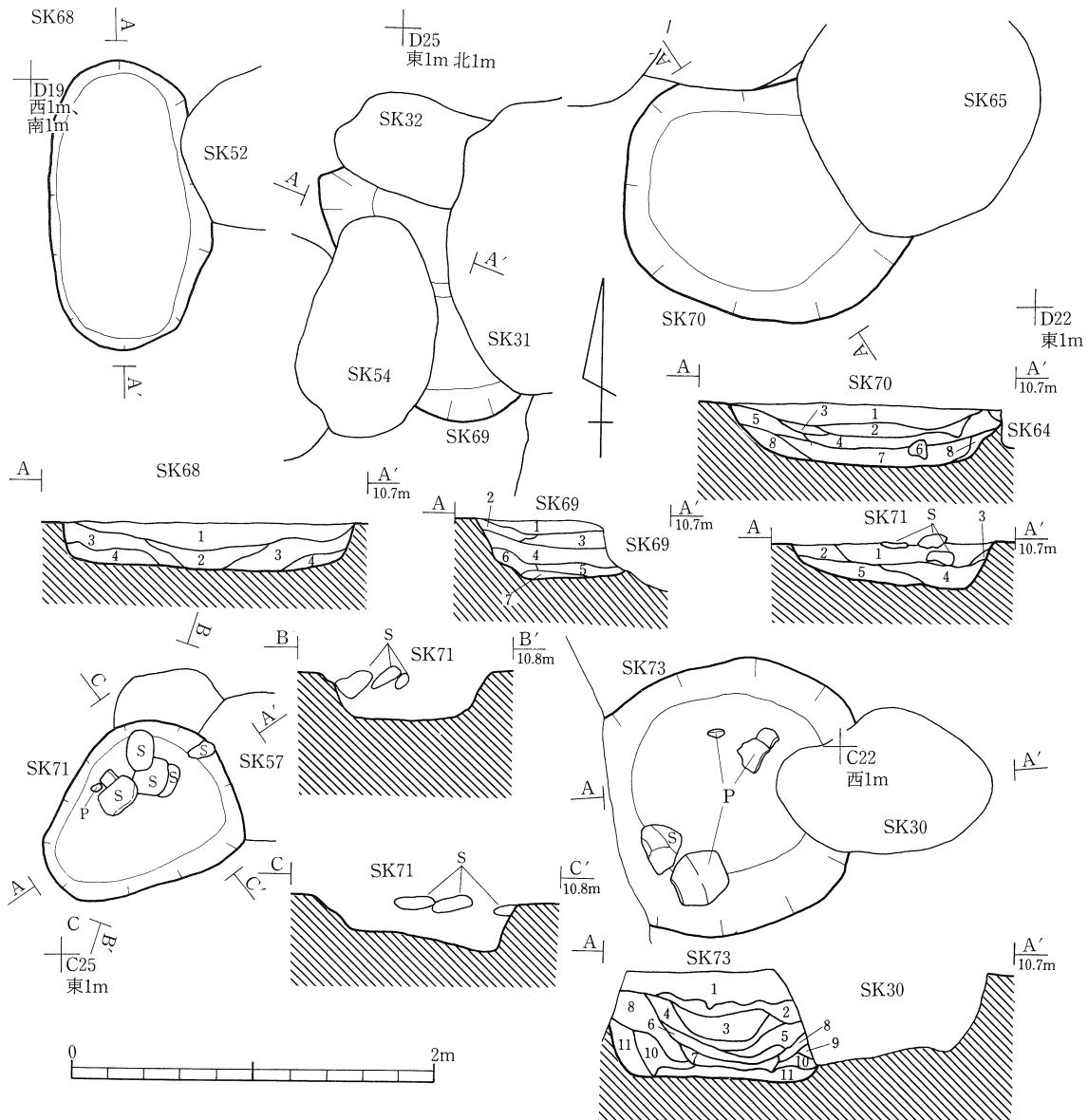
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK54	1	7. 5YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、小礫、砂粒を含む	Pit	4	10YR3/3暗褐色	シルト	少量の炭化物を含む
	2	7. 5YR3/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を含む		5	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物、焼土ブロックを含む
SK54	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、小石を含む		6	10YR4/3/ぶい黄褐色	シルト	炭化物、焼土ブロックを含む
Pit	2	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を多く含む	SK57	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	3	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を多く含む		2	10YR3/3暗オーブ褐色	シルト	炭化物を含む
	4	10YR4/6褐色	シルト	炭化物を含む		3	7. 5YR3/3暗褐色	シルト	多量の炭化物を含む
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を含む		4	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	
	6	10YR2/2暗褐色	シルト	少量の炭化物、細砂を含む	SK58	1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、細砂を含む
SK55	1	10YR2/3極暗褐色	シルト	炭化物、小礫を含む		2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、細砂を含む
	2	7. 5YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を含む		3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物、細砂を含む
SK56	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む		4	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物、細砂を含む
	2	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、砂粒、小礫を含む		5	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	炭化物、微砂を含む
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む		6	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	微砂を含む
SK56	1	10YR2/3黒褐色	シルト	粗砂を含む	SK59	1	7. 5YR2/2黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む		2	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	3	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	多量の炭化物、粗砂、小礫を含む		3	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	砂粒を含む

第138図 土 壤 (7)



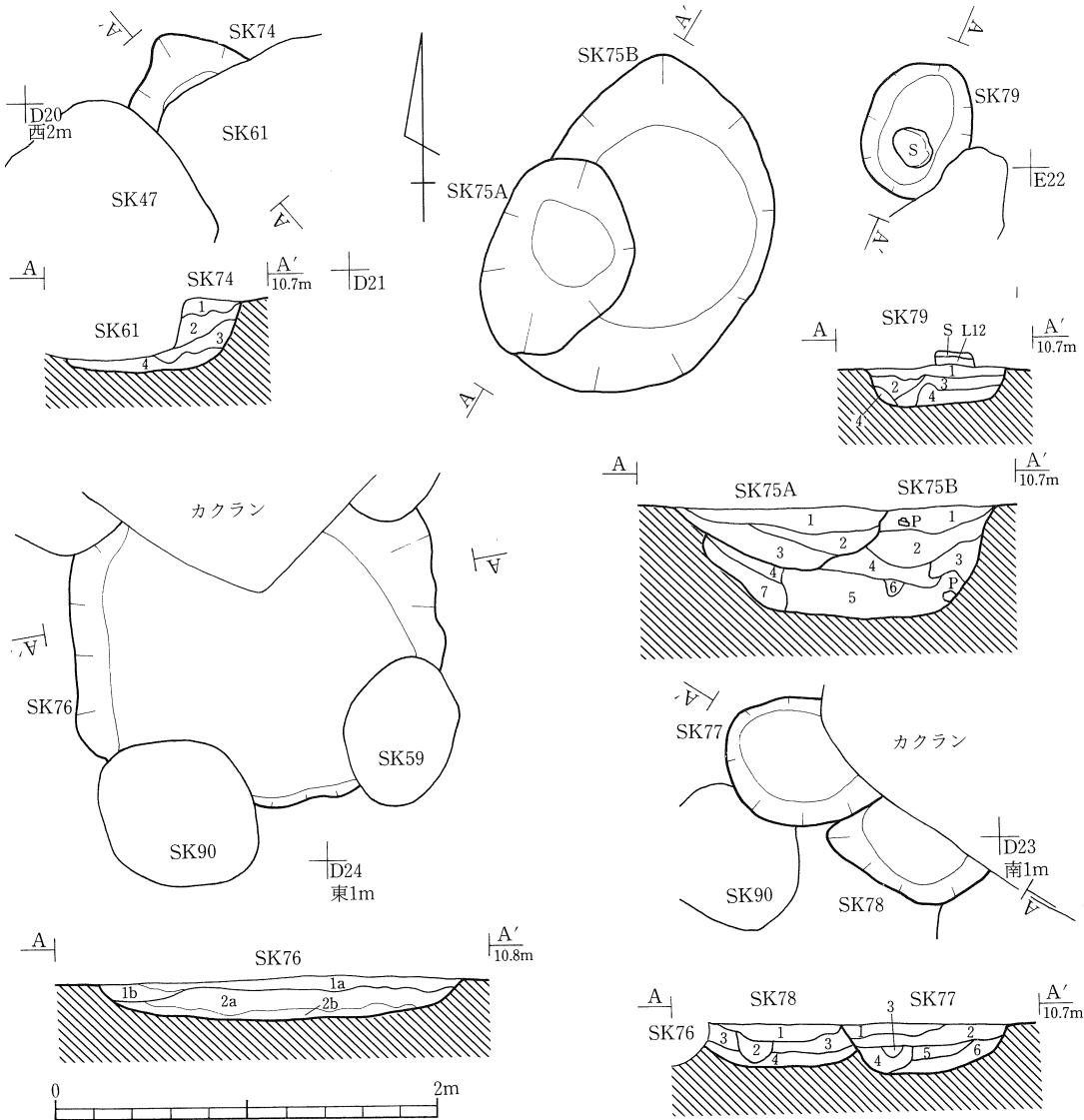
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK61	1	7. 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	少量の炭化物、砂粒を含む	SK65	2	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2	5 Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む		3	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む
	3	10Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を少量含む		4	5 Y3/2オリーブ黒色	砂質シルト	
	4	5GY3/1暗オリーブ灰色	シルト			1	7. 5YR3/1黒褐色	シルト	炭化物、小礫を含む
	5	2. 5GY3/1暗オリーブ灰色	粘土質シルト			2	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物、砂粒を含む
SK62	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、小礫を含む	SK66	3	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2	10YR3/3暗褐色	シルト			4	10YR3/2黒褐色	シルト	極めて多量の炭化物を含む
	3	7. 5YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む		5	5 Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	4	2. 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	砂粒を含む		6	2. 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物、砂粒を含む
SK63	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物、優灰岩の種子がまじる		7	2. 5Y4/1黄灰色	砂質シルト	炭化物を含む
	2	10YR3/2黒褐色	砂質シルト			8	5 Y4/1黄灰色	砂質シルト	炭化物を含む
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト			9	5 Y2/1黑色	砂質シルト	炭化物を弱的にブロック状に含む
SK64	1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む		10	7. 5Y4/1灰色	シルト質砂	
	2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、小礫を含む		11	10Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む
	3	5 Y3/1オリーブ黒色	シルト	炭化物を含む		1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物、粗砂を含む
	4	5 Y3/2黒褐色	粘土質シルト			2	2. 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物、粗砂を含む
	5	10Y3/1オリーブ黒色	シルト	炭化物を含む		3	2. 5Y3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
SK65	6	2. 5Y3/2黒褐色	粘土質	炭化物、砂粒を含む		4	5 Y4/2暗オリーブ色	砂質ルート	
	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、小礫を含む		5	2. 5Y4/2暗灰黄色	シルト	粗砂を含む

第139図 土 壤 (8)



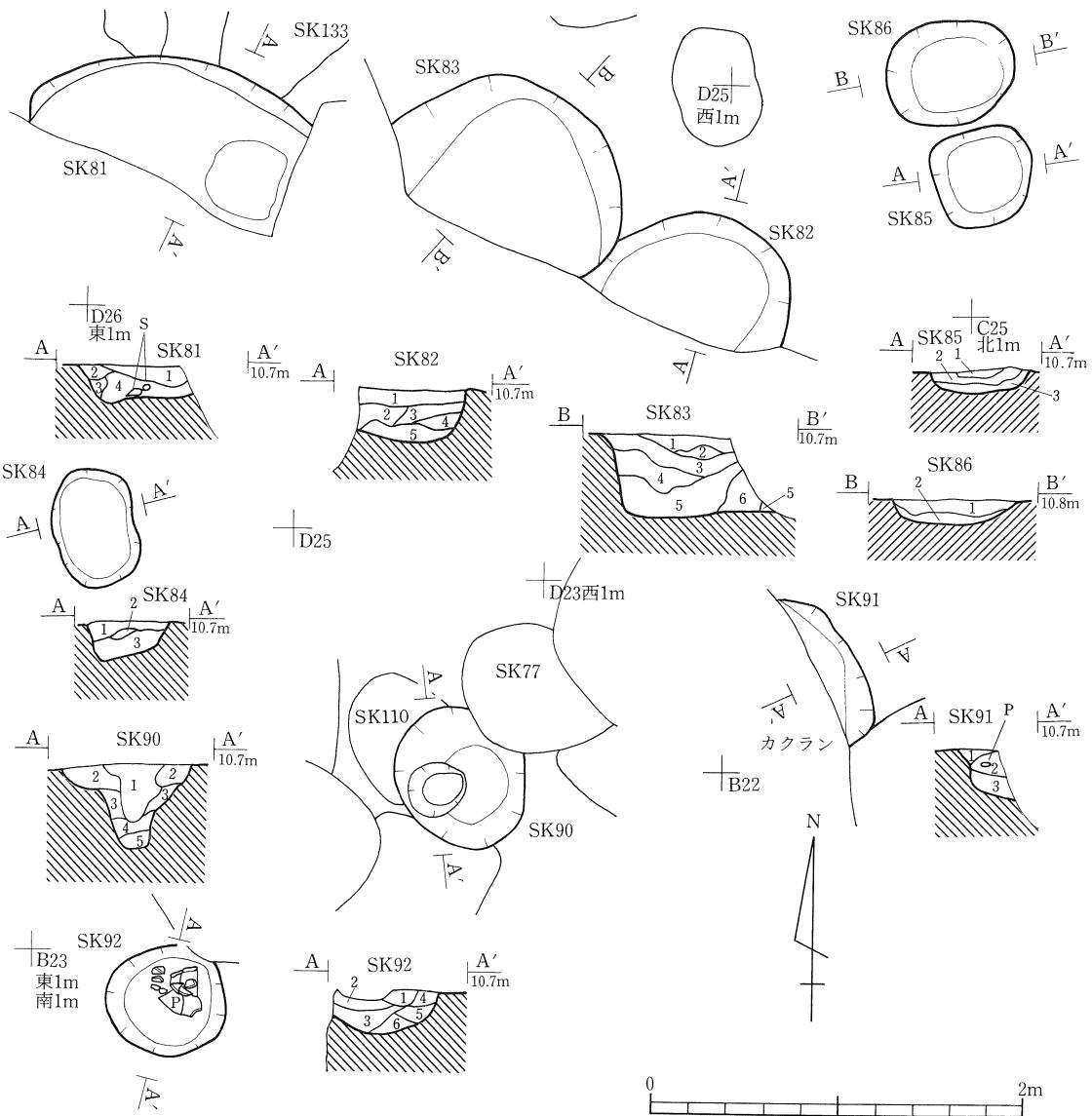
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK68	1	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む	SK71	3	10YR6/6明黄褐色	粘土質シルト	微砂を含む
	2	2, 5Y2/1黒色	シルト	炭化物を含む		4	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む
	3	2, 5Y3/1黒褐色	シルト			5	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	炭化物、細砂を含む
	4	5 Y3/1黒褐色	シルト			SK73	1	10YR2/2黒褐色	砂質シルト
<hr/>									
SK69	—	記述なし	—	—	SK73	2	10YR4/2灰黃褐色	シルト	炭化物を少量含む
	1	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、小礫を含む		3	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物、土器を含む
	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物を含む		4	10YR4/2灰黃褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。下層との境に炭化物が厚さ1cmで堆積する。
	3	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む		5	10YR2/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多く含む
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、小礫を含む		6	5 G5/1緑灰色	粘土質シルト	炭化物を含む
	5	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		7	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む、礫混入
	6	5 Y3/1黒褐色	シルト			8	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を少量含む
	7	2, 5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物、砂、小礫を含む		9	10YR3/3暗褐色	砂	炭化物を少量含む
	8	2, 5Y3/2黒褐色	シルト			10	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む
	11	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	炭化物、細砂を含む		11	5 Y4/1灰色	砂質シルト	

第140図 土 壤 (9)



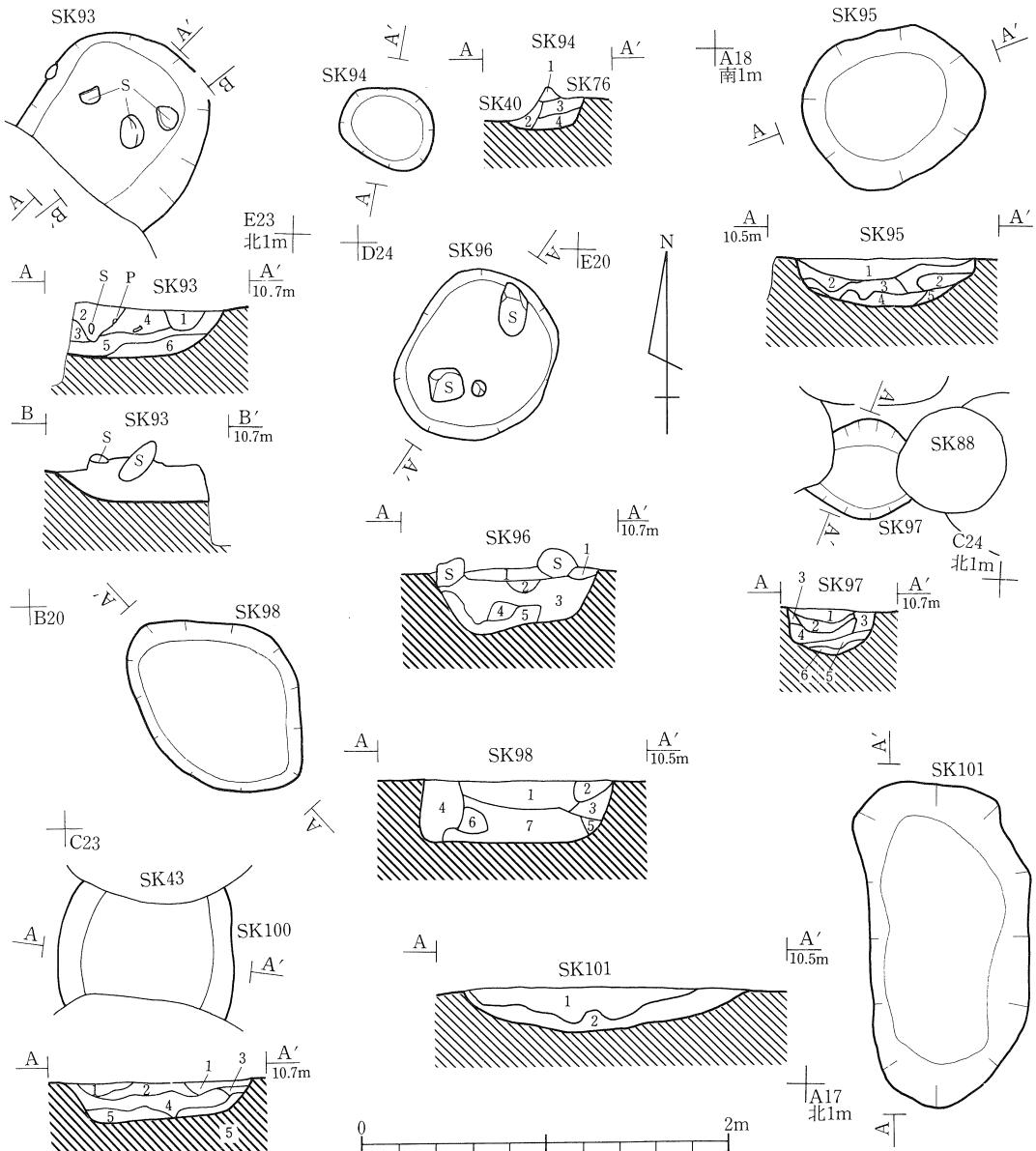
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK74	1	10YR3/1黒褐色	粘土質シルト	風化した礫を含む	SK76	2 a	7, 5YR3/2黒褐色	粘土	炭化物を少量含む
	2	7, 5YR2/2黒褐色	粘土質シルト			2 b	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト質粘土		SK77	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、砂粒を含む
	4	10YR5/2灰黄褐色	シルト質粘土			2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物粒を含む
SK75A	1	10YR3/2黒褐色	シルト	礫混在を多く含み炭化物を含む		3	10YR4/3にぶい黄褐色	粘土質シルト	
	2	2, 5Y3/2黒褐色	シルト	凝灰岩粒を含む		4	2, 5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	3	2, 5Y4/3オリーブ褐色	シルト			5	10YR4/4褐色	シルト	
	4	2, 5Y3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		6	7, 5YR4/4褐色	砂質シルト	
	5	5Y4/2灰オリーブ色	シルト質粘土	炭化物を含む	SK78	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物粒、小礫を含む
	6	7, 5Y5/2灰オリーブ色	シルト質粘土			2	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化物を含む
	7	7, 5GY4/1暗緑灰色	砂質シルト			3	7, 5YR3/3暗褐色	シルト	炭化物粒を含む
SK75B	1	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	礫混在を多く含み炭化物を含む		4	2, 5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	炭化物粒を含む
	2	10YR3/1黒褐色	シルト		SK79	1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を斑状に含む
	3	5Y3/1オリーブ黒色	シルト			2	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	礫をまばらに含む
SK76	1 a	10YR2/3黒褐色	シルト	風化した礫を多く含み炭化物を含む		3	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	礫をまばらに含む
	1 b	10YR3/2黒褐色	砂質シルト			4	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	

第141図 土 壤 (10)



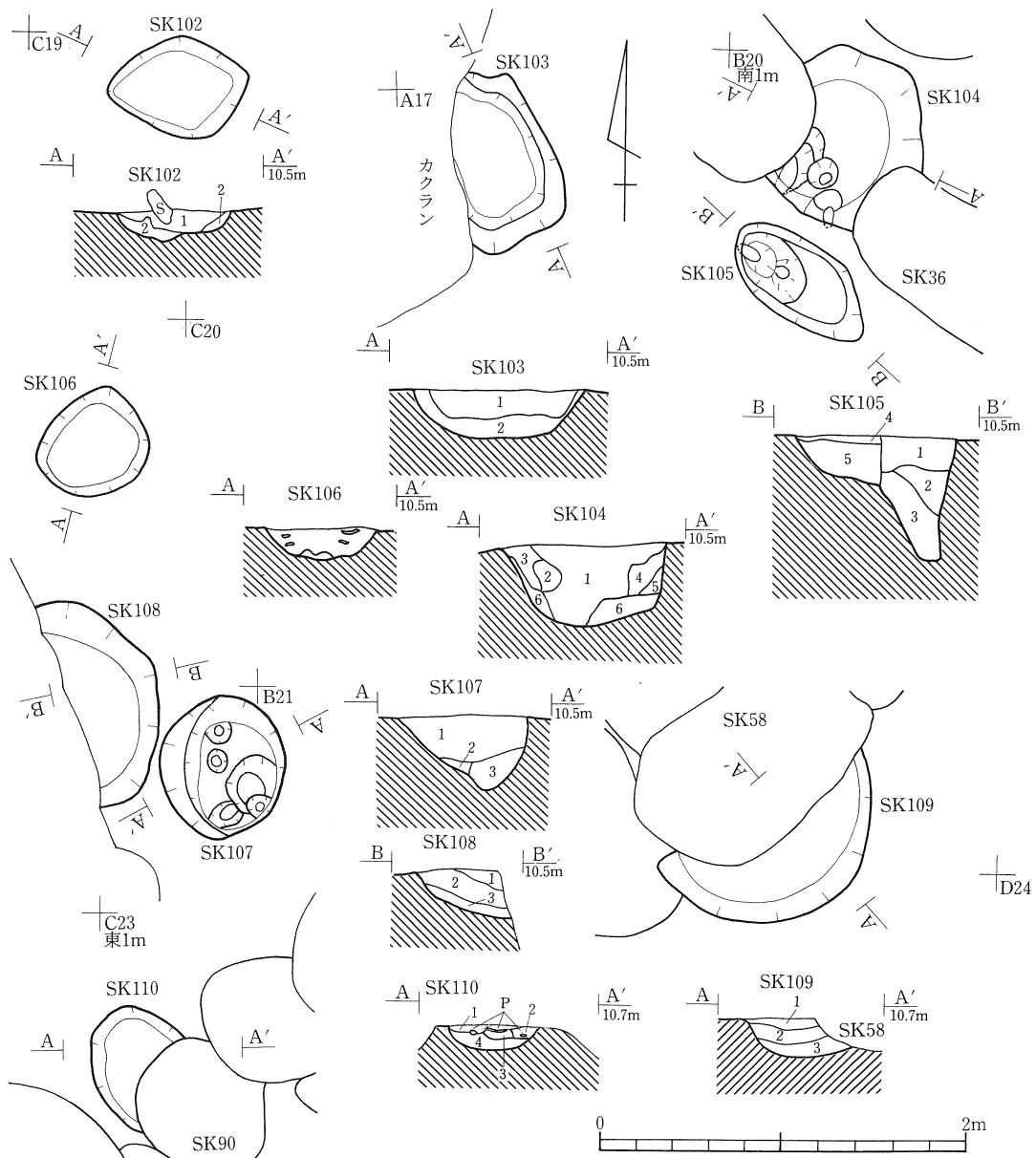
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK81	1	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を少量、小礫を含む	SK85	1	10YR2/2黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト			2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物、礫を含む
	3	7.5YR3/3暗褐色	シルト			3	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物を含む
	4	7.5YR3/1黒褐色	シルト	炭化物粒、砂粒を含む	SK86	1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む
SK82	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒を含む		2	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を含む
	2	2.5Y3/2黒褐色	砂質シルト		SK90	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物、細砂を含む
	3	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト			2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物、微砂を少量含む
	4	10YR3/1黒褐色	シルト	小礫を含む		3	10YR4/3にぶい黃褐色	シルト	炭化物、微砂を少量含む
	5	2.5Y3/3暗オリーブ褐色	シルト	小礫を含む		4	10YR3/3暗褐色	シルト	微砂を全体に含む
SK83	1	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物、小礫を含む		5	2.5YR4/1灰褐色	粘土質シルト	炭化物、粗砂を少量含む
	2	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト質砂	炭化物を含む	SK91	1	2.5Y3/2黒褐色	粘土質シルト	
	3	2.5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		2	2.5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含み、土塊片を含む
	4	2.5Y4/2暗灰黄色	シルト			3	2.5Y3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含み礫を含む
	5	2.5Y4/4オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物を含む	SK92	1	10YR3/2黒褐色	シルト	細砂を含む
SK84	1	10YR2/3黒褐色	シルト	多量の炭化物を含む		2	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物多量に含み、土塊片を含む
	2	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む		3	5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む
	3	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む		4	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物を少量含む
	6	2.5Y4/1灰黄色	シルト			5	2.5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物を少量含む

第142図 土 壤 (11)



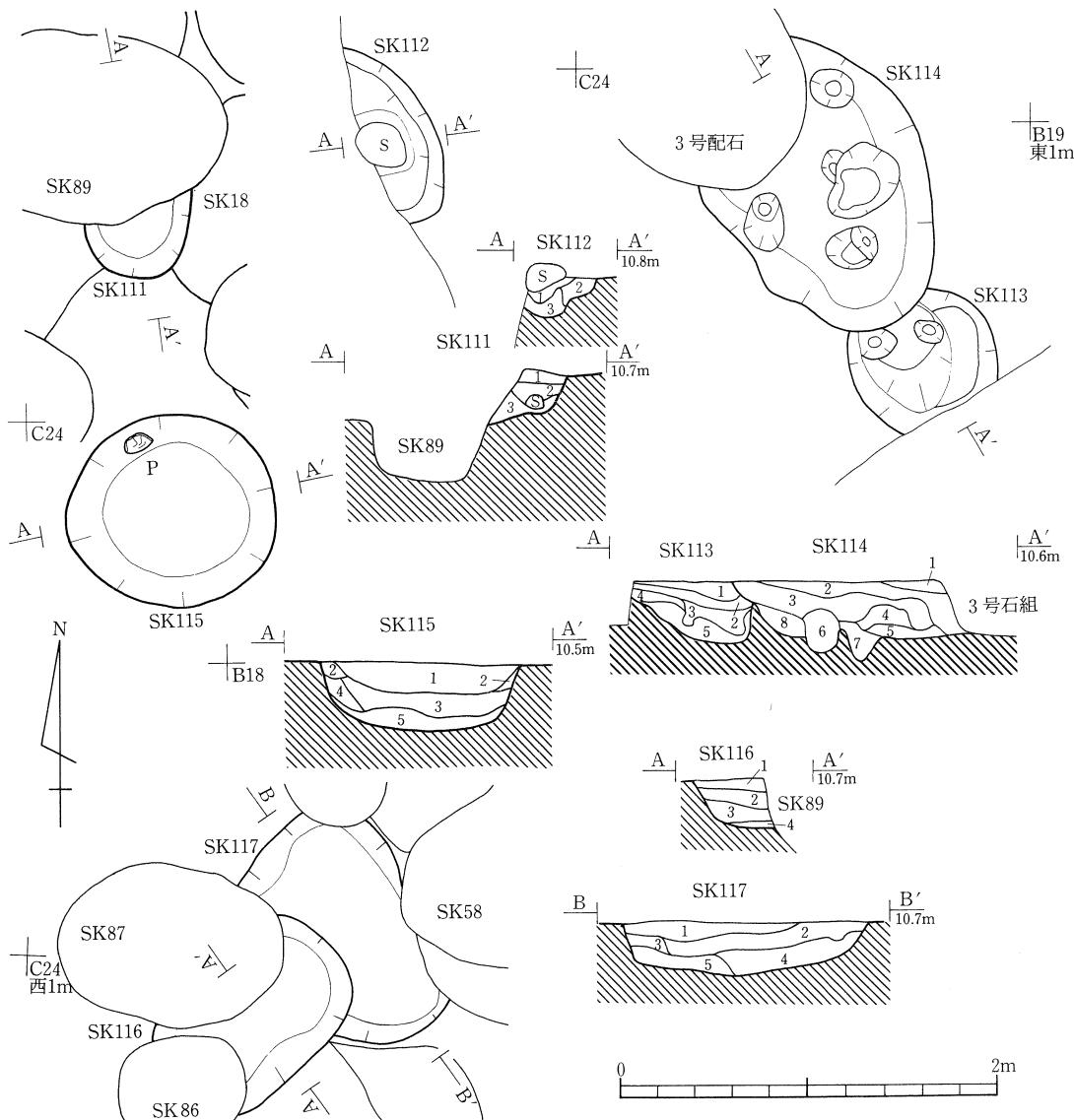
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK93	1	10YR3/2黑褐色	粘土質シルト	炭化物を含む	SK97	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物を含む
	2	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	鉻化物、小石、觀音鏡を含む		2	10YR4/2灰黃褐色	シルト	炭化物を少量含む
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	灰化物を含む		3	10YR4/2灰黃褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	4	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を含む		4	2, 5Y4/1灰灰色	粘土質シルト	炭化物、粗砂を少量含む
	5	2, 5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む		5	2, 5Y4/2灰灰色	シルト	炭化物を多量に含む
	6	5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む		6	5Y4/1灰灰色	シルト	
	7	5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む	SK98	1	黑色10YR2/1	粘土質シルト	炭を含む
SK94	1	7, 5YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒を含む		2	オリーブ黒色5Y3/2	シルト	
	2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含み砂粒を含む		3	オリーブ黒色5Y3/1	シルト	
	3	7, 5YR2/3極暗褐色	シルト	炭化物を含む		4	オリーブ黒色5Y3/1	シルト	灰オリーブ色を斑状に含む
	4	7, 5YR2/2黒褐色	粘土質シルト	鉻化物を多量に含み骨片を含む	SK100	1	暗褐色10YR3/3	シルト	オリーブ黒色を塊状に含む
SK95	1	5Y3/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む		2	黒褐色10YR3/2	シルト	黒褐色土を塊状に含む
	2	5Y3/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む		3	暗褐色10YR3/3	細砂	炭を少量含む
	3	5Y3/2オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を少量含む		4	にぶい黄褐色10YR4/3	シルト	炭砂を少量含む
	4	5Y4/1灰灰色	砂質シルト	炭を微量に含む		5	暗褐色10YR3/4	粘土質シルト	砂、炭を少量含む
	5	10Y4/1灰灰色	砂質シルト	炭を若干含む	SK101	1	10YR3/1黒褐色	粘土	炭化物、砂粒を少量含む
SK96	1	暗褐色10YR3/3	シルト	炭を少量含む		2	7, 5Y4/1灰灰色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
	2	黑褐色2, 5Y3/2	シルト	小礫を多量、炭を少量含む					
	3	オリーブ黒色7, 5Y3/1	粘土質シルト	炭を少量含む					
	4	オリーブ黒色10Y3/2	粘土質シルト	炭を微量に含む					
	5	灰色10Y4/1	シルト質粘土	炭を若干含む					

第143図 土 壤 (12)



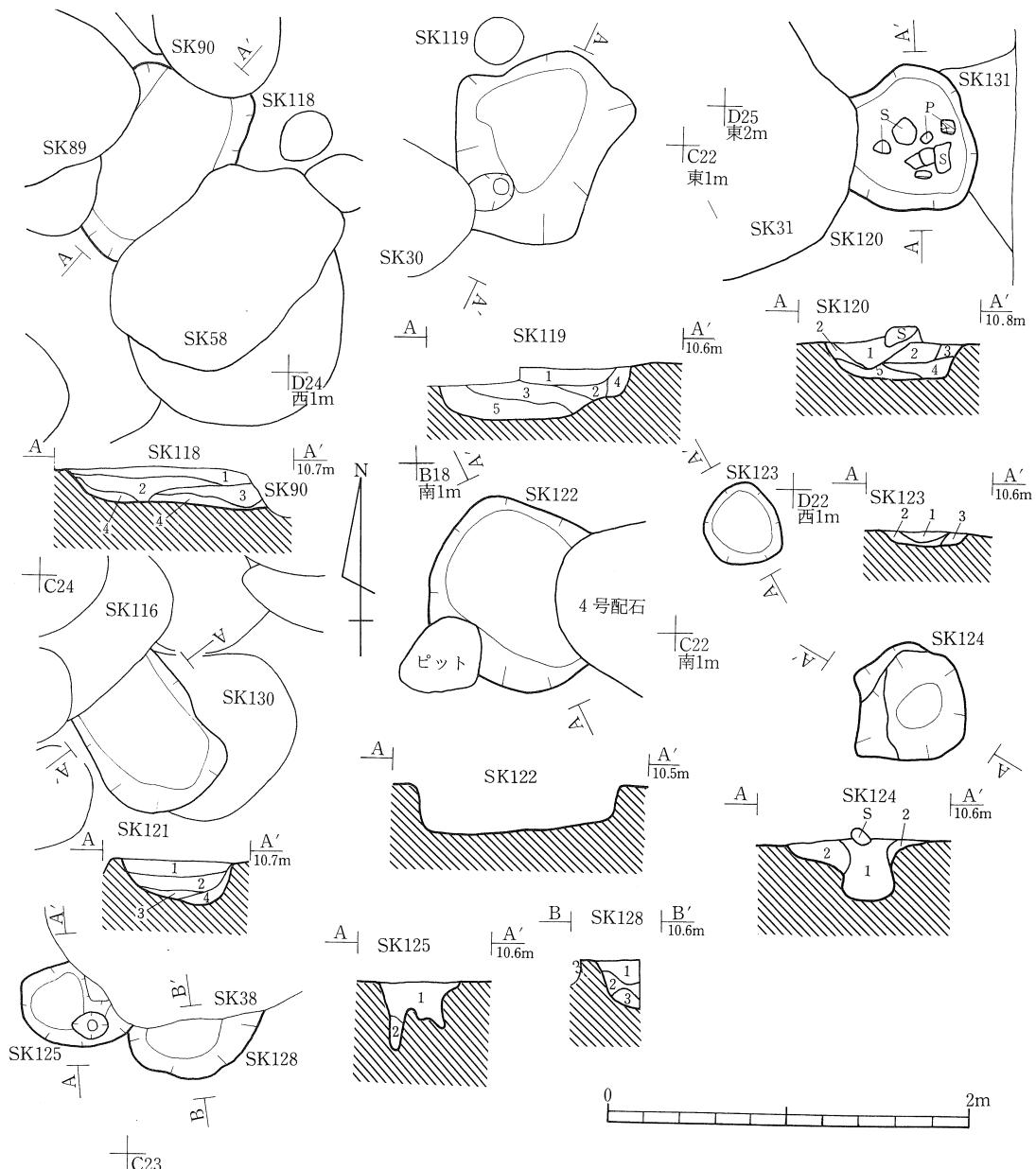
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK102	1	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を含む	SK106	1	2, 5Y4/1黒褐色	シルト	炭化物を含む
	2	7, 5Y4/2灰オリーブ色	シルト			2	5GY5/1オリーブ灰	シルト	ℓ 1を斑状に含む
SK103	1	10Y4/2灰黃褐色	粘土	炭化物、少量の砂粒を含む	SK107	1	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	土器片を含む
	2	2, 5Y4/1灰黄色	シルト質粘土	炭化物をまばらに含む		2	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	土器片を含む
SK104	1	5Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む		3	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
	2	2, 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト		SK108	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	3	2, 5Y4/2暗灰黄色	シルト			2	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト	
	4	2, 5Y3/2黒褐色	砂質シルト			3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
	5	5Y3/2オリーブ黒色	シルト		SK109	1	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	土器片を含む
	6	5Y3/2オリーブ黒色	シルト			2	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	土器片を含む
SK105	1	2, 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む		3	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
	2	10Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	炭化物を含む	SK110	1	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	土器片、小礫を含む
	3	5Y3/1オリーブ黒色	シルト	炭化物を含む		2	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	
	4	2, 5Y3/2黒褐色	シルト			3	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む
						4	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	

第144図 土 壤 (13)



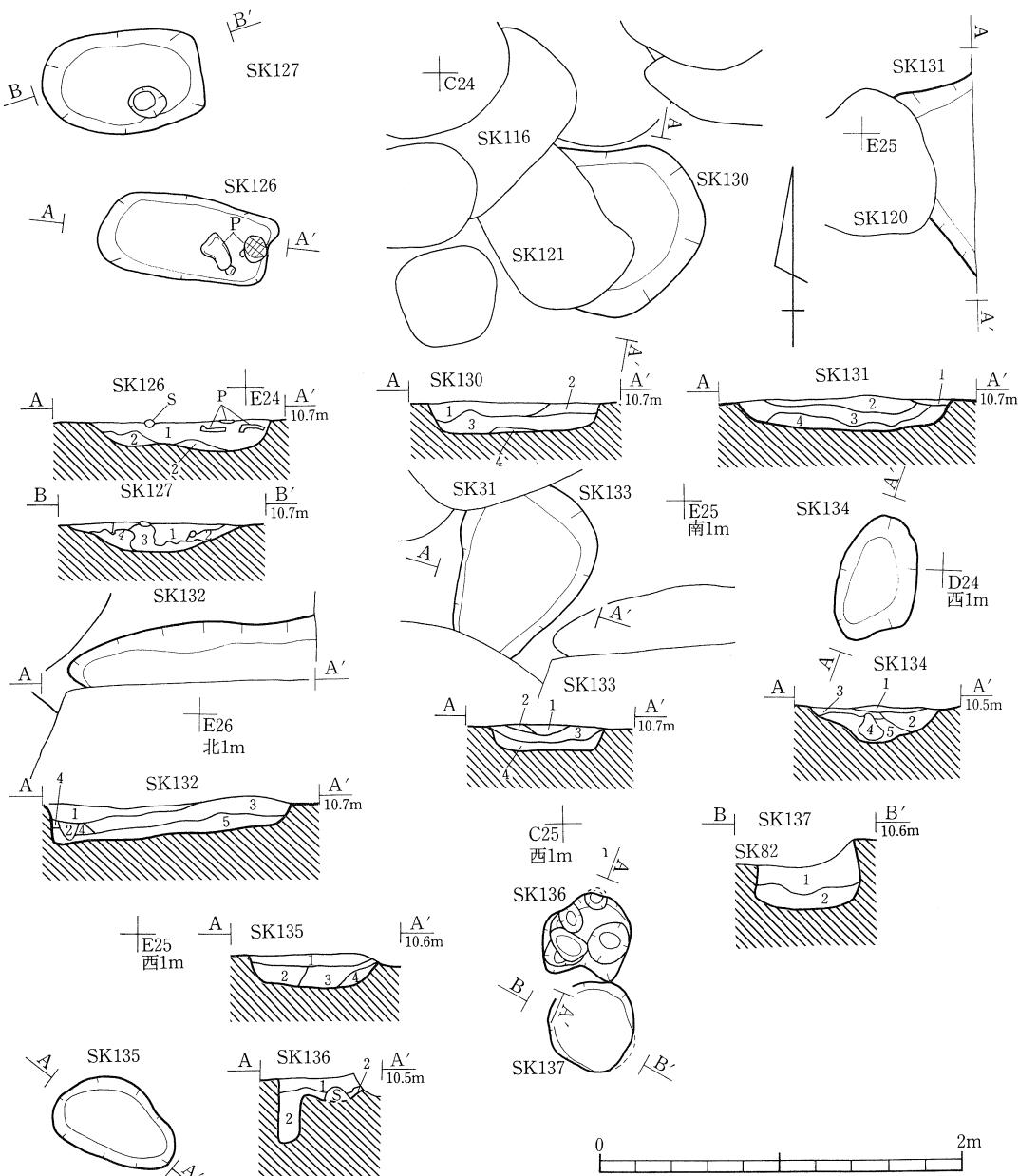
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK111	1	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	小石を少量含む	SK114	6	10Y3/1オリーブ黒色	粘土質シルト	
	2	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土			7	10Y3/1オリーブ黒色	砂質シルト	
	3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト			8	10Y3/1オリーブ黒色	砂質シルト	
SK112	1	7, 5YR2/1黒色	砂質シルト	炭化物粒を多量に含む	SK115	1	2, 5Y3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む
	2	2, 5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物粒を少量含む		2	2, 5Y2/1黒色	シルト質粘土	遺物を含む
	3	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を少量含む		3	10Y3/1オリーブ黒色	シルト質粘土	炭化物を多く含む
SK113	1	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む		4	7, 5Y2/1黒色	粘土質シルト	遺物を含む
	2	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を少量含む		5	7, 5Y3/1黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含む
	3	2, 5Y3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む		6	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を多量に含み小礫を含む
SK114	1	2, 5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物、凝灰岩粒を多く含む		7	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
	2	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物、凝灰岩粒を多く含む		8	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
	3	2, 5Y2/1黒色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む		9	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を少量含む
SK115	1	2, 5Y3/1黒褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む		10	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	焼土粒を少量含む
	2	10.5m							
SK116	1	10.7m			SK117	1	10.7m		
	2					2			
	3					3			
SK117	1					4			
	2					5			
	3								

第145図 土 壤 (14)



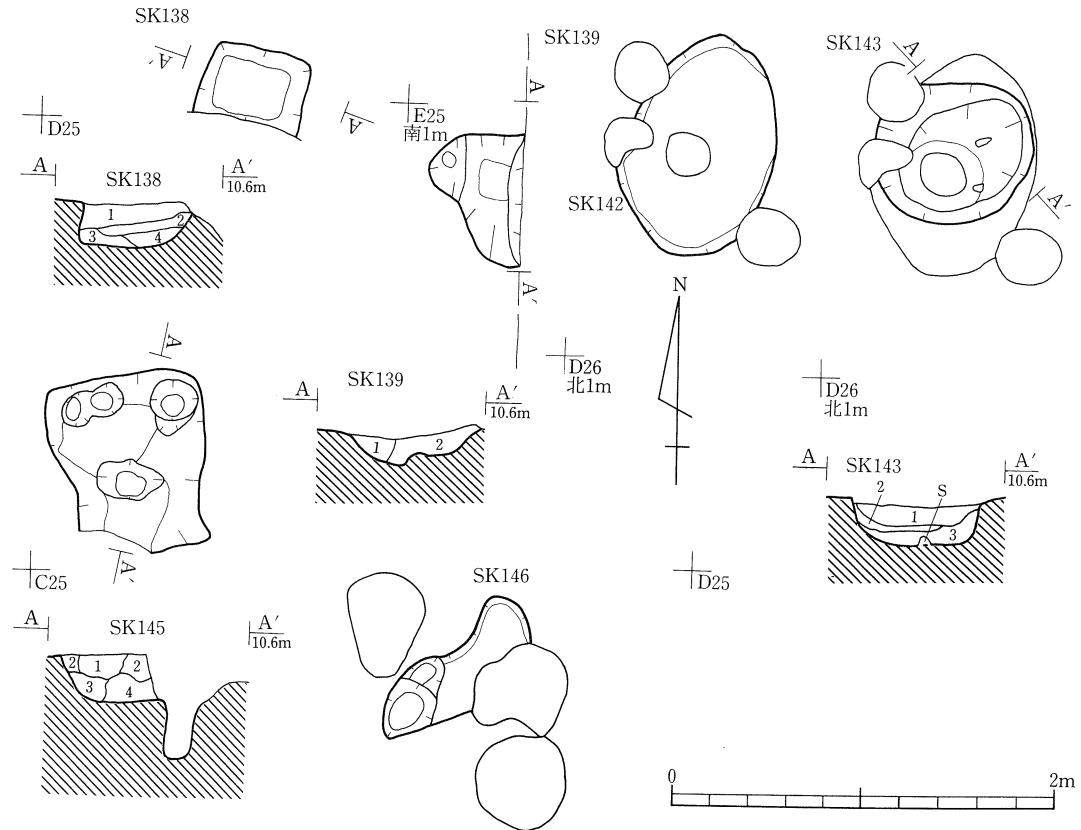
遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK118	1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	小礫を含む	SK121	1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	土器片を含む
	2	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土			2	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	
	3	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土			3	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	
	4	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土			4	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	
SK119	1	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含み凝灰岩粒を含む	SK123	1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2, 3	5Y3/1黒褐色	シルト質粘土			2, 2	5Y3/2黒褐色	シルト	
	4, 5	5Y3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む		3	2, 5Y4/2暗黃灰色	シルト	
	5	2, 5Y3/1黒褐色	シルト	凝灰岩粒を含む	SK124	1	10YR3/2黒褐色	シルト	凝灰岩粒を含む
SK120	1	10YR3/3暗褐色	粘土質シルト			2	10YR4/2暗黃褐色	シルト	
	2	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土		SK125	1	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	凝灰岩粒を含む
	3	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土			2	2, 5Y4/2暗黃褐色	シルト	
	4	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土		SK128	1	10YR4/2暗黃褐色	シルト	炭化物を含む
	5	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土			2	2, 5Y3/2黒褐色	シルト	
						3	2, 5Y3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む

第146図 土 壤 (15)



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK126	1	5 YR2/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物、小礫、土器を含む	SK132	5	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	
	2	7. 5YR3/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む	SK133	1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土を含む
SK127	1	5 YR2/1黒褐色	粘土質シルト	炭化物、小礫、土器を含む		2	10YR3/4暗赤褐色	粘土質シルト	炭化物を含む
	2	5 YR3/2暗赤褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む		3	10YR3/4暗褐色	シルト質粘土	炭化物を含む
	3	7. 5YR3/2黒褐色	粘土質シルト			4	10YR3/4褐色	シルト質粘土	焼土を少量含む
	4	7. 5YR3/2黒褐色	粘土質シルト		SK134	1	2. 5Y3/1黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
SK130	1	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	小礫を含む		2	2. 5Y3/2黒褐色	シルト	
	2	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む		3	10YR3/4暗褐色	シルト	
	3	10YR3/4暗褐色	粘土シルト			4	10YR2/3黒褐色	シルト	炭化物、石を含む
	4	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト			5	10YR4/4褐色	シルト	
SK131	1	10YR2/2黒褐色	シルト質粘土		SK135	1	10YR3/3暗褐色	シルト	
	2	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含む		2	10YR3/4暗褐色	シルト	
	3	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土			3	10YR4/4褐色	シルト	
	4	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含む		4	10YR4/3くろい黄褐色	砂質シルト	
SK132	1	10YR3/2黒褐色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む	SK136	1	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物を多量に含む
	2	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土			2	2. 5Y4/4オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物を含む
	3	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土		SK137	1	10YR5/4くろい黄褐色	シルト	炭化物を含む
	4	10YR2/3黒褐色	シルト質粘土	炭化物を含む		2	2. 5Y4/3オリーブ褐色	シルト	炭化物を部分的に層状に含む

第147図 土 壤 (16)



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
SK138	1	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土	炭化物を少量、小礫を多量に含む	SK143	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物を含む
	2	10YR4/4褐色	シルト質粘土	炭化物を多量に含む		3	10YR3/3暗褐色	シルト	
	3	10YR3/3暗褐色	シルト質粘土		SK145	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物を含む
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト質粘土			2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	
SK139	—	記なし	—	—		3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物を含む
SK143	1	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒を含む		4	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	

第148図 土 壤 (17)

SK No.	図版 No.	面	地 区	平面形(上)	平面形(底)	規模(cm)	深さ cm	主軸方向	出 土 遺 物	図 示 遺 物	備 考	写真図版
8	131	9	B 17	不整縦円形	円 形	120×106	33	N-0°-W				
11	132	AB13	不整長縦円形	不整長縦円形	208×33	195×78	14	N-76°-W				
12	132	14	A 14	不整縦円形	不整縦円形	89×74	75×62	10	N-60°-E	土器片		
13	132	14	C 14	精 圓形	精 圓形	95×80	85×56	14	N-32°-W	土器片、石核1		
15	132	14	D 18	円 形	円 形	84×76	63×51	23		土器片、石核1		
16	132	14	D 18	長 精 圓形	長 精 圓形	91×45	74×29	12	N-10°-E	土器片、不定形1、縫口器2		
17	132	14	D 17	不整長縦円形	不整長縦円形	140×60	123×42	13	N-15°-W			
18	132	14	E 17	不整縦円形	不整縦円形	116×90	60×37	58	N-55°-W	土器片、石核1、不定形2、 2次加工1、縫口器、両極1	149図・159図・160図	
19	132	14	D 17	不整縦円形	不整縦円形	89×76	70×59	30	N-40°-W			159図
20	133	14	C 18	不整長縦円形	不整長縦円形	92×53	80×40	10	N-80°-E	土器片		
21	133	14	C 17	不整縦円形	不整縦円形	68×48	53×33	15	N-73°-E	土器片、両極1		
22	133	14	C 17	不整長縦円形	不整長縦円形	98×35	82×27	10	N-17°-E	土器片		
23	133	14	C 16	精 圓形	精 圓形	73×52	60×38	14	N-0°-W			
24	133	13	A 19	円 形	円 形	124×118	95×87	70		土器1、土器片、石核7、石核3、鉄工具1		
25	133	13	A 20	精 圓形	精 圓形	78×67	51×50	22	N-70°-W	土器片、不定形1、剝片2	149図	SK44を切る
26	133	13	AB20	精 圓形	精 圓形	122×84	110×70	13	N-55°-W	石斧1、石核2、不定形1 2次加工4	161図・166図	SK104を切る
27A	133	13	B 20	精 圓形	精 圓形	119×110	115×88	48	N-8°-W			SK27Bを切る
27B	133	13	B20・21	精 圓形	精 圓形	(80)×85	(50)×60	43	N-53°-W	土器片、石核1、石核2、剝片2、縫口器1	150図・159図	SK27Aに切られる
28	134	13	B 21	不整縦円形	不整縦円形	68×64	10×10	20	N-68°-W	土器片、2次加工1、縫口器1	130図	SK29を切る
29	134	13	B 21	不整縦円形	不整縦円形	115×(75)	102×(70)	16	N-67°-W	土器片、2次加工1、石核1	161図・166図	SK28に切られSK62を切る
30	134	13	B21・22	不整縦円形	不整縦円形	120×83	(81)×55	50	N-89°-W	土器片、不定形2、両極1、石核1	159図	SK73、119を切る
31	134	13	D24・25	不整円形	不整円形	160×150	100×96	49	N-20°-W	土器片、2次加工2、剝片1	150図・159図・167図	SK32・33・69・120を切る
32	134	13	D 24	精 圓形	精 圓形	(80)×58	(76)×50	18	N-75°-W	土器片		SK31に切られSK69を切る
33	134	13	C 25	円 形	円 形	74×69	60×51	19				SK56を切る
34	134	13	CD24	長 精 圓形	長 精 圓形	180×96	163×78	20	N-55°-W	土器片、2次加工2、縫口器1	159図・168図	SK57を切る
35	135	13	C 21	円 形	円 形	125×117	95×92	48				SK51とSK64を切る
36	135	13	B 20	不整長縦円形	不整長縦円形	130×65	112×48	12	N-55°-W	土器片、不定形2・2次加工3	151図・161図	SK104を切る
37	135	13	C21・22	精 圓形	精 圓形	84×65	(35)×(25)	56	N-30°-W	土器片	159図	
38	135	13	BC22	精 圓形	精 圓形	165×134	120×105	57	N-87°-W	土器1、土器片、石核3、不定形3	151図・159図・161図	
39	136	13	B 22	精 圓形	精 圓形	(130)×112	(82)×90	31	N-8°-E	土器片、石核1、2次加工2、縫口器2	152図・161図・168図	SK41に切られざ
40	135	13	D 23	円 形	円 形	85×84	60×60	29				SK76を切る
41	136	13	B22・23	精 圓形	精 圓形	125×不明	(105)×不明	50	N-82°-W	土器片、石核1、石核2、 不定形1、2次加工2	152図・161図	SK92を切る
42	136	13	B22・23	不明	不明	(62)×125	(60)×103	52				SK100を切る
43	136	13	C22・23	不整縦円形	不整縦円形	119×90	82×60	45	N-86°-W	土器片、不定形1、土製工飾2	158図・162図	
44	136	13	A 20	精 圓形	精 圓形	115×(80)	90×(68)	45	N-28°-W	土器片		SK25に切られざ

第7表 土壌計測表1

第8表 土壌計測表(2)

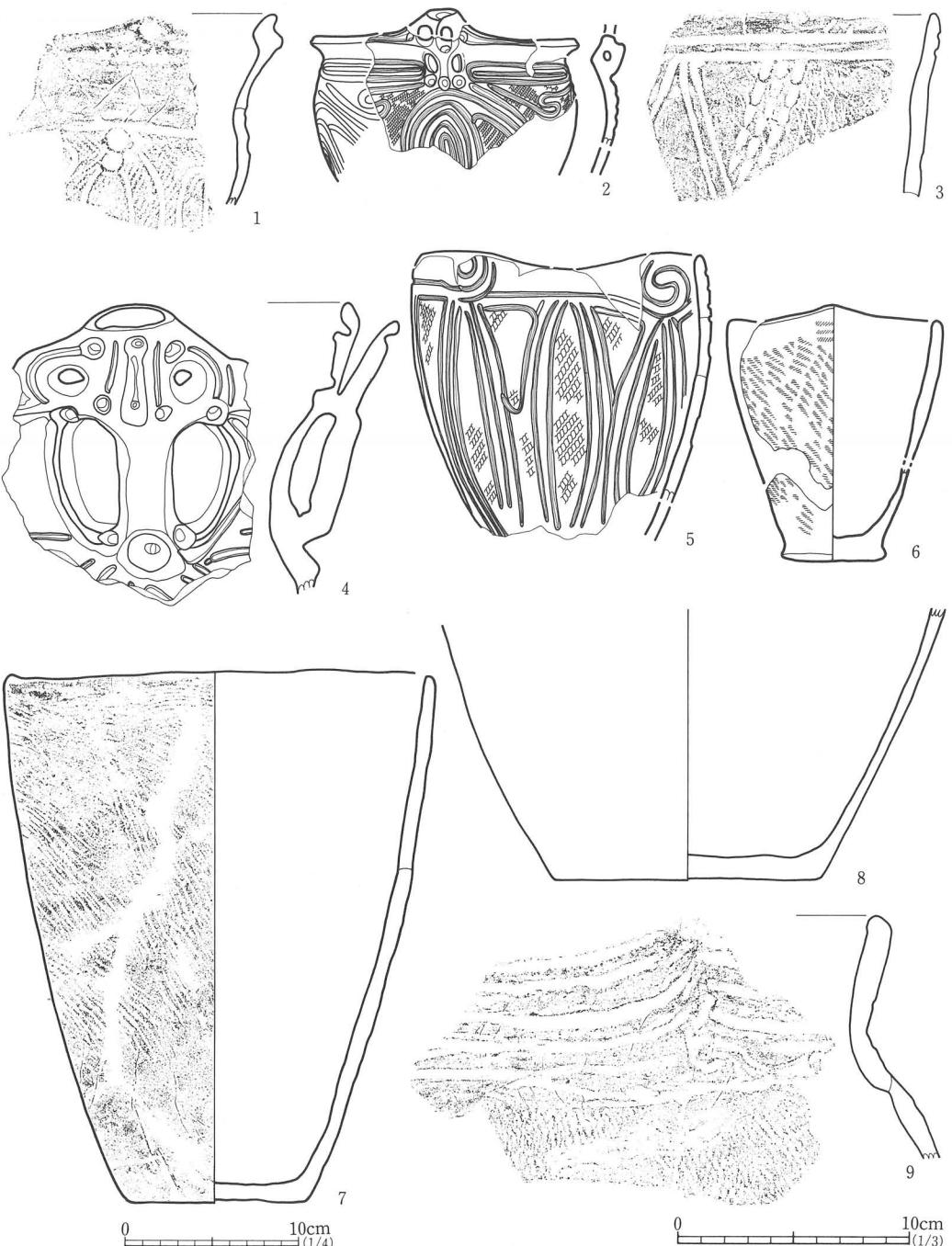
SK 図版 No.	面 識認 地 区	平面形(上)	平面形(底)	規模(上)cm	規模(底)cm	深さ cm	主軸方向	出 土 遺 物	図 示 遺 物	備 考	写真図版
45	136 13	C 20	梢 円 形 棒 円 形	125×100	98×72	40	N-64°-W	土器片、不定形1、2次加工1	159図		
46	137 13	BC19	不整長楕円形 不整長楕円形	155×88	135×75	40	N-25°-W	土器片、不定形1、2次加工3、礫石器3	162図		
47	137 13	C 20	不整梢円形 不整梢円形	151×130	120×100	18	N-2°-W	土器片、石錐1、石錐1、不定形3、礫石器2	152図・168図	SK48・49・61・74を切る	SK47に切られる
48	137 13	C 20	長 楕円形 長 楕円形	(115)×70	(95)×56	12	N-61°-E	土器片		SK47に切られる	SK47に切られる
49	137 13	AB15・16	梢 円 形 梢 円 形 不整梢円形 不整梢円形	145×116	(45)×55	20	N-38°-E	土器片、石錐1、不定形1、2次加工2	152図・159図・162図		
51	137 13	C 21	不 明 不 明	90×(34)	60×(20)	20	N-10°-E	土器片、石錐1、剥片1、礫石器1	162図・168図	SK35に切られる	SK35に切られる
52	137 13	D 19	梢 円 形 梢 円 形	98×90	85×78	32	N-38°-E	土器片、礫石器1	168図	SK69を切る	
53	137 13	D 22	梢 円 形 梢 円 形	84×60	60×39	28	N-12°-E	土器片1、土器片	153図		
54	138 13	D 25	長 楕円形 長 楕円形	125×75	106×50	17	N-8°-E	土器片	152図・159図	SK55・69を切る	SK55に切られる
55	138 13	D 25	梢 円 形 梢 円 形 不整梢円形 不整梢円形	129×(88)	98×(62)	18	N-20°-W	土器片、土器片、石錐2	162図	SK35に切られる	SK35に切られる
56	138 13	C 24	不整梢円形 不整梢円形	103×95	90×80	20	N-54°-E	土器片、尖頭器1	162図	SK34・71に切られる	SK34・71に切られる
57	138 13	C 24	円 形 円 形	85×不明	62×不明	25	N-54°-E	土器片、不定形2、礫石器2	162図・169図	SK109・117・118を切る	SK109・117・118を切る
58	138 13	C 23	不整梢円形 長 楕円形	140×94	100×51	20	N-15°-E	土器片、2次加工1、剥片2、礫石器1	152図	SK76を切る。	SK76を切る。
59	138 13	D 23	梢 円 形 梢 円 形	80×59	72×40	22	N-38°-E	底石	153図・163図・169図	SK47に切られSK74を切る	SK47に切られSK74を切る
61	139 13	C 20	不整梢円形 不整梢円形	(180)×130	140×108	30	N-40°-W	土器片、土器片、石錐1、不定形1、2次加工1	153図・163図・169図	SK29に切られる	SK29に切られる
62	139 13	C 21	長 楕円形 長 楕円形	150×80	110×52	28	N-40°-W	土器片、2次加工1	153図	SK76を切る。	SK76を切る。
63	139 13	D 23	不 明 不 明	72×(28)	55×(18)	18	N-54°-E	土器片、不定形2、礫石器1	159図・163図	SK35・65に切られSK70を切る	SK35・65に切られSK70を切る
64	139 13	-C 21	梢 円 形 梢 円 形	(94)×88	(80)×76	33	N-86°-W	土器片、尖頭器1、2次加工2	153図・163図	SK67を切る。	SK67を切る。
65	139 13	D 21	梢 円 形 円 形	148×135	118×110	39	N-16°-E	土器片、不定形2、2次加工3	153図・163図	SK64・70を切る	SK64・70を切る
66	139 13	B 20	端 円 形 楕 円 形	105×88	85×70	48	N-50°-E	土器片、不定形3、2次加工1、剥片1	153図・163図	SK66に切られる	SK66に切られる
67	139 13	AB21	不整梢円形 不整梢円形	(120)×(118)	(115)×(102)	20	N-0°-W	土器片、輪輪1、2次加工4	153図・163図	SK55に切られる	SK55に切られる
68	140 13	C 19	長 楕円形 長 楕円形	160×90	147×75	27	N-0°-W	土器片、2次加工1、礫石器1	170図	SK31・32・54に切られる	SK31・32・54に切られる
69	140 13	D24・25	不 明 不 明	不明	不明	33	N-72°-W	土器片、石錐1、剥片2、礫石器1	163図・169図	SK64・65に切られる	SK64・65に切られる
70	140 13	C 21	不整梢円形 不整梢円形	165×135	120×103	36	N-72°-W	土器片1、石錐1、剥片2、礫石器1	154図・163図・170図	SK57を切る。	SK57を切る。
71	140 13	C 24	不整梢円形 不整梢円形	115×95	100×73	26	N-55°-E	土器片、不定形1、石核1、石錐1、礫石器1	163図・168図	SK30に切られる	SK30に切られる
73	140 13	B 22	円 形 円 形	150×(150)	110×100	60	N-35°-E	土器片1、石錐1、剥片4、剥片1、不定形2	164図	SK47・61に切られる	SK47・61に切られる
74	141 13	C 19	不 明 不 明	不明	不明	38	N-30°-E	土器片、石錐1、石錐1、石錐1、石錐1	164図		
75A	141 13	BD20・21	不整梢円形 不整梢円形	110×75	45×40	35	N-35°-E	土器片、石錐1、石錐1、石錐1、石錐1	164図		
75B	141 13	BD20・21	不整梢円形 円 形	180×130	110×95	60	N-35°-E	土器片	154図	SK40・59・63・77に切られる	SK40・59・63・77に切られる
76	141 13	D 23	不整梢円形 不整梢円形	195×160	160×(135)	20					
77	141 13	C 23	不整梢円形 不整梢円形	(60)×72	(50)×55	26					
78	141 13	C 23	不整梢円形 不整梢円形	(50)×70	(30)×(55)	22					
79	141 13	D21・22	梢 円 形 梢 円 形	75×58	62×32	20	N-22°-E	土器片、石斧1	166図	SK77・90を切る	SK77・90を切る
81	142 13	D 25	不 明 不 明	不明	不明	21					
82	142 13	C 25	不 明 不 明	(75)×108	(65)×80	30					
83	142 13	C 25	不 明 不 明	(90)×138	(80)×(107)	45					
											SK82を切る

SK 図版 No.	面 No.	地 区	平面形(上)	平面形(底)	規模(上)cm	規模(底)cm	深さ cm	主軸方向	出 土 遺 物	図 示 遺 物	備 考	写真図版	
84	142	13	C24・25 縘円形	縘円形 不整円形	63×45	55×36	22	N-13°-W	土器片				
85	142	13	B・C24	縘円形	56×54	40×40	15		土器片				
86	142	13	B・C24	縘円形	70×58	48×40	14	N-78°-E	土器片				
90	142	13	C23	縘円形	80×70	40×40	21	N-35°-W	土器片、不定形2	155図・164図	SK78に切られSK110・118を切る		
91	142	13	B21	不 明	不明	不明	(28)	土器片、次加工1	155図				
92	142	13	B23	縘円形	68×62	48×47	25	土器片、石器片、不定形1	155図・156図	SK41・42に切られSK97を切る			
93	143	13	D22	縘円形	(90)×100	(78)×70	30	N-30°-E	土器片、石器片、2次加工1	155図・164図			
94	143	13	D23	縘円形	52×43	40×33	25	N-70°-W	土器片、鐵石器1				
95	143	14	A18	縘円形	99×84	70×55	28	N-66°-E	土器片				
96	143	13	D20	縘円形	98×81	85×70	37	N-36°-E	土器片				
97	143	13	B23	縘円形	(60)×56	(50)×35	26	土器片、石器1	164図	SK88・SK92に切られる			
98	143	13	B20	不整縘円形	120×85	100×70	36	N-45°-W	土器片、剝片1		SK48、89に切られる		
100	143	13	C23	不 明	不明	不明	23	土器片					
101	143	14	A16	不整長縫円形	180×94	137×70	24	N-6°-W	土器片				
102	144	14	C19	不整縫円形	79×58	68×45	18	N-88°-E	土器片				
103	144	14	A17	不整縫円形	(100)×53	(70)×40	28	N-22°-W	土器片				
104	144	13	B20	不整縫円形	95×100	70×60	50	鐵石器			SK26・36に切られる		
105	144	13	B20	長縫円形	89×43	70×36	32	N-52°-W	土器片				
106	144	13	B20	不整円形	62×55	50×40	17	土器片					
107	144	13	A21	不整円形	80×70	60×45	44	土器片					
108	144	13	A20・21	不整円形	119×50	90×(40)	(28)	土器片、石器片、不定形1	164図				
109	144	13	C23・24	縘円形	130×(65)	110×(50)	21	土器片			SK58に切られ、SK117を切る		
110	144	13	C23	縘円形	(62)×55	(50)×(48)	14	N-40°-W	土器片、2次加工1		SK90に切られる		
111	145	13	C23	不 明	明	(50)×(55)	(35)×(40)	(30)	石器1、不定形1、2次加工1、鐵石器1	164図・170図	SK89に切られ、SK117、118を切る		
112	145	13	B24	不 明	(102)×(35)	(38)×(25)	(20)	土器片、2次加工1、剝片1	170図		SK114に切られる		
113	145	13	B19	縘円形	(75)×78	60×48	34	土器片			3号配石に切られSK113を切る		
114	145	13	B19	不整縫円形	(170)×119	139×86	30	N-35°-W	土器片、剝片1	158図	SK86・87に切られSK117を切る		
115	145	14	A17	縘円形	113×105	78×73	40	土器片、2次加工3、剝片1			3号配石に切られSK113を切る		
116	145	13	C24	縘円形	100×(75)	(75)×(50)	26	N-40°-W	土器片、石器片1	164図	SK86・87に切られSK117を切る		
117	145	13	C23	縘円形	130×(90)	115×(70)	29	N-41°-W	土製手輪1、土器片、石器1、不定形1	158図・164図	SK58・87・109・111・116・118に切られる		
118	146	13	C23	縘円形	122×(78)	100×(59)	24	N-40°-E	土器片、石器2	164図			
119	146	13	C23	不整縫円形	112×95	75×55	33	N-22°-E	土器片、2次加工1	157図	SK30に切られる		
120	146	13	DE24・25	不整縫円形	85×80	70×64	20	土器片、石器1、不定形2、2次加工1	157図・165図	SK31に切られSK131を切る			
121	146	13	C24	縘円形	(85)×68	(75)×52	26	N-35°-W	土器片、石器1	165図	SK116に切られSK130を切る		
122	146	13	B18	不整円形	112×(105)	95×73	30	N-63°-W	土器片、石器1	165図	4号配石に切られる		
123	146	14	C22	不整円形	46×44	35×34	10						
124	146	14	C22	不整円形	70×70	30×22	34						
125	146	14	B22	不整円形	(62)×(48)	(40)×33	20						
126	147	13	D23	不整長縫円形	100×48	85×40	16	N-82°-W	土器片、2次加工1、両腹1	157図			
127	147	13	D23	縘円形	90×59	72×42	15	N-84°-E	土器片		SK38・125に切られる		
128	146	13	C22	不 明	80×(30)	45×(20)	28	土器片			SK38・125に切られる		
130	147	13	C24	不整縫円形	(80)×9.5	(55)×70	18	土器片			SK121に切られる		

第9表 土墳計測表(3)

SK 図版 No.	地 面	地 区	平面形(上)	平面形(底)	規模(上)cm	規模(底)cm	深さ cm	主軸方向	出 土 遺 物	図 示 遺 物	備 考	写真図版
131 147 13	E25	不 明	不 明	明	82×(60)	67×(50)	20					
132 147 13	DE25	不 明	不 明	明	138×(35)	130×(20)	26		土器片		SK120に切られる	
133 147 13	D25	楕円形	円形	円形	(100)×78	(90)×60	15	N-23°-E				
134 147 14	C24・25	楕円形	楕円形	楕円形	72×43	50×26	20	N-14°-E				SK31・81に切られる
135 147 14	D25	楕円形	楕円形	円形	71×47	61×30	20	N-64°-W				
136 147 14	C25	不整円形	不整円形	円形	55×50	52×48	15					
137 147 14	C25	円形	円形	円形	50×50	45×41	40					
138 148 14	D24	方形	方形	方形	59×(45)	38×30	25	N-72°-W				
139 148 14	E25	不 明	不 明	明	70×(50)	21×(16)	23					
142 148 14	D25	楕円形	楕円形	円形	120×80	110×76		N-12°-E				
143 148 14	D25	楕円形	楕円形	円形	85×78	40×39		N-76°-E				
145 148 14	C24	不整形	不整形	不整形	(97)×85	(80)×55						
146 148 14	C25	不整形	不整形	不整形	96×(45)	(60)×(30)						

第10表 土壌計測表(4)



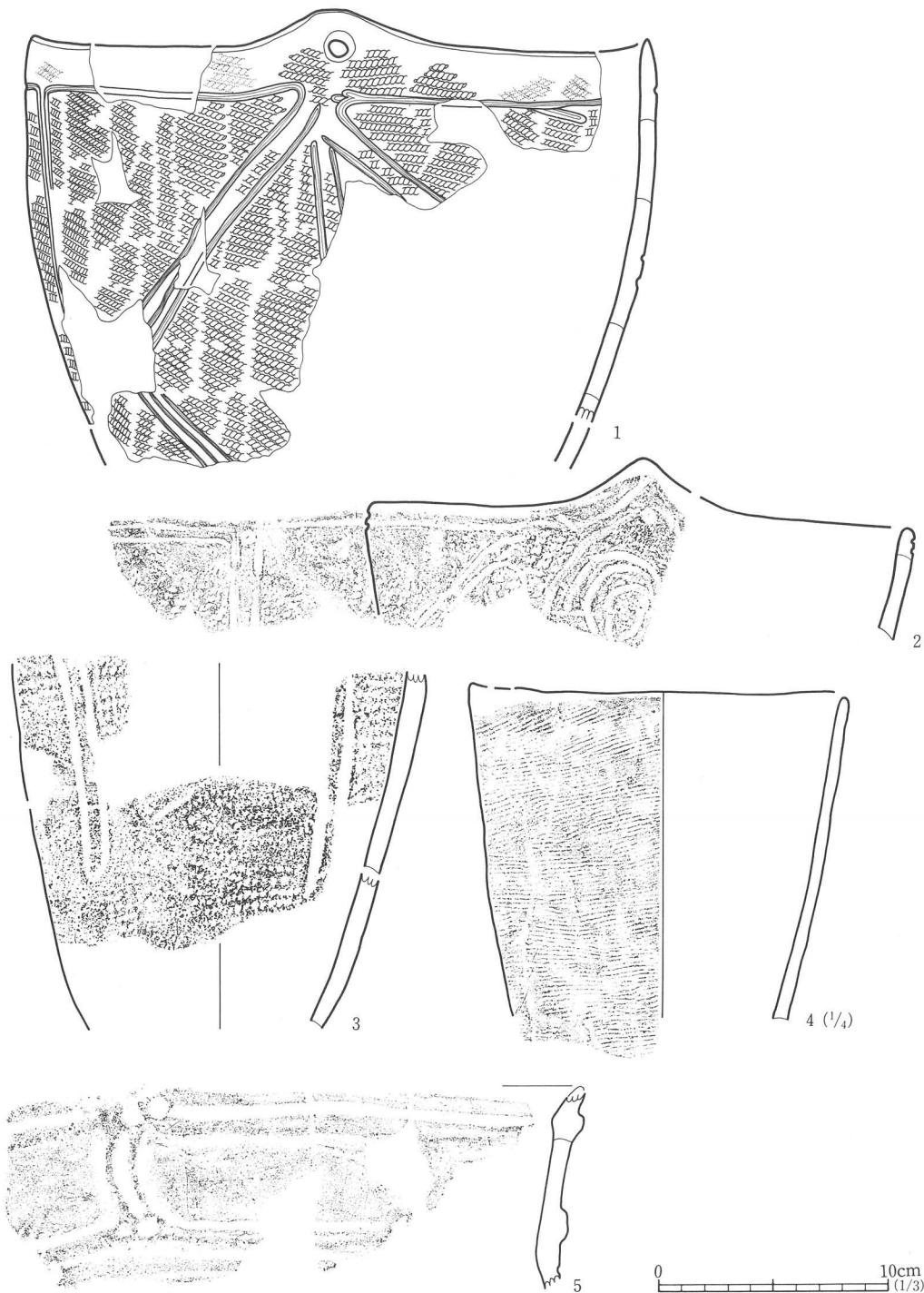
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK18	ℓ	深鉢 F					沈線文、盲孔、磨消縄文、RL縄文	A 721	67-4
2	SK24	ℓ	深鉢 E	11.0		(6.2)	口:1/4	口縁:突起付橋状把手、貫通孔、盲孔、長縫円文、 体部:多条沈線入組渦文、LR縄文	A 1498	67-5
3	SK24	ℓ	深鉢 C					沈線文、山形文、鱗状刺突文、網目状撚糸文R	A 1215	67-6
4	SK24	ℓ	深鉢 E					口縁:突起付橋状把手、貫通孔、盲孔付沈線、 体部:沈線文	A 1302	67-7
5	SK24	ℓ	深鉢 A	12.0		(12.6)	口:1/2	口縁:小突起渦文、 体部:多条沈線、対称弧状文、LR縄文	A 1494	67-9
6	SK24	ℓ	小型土器	8.8	4.4	(10.7)		L縄文	A 1155	
7	SK24	ℓ	深鉢	24.0	10.3	30.6	口:9/10	R撚糸文	A 1431	67-8
8	SK24	ℓ 2				11.6 (11.8)		無文	A 908	
9	SK25	ℓ 1	深鉢 E					口縁:小突起、沈線文、体部:L撚糸文	A 660	67-10

第149図 土壌出土土器（1）



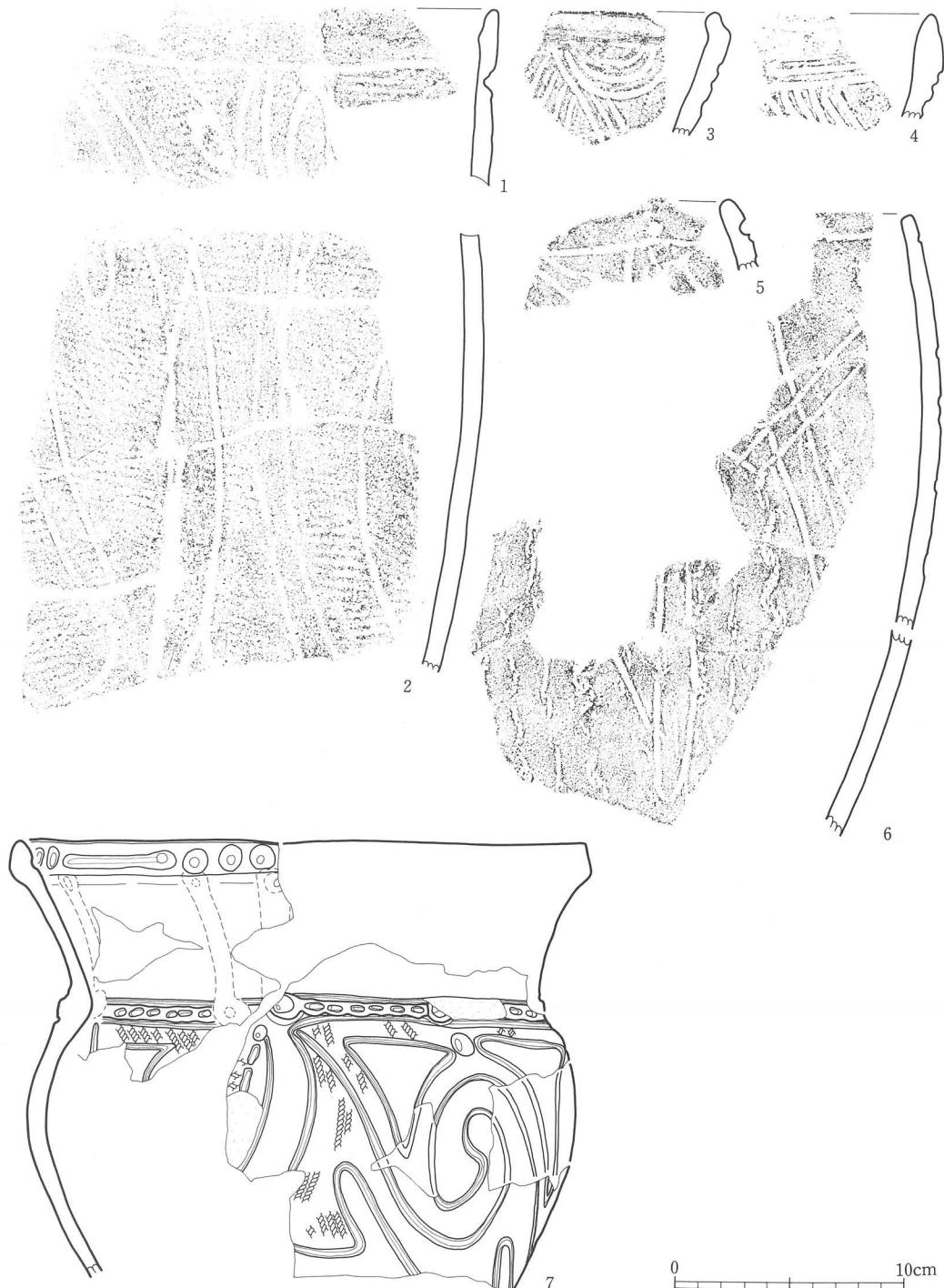
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK27	ℓ	深鉢 E	15.2		(12.3)		口縁：突起、貫通孔、盲孔、橋状把手状隆帯、 体部：多条沈線文、LR繩文	A1361	68- 1
2	SK27	底面	深鉢					網目状燃糸文 R	A 708	68- 2
3	SK28	ℓ 1	深鉢 E					沈線文、入組文、LR繩文	A 712	67- 11
4	SK31	ℓ 11	深鉢 H					口縁：盲孔、沈線、体部：R燃糸文	A 663	68- 3
5	SK31	ℓ 11	深鉢 H					4と同一個体	A 663	68- 3
6	SK35	ℓ	深鉢 A	15.6		(15.2)	口：1/4	口縁：小突起、 体部：ボタン状貼付文、磨消繩文、LR繩文	A 860	68- 4
7	SK35	ℓ	深鉢					沈線文、8字文、磨消繩文、綾絡文、LR繩文、補修孔	A1219	

第150図 土壌出土土器 (2)



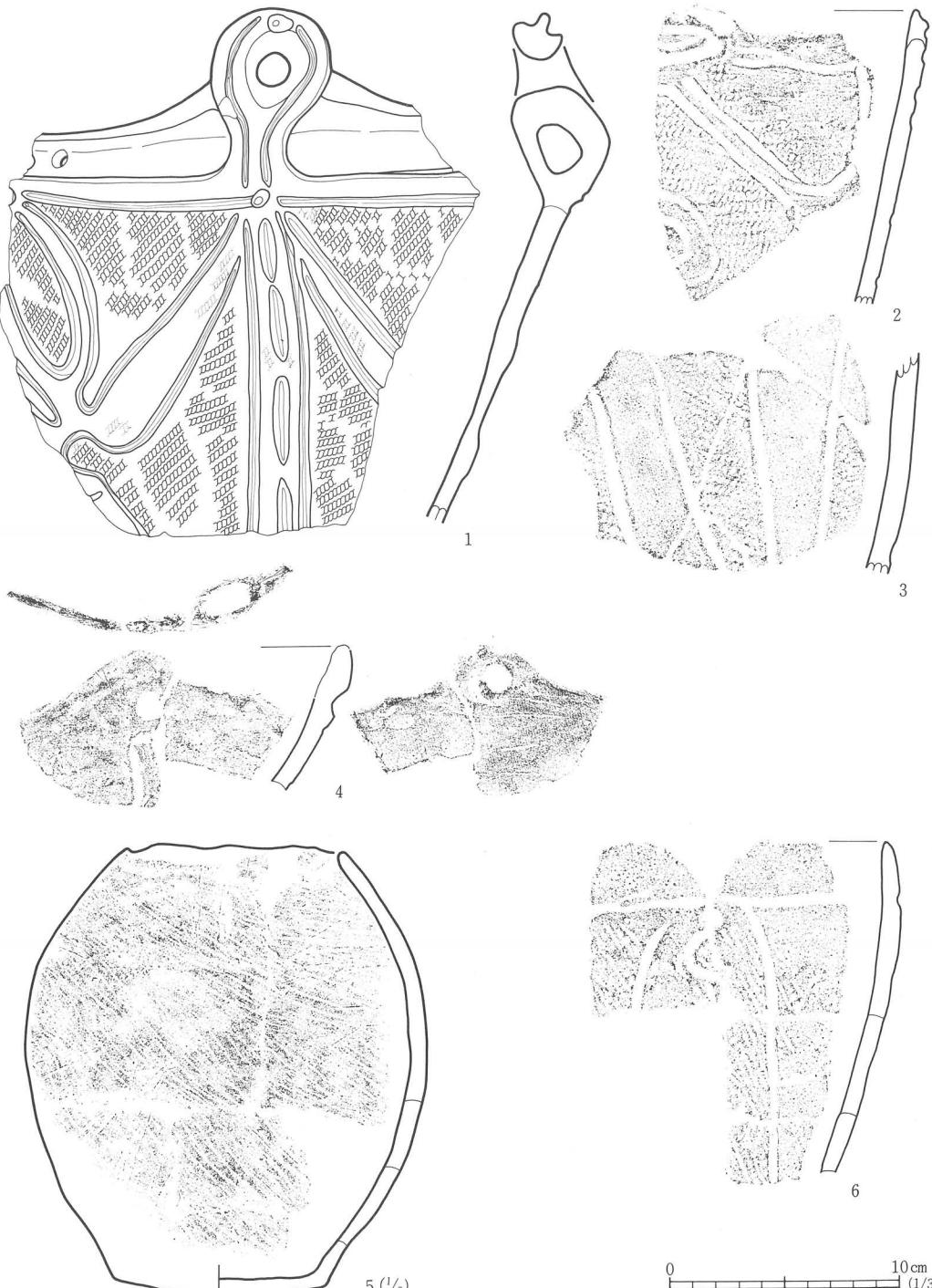
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK36	ℓ 1	深鉢 A	26.4		20.0	口:1/3	口縁:小突起、貫通孔、 体部:方形区画文、縦文、LR繩文	A1399	68-5
2	SK36	ℓ 1	深鉢 A	26.4	(7.4)			口縁:小突起、体部:渦文、方形区画文?盲孔、LR繩文	A 947	
3	SK36	ℓ 1	深鉢			(16.4)		LR繩文	A1474	68-6
4	SK38	ℓ 15	深鉢 C	21.8		(19.4)	口:1/1	L繩文	A1446	68-7
5	SK36・38	底面	深鉢					口縁:下垂沈線入隆線、盲孔	A 664	

第151図 土壌出土土器 (3)



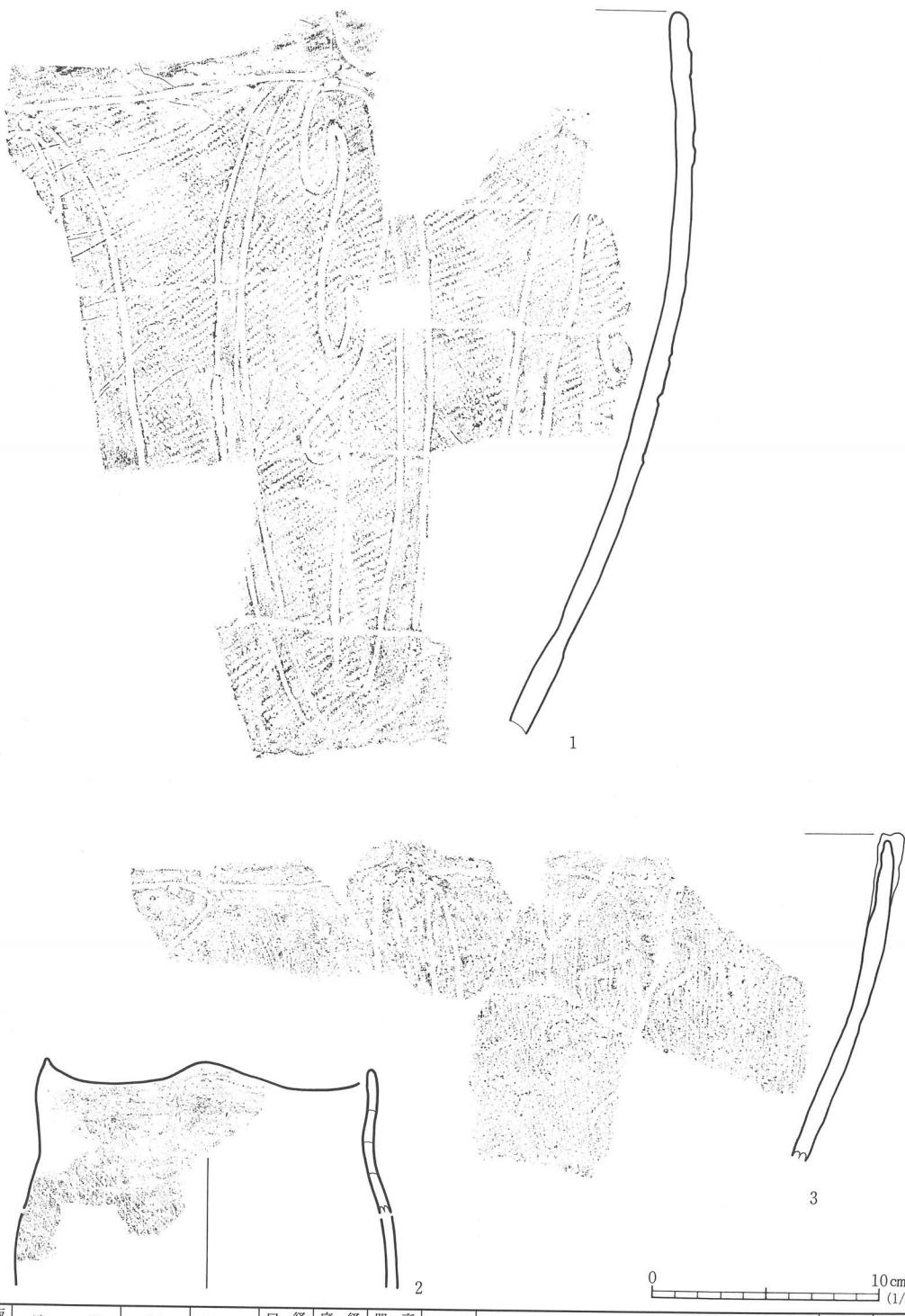
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK39・41	ℓ	深鉢					沈線文、弧状文、盲孔、磨消繩文、RL繩文	A 383	
2	SK39・41	ℓ						1と同一個体	A 383	
3	SK50	ℓ	深鉢 A					多条沈線文、LR繩文	A 1218	
4	SK50	ℓ 1	深鉢					多条沈線文、LR繩文	A 1218	
5	SK54	ℓ	深鉢 A					口縁：小突起、盲孔、体部：沈線文、綾絡文	A 720	
6	SK54	ℓ	深鉢 A					5と同一個体	A 720	
7	SK47・49	ℓ 1・2	深鉢 E	25.0	(19.3)	口：2/3		口縁：盲孔、沈線、下垂隆線、頸部：連鎖状隆線、ボタン状貼付文、渦文、三角文、充填繩文RL	A 1451	68-10

第152図 土壌出土土器 (4)



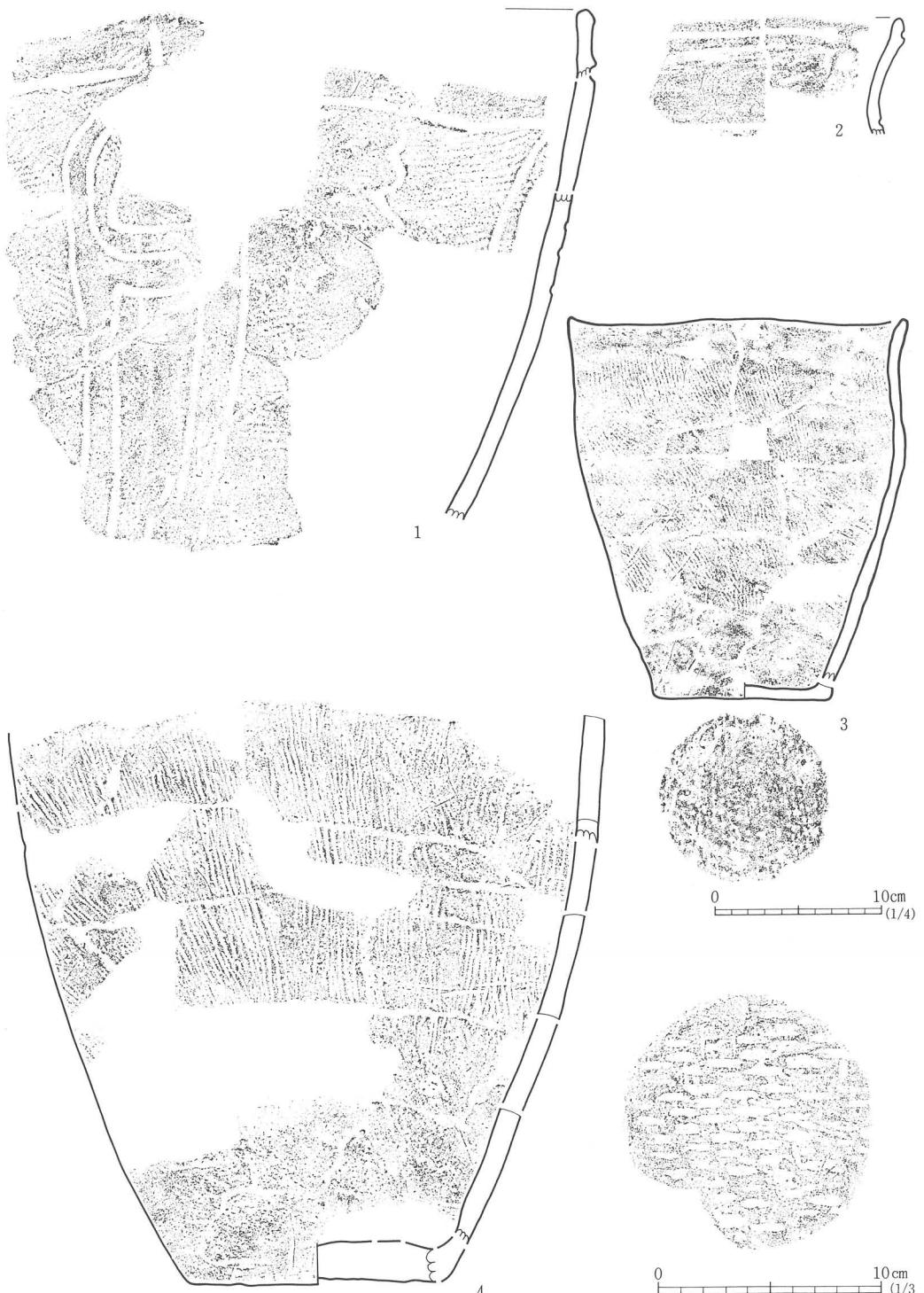
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK53		深鉢 D					口縁：把手付突起、貫通孔、沈線、頸部：隆沈線、 体部：破線文入下垂文、沈線文、磨消繩文LR	A 1460	68-8
2	SK65		深鉢 C					口縁：突起頂部刺突、沈線、 体部：沈線文、磨消繩文、LR繩文	A 1220	68-9
3	SK65		深鉢					沈線文、磨消繩文、LR繩文	A 1220	
4	SK61		鉢？					突起、盲孔、沈線文、口唇凹み	A 1223	
5	SK73		壺	15.6	15.2	32.3	口：2/3	R撚糸文	A 1406	69-1
6	SK73		深鉢 A					廢手状文、R撚糸文	A 659	69-2

第153図 土壌出土土器（5）



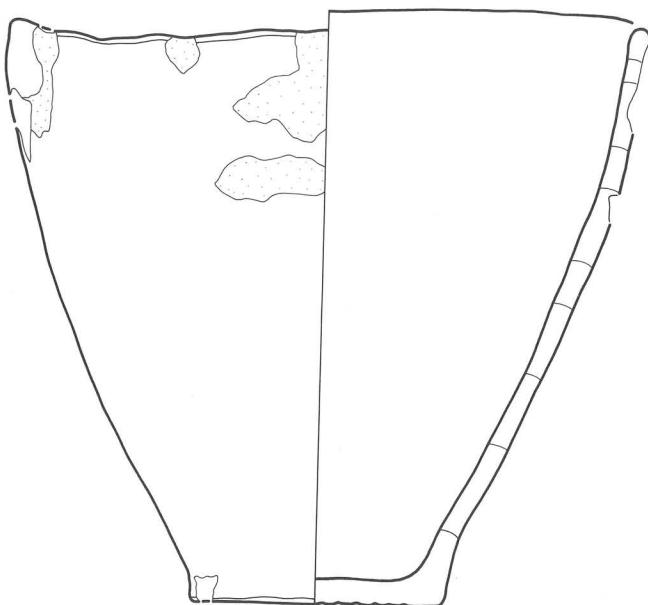
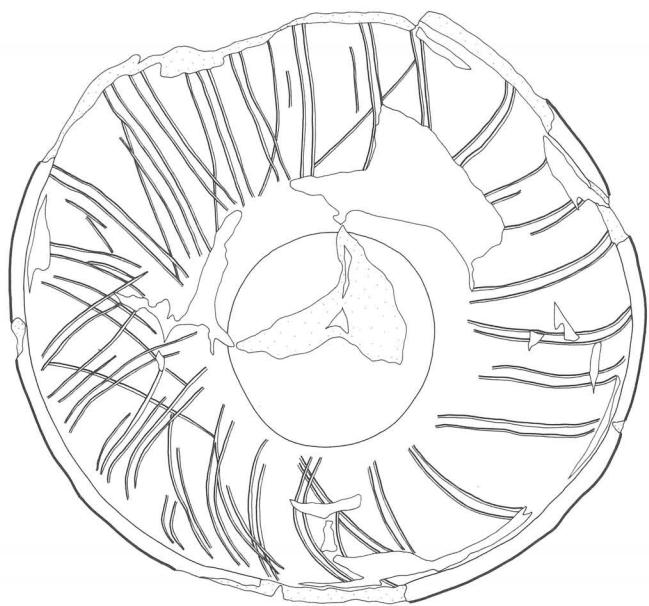
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK65・70	ℓ1~3・8	深鉢A					口縁:小突起、沈線。 体部:廠手状文、盲孔、磨消繩文LR	A 709	69-3
2	SK76・93	ℓ1・3・6	深鉢G	24.0		(16.7)	口:1/2	口縁:小突起、体部:網目状燃系文R	A 897	68-11
3	SK73	ℓ7	深鉢A					口縁:小突起、体部:盲孔、連続S字状文、下垂沈線文	A 715	

第154図 土壌出土土器(6)



図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK90		深鉢 A					口縁: 小突起、下垂沈線、 体部: 蔵手状文、連続S字状文、盲孔、磨消繩文LR	A 722	69-4
2	SK91		深鉢 E					口縁: 盲孔、沈線、下垂隆線	A 1240	
3	SK92		深鉢 F	19.7	9.6	23.6	口:3/4	R撚糸文、網代痕（1本越、3本潜、1本送）	A 1462	69-5
4	SK93	ℓ 2~5	深鉢		11.5 (25.0)			R撚糸状、網代痕（2本越、2本潜、3本送）	A 892	

第155図 土壌出土土器 (7)



1



0 10 cm
(1/3)

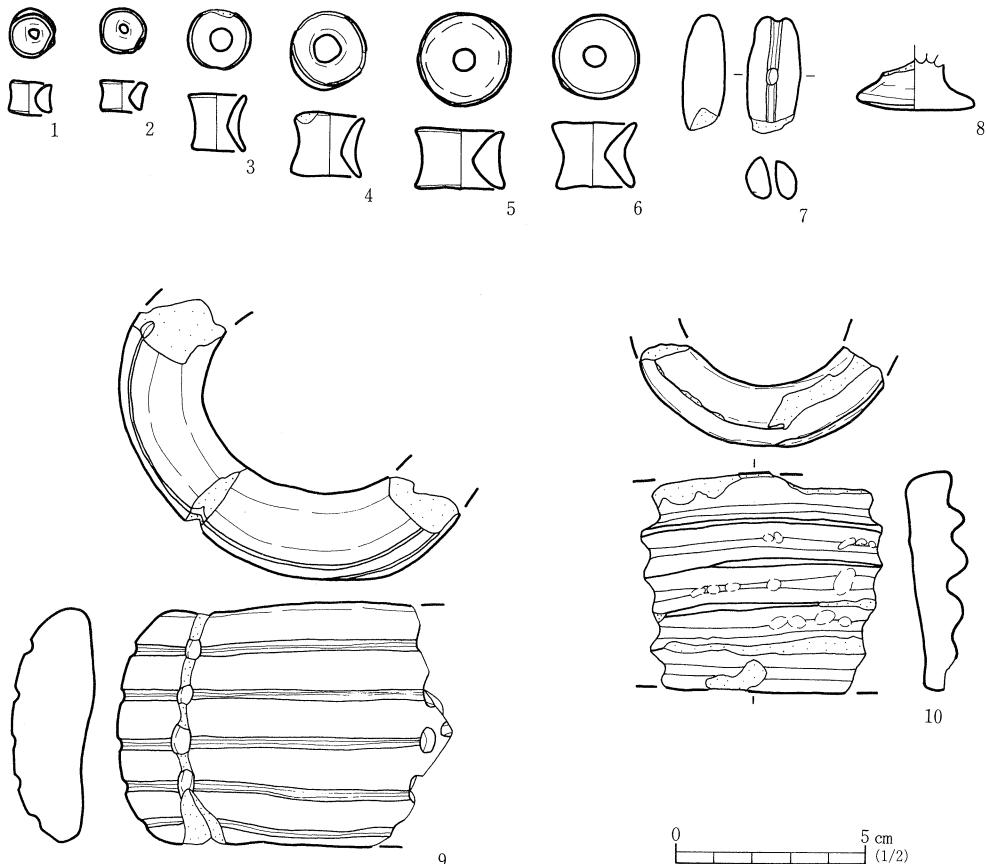
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK92	ℓ	深鉢 A	25.2	10.0	23.2	口:1/3	内面沈線文、2条1描、外面：無文 網代痕（1本越2本潜1本送）	A1440	69-7

第156図 土壌出土土器 (8)



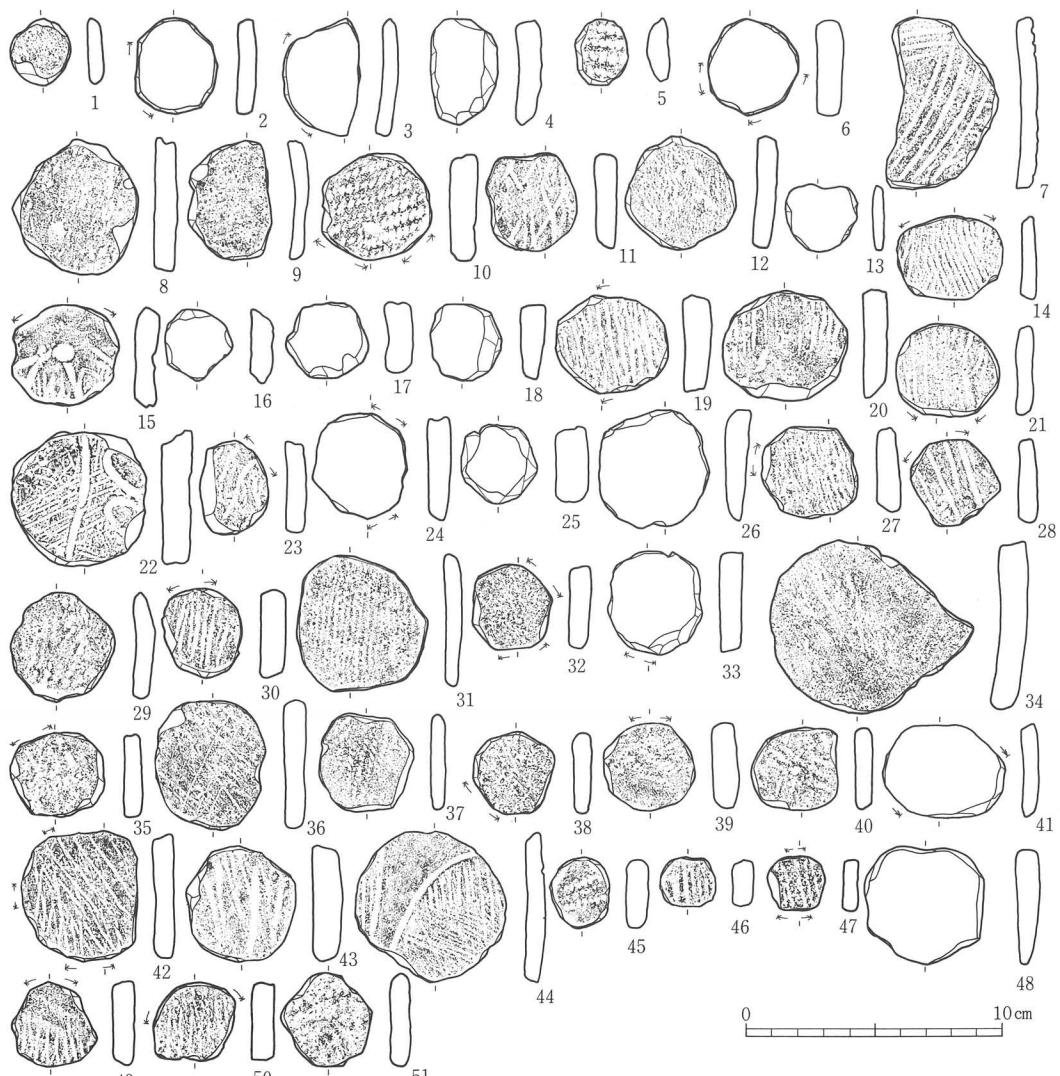
図版番号	遺構	層	分類	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	文様の特徴	登録番号	写真図版
1	SK119	ℓ	深鉢 A	29.0		(20.5)	口:1/4	口縁:突起、刺突入隆線、体部:沈線文・三角文・破線文・ジグザグ文・磨消繩文	A 1454	69- 8
2	SK126	ℓ	深鉢 A	21.4	10.0	20		突起、貫通孔、無文	A 902	
3	SK120・131	ℓ	深鉢 A					蕨手状文、連続 S 字状文	A 727	69- 6
4	SK130	ℓ 1・3	深鉢					沈線文、盲孔、磨消繩文、LR繩文	A 1233	
5	SK130	ℓ 1・3						沈線文、RL繩文	A 707	

第157図 土壌出土土器 (9)



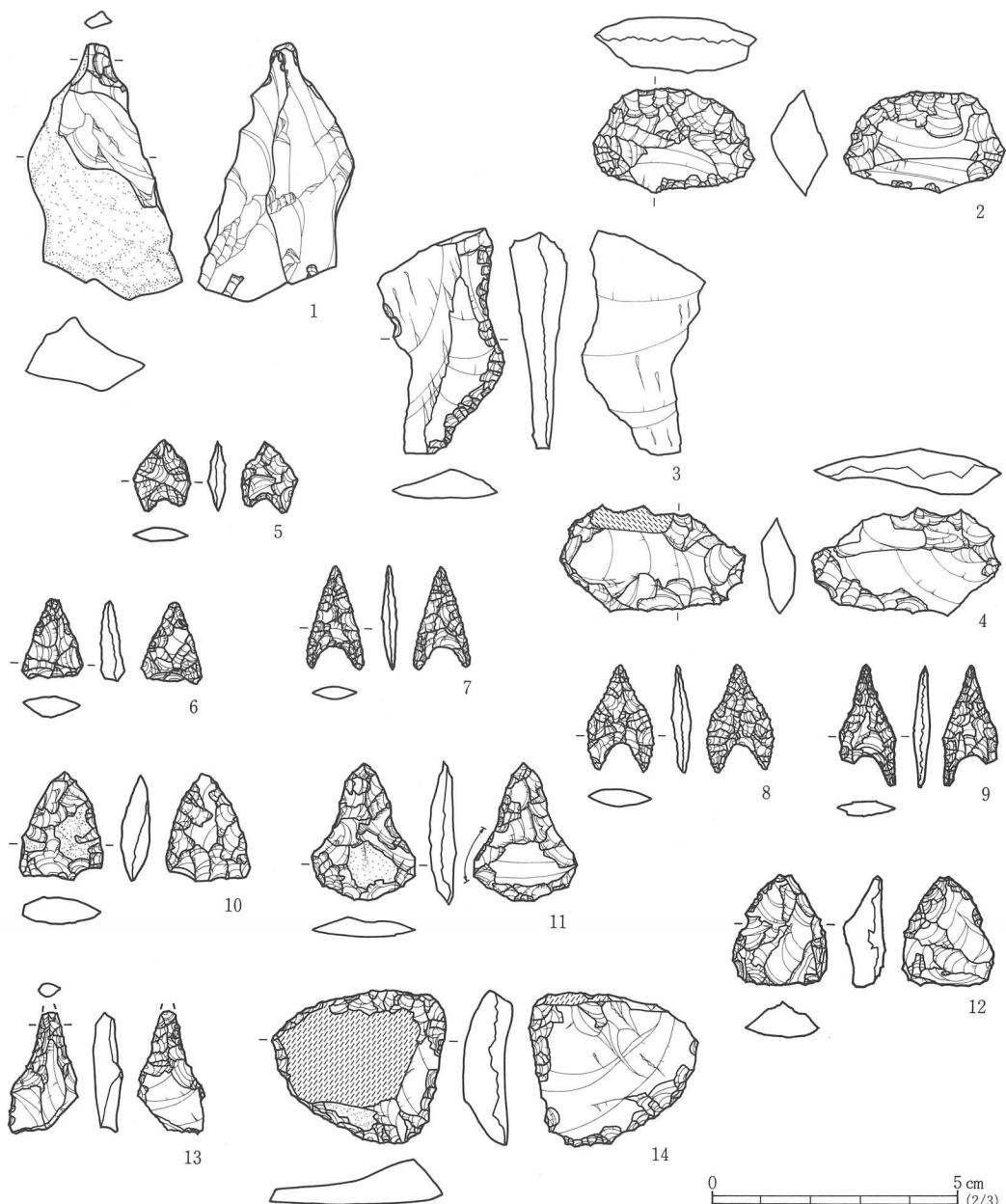
番号	種類・部位	遺構・層位	特徴	写真	登録
1	耳飾り	III区SK-43 1～6層	高さ0.8cm、径1.2cm、厚さ0.4cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-2	P-13
2	耳飾り	III区SK-43 1～6層	高さ0.85cm、径1.2cm、厚さ0.4cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-1	P-14
3	耳飾り	III区SK-117 1層	高さ1.5cm、径1.6cm、厚さ0.3cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-3	P-15
4	耳飾り	III区1号石組底面ピット埋1壁	高さ1.7cm、径1.9cm、厚さ0.35cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-4	P-16
5	耳飾り	III区7号石組底面	高さ1.6cm、径2.4cm、厚さ0.65cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-6	P-801
6	耳飾り	III区7号石組底面	高さ1.8cm、径2.27cm、厚さ0.5cm 内外面とも朱塗りの痕跡あり	70-5	P-802
7	土錐	III区SK-40確認面	残存長3.1cm、最大幅1.3cm、厚さ1.1cm、重量5.1g、長軸方向に溝、中央に孔	70-8	P-28
8	ミニチュア	III区SK-115 No.1	残存高1.6cm、幅3.1cm	70-7	P-792
9	腕輪形土製品	接 II区PO18 合 III区SK-82、1層	長さ6.5cm、厚さ2.2cm、沈線5条、円形刺突	70-10	P-18
10	腕輪形土製品	III区SK-67 3層	長さ5.8cm、厚さ1.5cm、隆線6条、隆線間にオサエ痕	70-9	P-17

第158図 遺構出土土製品



番号	遺構・層位	長さ×幅×厚さ(mm)	重さ(g)	特 微	登録番号	遺構・層位	長さ×幅×厚さ(mm)	重さ(g)	特 微	登録
1	1号配石	26.5×24×6	4.3	撚糸文?不明	P33	26	SK54・ℓ 4	46×44×9	23.5	P56
2	1号配石	38×32×7.5	12.5	無文	P35	27	SK64	35×37.5×10	15.3	P55
3	1号配石	47×30×6	11		P38	28	SX15・ℓ 3	34×34×8	10.3	P58
4	1号配石	42×27×9.5	12.1		P39	29	SI17	43.5×41×8	17	P59
5	1号配石	25×21×8.5	4.2	繩文RL	P40	30	SR1	35×31×10	13.1	P72
6	6号配石	39×35×10	1.6		P36	31	SR1	54×51×6	21.8	P69
7	8号配石	68×37×7	25.9	多条沈線	P37	32	SR1	34×31×9	10.8	P73
8	9号配石	53.5×50×9.5	25.1	撚糸文L	P34	33	SR1	40×37×9	16.9	P65
9	9号配石	47×32.5×6.6	10.8	撚糸文?	P41	34	SR1	67.5×79×12	67.5	P71
10	SK10	42×42×11	22.5	繩紋LR	P42	35	SR1	33×37×7	11	P64
11	SK18	39×35×9	15	網目状撚糸文R	P43	36	SR1	51×43×9	23.6	P74
12	SK18	45×43×8.5	18.7	撚糸文R	P44	37	SR1	39×37×6	9.9	P619
13	SK38	26×28×5	4.5		P51	38	SR1	32×32×8	9.5	P62
14	SK19・ℓ 1	33×41×6	11.9	撚糸文L	P57	39	SR1	35×36×10	13.7	P76
15	SK27	40×41.5×9	17.8	撚糸文R、盲孔	P763	40	SR1	33×33×7	10.6	P620
16	SK30	29×26×9	6.6	無文	P48	41	SR1	37×48×6.5	14.5	P68
17	SK30	30×32×10.5	11		P46	42	SR1・ℓ 1	51×46×8	24.5	P63
18	SK30	30×28×10	9.5		P47	43	SR1	46×43×12	25.9	P75
19	SK30	39×45×11	20.9	撚糸文R	P45	44	SR1	60×59×7	29.5	P70
20	SK24・ℓ 1	44×48×9	24.3	撚糸文R	P764	45	SR1	28×24×9	7.1	P66
21	SK31	37×40×7	12.9	撚糸文R	P49	46	SR1	20×22×8	4	P67
22	SK37・ℓ 1	53×53×12	38.8	櫛齒状文、蕨手状文	P50	47	SR1	21×22×6	4	P61
23	SK45	37×26.5×8	8.6	撚糸文L	P52	48	ピット	45.5×47×9.5	21	P618
24	SK45	42×36×9.5	17.3	無文	P53	49	倒木痕	34×32×8.5	10.2	P60
25	SK50	31.5×30×13	15.1		P54	50	SX7	31×31×9	11.4	P640
					51	SR1	37.5×35.5×8	12	繩文LR	P32

第159図 遺構出土土製円盤



番号	地区	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	備 考	登 錄 写 真
1	IIISK18	ℓ	石 錐	(53.1)	28.3	13.1	13.3	珪化木	先端部欠損	Ka 46 71-15
2	IIISK18	ℓ	不定形	32.8	20.8	10.9	5.3	珪質頁岩	小型両面	Ka 65 71-16
3	IIISK36	ℓ 1	不定形	48.7	28.4	8.0	6.6	玉 錐		Ka 75 71-28
4	IIISK18	ℓ 3	不定形	37.4	21.9	6.5	5.6	珪質頁岩		Ka 64 71-27
5	IIISK24	ℓ	石 鐸	14.3	10.9	3.0	0.3	珪質頁岩	基部片側欠損	Ka 9 71-17
6	IIISK24	ℓ	石 鐘	(16.4)	12.0	3.9	0.5	珪質頁岩	先端部欠損	Ka 8 71-18
7	IIISK24	ℓ	石 鐚	20.2	11.4	2.5	0.5	珪質頁岩	素材面片面	Ka 6 71-19
8	IIISK24	ℓ	石 鐚	20.7	12.7	3.2	0.5	珪質頁岩		Ka 7 71-20
9	IIISK24	ℓ 2a	石 鐚	24.5	10.5	2.7	0.5	珪質頁岩	素材面両面、基部片側欠損	Ka 5 71-21
10	IIISK24	ℓ 4~6	石 鐚	22.2	17.4	5.0	1.8	碧 玉	素材面両面	Ka 11 71-22
11	IIISK24	ℓ	石 鐚	28.4	21.0	4.9	2.2	珪質頁岩	素材面両面	Ka 10 71-23
12	IIISK24	ℓ	石 鐚	22.2	18.3	7.1	3.0	珪質頁岩		Ka 55 71-24
13	IIISK24	ℓ 2b	石 鐚	(24.4)	13.5	4.1	1.4	珪質頁岩	先端部欠損	Ka 47 71-25
14	IIISK24	ℓ 1	不定形	34.5	31.1	8.2	8.7	珪質頁岩		Ka 66 71-26

第160図 土壌出土剣片石器 (1)